

令和7年度  
和歌山県  
男女共同参画

# 県民 意識 調査

## 報告書

和歌山県共生社会推進部 ことも家庭局  
多様な生き方支援課

令和8年1月

2025

## はじめに

和歌山県では、男女共同参画の推進に向けた基本理念や、県、県民、事業者の責務、県の基本的な施策などを定めた「和歌山県男女共同参画推進条例」を平成14年4月に施行し、平成15年3月に男女共同参画を総合的かつ計画的に推進するため「和歌山県男女共同参画基本計画」を策定しました。その後、計画を改定する中で、平成27年施行の「女性活躍推進法」の理念を盛り込むほか、昨今では令和5年施行の「LGBT理解増進法」を受けた性の多様性への理解促進や、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の解消、相談体制の充実など時代の変化に対応した施策を実施してまいりました。

この度、令和4年度改定の現行計画期間が令和8年度に終了することに伴い、次期計画である和歌山県男女共同参画基本計画【第6次】策定の資料とするため6回目となる「男女共同参画に関する県民意識調査」を実施しました。今回の調査では、これまでの男女共同参画の概念に加え、広くジェンダー平等の視点を踏まえた設問に改めるほか、新たに「性的少数者について」といった設問を設けました。皆様にも本報告書を幅広く活用し、地域におけるジェンダー平等を進める上での参考にしていただきたく思います。

最後になりましたが、県民意識調査に御協力いただいた皆様に感謝いたしますとともに、今後とも県行政の推進に御協力をお願い申し上げます。

令和8年1月

和歌山県共生社会推進部長 島本 由美

# 目 次

I	調査概要	1
1.	調査の概要	2
1-1	調査の目的	2
1-2	調査の方法	2
1-3	有効回答率	2
2.	調査の内容	3
3.	報告書における表及び図の見方	4
II	調査結果の概要	5
III	調査結果の分析	21
1.	回答者の属性について	22
1-1	性別	22
1-2	年齢	22
1-3	家族構成	23
1-4	結婚の有無	24
1-4 (1)	配偶者の職業有無	25
1-5	こどもの有無及び一番下のこどもの年齢	26
1-6	職業	26
1-7	最終学歴	28
1-8	居住地域	29
2.	ジェンダー平等意識について	30
2-1	男女の地位の平等感 (8分野別)	30
2-2	男女の決められた役割分担についての考え	39
2-3	男女の役割等についての考え	42
3.	家庭生活について	52
3-1	生活時間の配分	52
3-2	生活時間における理想時間との差 (短いと感じるもの)	67
3-3	男性の家事・育児等の積極的参加推進	70
3-4	家庭での介護の担い手	73
4.	子育てやこどもの教育について	74
4-1	理想のこどもの人数、実際のこどもの人数	74
4-2	こどもの減少の理由についての考え	78
4-3	子育てについての考え	81
4-4	男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること	89

5. 就労について .....	91
5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方.....	91
5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと.....	98
5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと.....	108
5-4 管理職として働く条件.....	112
5-5 女性の再就職に必要な支援.....	115
5-6 就労意向の有無・希望する就労形態.....	120
5-7 男性が育児休業・介護休業、時短勤務を取得することについて.....	123
5-8 働くうえでの健康問題.....	127
6. 社会活動、地域活動等について.....	129
6-1 現在参加している社会活動、地域活動.....	129
6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと.....	131
6-3 防災・災害対策でジェンダー平等に配慮する必要があること.....	133
7. DV（配偶者等からの暴力）について.....	138
7-1 暴力と思う行為.....	138
7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験.....	148
7-3 実際の相談先 .....	152
7-4 相談しなかった理由.....	154
7-5 実際に求める支援.....	156
7-6 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの.....	158
7-7 セクシャル・ハラスメントだと思うこと.....	160
7-8 メディアにおける性や暴力表現についての考え.....	162
7-9 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと.....	164
8. 性的少数者について .....	166
8-1 (1) 性的少数者の知人の有無 .....	166
8-1 (2) 性的少数者との関係性.....	168
8-2 (1) 家族が性的少数者の場合の考え .....	169
8-2 (2) 身近な人が性的少数者の場合の考え .....	171
8-3 性的少数者にとって必要な支援策.....	173
9. 男女共同参画施策等について.....	176
9-1 男女共同参画の言葉についての認知度 .....	176
9-2 女性が増える方がよい役職.....	184
9-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと.....	187
10. 自由意見について .....	190
<b>IV 調査票 .....</b>	<b>193</b>

# I 調査概要

---

## 1. 調査の概要

### 1-1 調査の目的

この調査は、県民の男女共同参画に対する意識を把握し、来年度予定している和歌山県男女共同参画基本計画の改定に当たっての基礎資料とすることを目的に実施した。

### 1-2 調査の方法

#### (1) 調査対象

和歌山県内在住の18歳以上の男女各1,500人（令和7年4月1日現在）

#### (2) 調査期間

令和7年7月30日（水）～8月27日（水）

#### (3) 調査方法

郵送による調査票の配付・回収およびWeb回答（\*）

（\*）依頼状に掲載した二次元コードを通じ、Web（インターネット）からの回答を受け付けた。

### 1-3 有効回答率

今回の調査は、3,000人を対象に調査票を郵送した。回答のあった1,056件のうち、「拒否（白紙回答を含む。）」などの無効票は1件となり、有効回答率は35.2%となった。

発送数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
3,000	1,056	1	1,055	35.2%

（うちweb回答299）

※参考（前回の回収結果）

発送数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
3,000	1,402	3	1,399	46.6%

## 2. 調査の内容

調査項目	質問項目
1. 回答者の属性	性別、年齢、家族構成、結婚の有無、夫婦の職業の有無、こどもの有無、一番下のこどもの年齢、職業、最終学歴、居住地域
2. ジェンダー平等意識	男女の地位の平等感 男女の決められた役割分担についての考え 男女の役割等についての考え
3. 家庭生活	平日、休日別の生活時間 自分の理想より短い生活時間 男性が家事、育児、介護に積極的に参加するために必要なこと 家庭での介護の担い手
4. 子育てやこどもの教育	理想のこどもの人数、実際のこどもの人数 こどもの減少の理由についての考え 子育てについての考え ジェンダー平等教育をすすめるために、学校に期待すること
5. 就労	女性の理想の生き方・実際の生き方 働く場で男女が平等でないと思うこと 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 管理職として働く条件 退職した女性が再就職するために必要なこと 就労意向の有無・希望する就労形態 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて 働くうえで健康問題に関する困りごと
6. 社会活動、地域活動等	現在参加している社会活動、地域活動 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること
7. DV (配偶者等からの暴力)	暴力と思う行為 配偶者や恋人からの暴力の経験 実際の相談先 相談しなかった理由 実際に求める支援 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの セクシュアル・ハラスメントだと思うこと メディアにおける性や暴力表現についての考え 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと
8. 性的少数者	性的少数者の知人の有無・関係性 家族が性的少数者の場合の考え 身近な人が性的少数者の場合の考え 性的少数者にとって必要な支援策
9. 男女共同参画施策等	男女共同参画の言葉についての認知度 女性が増える方がよい役職・公職 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

### 3. 報告書における表及び図の見方

- (1) 図表の中で「n」とは、集計対象総数（集計対象を限定する場合はその該当対象数）を表している。比率は原則、各項目の無回答・不明を含む集計対象総数に対する百分比（%）で表している。（例外は図表外に注意書きで記載）
- (2) 百分比（%）は、原則として小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。また、回答の百分比（%）は、その質問の回答者数（n [number of case の略]）を基数として算出しているため、複数回答の設問は百分比の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 百分比（%）どうしの比較における差は、原則として「…ポイント」という表現とした。
- (4) グラフのスペースの都合上、0%を表示していない場合がある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 調査結果にある全国調査比率の全国調査とは、令和6年9月に内閣府によって行われた「男女共同参画社会に関する世論調査」のことを指す。同様に前回調査比較の前回調査とは、令和2年8～9月にかけて和歌山県が実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」、前々回調査とは、平成27年6～7月にかけて和歌山県が実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」のことを指す。
- (7) 調査結果の考察文中にある二重括弧（『・・・』）は2つの選択肢を統合したことを表す。  
（例：「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」→『肯定的意見』）
- (8) 性年代別、結婚の有無別、職業別、居住地域別、女性の理想の生き方に関する考え方別分析の図表では、それぞれ性別不詳、結婚の有無不詳、職業不詳、居住地域不詳、女性の理想の生き方に関する考え方不詳の方がいるため、「回答者の属性」の数値と異なる場合がある。また、年代別において「19歳以下」と「20～29歳」は「10・20歳代」に統合して集計している。また、グラフのスペースの都合上、「30～39歳」を「30歳代」と表記している（「40～49歳」も同様）。

## Ⅱ 調査結果の概要

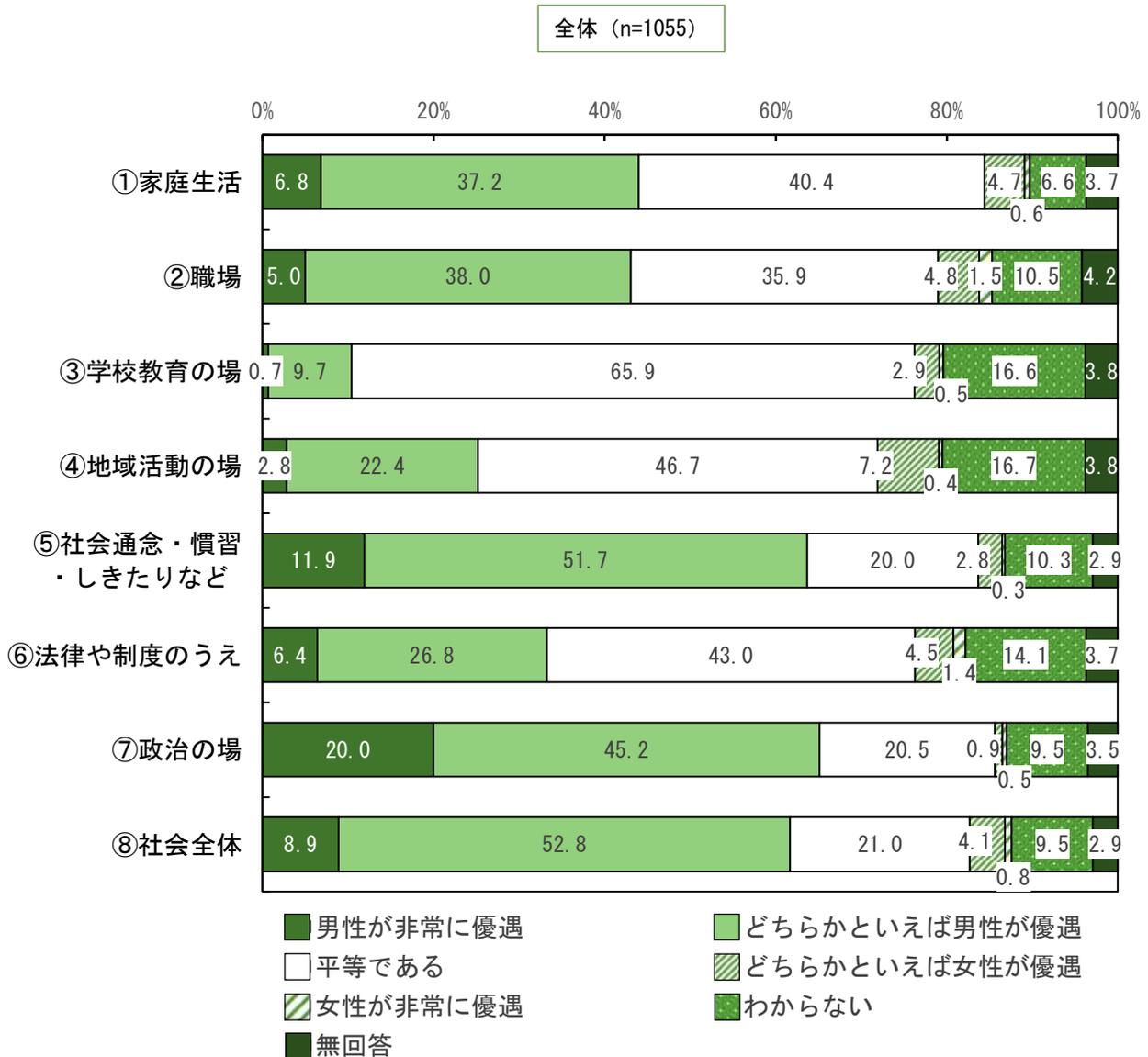
---

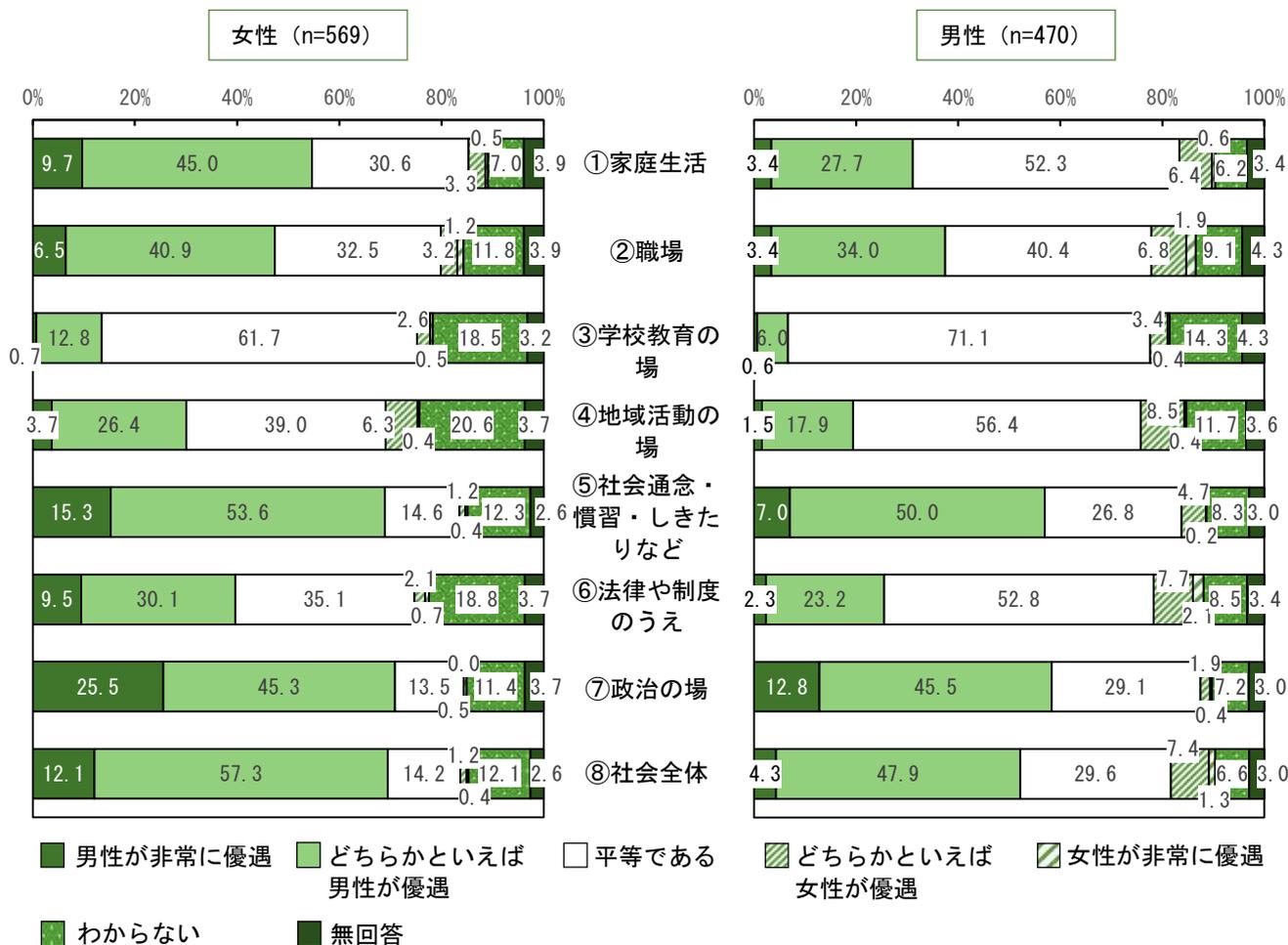
# 1. ジェンダー平等意識について (p. 30~51)

## 男女の地位の平等感 報告書 p. 30~p. 38

- 全体の回答では『男性優遇』の回答割合は、「⑦政治の場」、「⑤社会通念・慣習・しきたりなど」、「⑧社会全体」で6割を超えており、「①家庭生活」、「②職場」においても4割超となっている。
- すべての分野において、女性の方が男性よりも『男性優遇』の回答割合が高く、特に「①家庭生活」、「⑧社会全体」、「⑥法律や制度のうえ」で大きく差があり、性別による認識の違いがみられる。

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせたもの。

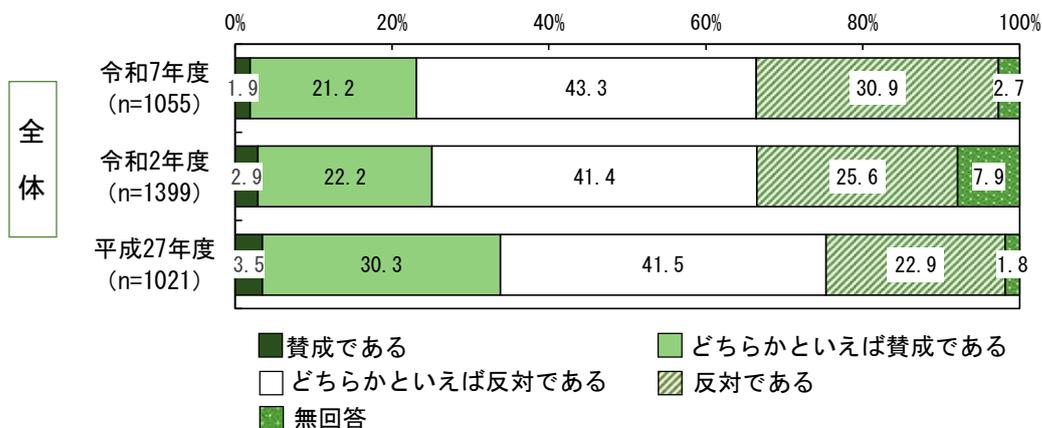


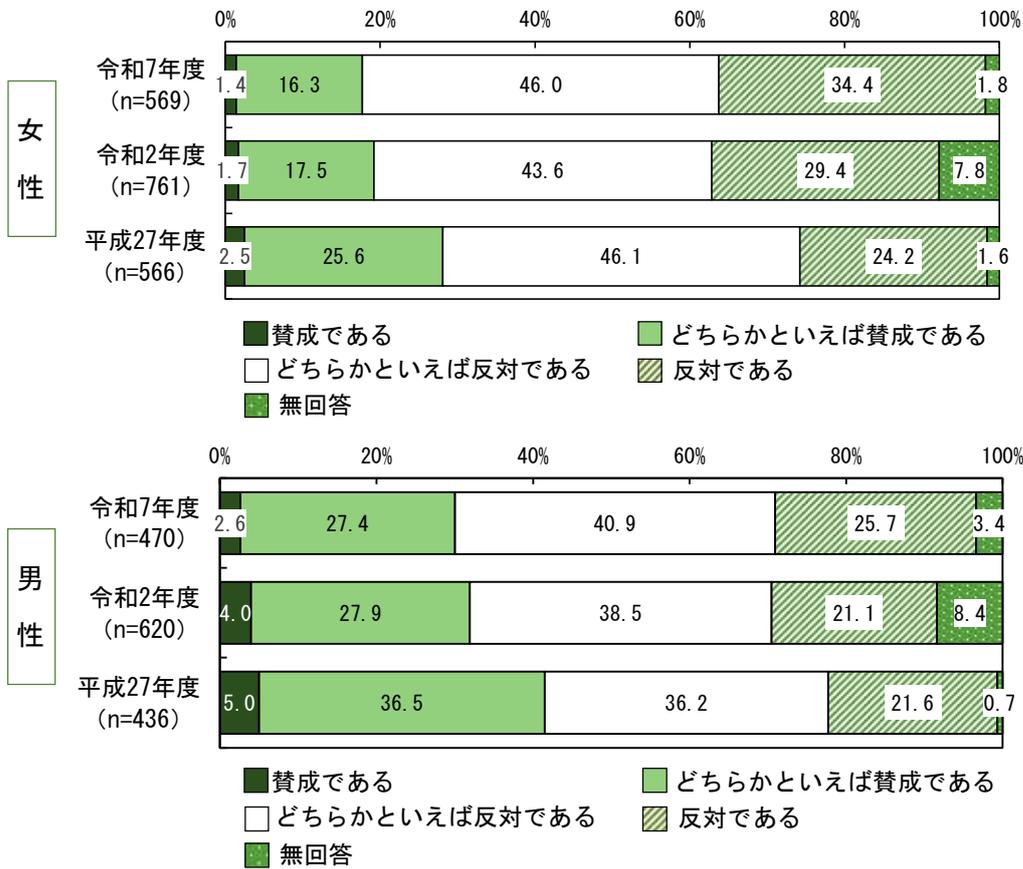


男女の決められた役割分担について 報告書 p.39~p.41

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して『否定的な意見』は全体で74.2%となっており、前回調査(67.0%)、前々回調査(64.4%)と比較して増加傾向にある。
- 性別ごとに見ると、『否定的な意見』は女性が男性よりも10ポイント以上高くなっている一方、男性では『肯定的な意見』が女性よりも10ポイント以上高い結果となった。

(\*) 『否定的な意見』は、「どちらかといえば反対である」、「反対である」を合わせたもの。『肯定的な意見』は、「どちらかといえば賛成である」、「賛成である」を合わせたもの。



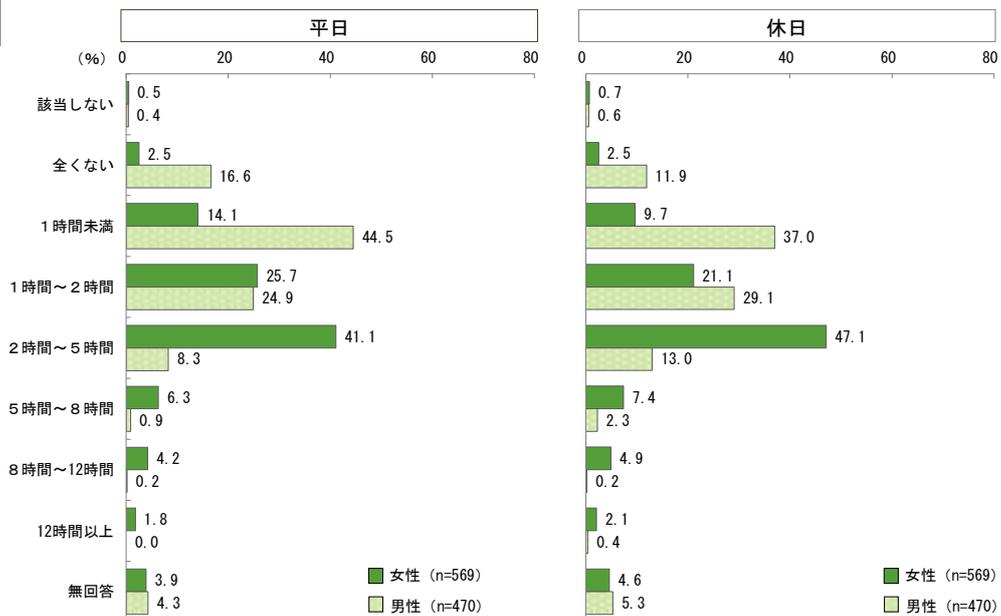


## 2. 家庭生活について (p. 52~73)

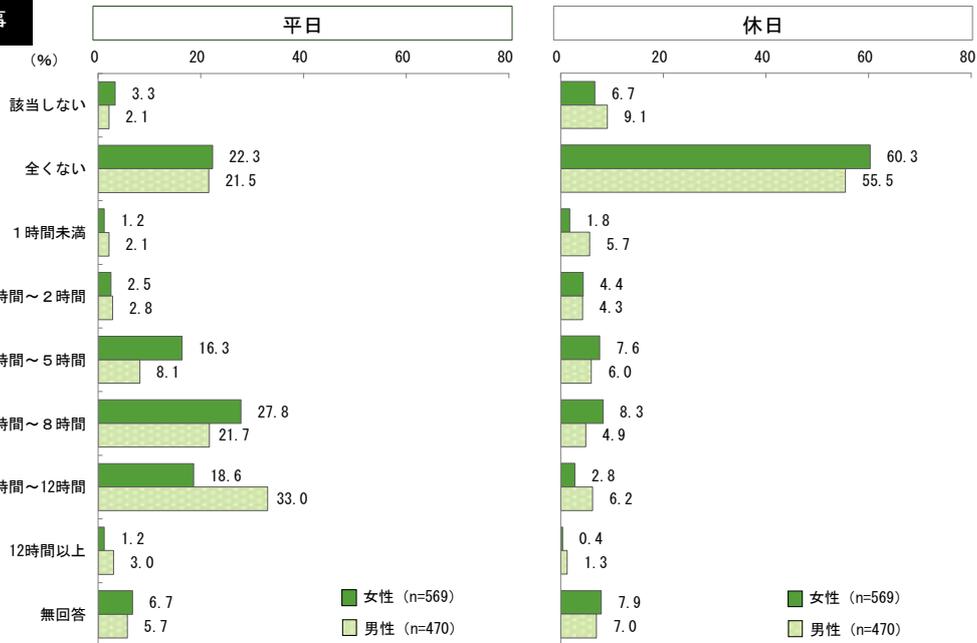
### 生活時間の配分 報告書 p. 52~p. 66

- 「家事」では、女性は平日・休日ともに「2時間～5時間」が最も高いが、男性は平日・休日ともに「1時間未満」が最も高くなっている。
- 「収入を得る仕事（平日）」では、女性は「5～8時間」が最も高いが、男性は「8時間～12時間」が最も高くなっている。

### 家事



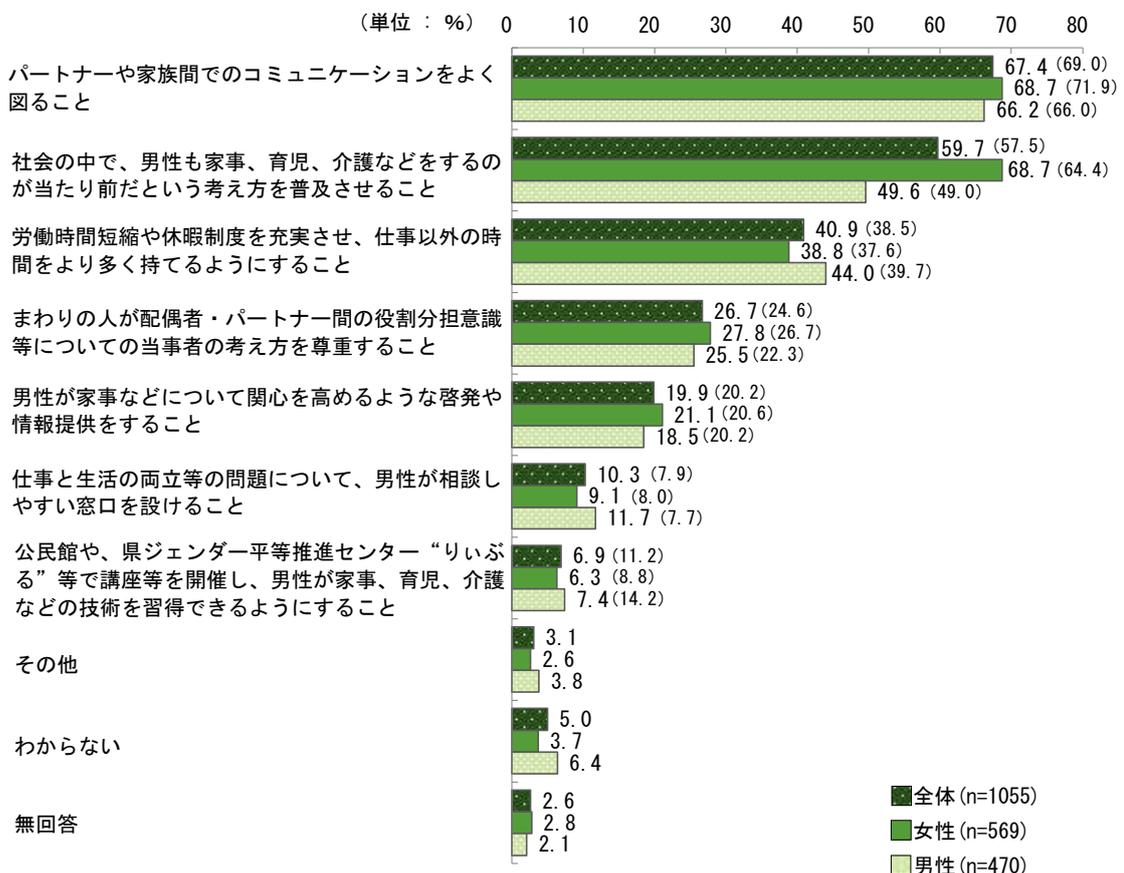
収入を得る仕事



男性の家事・育児等の積極的参加推進のために必要なこと 報告書 p. 70～p. 72

- 女性では「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」において、男性よりも10ポイント以上高くなっている。
- 男性では「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」や「仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」などが前回調査に比べて増加しており、いずれも女性の回答割合を上回る。

(\*) 図表内の ( ) は、前回調査 (令和2年実施、n=1399) の値、但し、「その他」、「わからない」、「無回答」は表記割合。

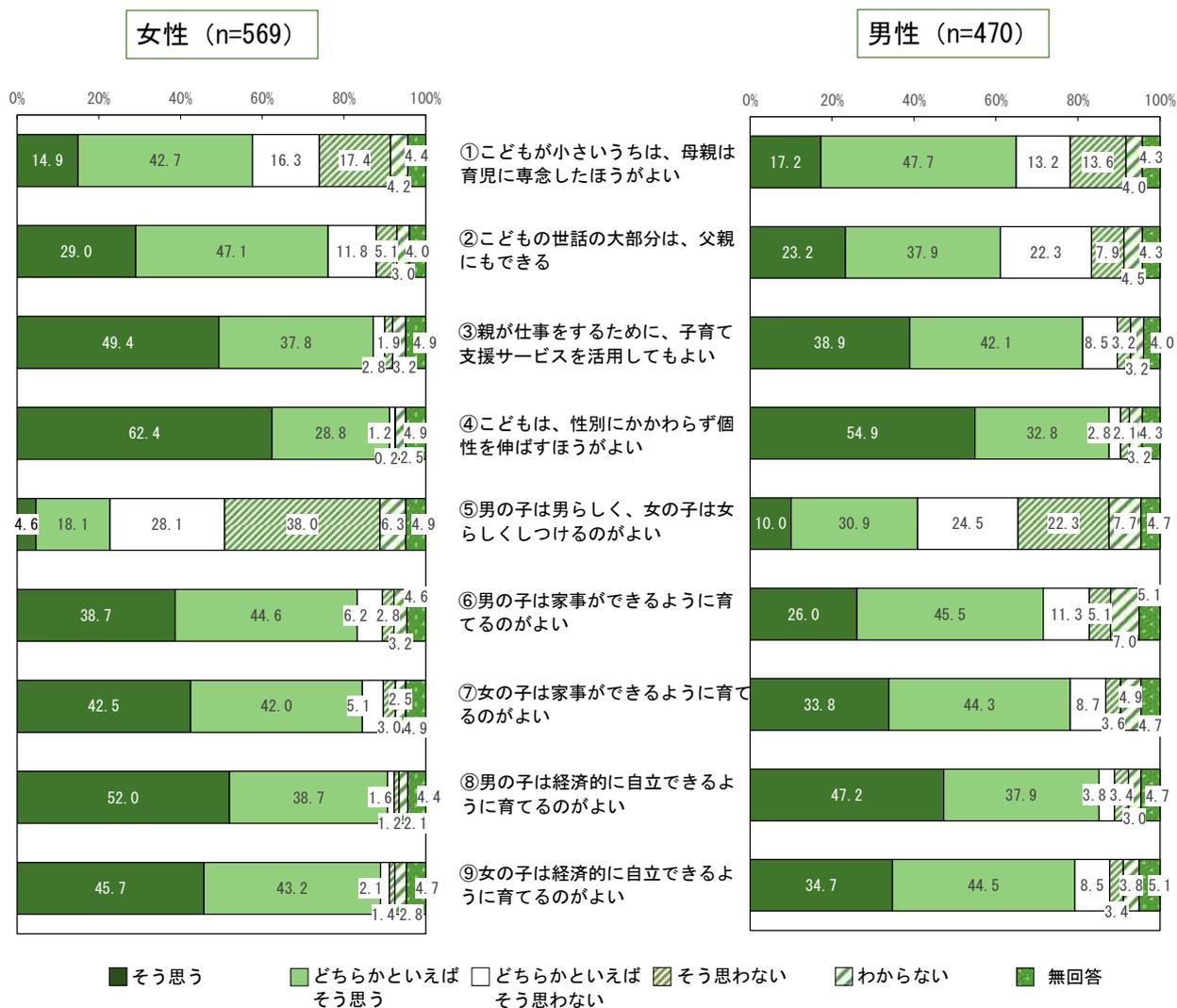


### 3. 子育てやこどもの教育について (p. 74~90)

子育てについての考え 報告書 p. 81~p. 88

- 『肯定的な意見』は「④こどもは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい」で男女ともに最も高くなっている（女性91.2%、男性87.7%）。
- 「②こどもの世話の大部分は、父親にもできる」では、『肯定的な意見』は女性が男性を大きく上回る。「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では、女性で『肯定的な意見』が最も低くなっている一方、男性では4割超となっており性別による回答差がみられる。

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。

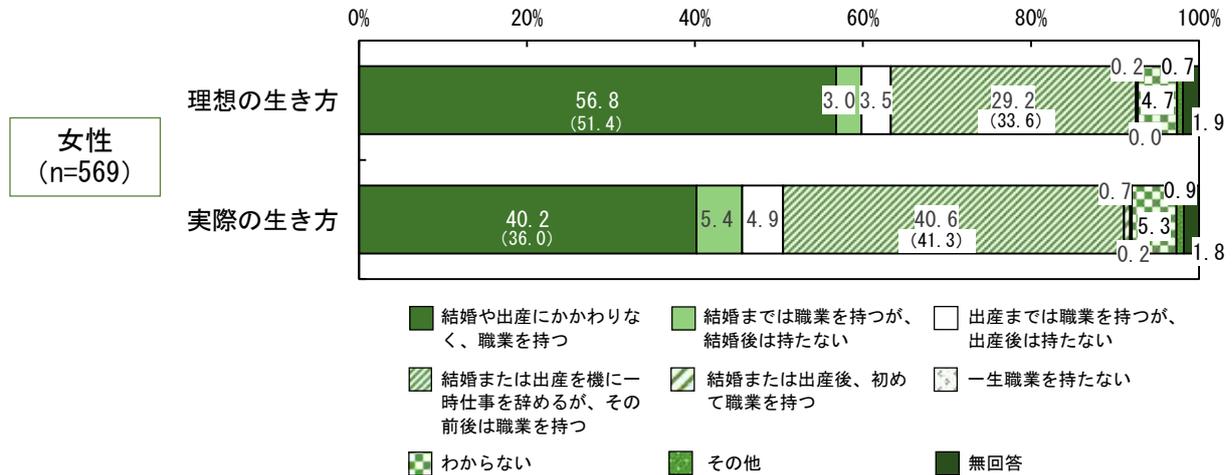


## 4. 就労について (p. 91~128)

### 女性の理想の生き方・実際の生き方 報告書 p. 91~p. 97

- 理想の（理想としていた）女性の生き方について、女性では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高い56.8%となっており、前回調査から5.4ポイント増加している。
- 実際になりそうな（現実にそうになっている）女性の生き方については、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」は女性において40.2%にとどまっている。

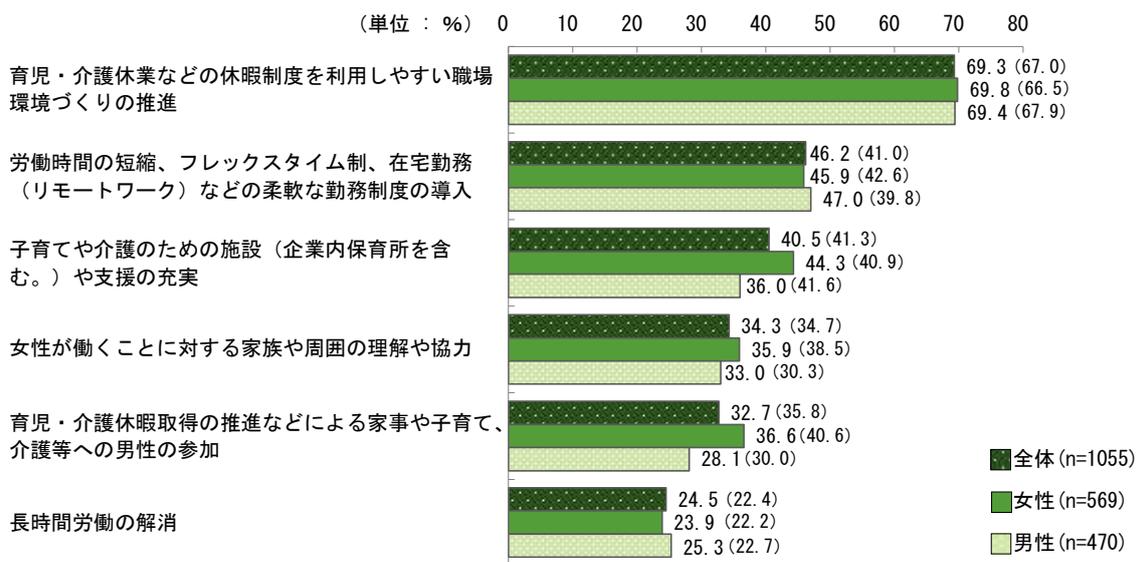
(\*) 図表内の（ ）は、前回調査（令和2年実施、n=761）の値。但し、上位2項目のみ表記



### 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 報告書 p. 108~p. 111

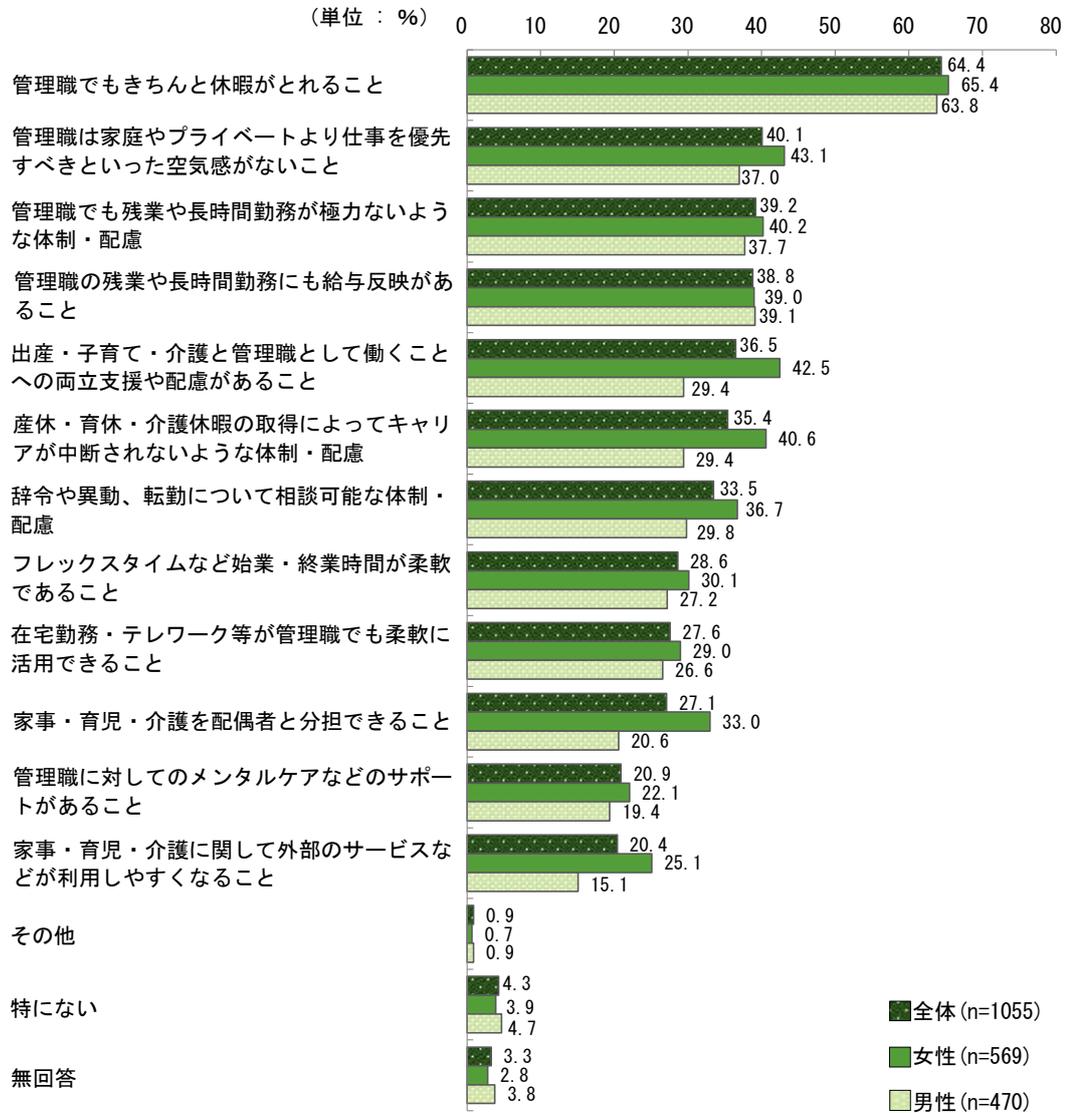
- 「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が男女ともに最も高い。
- 「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務（リモートワーク）などの柔軟な勤務制度の導入」は、前回調査から5.2ポイント増加し、2番目に高い回答となっており、特に男性で7.2ポイントの増加がみられる。

(\*) 図表内の（ ）は、前回調査（令和2年実施、n=1399）の値。

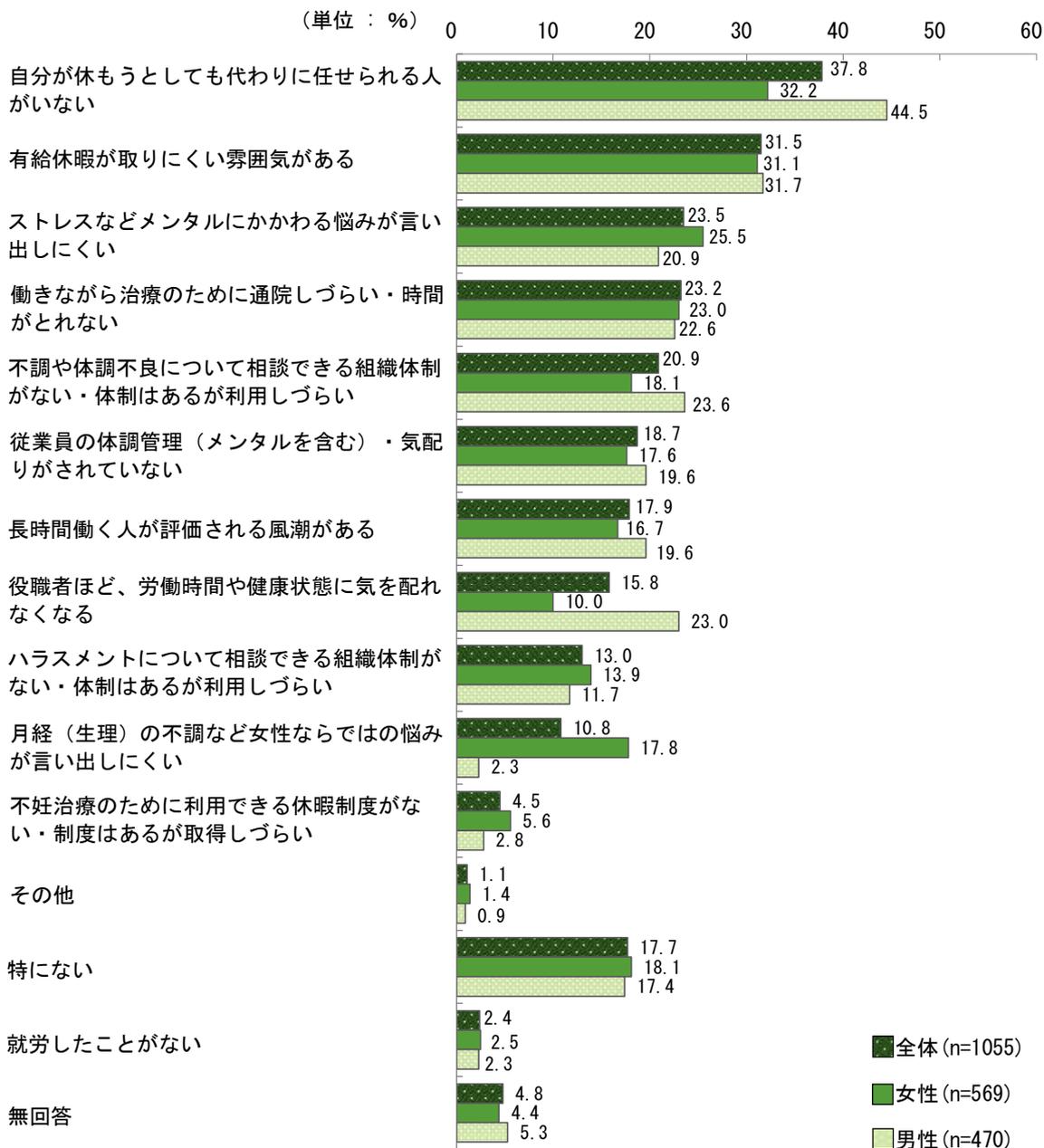


(\*) 上位6項目のみ抜粋表記

- いずれの性別においても「管理職でもきちんと休暇がとれること」が最も高くなっている。
- 「出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること」、「産休・育休・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮があること」、「家事・育児・介護を配偶者と分担できること」では、女性が男性の回答割合を大きく上回っている。



- 全体では、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」が 37.8%で最も高く、特に男性で 44.5%と、女性の 32.2%を大きく上回った。
- 「ストレスなどメンタルにかかわる悩みが言い出しにくい」では女性が男性より高い一方で、「不調や体調不良について相談できる組織体制がない・体制はあるが利用しづらい」や「役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる」では男性が女性の回答割合を大きく上回っている。

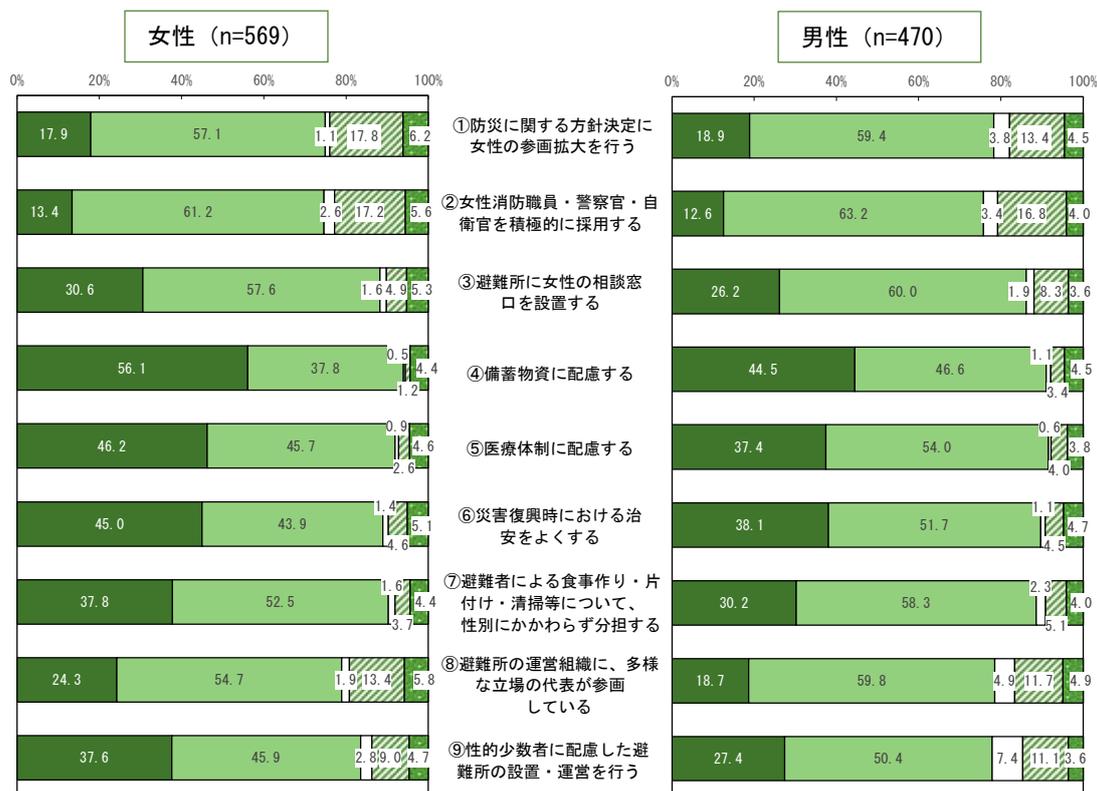
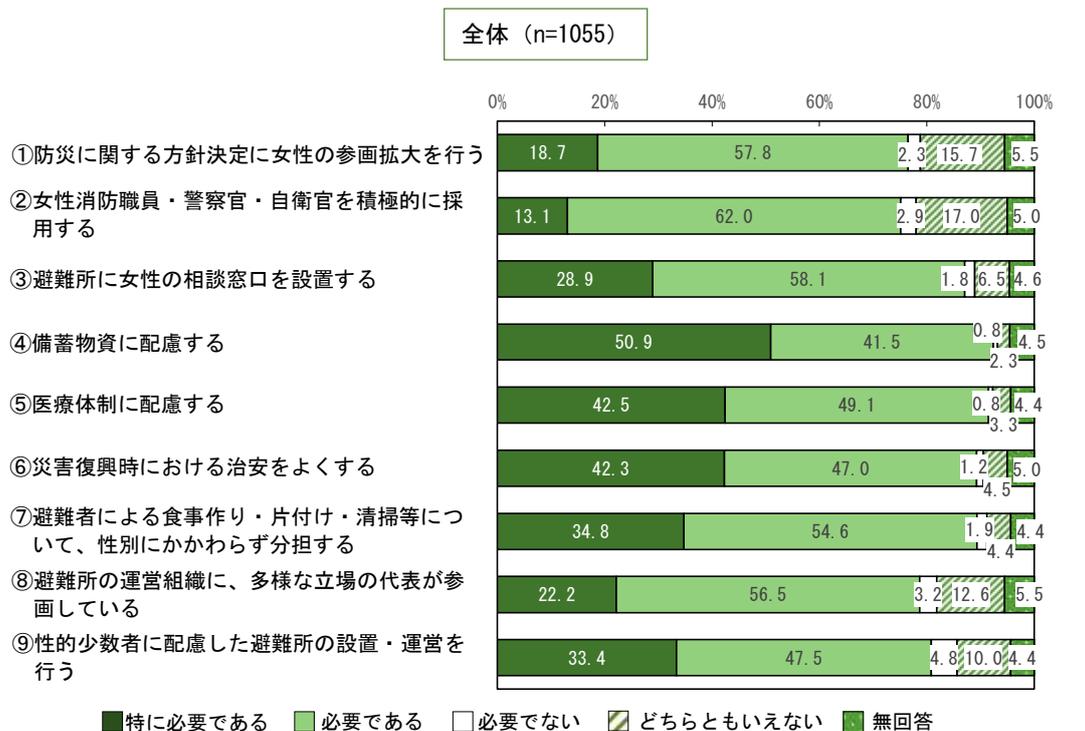


## 5. 社会活動、地域活動等について (p. 129~137)

防災・災害対策でジェンダー平等に配慮する必要があること 報告書 p. 133~p. 137

- 『必要』と考える人の割合は、「④備蓄物資に配慮する」、「⑤医療体制に配慮する」で特に高くなっている。
- 「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」、「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する」では他の項目に比べ「どちらともいえない」が高くなっている。

(\*) 『必要』は、「特に必要である」、「必要である」を合わせたもの。



## 6. DV（配偶者等からの暴力）について（p.138～165）

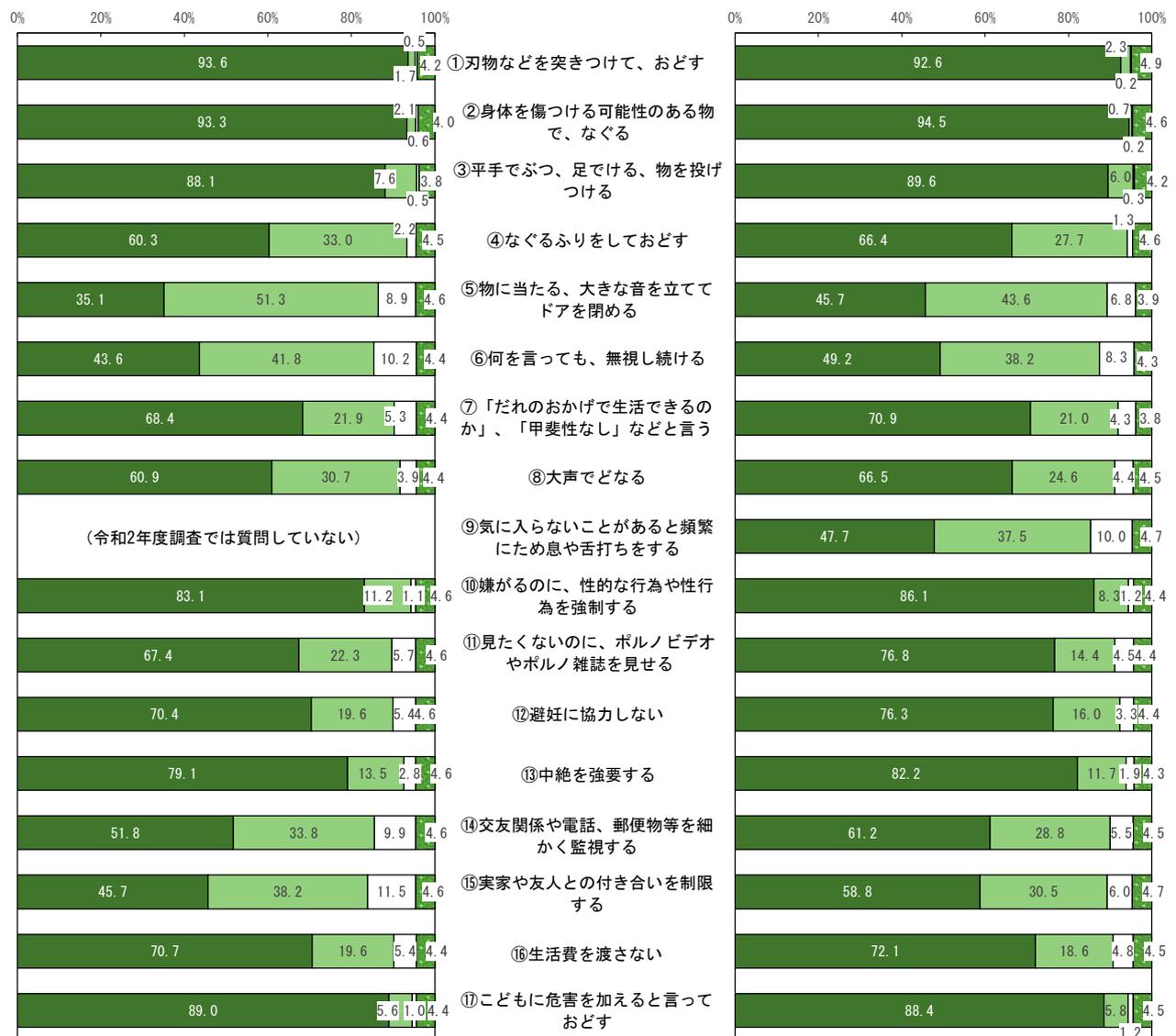
暴力と思う行為 報告書 p.138～p.147

- 前回調査に比べて、全体的に「どんな場合でも暴力にあたる」の回答割合が増加し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」や「暴力にあたるとは思わない」が減少している。
- 「⑨気に入らないことがあると頻繁にため息や舌打ちをする」や「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」では、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答が比較的低く、暴力と認識している人が少なかった。

令和2年度・全体（n=1399）

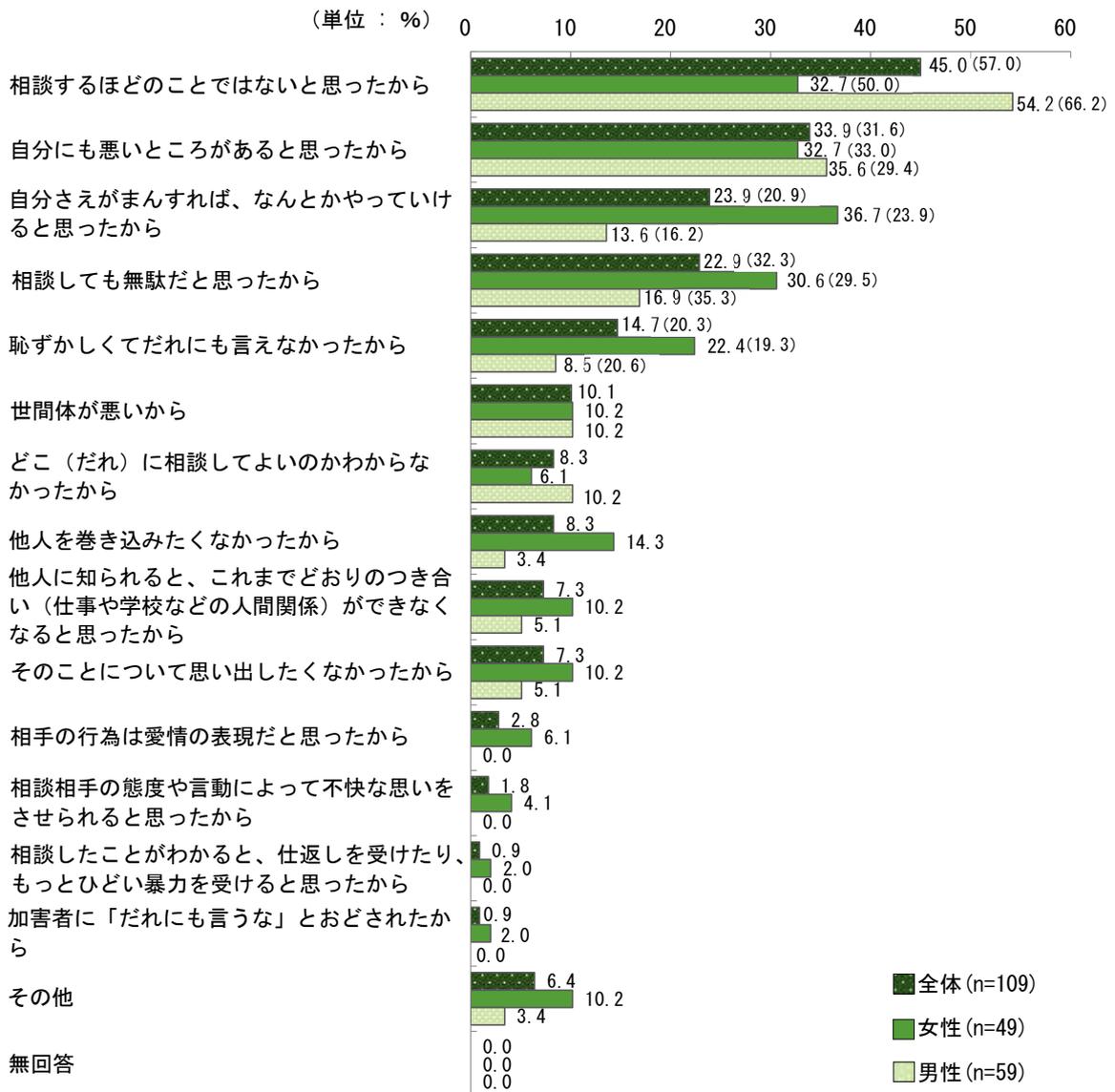
令和7年度・全体（n=1055）

■ ①どんな場合でも暴力にあたる ■ ②暴力の場合とそうでない場合がある □ ③暴力にあたるとは思わない ■ ④無回答



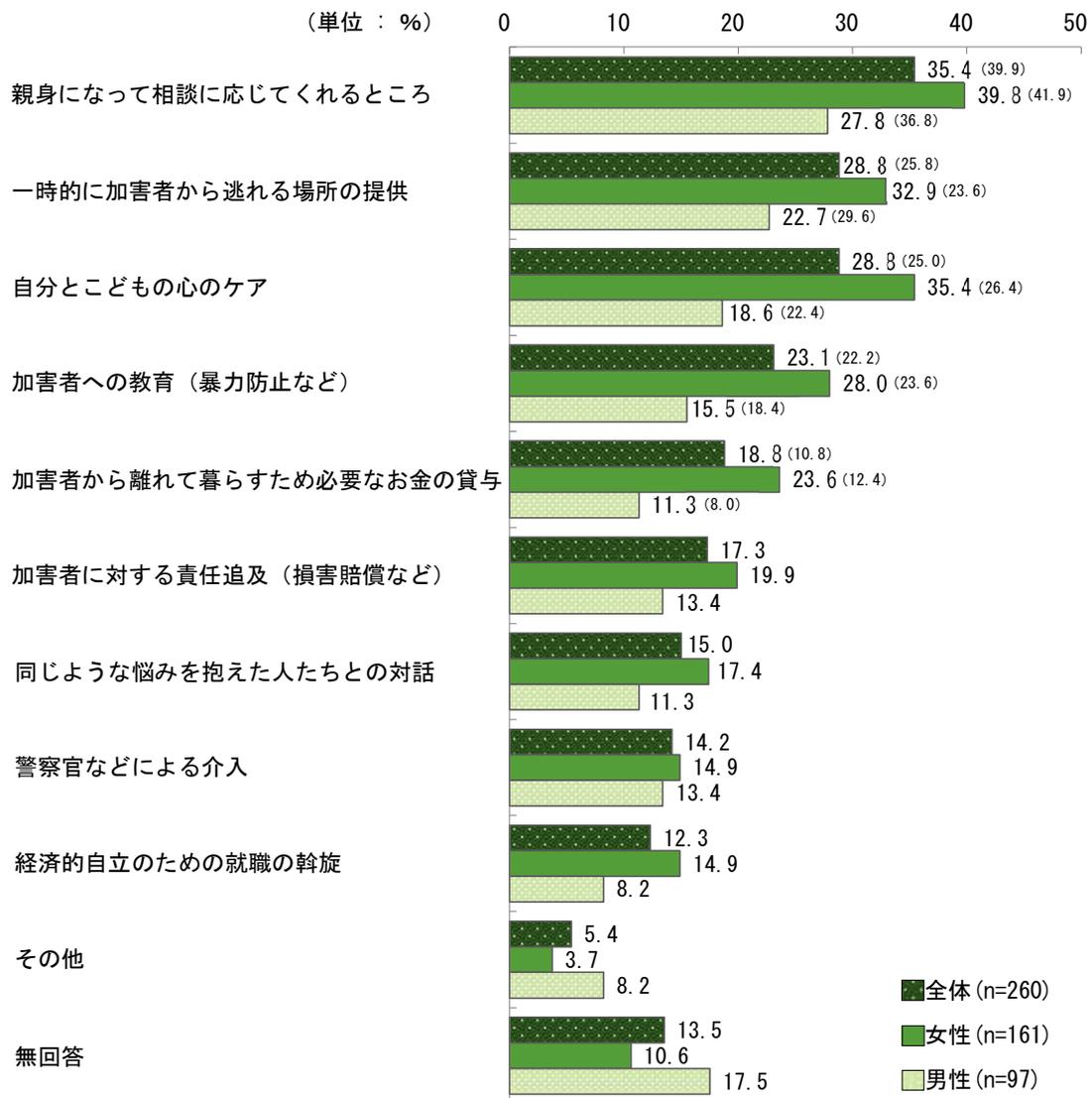
- 女性では「自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから」が前回調査から 12.8 ポイント増加し、36.7%と最も高くなっており、男性と比べ大きく差がある。
- 男性では、前回調査から 10 ポイント以上減少したものの「相談するほどのことではないと思ったから」が 54.2%と突出して高くなっており、女性の回答割合を大きく上回る。

(\*) 図表内の ( ) は、前回調査 (令和 2 年実施、n=158) の値。但し、上位 5 項目のみ表記。



- 前回調査に比べ減少したものの、いずれの性別でも「親身になって相談に応じてくれるところ」が最も高くなっている。次いで高い項目として、女性では「自分とこどもの心のケア」である一方、男性では「一時的に加害者から逃れる場所の提供」となっている。
- いずれの項目においても女性が男性よりも回答割合が高く、特に「自分とこどもの心のケア」については性別間で16.8ポイントの差がみられる。

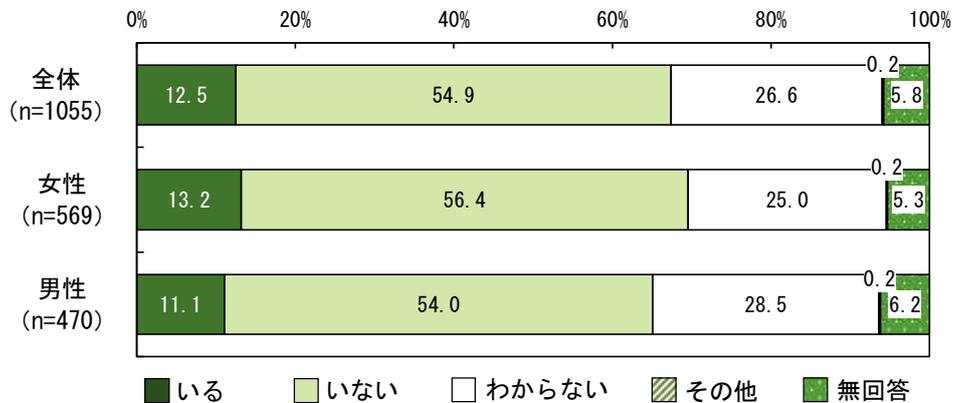
(\*) 図表内の( )は、前回調査(令和2年実施、n=388)の値。但し、上位5項目のみ表記。



## 7. 性的少数者について (p. 166~175)

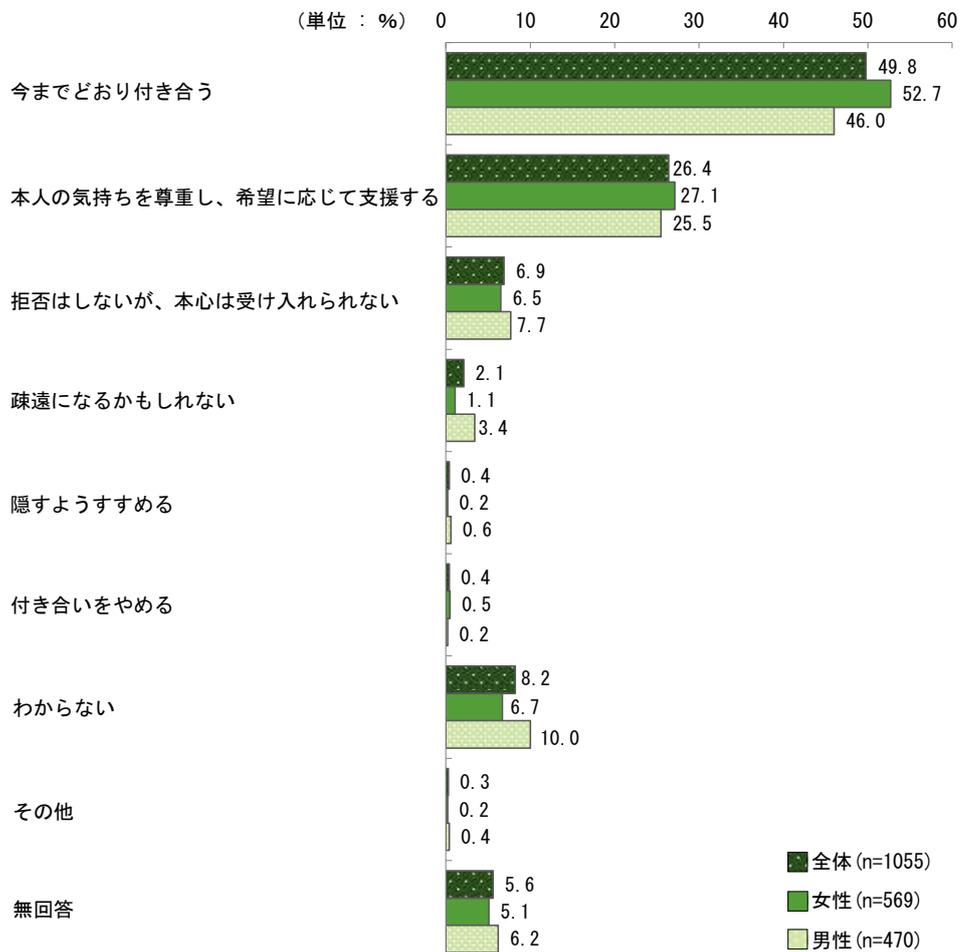
身近に性的少数者がいるかどうか 報告書 p. 166~p. 167

○ 「いる」と答えた人の割合は、全体では 12.5%であり、女性で 13.2%、男性で 11.1%となっている。

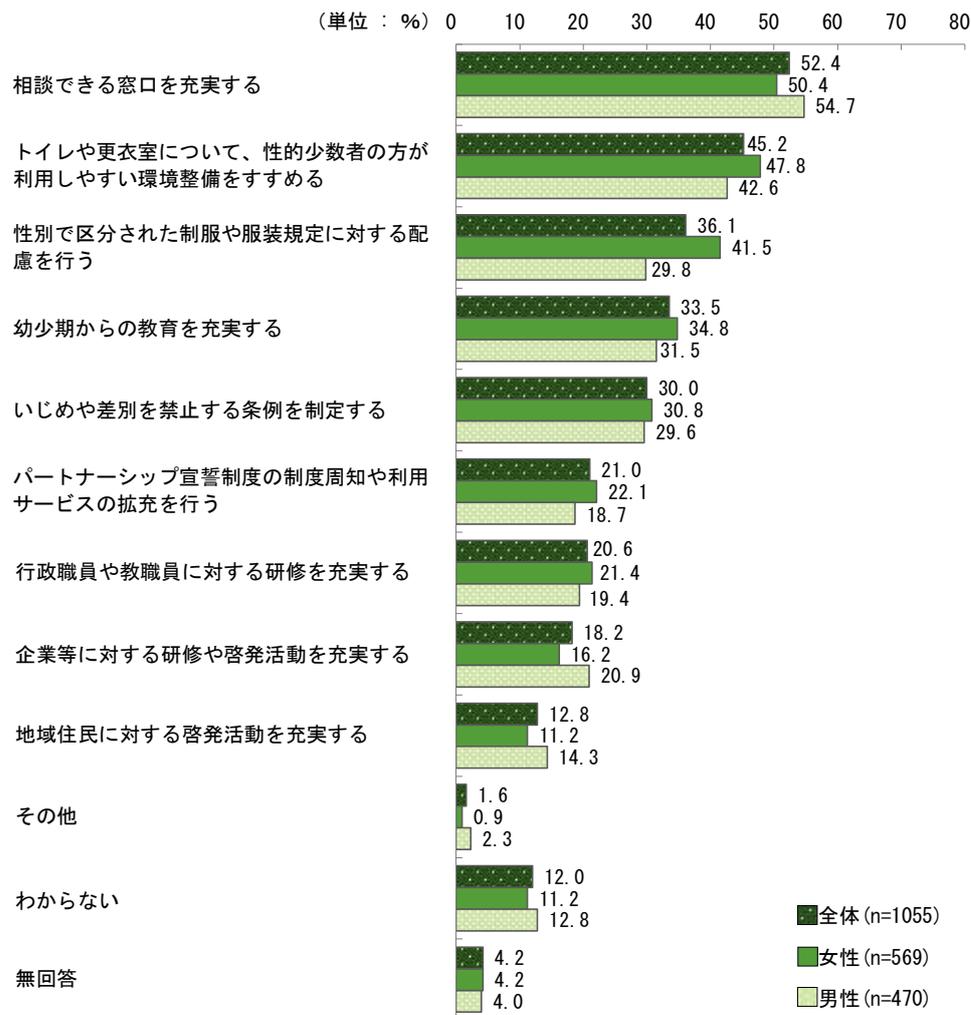


友人・同僚等が性的少数者の場合の考え 報告書 p. 171~p. 172

○ 全体では「今までどおり付き合う」が 49.8%で最も高く、次いで「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」(26.4%)、「拒否はしないが、本心は受け入れられない」(6.9%)となっている。上位 2 項目については女性の方が男性より高い。



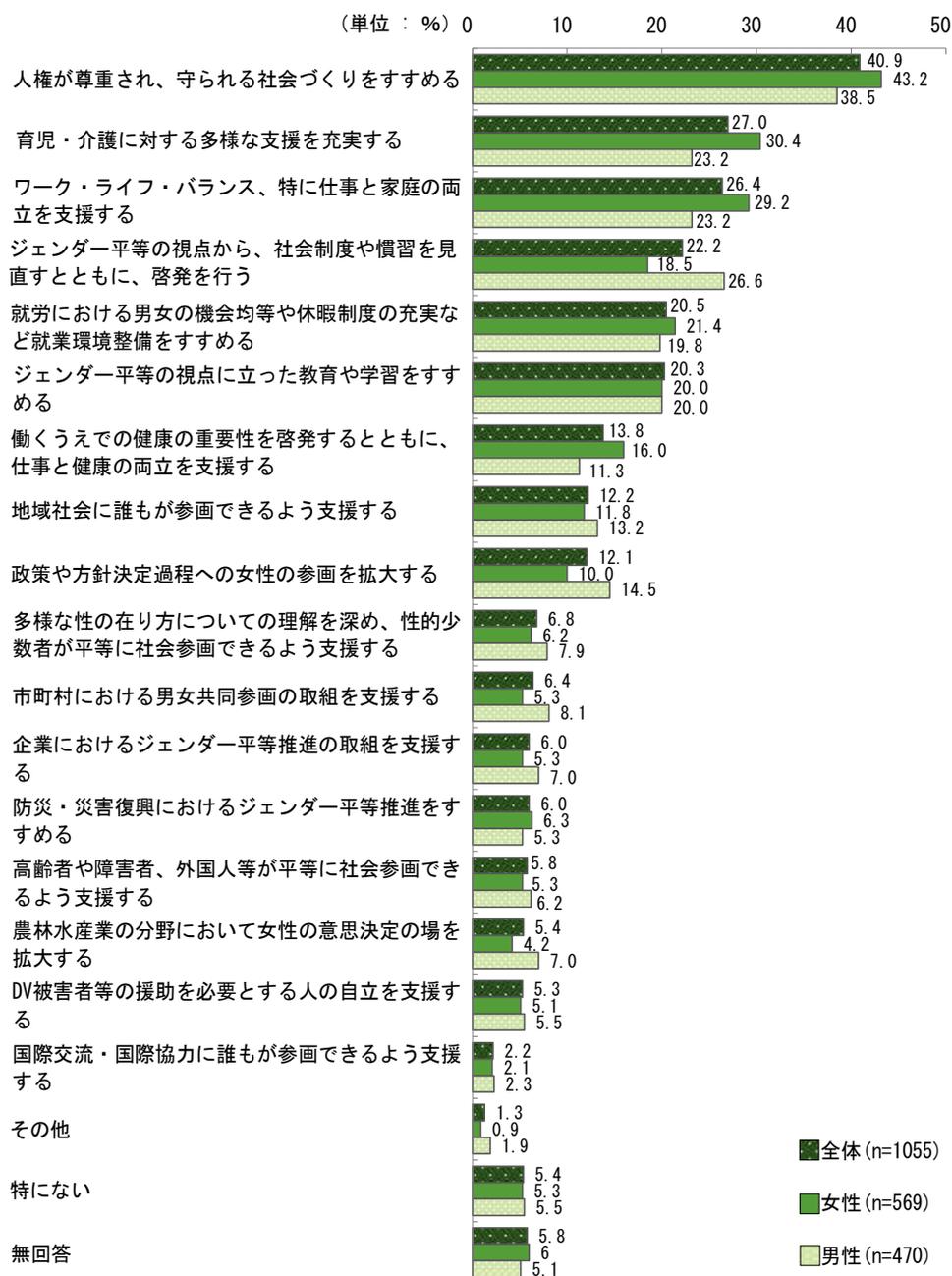
- 性的少数者にとって必要な支援策について、全体では、「相談できる窓口を充実する」が 52.4%で最も高く、次いで「トイレや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる」(45.2%)、「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」(36.1%)となっている。
- 身近に性的少数者が「いる」と答えた人では「トイレや更衣室について、性的少数者数の方が利用しやすい環境整備をすすめる」が最も高く、次いで「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」、「幼少期からの教育を充実する」となっており、身近な性的少数者の有無によって回答状況に差がみられる。



## 8. 男女共同参画施策等について (p. 176~189)

男女共同参画を推進するために力をいれるべきこと 報告書 p. 187~p. 189

- 全体では「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」が40.9%で最も多く、次いで「育児・介護に対する多様な支援を充実する」(27.0%)、「ワーク・ライフ・バランス、特に仕事と家庭の両立を支援する」(26.4%)となっている。
- 上記3項目はいずれも女性の方が男性よりも回答割合が高くなっているが、「ジェンダー平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う」では男性が女性を上回っている。



### Ⅲ 調査結果の分析

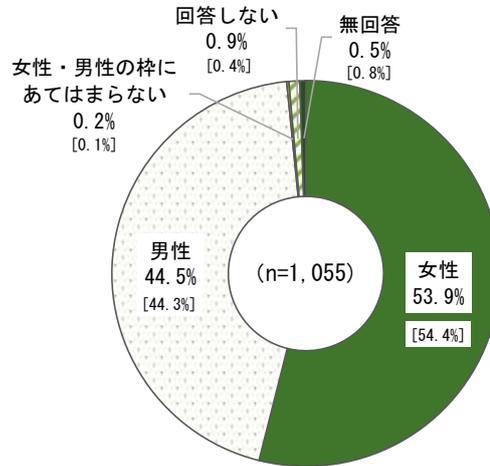
---

# 1. 回答者の属性について

## 1-1 性別

**F1** あなたの性別をお答えください。(1つ選択)

○ 「女性」が53.9%、「男性」が44.5%となっている。

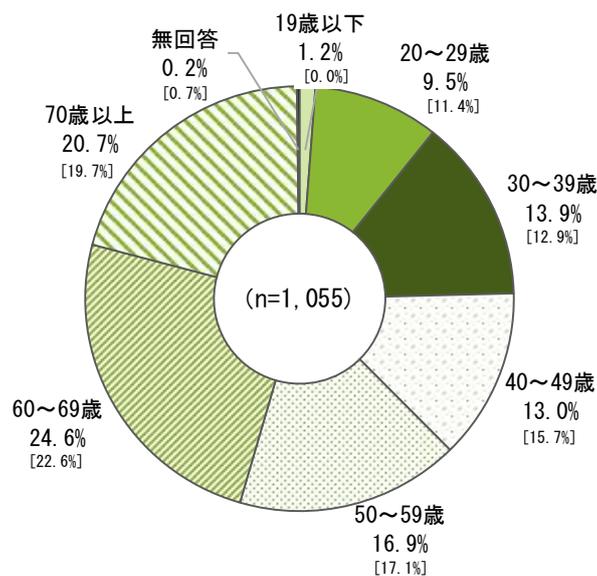


(\*) [ ]内は、前回調査 (令和2年実施、n=1,399) の値

## 1-2 年齢

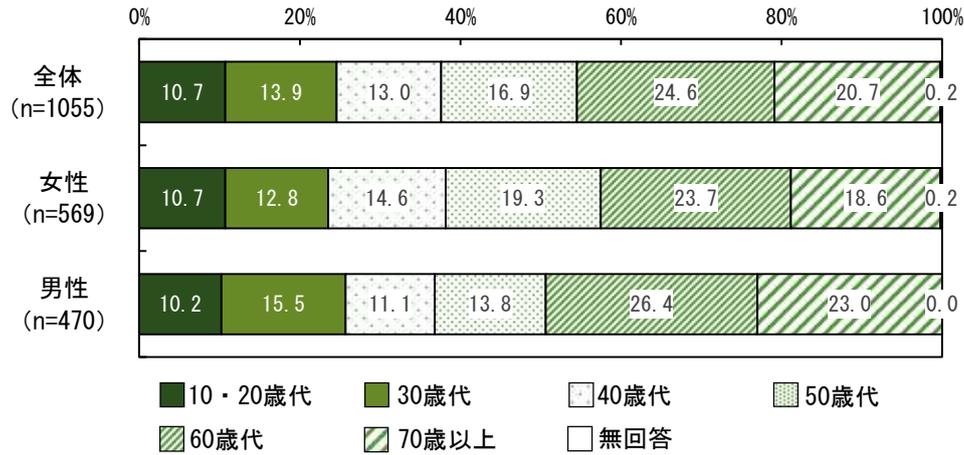
**F2** あなたの年齢をお答えください。(1つ選択)

○ 「60～69歳」が24.6%で最も高く、次いで「70歳以上」が20.7%となっており、「50～59歳以上」が16.9%となっている。50歳以上の回答は62.2%となり、「全体」の回答には中高年の意見がより反映されていることを考慮する必要がある。



(\*) [ ]内は、前回調査 (令和2年実施、n=1,399) の値

1-2 年齢 【クロス集計（性別）】



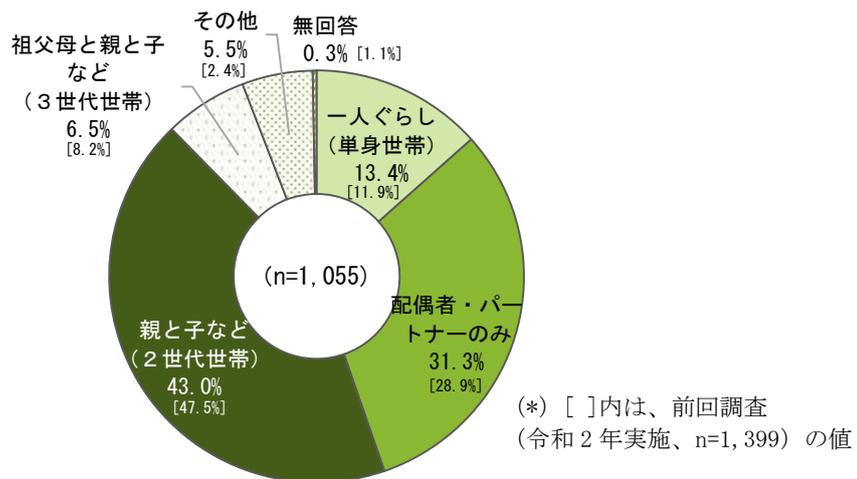
(単位：人)

	回答数	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	1055	113	147	137	178	260	218	2
女性	569	61	73	83	110	135	106	1
男性	470	48	73	52	65	124	108	0
その他	16	4	1	2	3	1	4	1

1-3 家族構成

**F3** あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。(1つ選択)

○ 「親と子など（2世代世帯）」が43.0%で最も高く、次いで「配偶者・パートナーのみ」が31.3%となっている。



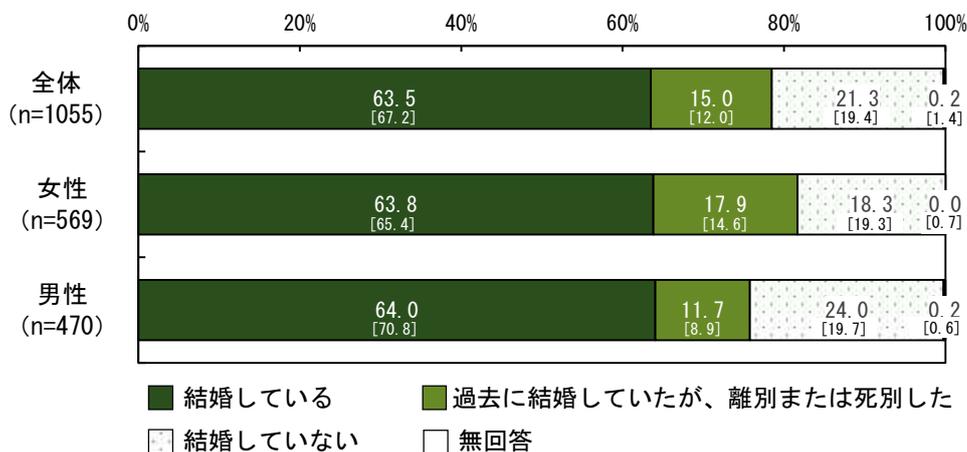
(単位：人)

	回答数	一人暮らし (単身世帯)	配偶者・パートナーのみ	親と子など (2世代世帯)	祖父母と親と子など (3世代世帯)	その他	無回答
全体	1055	141	330	454	69	58	3

1-4 結婚の有無 【クロス集計（性別）】

**F4** あなたは結婚していますか。※結婚には事実婚・パートナーシップ宣誓制度利用者を含みます。  
 (1つ選択)

○ 「結婚している」が63.5%で最も高いが、前回調査と比べると男女ともに減少している。一方で「結婚していない」は男性で増加しており、「過去に結婚していたが離別または死別した」では男女ともに増加がみられる。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値

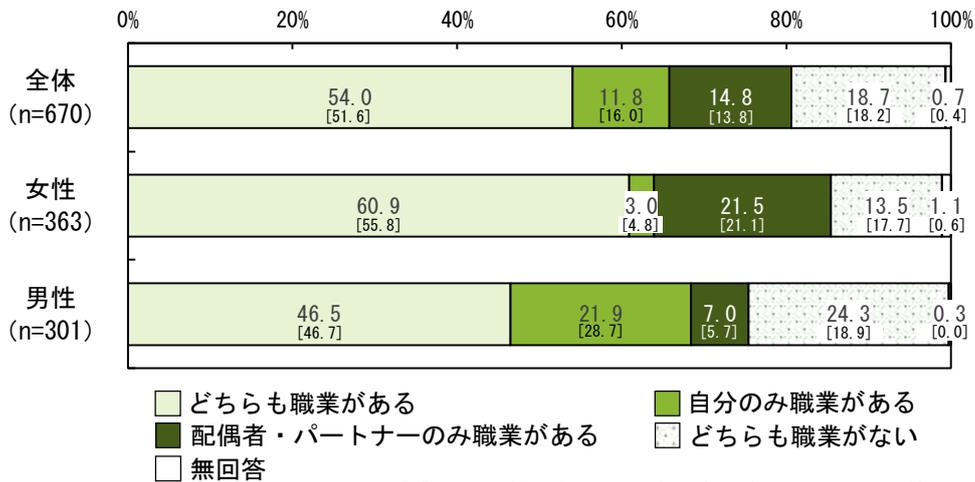
(単位: 人)

	回答数	結婚している	過去に結婚していたが、離別または死別した	結婚していない	無回答
全体	1055	670	158	225	2
女性	569	363	102	104	0
男性	470	301	55	113	1
その他	16	6	1	8	1

1-4 (1) 配偶者の職業有無

**F5** F4で「結婚している」と回答された方にお尋ねします。配偶者・パートナーの職業の有無をお答えください。(1つ選択)

○ 「どちらも職業がある」が54.0%で最も高く、次いで「どちらも職業がない」が18.7%となっている。性別ごとに見ると、男女ともに「どちらも職業がある」が最も高いが、次いで女性では「配偶者のみ職業がある」が高く、男性では次いで「自分のみ職業がある」となっており、回答状況に差が見られる。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=940）の値

(単位：人)

	回答数	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者・パートナーのみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
全体	670	362	79	99	125	5
女性	363	221	11	78	49	4
男性	301	140	66	21	73	1
その他	6	1	2	0	3	0

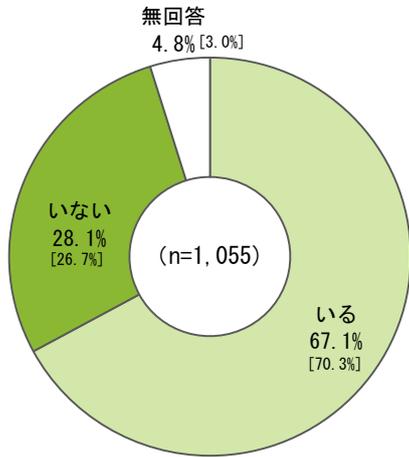
1-5 こどもの有無及び一番下のこどもの年齢

**F5** あなたには子どもがいますか。(1つ選択)

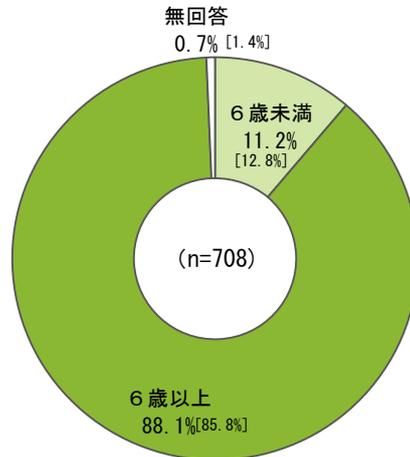
**F5-1** 一番下のお子さんは、現在次のどちらにあてはまりますか。(1つ選択)

○ 「いる」が67.1%となっており、一番下のこどもの年齢は「6歳以上」が88.1%を占めている。

【こどもの有無】



【一番下のこどもの年齢】



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値

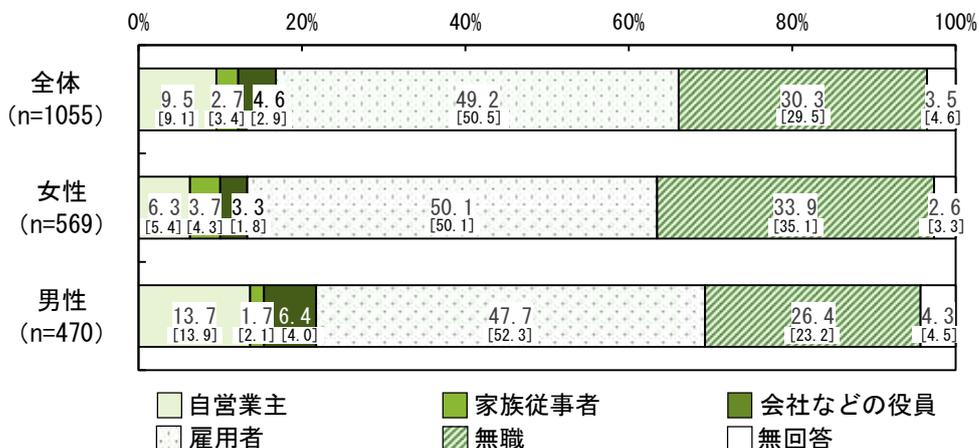
(単位：人)

	回答数	いる	6歳未満	6歳以上	無回答	いない	無回答
全体	1055	708	79	624	5	296	51
女性	569	407	45	358	4	140	22
男性	470	296	34	261	1	147	27
その他	16	5	0	5	0	9	2

1-6 職業

**F6** あなたの職業をお答えください。(1つ選択)

○ 「雇用者」が49.2%で最も高く、次いで「無職」が30.3%となっている。「無職」と答える人の割合は、男性より女性のほうが多く、前回調査と比べその差は11.9ポイントから7.5ポイントの差に減少した。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値

- 詳細な職業種別を見ると、全体では「常勤の勤め（社員等）」が31.8%で最も高く、次いで「非常勤の勤め（パート、アルバイト）」（17.4%）、「専業主婦・主夫」（15.5%）となっている。
- 性年代別で見ると、「常勤の勤め（社員等）」が女性の10・20歳代（49.2%）で最も高く、男性では30歳代で69.9%と高くなっている。「非常勤の勤め（パート、アルバイト）」は、女性の50歳代で35.5%と最も高く、40歳代で31.3%、60歳代で30.4%と、いずれも3割を超えている。

(単位 上段：件数、下段：%)

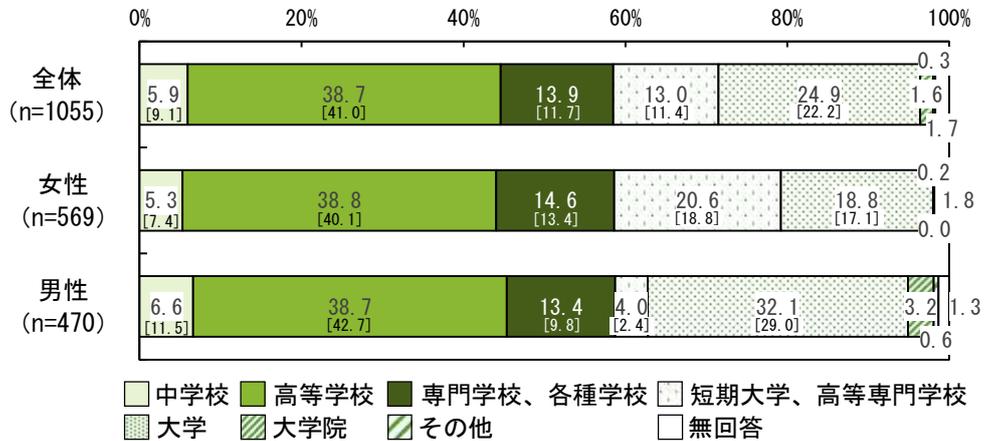
	回答数	農林漁業	商工サービス業	その他の自営業 (自由業等)	農林漁業	商工サービス業	その他の家族従事者	会社などの役員	常勤の勤め(社員等)	非常勤の勤め (パート、アルバイト)	専業主婦・主夫	学生	その他	無回答	
全体	1055	41 3.9	11 1.0	49 4.6	12 1.1	5 0.5	12 1.1	49 4.6	335 31.8	184 17.4	164 15.5	26 2.5	130 12.3	37 3.5	
女性	10・20歳代	61	-	1 1.6	-	-	-	8 13.1	30 49.2	7 11.5	1 1.6	14 23.0	-	-	
	30歳代	73	1 1.4	-	1 1.4	-	2 2.7	1 1.4	3 4.1	30 41.1	19 26.0	11 15.1	-	4 5.5	1 1.4
	40歳代	83	1 1.2	1 1.2	4 4.8	-	1 1.2	1 1.2	1 1.2	38 45.8	26 31.3	8 9.6	-	1 1.2	1 1.2
	50歳代	110	-	1 0.9	1 0.9	1 0.9	-	4 3.6	2 1.8	36 32.7	39 35.5	18 16.4	-	5 4.5	3 2.7
	60歳代	135	6 4.4	4 3.0	5 3.7	4 3.0	-	1 0.7	5 3.7	11 8.1	41 30.4	46 34.1	-	9 6.7	3 2.2
	70歳以上	106	5 4.7	1 0.9	4 3.8	3 2.8	1 0.9	2 1.9	-	-	7 6.6	55 51.9	-	21 19.8	7 6.6
	年齢不詳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-
男性	10・20歳代	48	-	-	3 6.3	-	-	-	1 2.1	24 50.0	2 4.2	-	12 25.0	4 8.3	2 4.2
	30歳代	73	1 1.4	-	3 4.1	-	-	2 2.7	9 12.3	51 69.9	3 4.1	-	-	1 1.4	3 4.1
	40歳代	52	3 5.8	-	1 1.9	1 1.9	-	1 1.9	4 7.7	34 65.4	5 9.6	-	-	3 5.8	-
	50歳代	65	3 4.6	1 1.5	8 12.3	-	-	-	2 3.1	38 58.5	3 4.6	1 1.5	-	6 9.2	3 4.6
	60歳代	124	13 10.5	2 1.6	13 10.5	1 0.8	-	-	9 7.3	35 28.2	13 10.5	5 4.0	-	30 24.2	3 2.4
	70歳以上	108	8 7.4	1 0.9	4 3.7	2 1.9	1 0.9	-	5 4.6	3 2.8	13 12.0	18 16.7	-	44 40.7	9 8.3
	年齢不詳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別不詳(*)	16	-	-	1 6.3	-	-	-	-	5 31.3	5 31.3	1 6.3	-	2 12.5	2 12.5	

(\*) 「性別不詳」は、「女性・男性の枠にあてはまらない」、「回答しない」、「無回答」を合わせたもの。また、表内の「-」は、0.0%を意味する。

1-7 最終学歴

**F7** あなたの最終学歴をお答えください。中途退学の場合は最後に卒業した学校、在学中の場合は、現在在学している学校をお答えください。(1つ選択)

○ 「高等学校」が38.7%で最も高く、次いで「大学」が24.9%、「専門学校、各種学校」が13.9%となっている。男女間で最も差が見られた「短期大学、高等専門学校」では女性が男性より16.6ポイント高く、次いで「大学」では女性が男性に比べ13.3ポイント低い。



(\*) [ ]内は、前回調査 (令和2年実施、n=1,399) の値、但し「大学院」、「その他」、「無回答」は表記割愛。

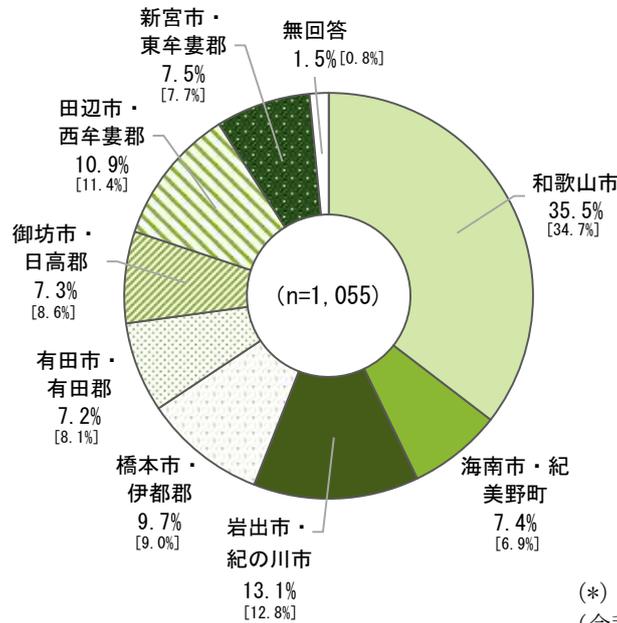
(単位: 人)

	回答数	中学校	高等学校	専門学校、各種学校	短期大学、高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答
全体	1055	62	408	147	137	263	17	3	18
女性	569	30	221	83	117	107	1	0	10
男性	470	31	182	63	19	151	15	3	6
その他	16	1	5	1	1	5	1	0	2

1-8 居住地域

**F8** あなたのお住まいの地域をお答えください。(1つ選択)

○ 「和歌山市」が35.5%で最も高く、次いで「岩出市・紀の川市」が13.1%、「田辺市・西牟婁郡」が10.9%、「橋本市・伊都郡」が9.7%となっている。



(\*) [ ]内は、前回調査  
(令和2年実施、n=1,399) の値

(単位：人)

	回答数	和歌山市	海南市・紀美野町	岩出市・紀の川市	橋本市・伊都郡	有田市・有田郡	御坊市・日高郡	田辺市・西牟婁郡	新宮市・東牟婁郡	無回答
全体	1055	374	78	138	102	76	77	115	79	16
女性	569	199	44	74	58	43	46	58	38	9
男性	470	172	34	61	42	32	29	56	38	6
その他	16	3	0	3	2	1	2	1	3	1

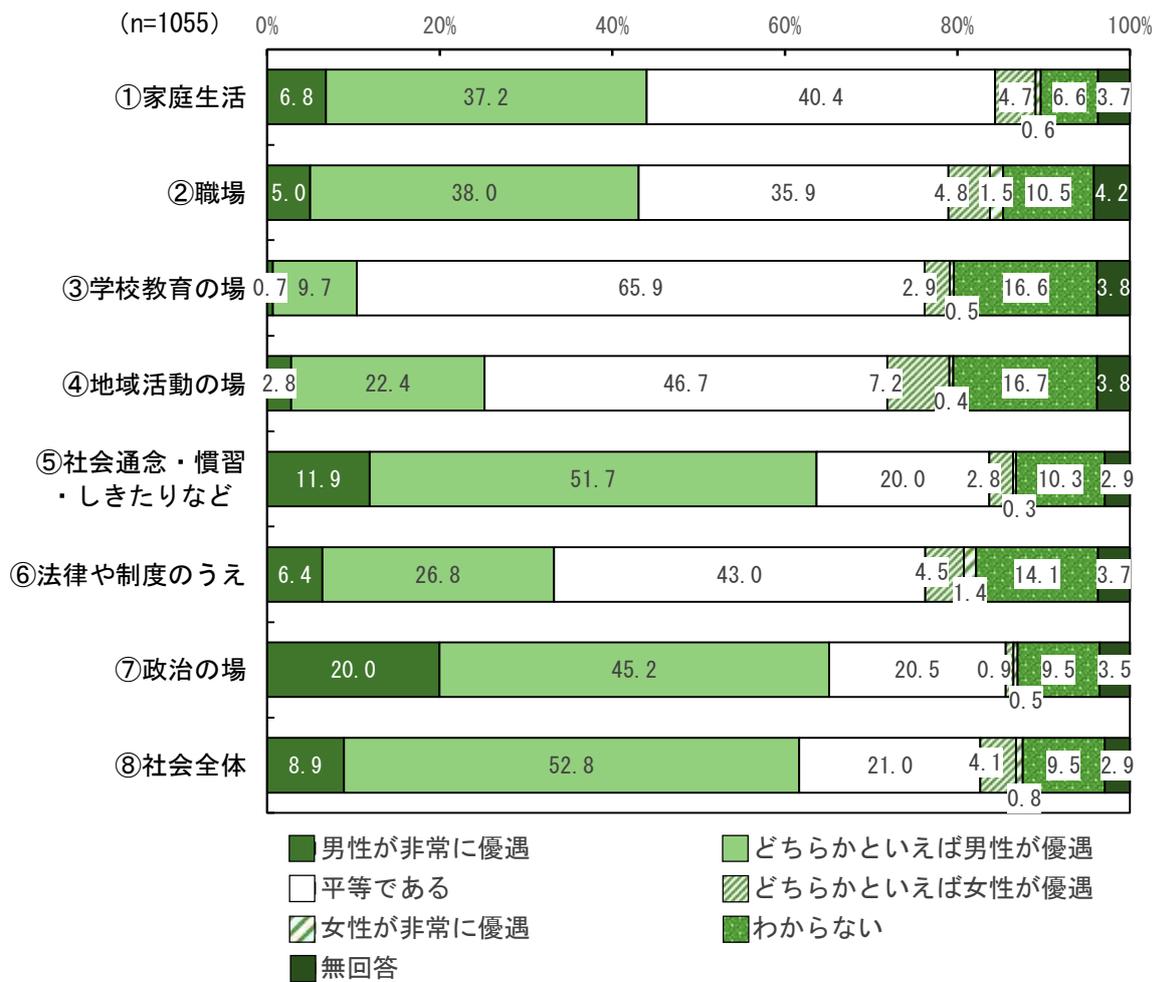
## 2. ジェンダー平等意識について

### 2-1 男女の地位の平等感 (8分野別)

**問1** あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ1つ選択)

○ 『男性優遇』の回答割合を見ると、「⑦政治の場」(65.2%)、「⑤社会通念・慣習・しきたりなど」(63.6%)、「⑧社会全体」(61.7%)が高く、一方で、「④地域活動の場」(25.2%)、「③学校教育の場」(10.4%)が低くなっている。

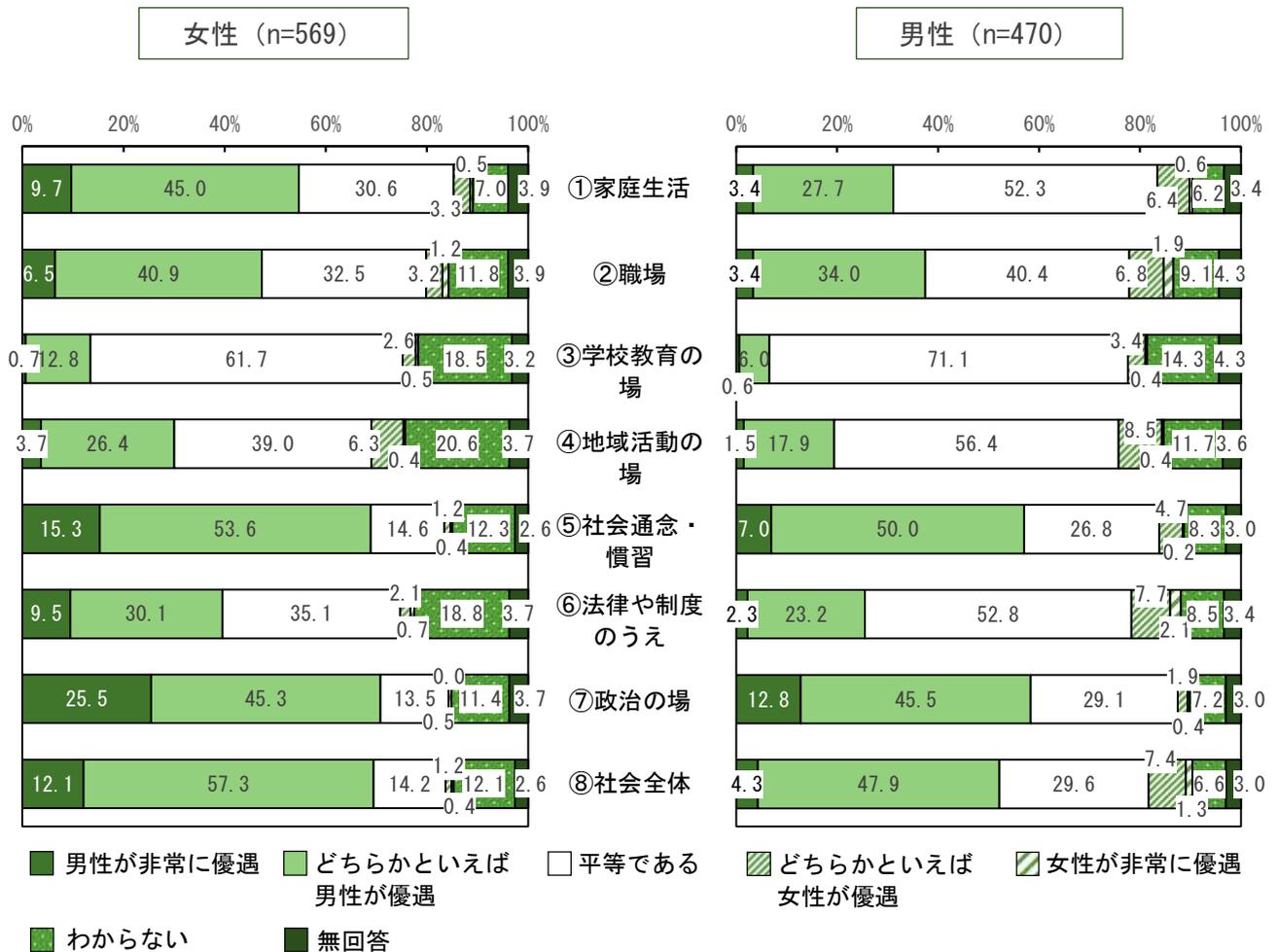
(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせたもの。



2-1 男女の地位の平等感 (8分野別) 【クロス集計 (性別)】

○ 『男性優遇』と感じる人の割合は男女ともに「⑤社会通念・慣習」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で高い。性別ごとに見ると、全ての分野において、女性の方が男性よりも『男性優遇』の回答割合が高い。特に「①家庭生活」においては『男性優遇』と答える人の割合は女性 (54.7%) と男性 (31.1%) で 23.6 ポイントの差があり、『平等である』と答える人の割合は女性 (30.6%) と男性 (52.3%) で 21.7 ポイントの開きがあり、性別間で認識に大きく差がある。ほか『平等である』と答える人の割合で性別間の差が大きいものとしては「⑥法律や制度のうえ」(17.7 ポイント)、「④地域活動の場」(17.4 ポイント)、「⑦政治の場」(15.6 ポイント) となっている。

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせたもの。



2-1 男女の地位の平等感 (8分野別) 【クロス集計 (性年代別)】

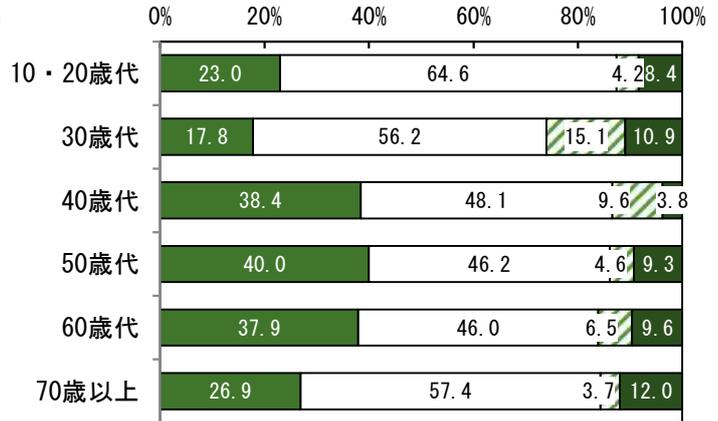
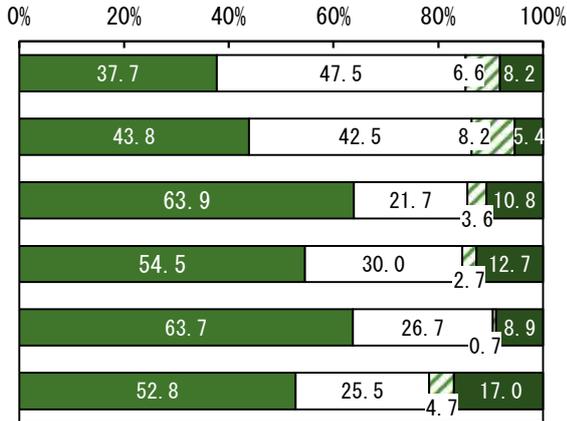
○ 性年代別に見ると、「②職場」において、女性のいずれの年齢階層においても、『男性優遇』が約半数を占めている。また、女性の40歳代において、「②職場」、「③学校教育の場」、「⑦政治の場」を除き、どの分野でも『男性優遇』が他の性年代に比べて高くなっている。

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせて集計している。

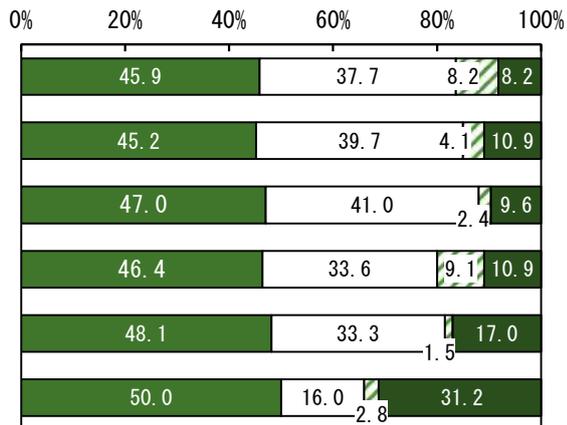
女性 (n=569)

男性 (n=470)

①家庭生活



②職場



③学校教育の場



■ 『男性優遇』 □ 平等 ▨ 『女性優遇』 ■ 『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

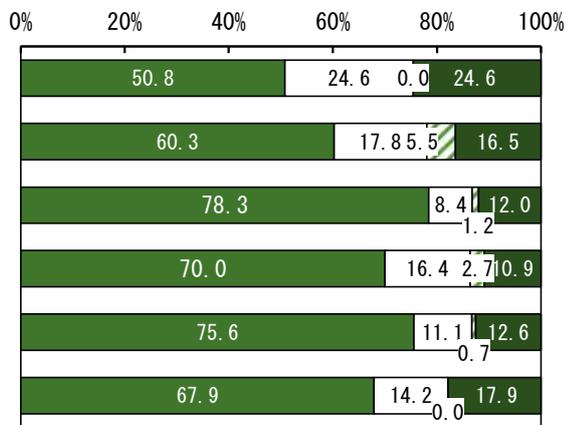
女性 (n=569)

男性 (n=470)

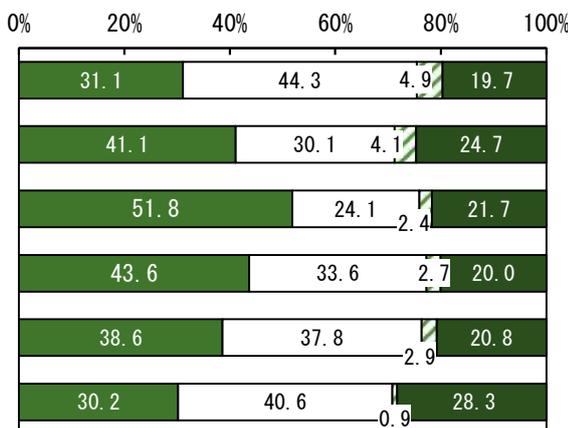
④地域活動の場



⑤社会通念・慣習・しきたりなど



⑥法律や制度のうえ



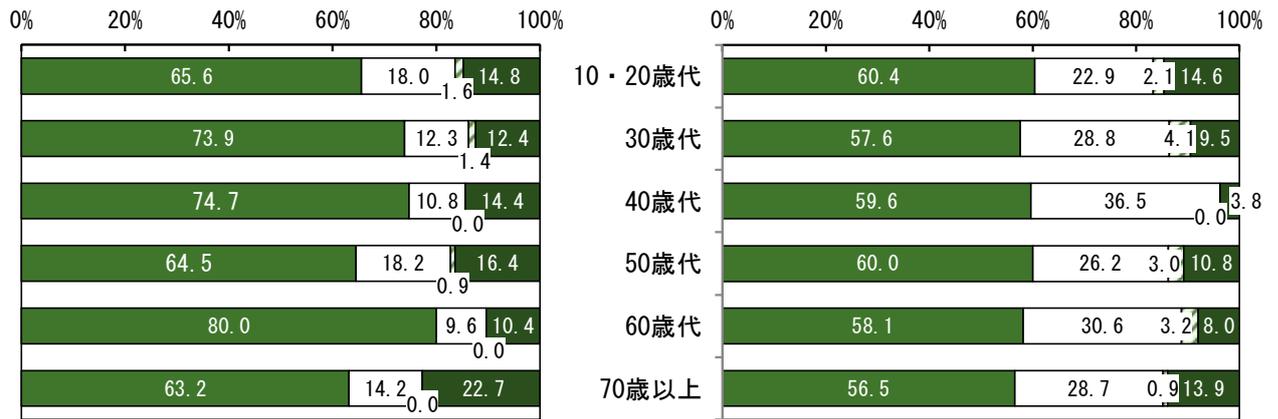
■『男性優遇』 □平等 ▨『女性優遇』 ■『不明』

(\*)『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

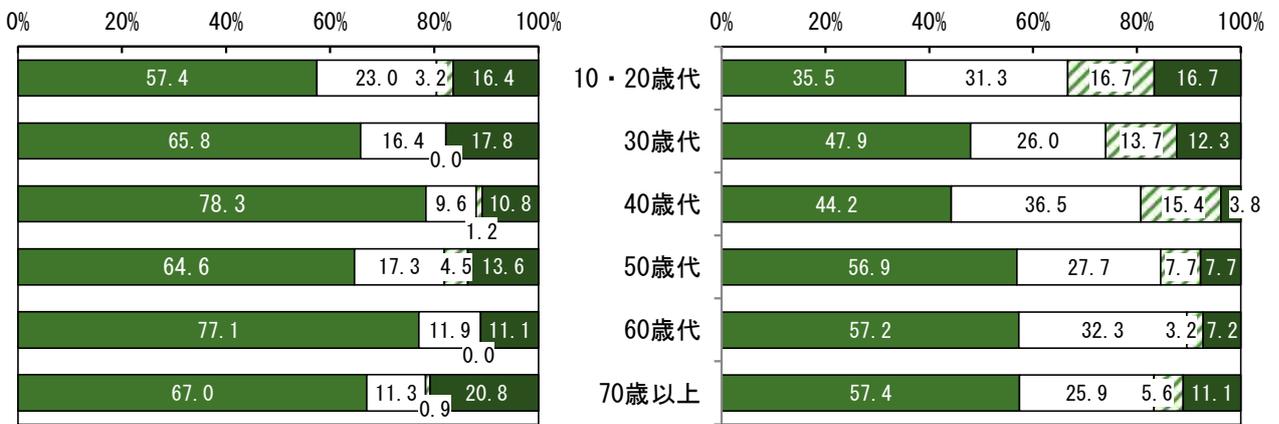
女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑦政治の場



⑧社会全体



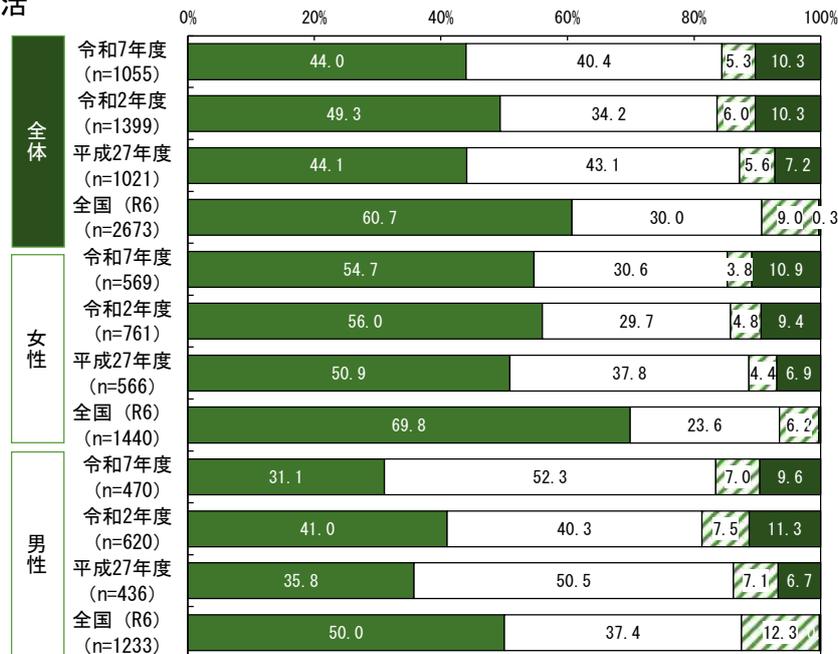
■『男性優遇』 □平等 ▨『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

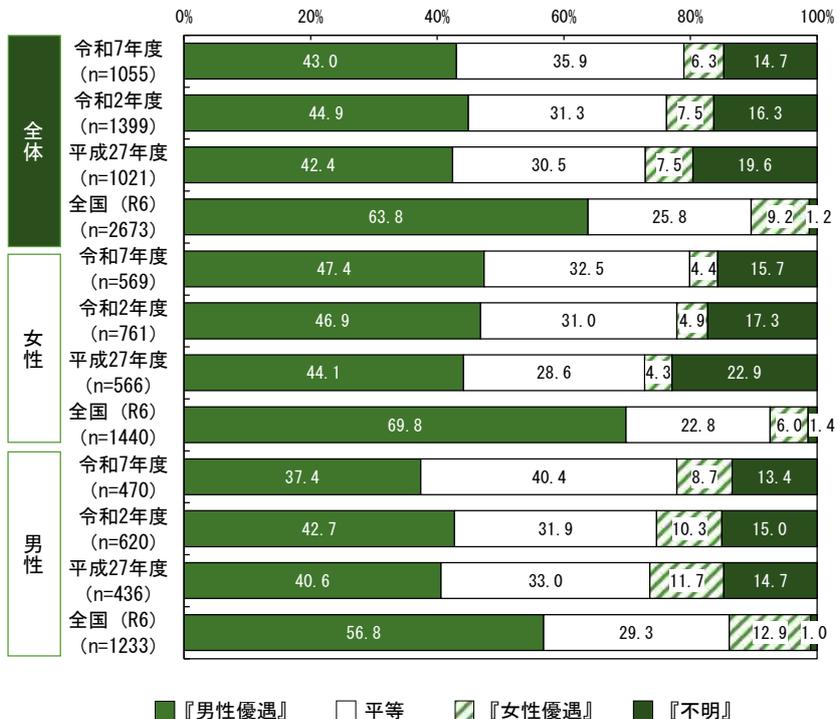
2-1 男女の地位の平等感 (8 分野別) 【過去調査・全国調査との比較】

- 前回調査と比較すると、『男性優遇』の回答割合は全ての項目で減少している。特に「④地域活動の場」(6.4ポイント減)、「①家庭生活」(5.3ポイント減)、「⑧社会全体」(5.1ポイント減)などで減少がみられる。
- 全国調査(令和6年実施)と比較すると、『男性優遇』の回答割合は、全ての項目で全国を下回った。特に、「⑦政治の場」(県65.2%、全国87.9%)、「④地域活動の場」(県25.2%、全国47.0%)において、県の値が全国の値を大きく下回っている。

①家庭生活



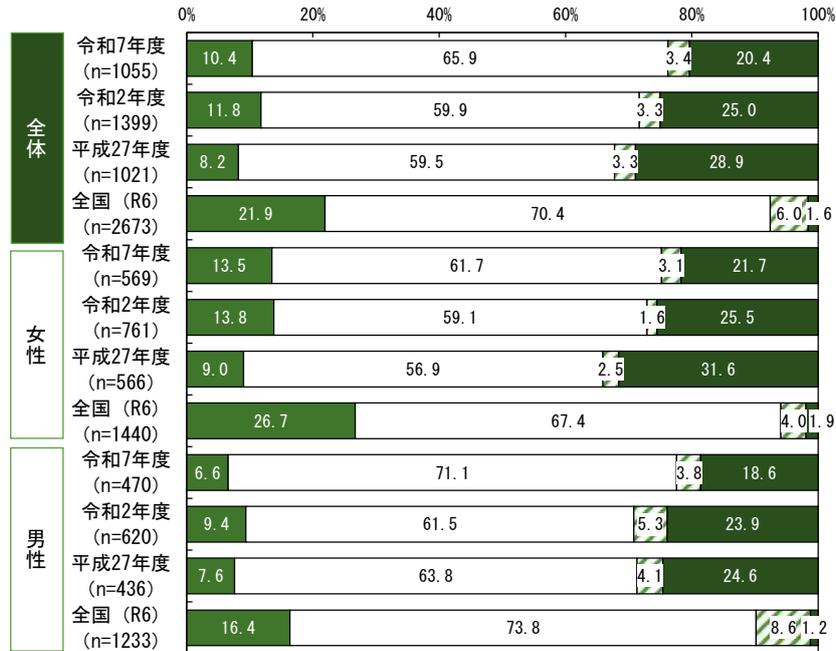
②職場



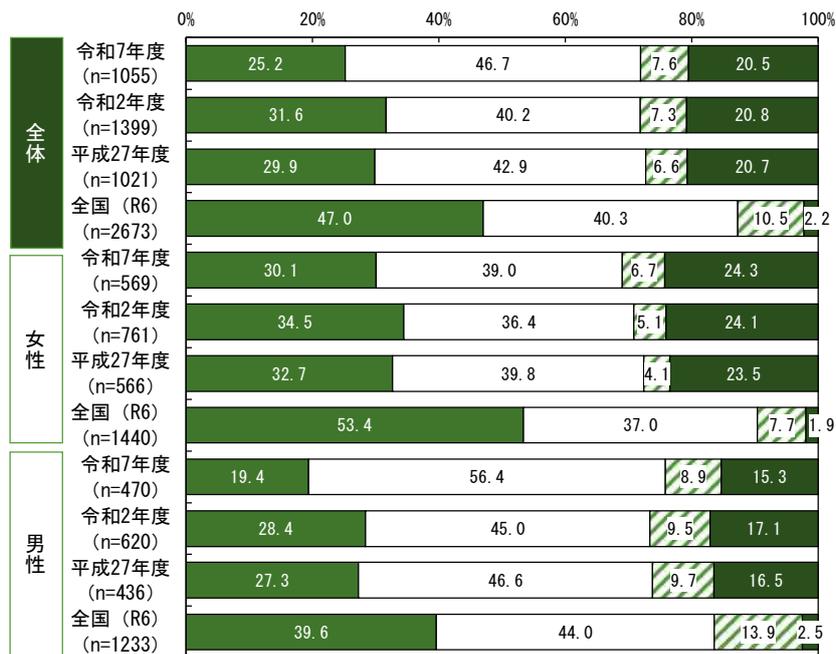
■『男性優遇』 □平等 ▨『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

### ③学校教育の場



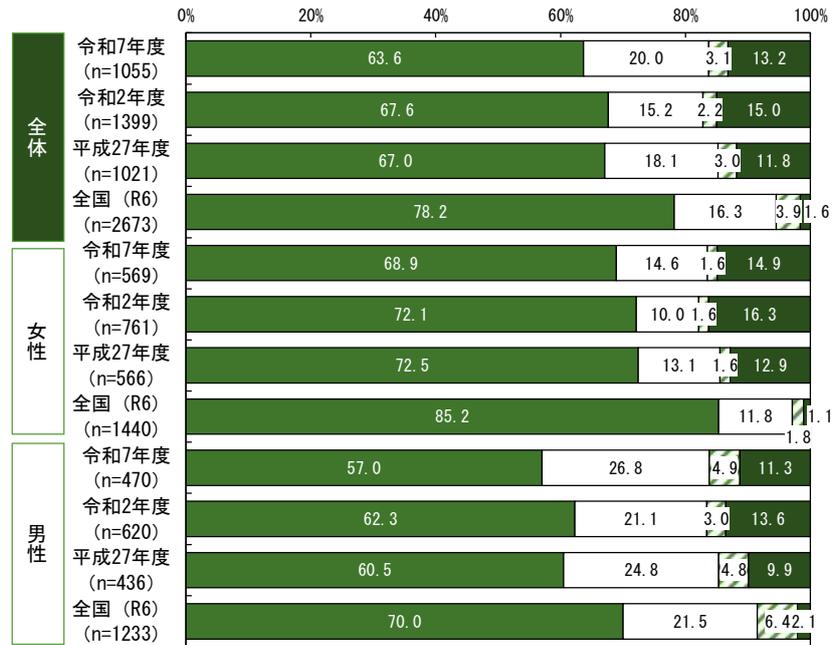
### ④地域活動の場



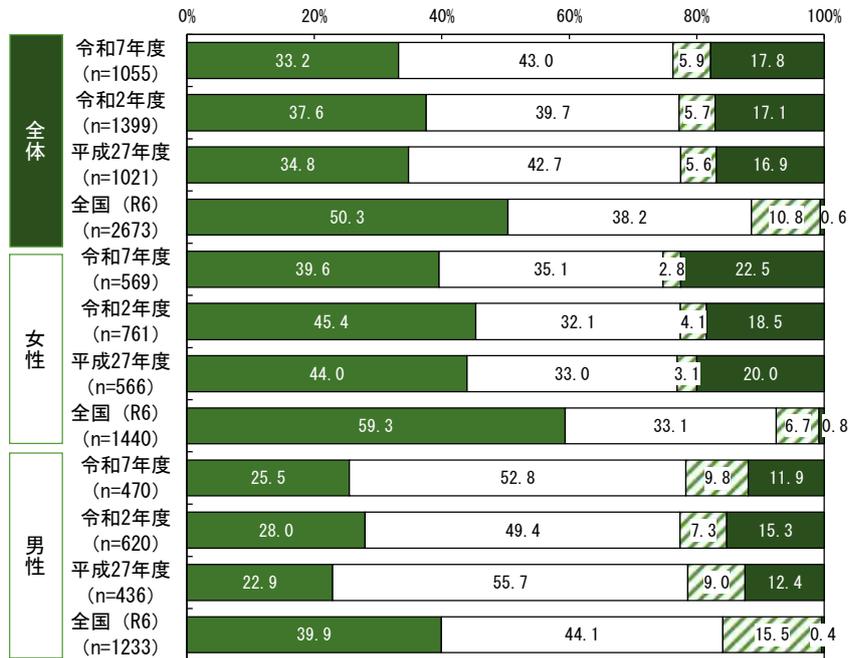
■『男性優遇』 □平等 ■『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

⑤社会通念・慣習・しきたりなど



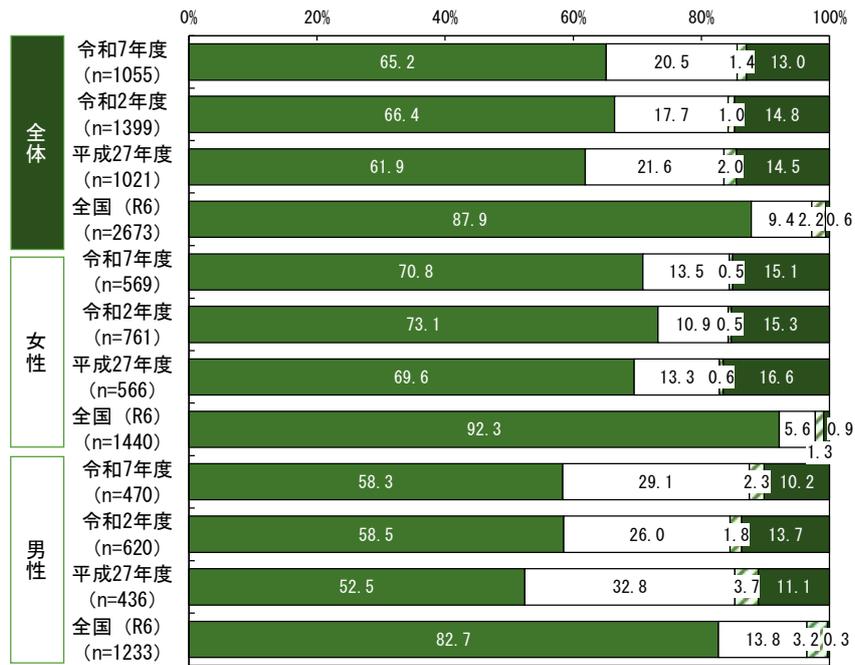
⑥法律や制度のうえ



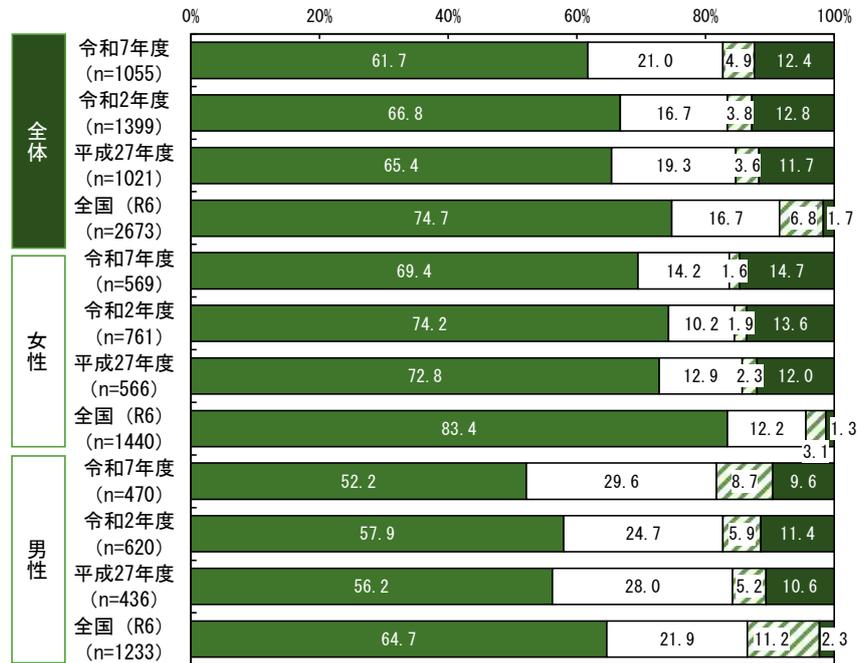
■『男性優遇』 □平等 ▨『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

⑦政治の場



⑧社会全体



■『男性優遇』 □ 平等 ▨『女性優遇』 ■『不明』

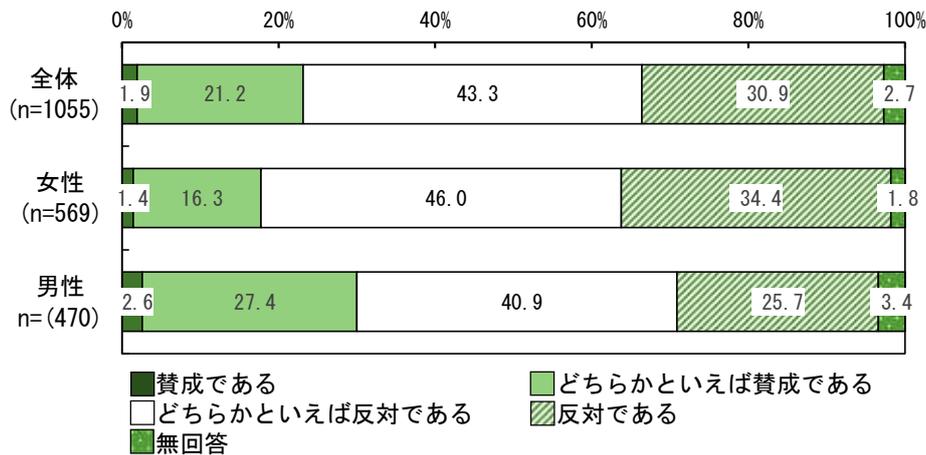
(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

2-2 男女の決められた役割分担についての考え【クロス集計（性別）】

**問2** 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。（1つ選択）

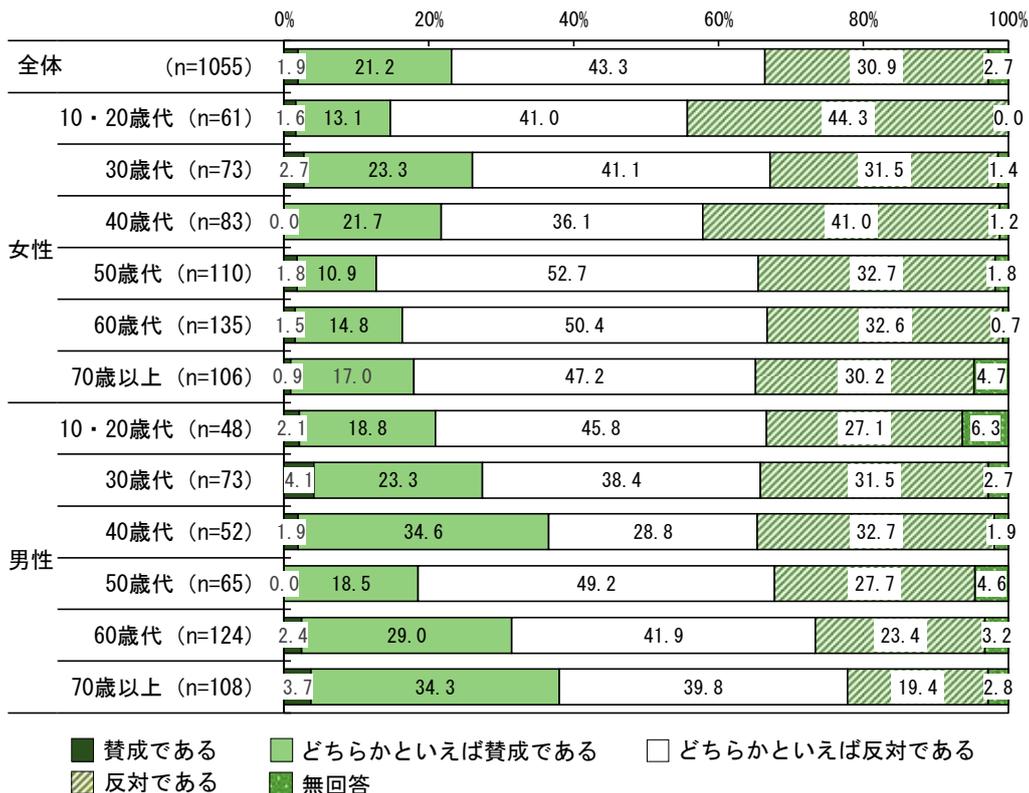
- 全体では、『否定的な意見』が74.2%、『肯定的な意見』が23.1%となっている。
- 性別ごとに見ると、『否定的な意見』は女性が80.4%に対して男性が66.6%となっている一方、『肯定的な意見』は女性が17.7%に対し男性30.0%となっており、性別間の差がみられる。

(\*) 『否定的な意見』は、「反対である」、「どちらかといえば反対である」を合わせたもの。  
『肯定的な意見』は、「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」を合わせたもの。



2-2 男女の決められた役割分担についての考え【クロス集計（性年代別）】

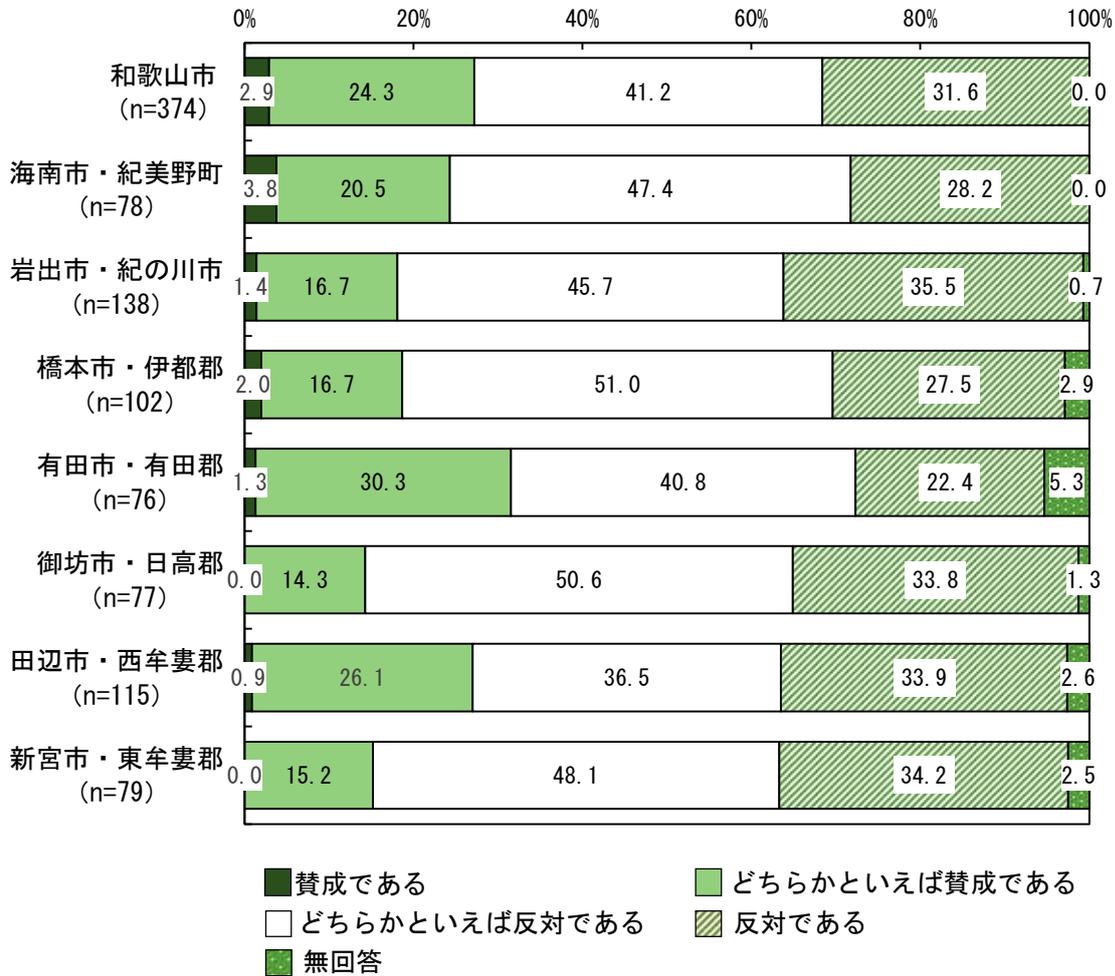
- 『否定的な意見』は男女ともに50歳代で最も高く（女性では85.4%、男性では76.9%）、次いで10・20歳代で高い（女性では85.3%、男性では72.9%）。一方、『肯定的な意見』は女性では30歳代で最も高く（26.0%）、男性では70歳以上（38.0%）、40歳代（36.5%）、60歳代（31.4%）の順に高くなっていく。



2-2 男女の決められた役割分担についての考え【クロス集計（地域別）】

○ 地域別に見ると、『否定的な意見』は、御坊市・日高郡（84.4%）で最も高く、次いで新宮市・東牟婁郡（82.3%）、岩出市・紀の川市（81.2%）となっている。一方、『肯定的な意見』は、有田市・有田郡で31.6%と最も高くなっている。

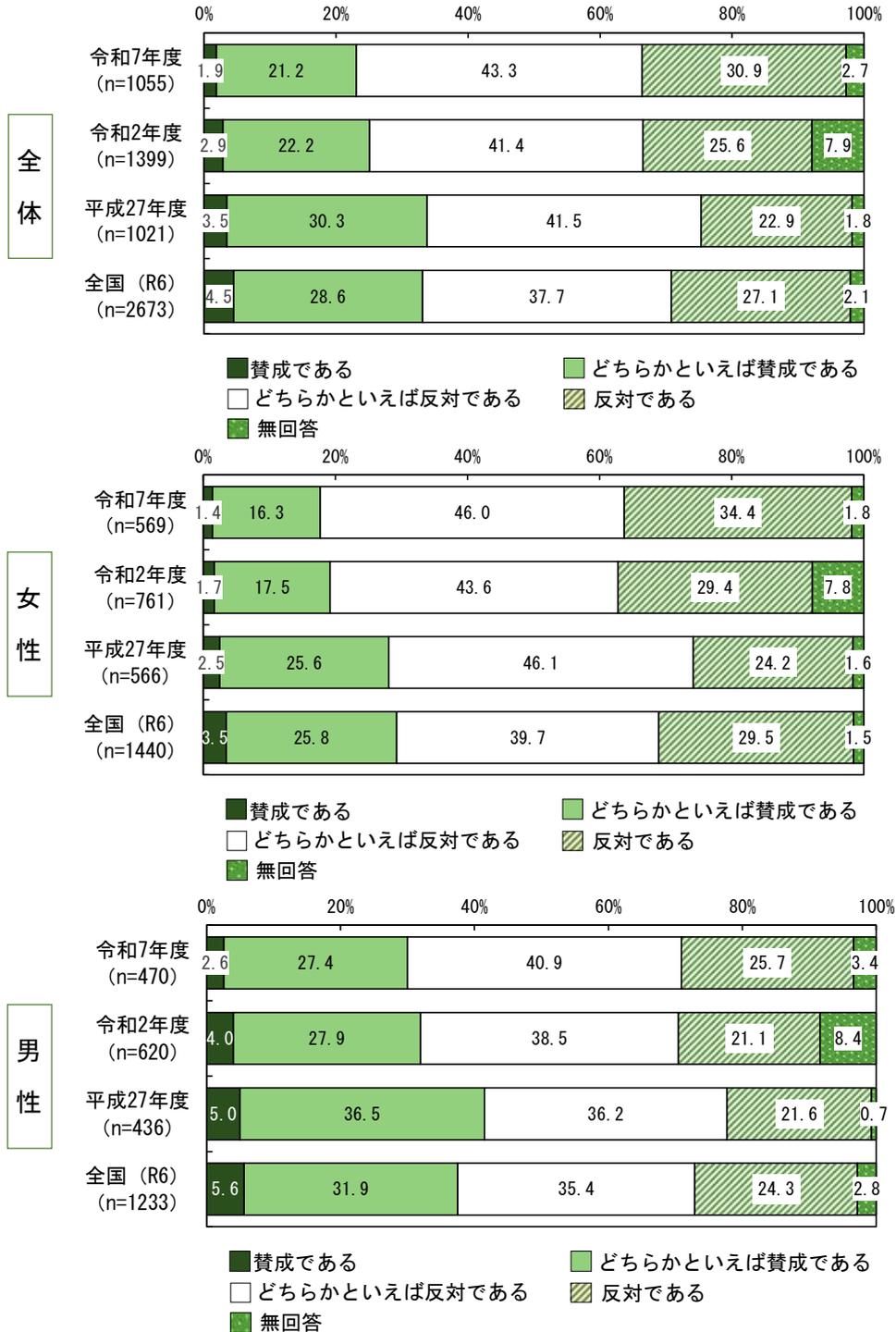
(\*) 『否定的な意見』は、「反対である」、「どちらかといえば反対である」を合わせたもの。  
『肯定的な意見』は、「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」を合わせたもの。



2-2 男女の決められた役割分担についての考え【過去調査・全国調査との比較】

- 『否定的な意見』は前回調査からは7.2ポイントの増加、前々回調査からは9.8ポイントの増加となった。
- 全国調査（令和6年度実施）に比べて、『否定的な意見』は全体では9.4ポイント高くなっており、女性では11.2ポイント、男性では6.9ポイント高くなっている。

(\*) 『否定的な意見』は、「反対である」、「どちらかといえば反対である」を合わせたもの。  
 『肯定的な意見』は、「賛成である」、「どちらかといえば賛成である」を合わせたもの。

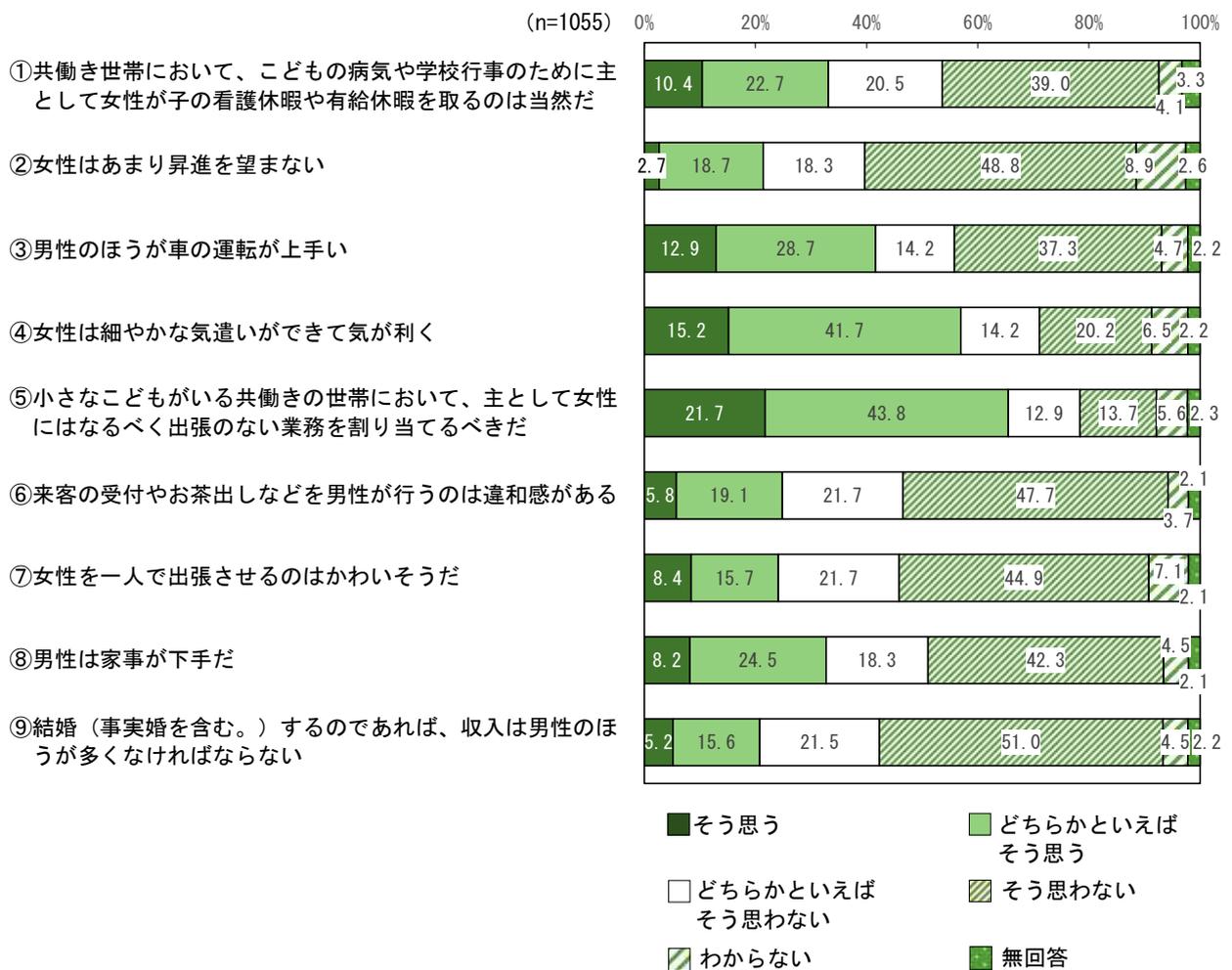


2-3 男女の役割等についての考え

**問3** 以下の内容について、あなたの意見に近いものはどれですか。(それぞれ1つ選択)

- 『肯定的な意見』は、「⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性にはなるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」(65.5%)において最も高く、次いで「④女性は細やかな気遣いができて気が利く」(56.9%)、「③男性のほうが車の運転が上手い」(41.6%)で高くなっている。
- 『否定的な意見』は、「⑨結婚(事実婚を含む。)するのであれば、収入は男性のほうが多くなければならない」(72.5%)において最も高く、次いで「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」(69.4%)、「②女性はあまり昇進を望まない」(67.1%)、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」(66.6%)で高くなっている。

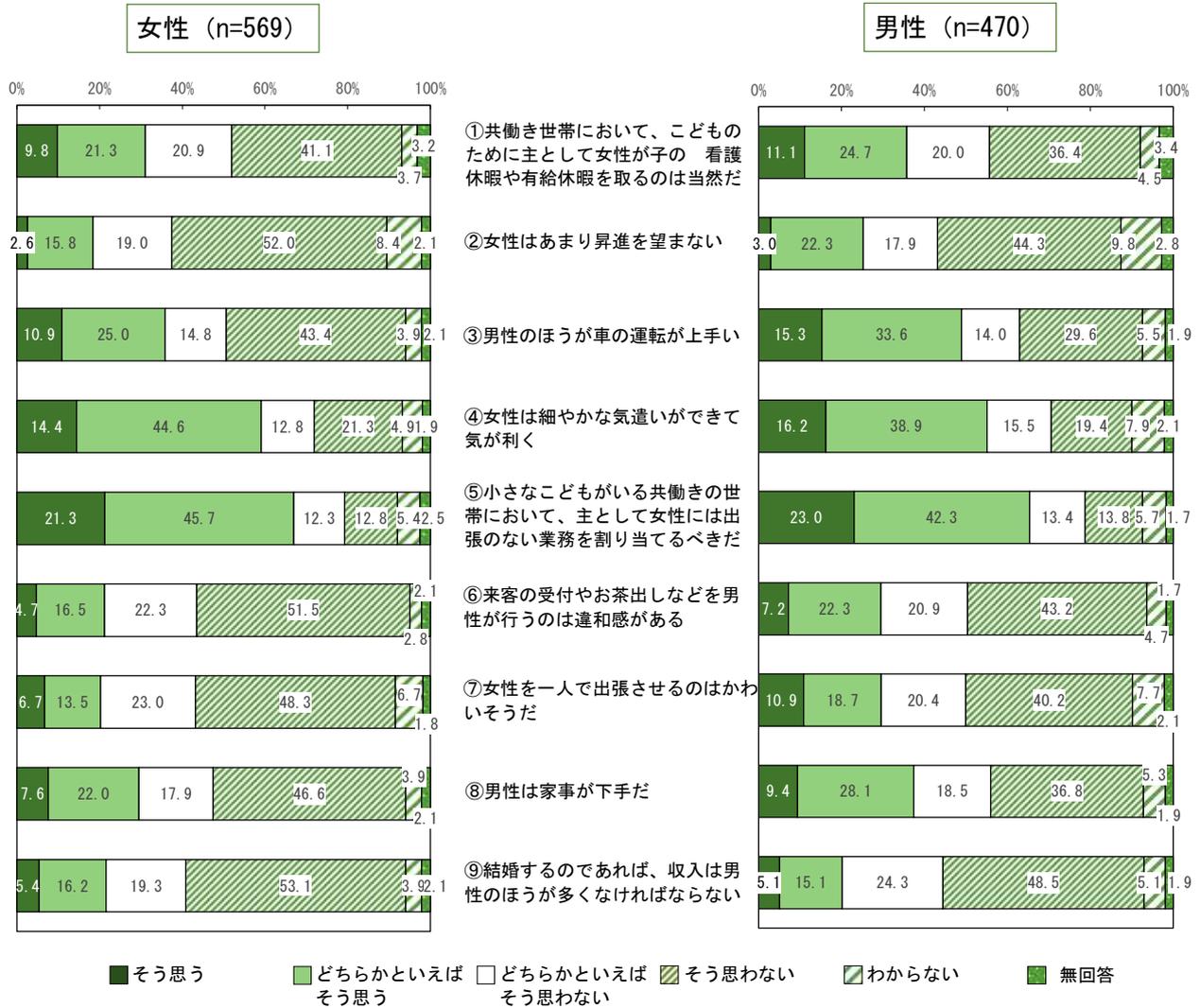
(\*)『肯定的な意見』は、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。  
『否定的な意見』は、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの。



## 2-3 男女の役割等についての考え【クロス集計（性別）】

○ 性別ごとに見ると、『否定的な意見』は、「③男性のほうが車の運転が上手い」（女性 58.2%、男性 43.6%）、  
「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」（女性 71.3%、男性 60.6%）、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」（女性 73.8%、男性 64.1%）など6項目で、女性の方が男性よりも高くなっている。

(\*) 『否定的な意見』は、「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの。



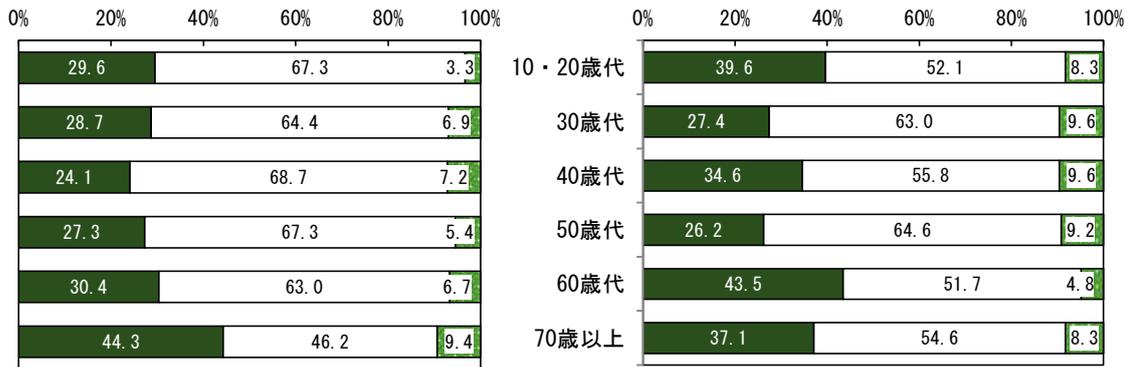
2-3 男女の役割等についての考え【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、「⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」は、女性では10・20歳代を除く全ての年齢階層で『肯定的な意見』が6割を超えており、男性では60歳代で70.1%、70歳以上で80.5%と特に高くなっている。

女性 (n=569)

男性 (n=470)

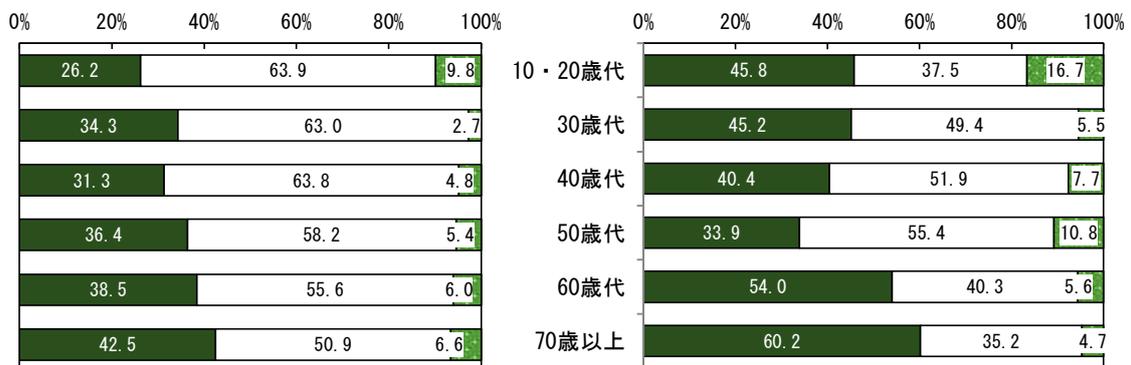
① 共働き世帯において、子どもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るの理所当然だ



② 女性はあまり昇進を望まない



③ 男性の方が車の運転が上手い



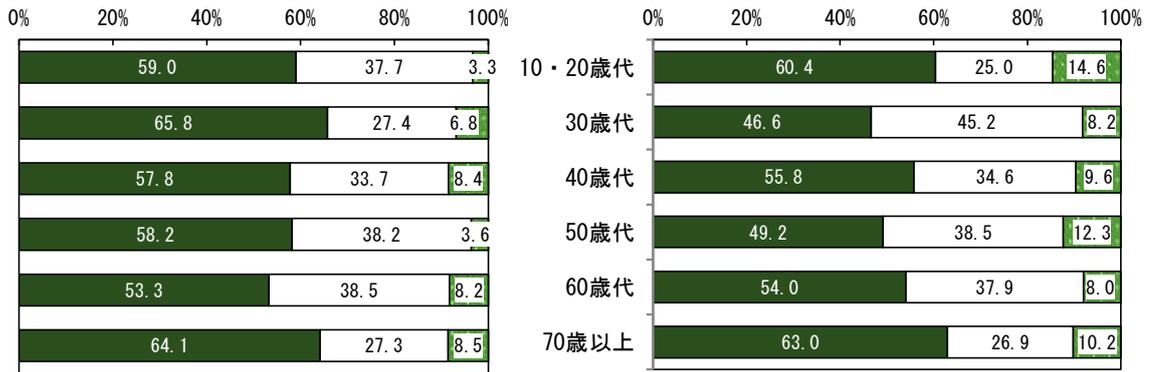
■ 『肯定的な意見』 □ 『否定的な意見』 ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
 『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

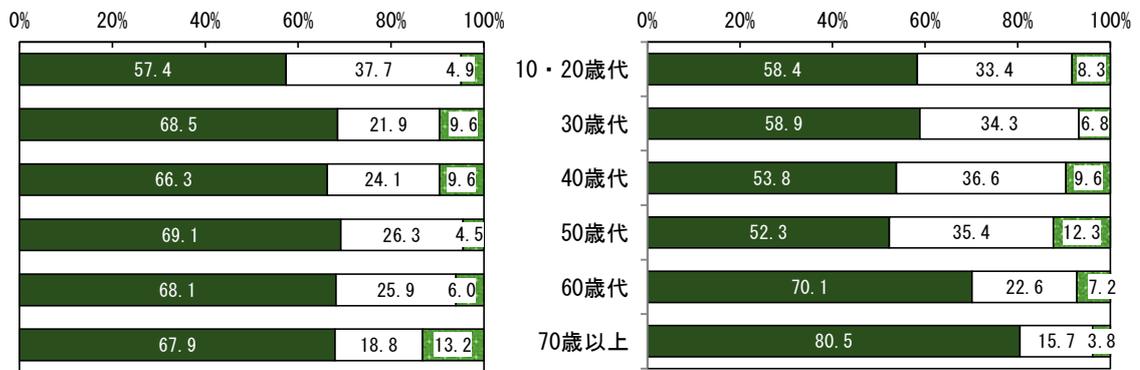
女性 (n=569)

男性 (n=470)

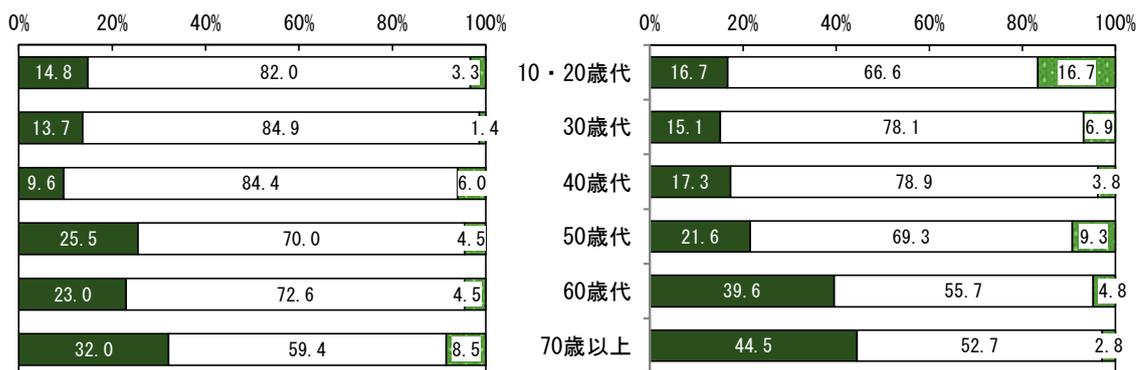
④女性は細やかな気遣いができて気が利く



⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ



⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある



■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

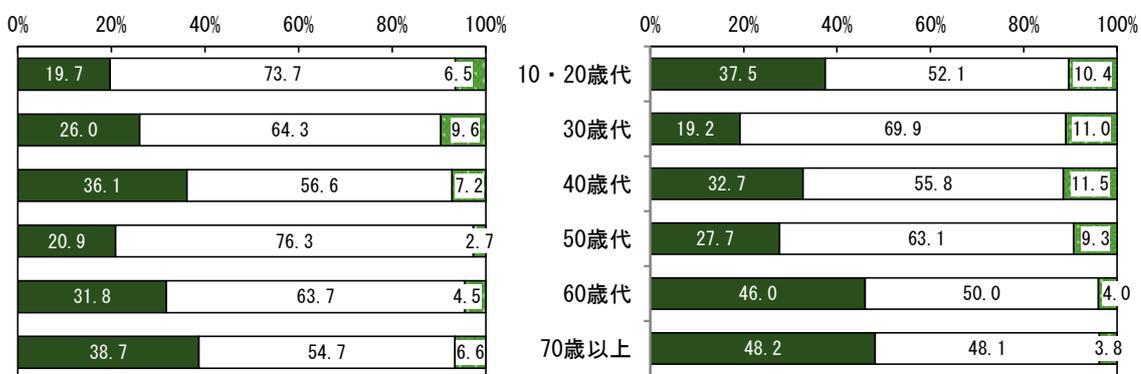
女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ



⑧男性は家事が下手だ



⑨結婚（事実婚を含む。）するのであれば、収入は男性のほうが多くなければならない



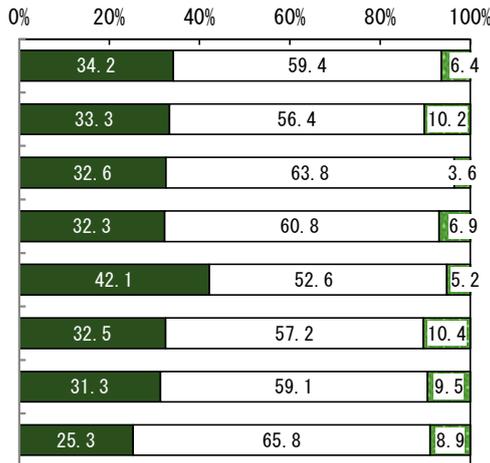
■ 『肯定的な意見』 □ 『否定的な意見』 ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

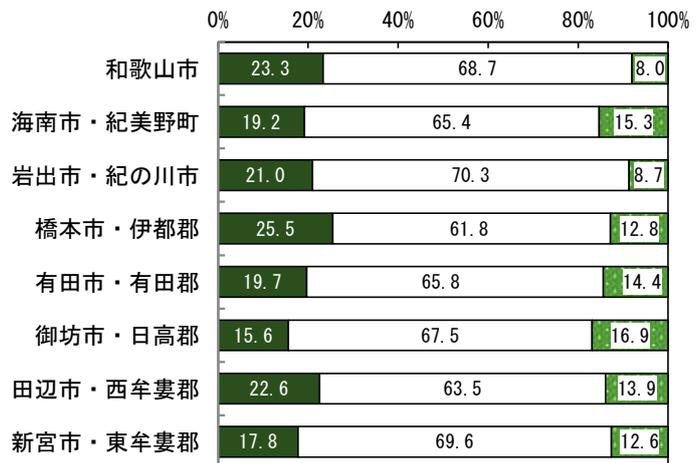
2-3 男女の役割等についての考え【クロス集計（地域別）】

○ 地域別に見ると、有田市・有田郡において、「①共働き世帯において、こどもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るのは当然だ」、「⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」について、『肯定的な意見』がそれぞれ42.1%、71.1%と他地域よりも高くなっている。

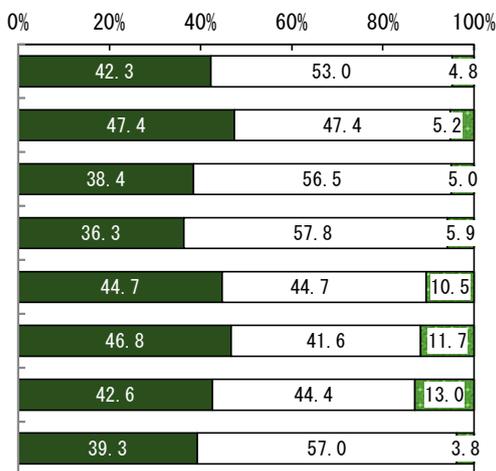
①共働き世帯において、こどもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るのは当然だ



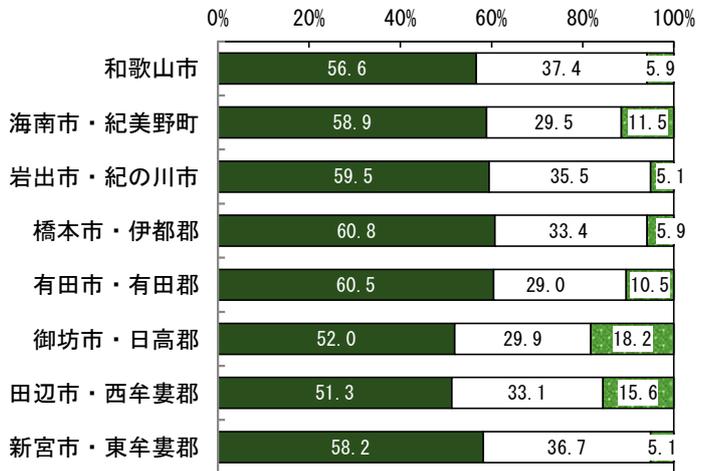
②女性はあまり昇進を望まない



③男性の方が車の運転が上手い



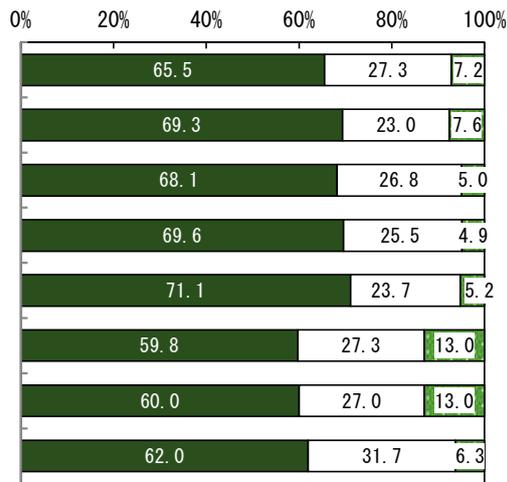
④女性はやさしい気遣いができて気が利く



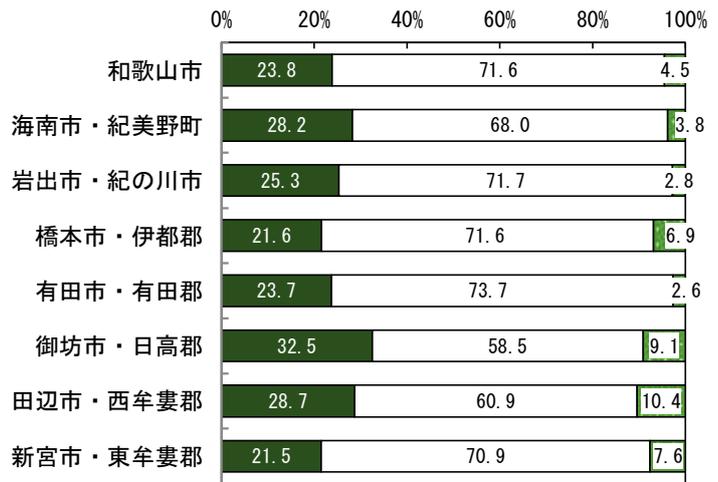
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

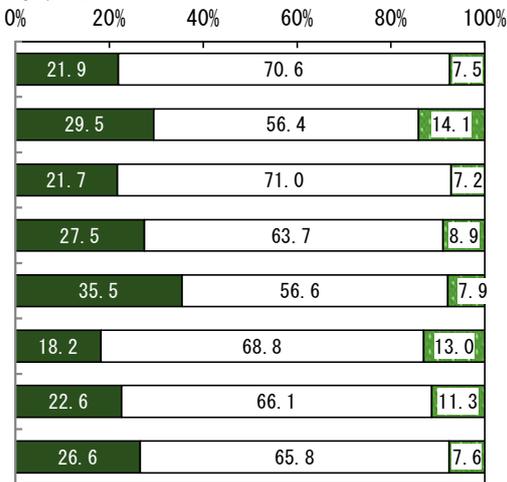
⑤ 小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ



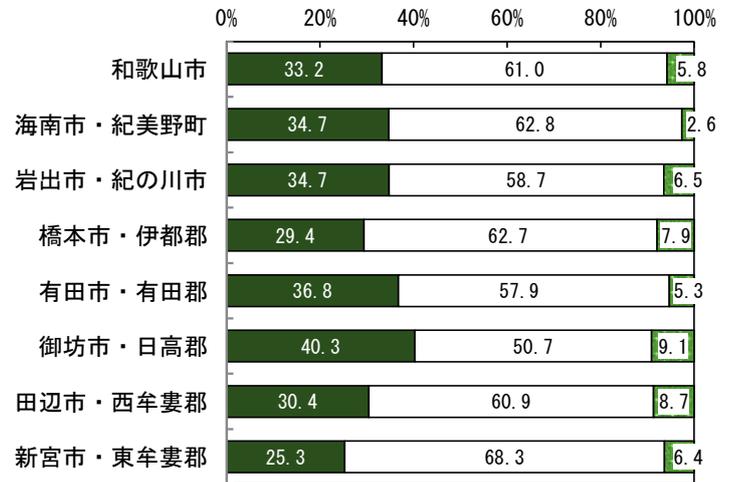
⑥ 来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある



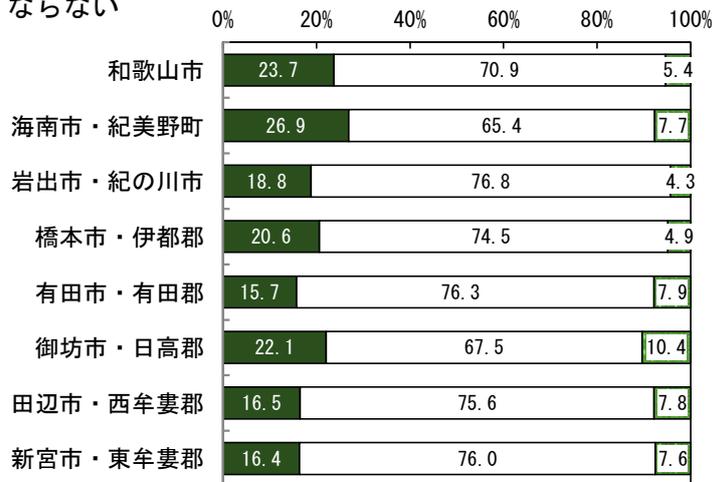
⑦ 女性を一人で出張させるのはかわいそうだ



⑧ 男性は家事が下手だ



⑨ 結婚（事実婚を含む。）するのであれば、収入は男性のほうが多くなければならない



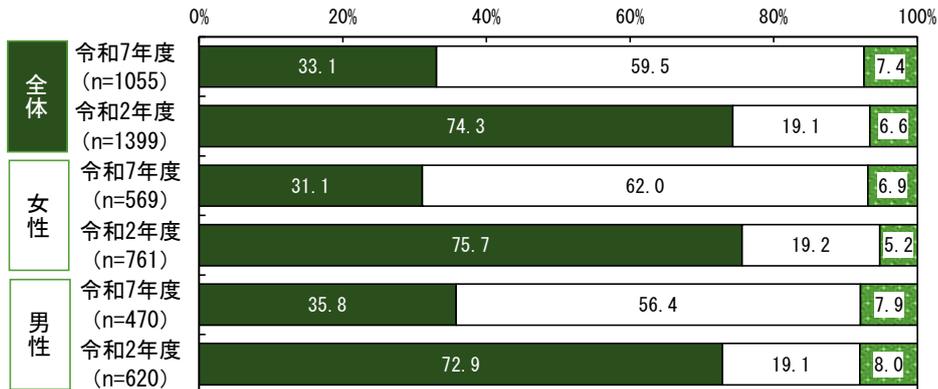
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
 『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

2-3 男女の役割等についての考え【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、『肯定的な意見』は、「①共働き世帯において、こどもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るのは当然だ」では41.2ポイント減少している。次いで「⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割りあてるべきだ」では12.7ポイント減少、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」では9.6ポイント減少している。

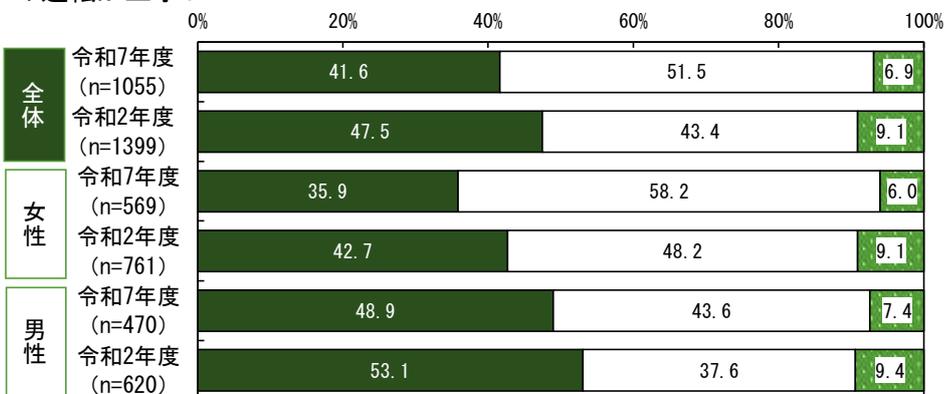
①共働き世帯において、こどもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るのは当然だ



②女性はあまり昇進を望まない



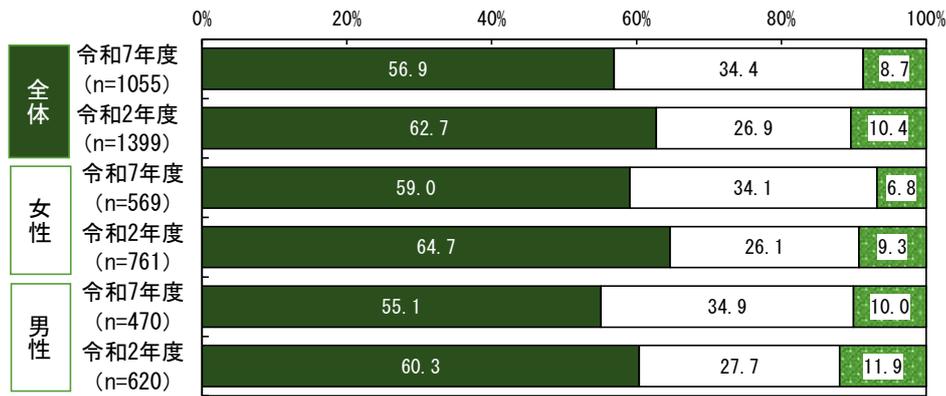
③男性の方が車の運転が上手い



■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

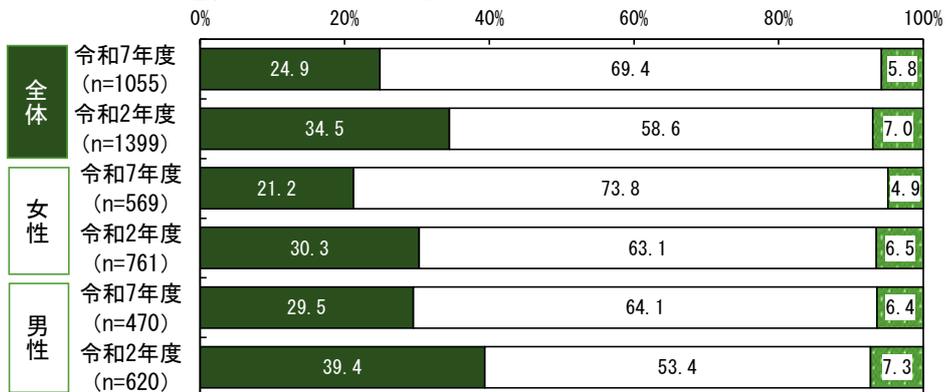
④女性は細やかな気遣いができて気が利く



⑤小さな子どもがいる共働きの世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ



⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある



⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ



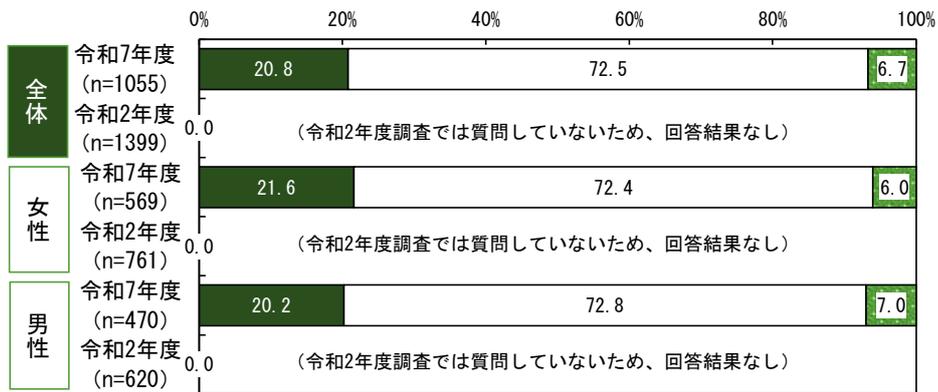
■ 『肯定的な意見』 □ 『否定的な意見』 ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
 『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

⑧男性は家事が下手だ



⑨結婚（事実婚を含む。）するのであれば、収入は男性のほうが多くなければならない



■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

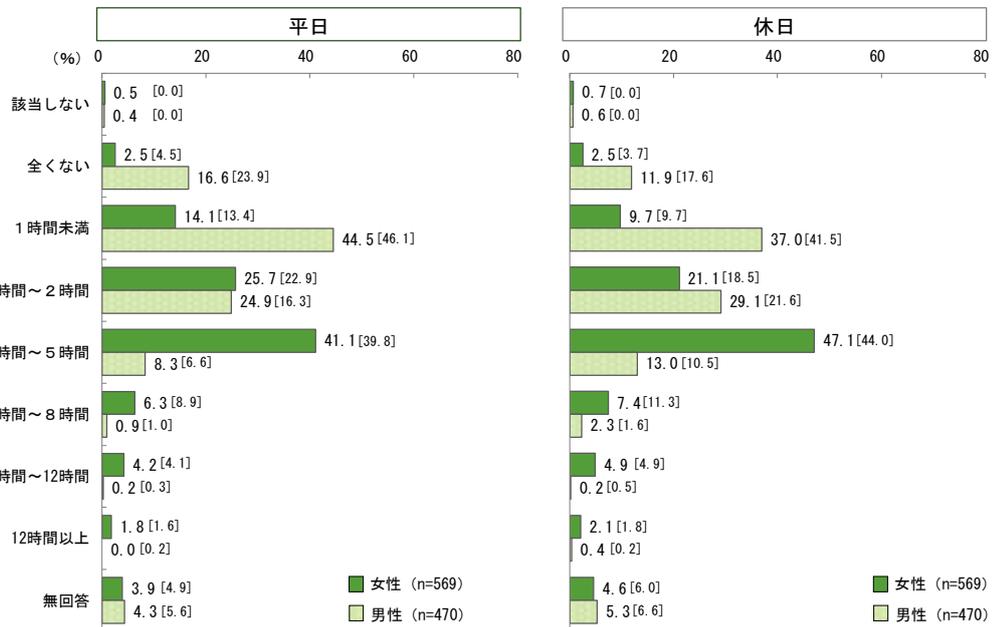
### 3. 家庭生活について

#### 3-1 生活時間の配分 【クロス集計（性別）】

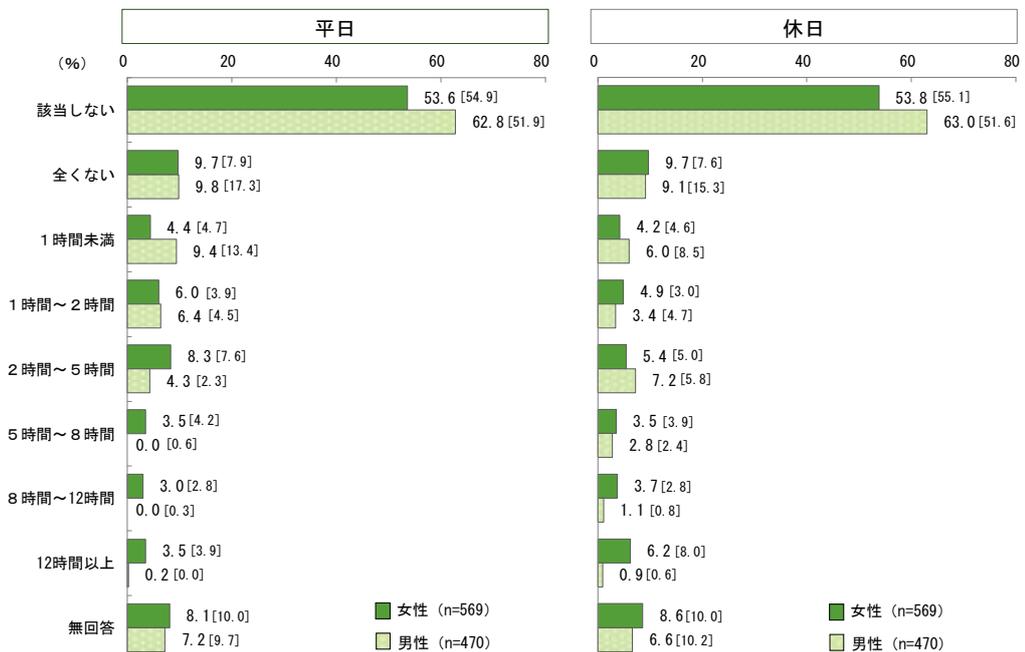
**問 4** あなたの普段（平日と休日）の生活時間について、1日に費やす時間はどのくらいですか。（それぞれ1つ選択）

- 「①家事」において、女性は平日・休日ともに「2時間～5時間」とする回答が最も高い（平日 41.1%、休日 47.1%）が、男性は平日・休日ともに「1時間未満」が最も高くなっている（平日 44.5%、休日 37.0%）。
  - 「④収入を得る仕事（平日）」は、女性では「5～8時間」が最も高く（27.8%）、男性は「8時間～12時間」が最も高くなっている（33.0%）。
  - その他の項目については性別による大きな差はみられなかった。
- ※ いずれも『該当しない』、『全くない』は除く

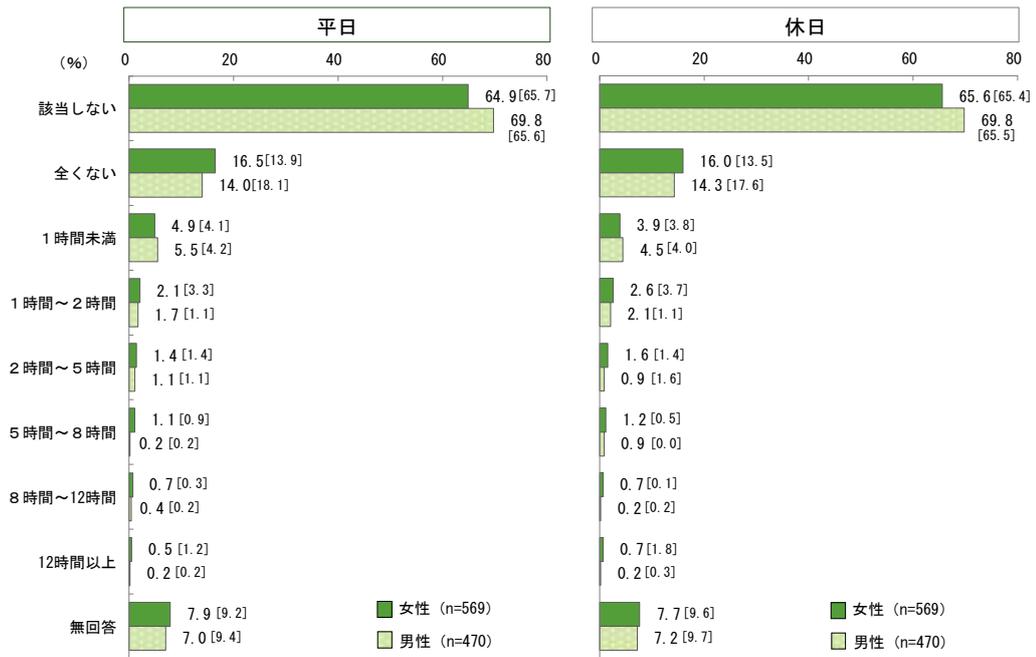
① 家事（\*） [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値



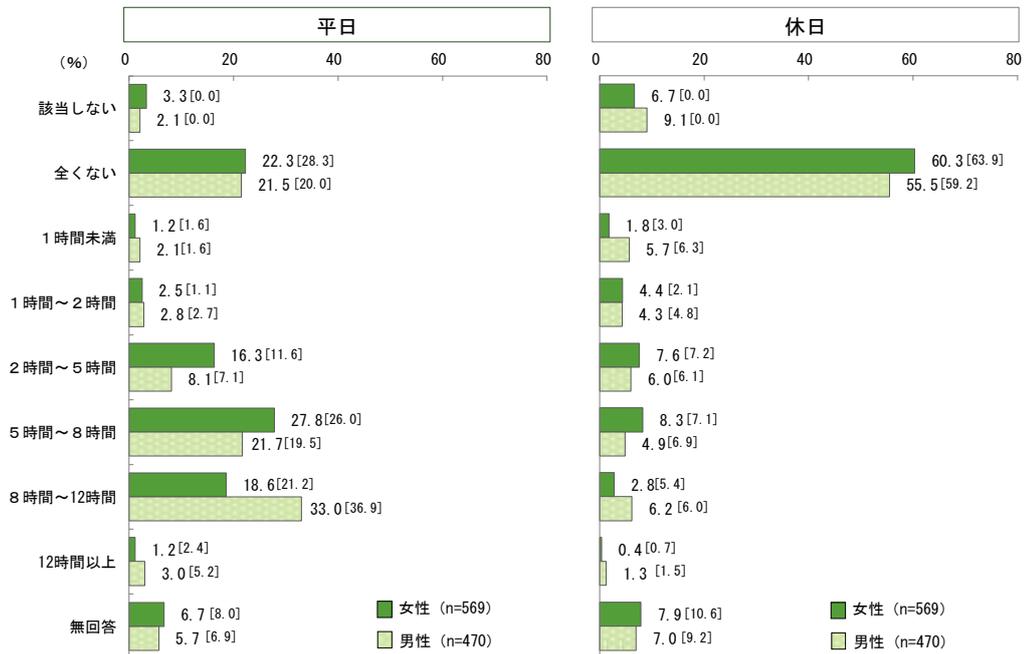
② 育児・子育て（\*） [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値



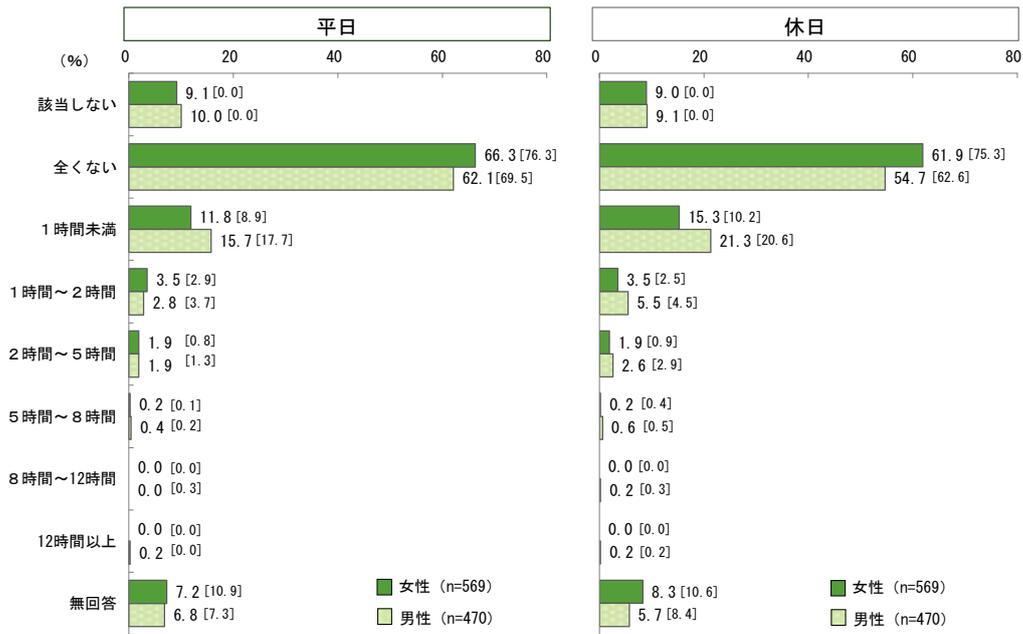
③ 介護(\*) [ ]内は、前回調査(令和2年実施、n=1,399)の値



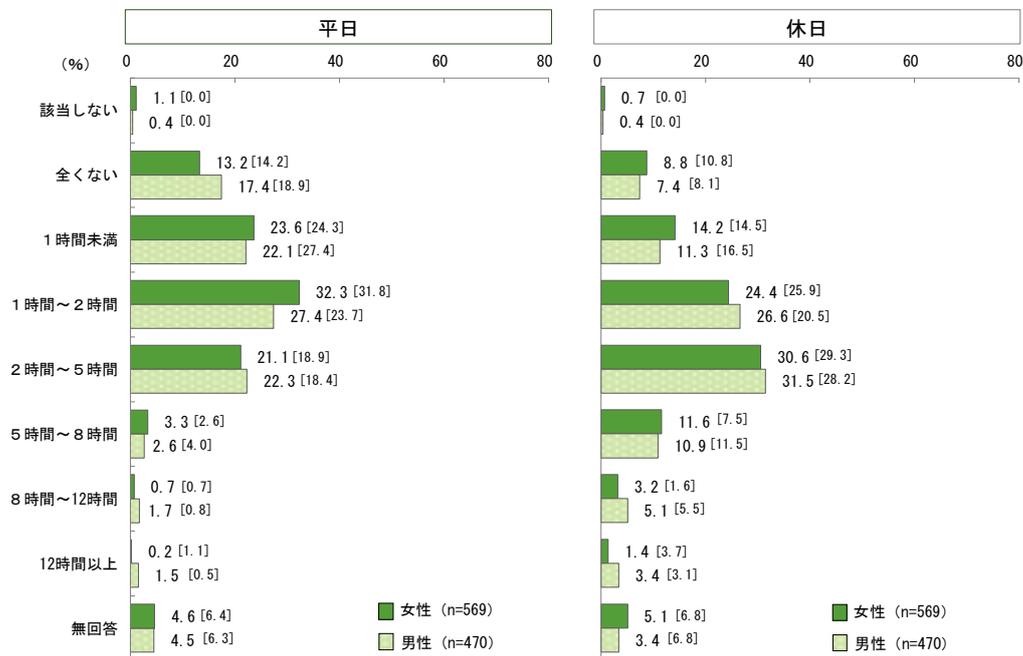
④ 収入を得る仕事(\*) [ ]内は、前回調査(令和2年実施、n=1,399)の値



⑤ 地域活動 (\* ) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値



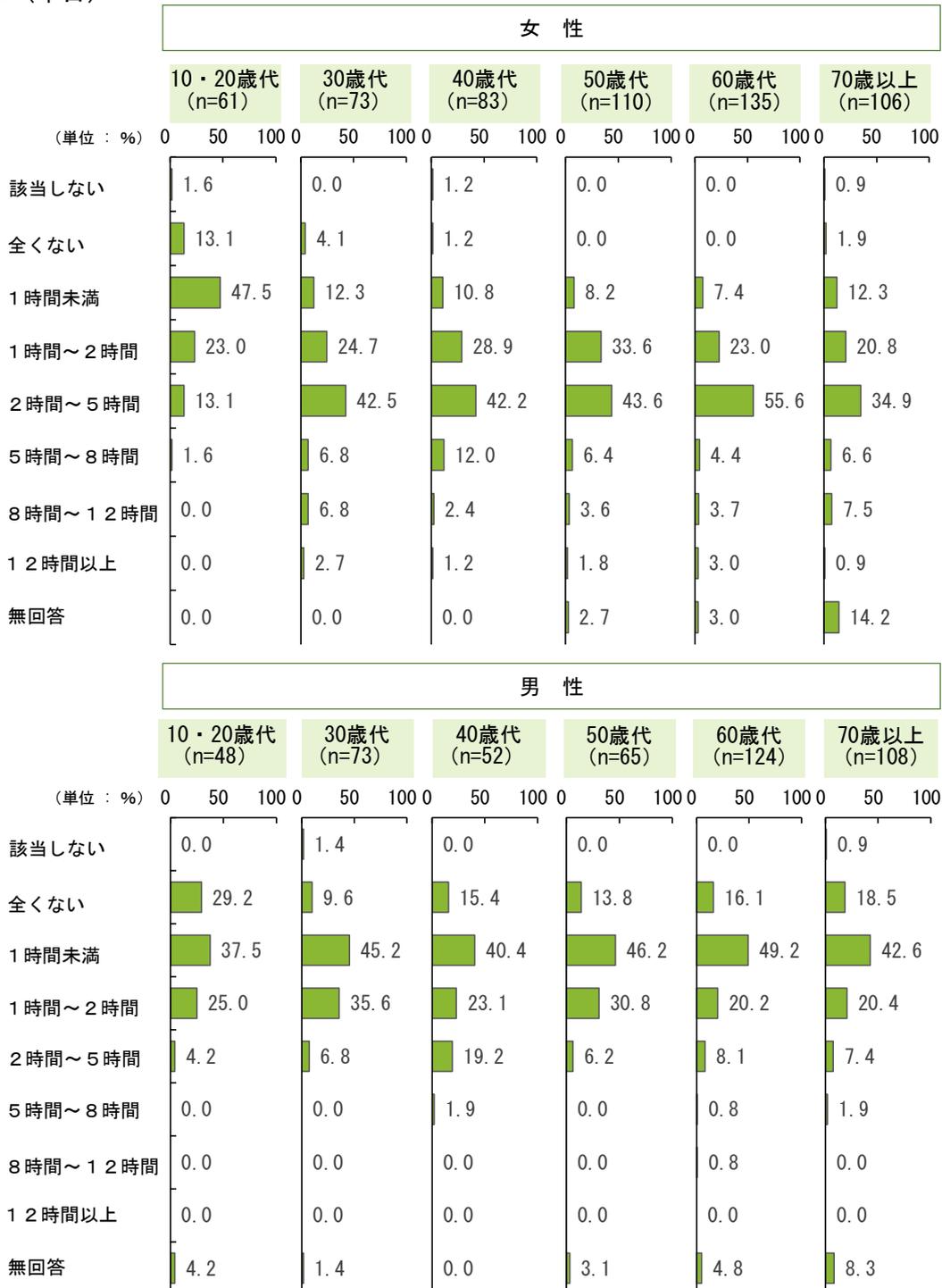
⑥ 余暇や娯楽・趣味 (\* ) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値



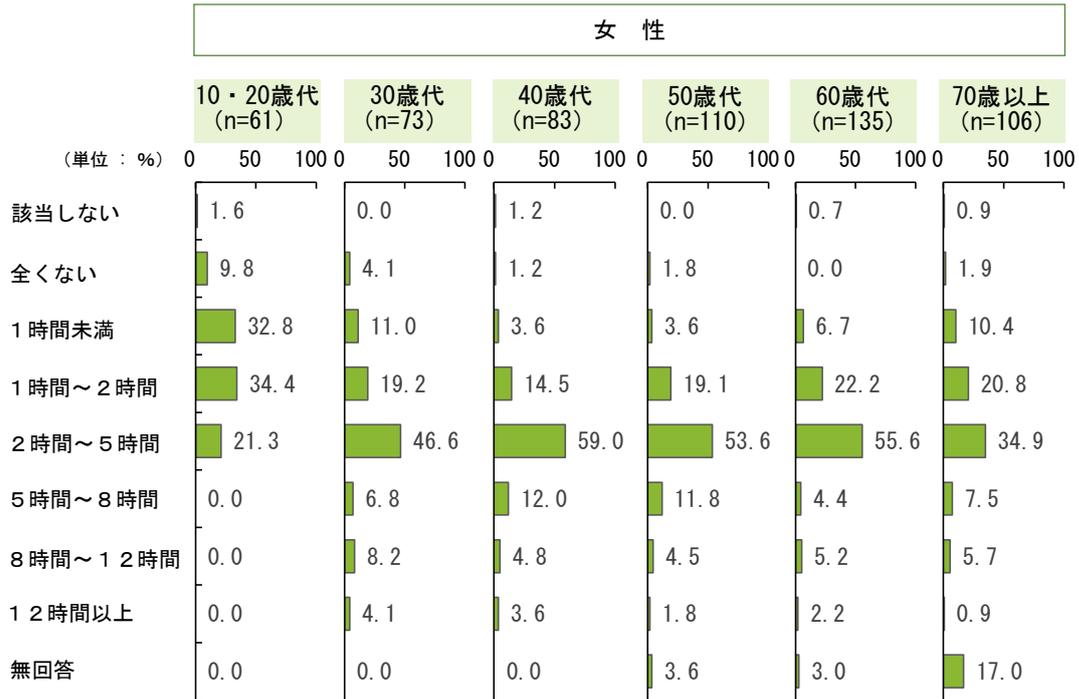
### 3-1 生活時間の配分 【クロス集計（性年代別）】

- 「①家事（平日）」の時間配分を、性年代別に見ると、女性の10・20歳代を除く全ての年齢階層において、「2時間～5時間」が最も高くなる一方で、男性については、全ての年齢階層で「1時間未満」が最も高くなっており、年代による大きな差はみられない。「①家事（休日）」については男性の30歳代、40歳代、50歳代においては「1時間～2時間」が最も高くなっているが、女性においては10・20歳代を除く全ての年齢階層において「2時間～5時間」が最も高くなっており、平日の傾向と変わらない。
- 「④収入を得る仕事（平日）」の時間配分を、性年代別に見ると、女性の30歳代、40歳代、50歳代では、「5時間～8時間」が最も高くなる一方で、男性の30歳代、40歳代、50歳代では「8時間～12時間」が最も高くなっている。

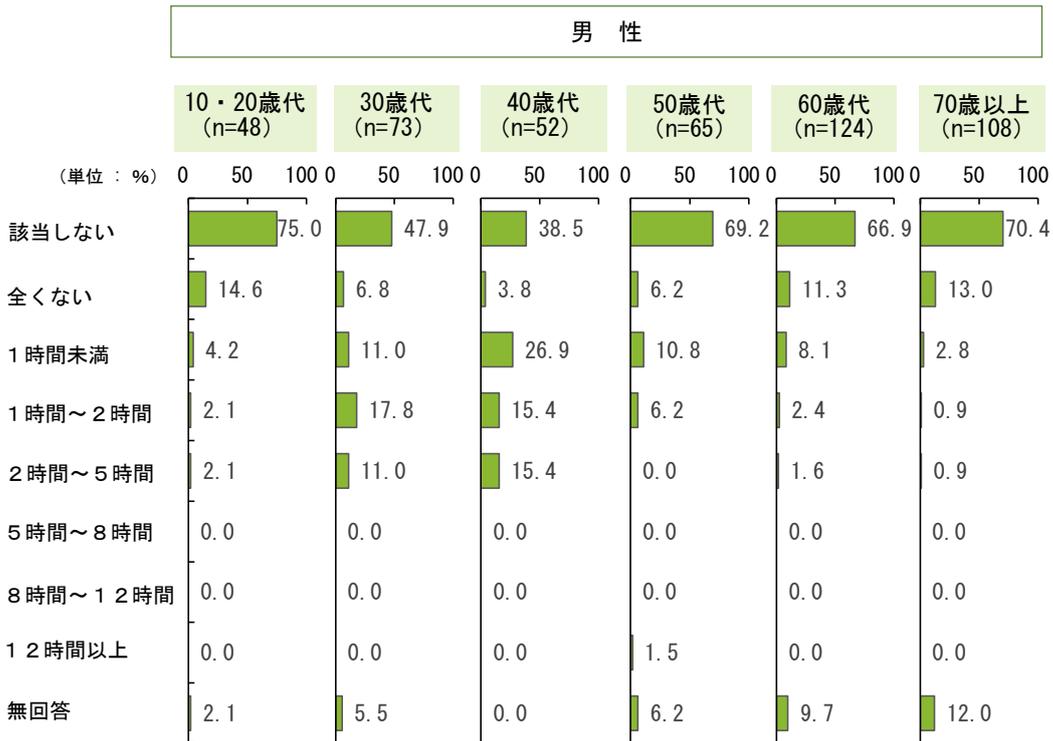
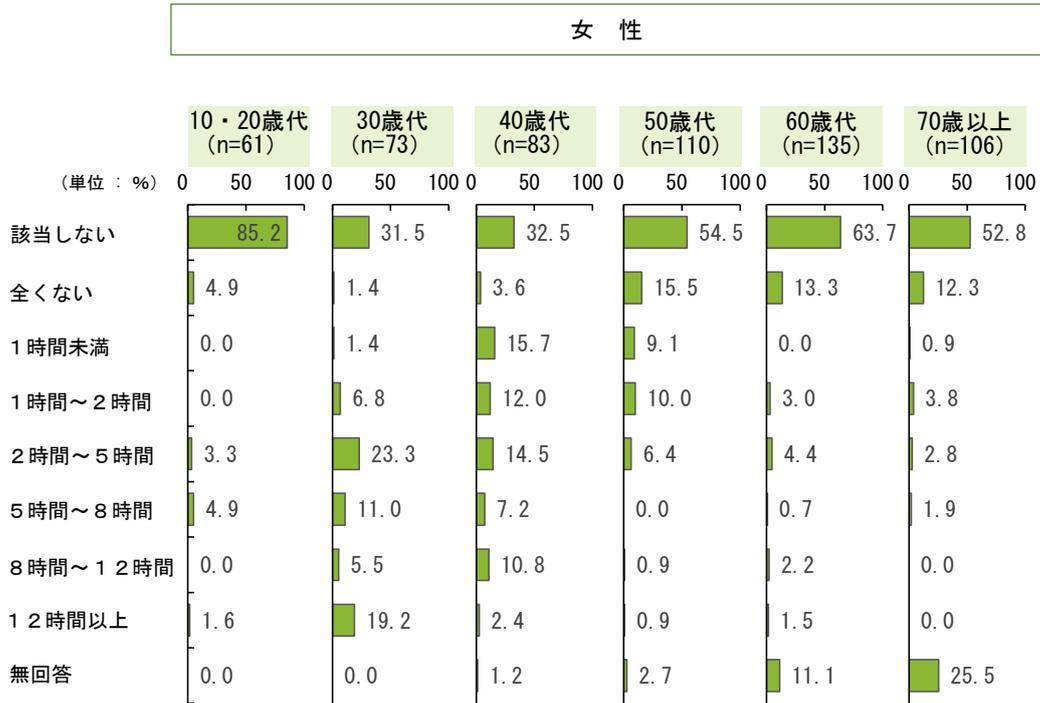
#### ① 家事（平日）



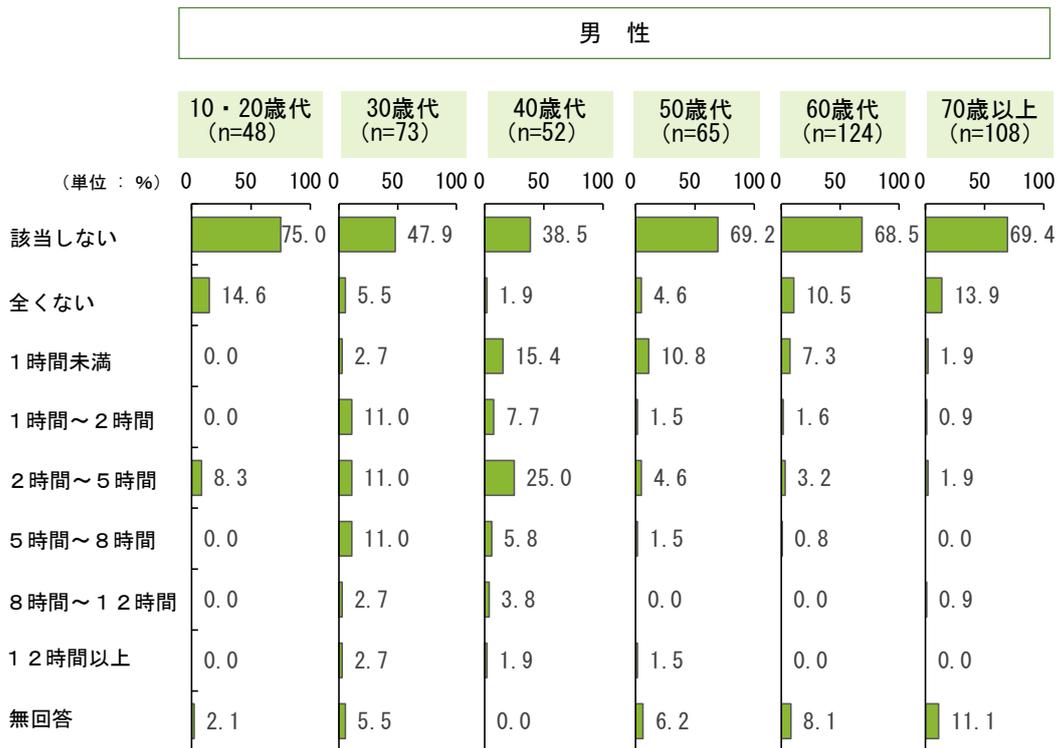
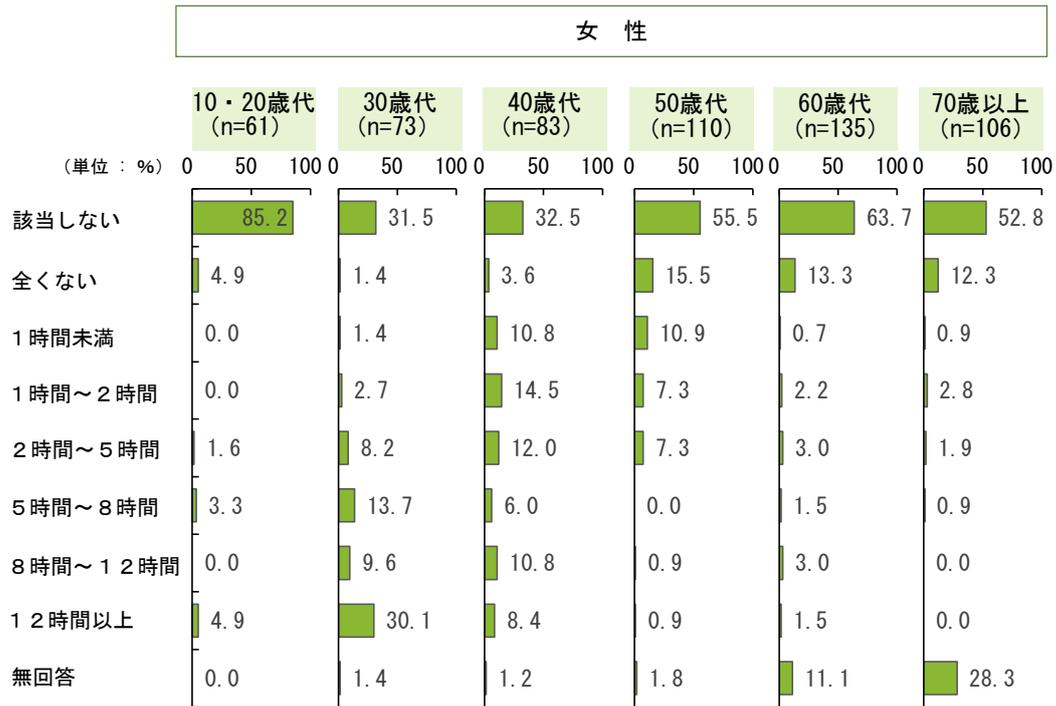
① 家事（休日）



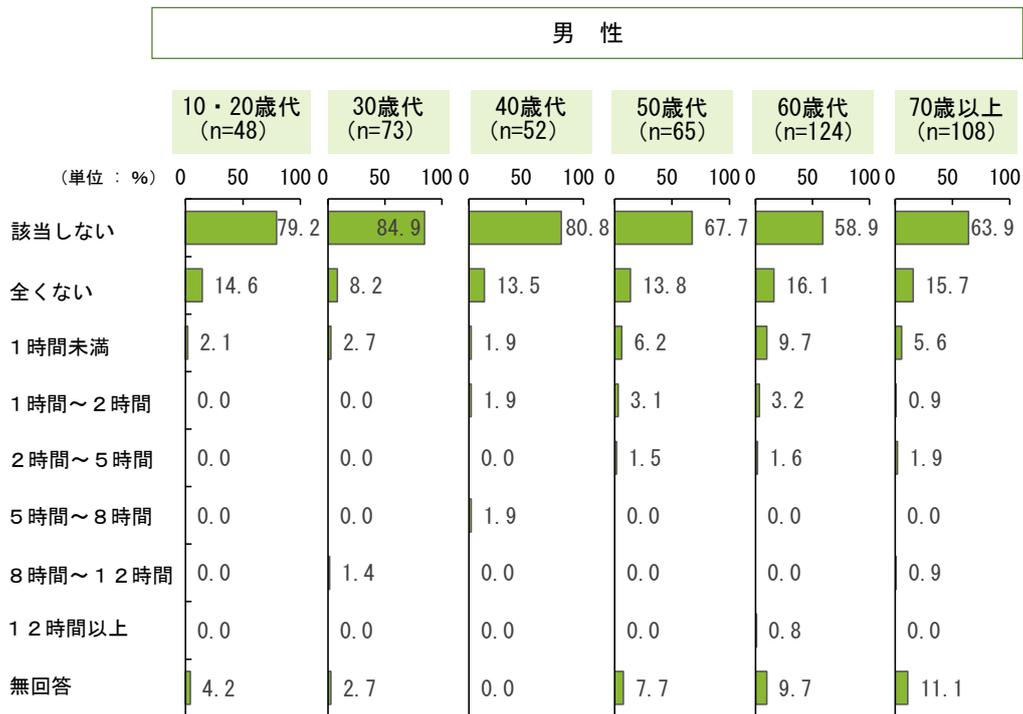
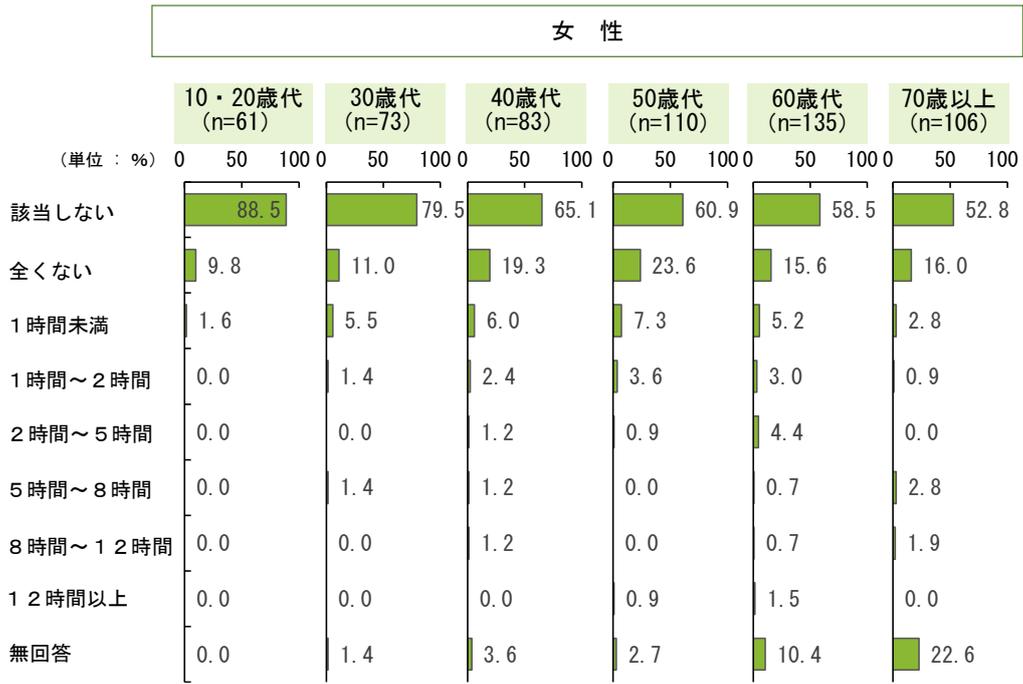
② 育児・子育て（平日）



② 育児・子育て（休日）

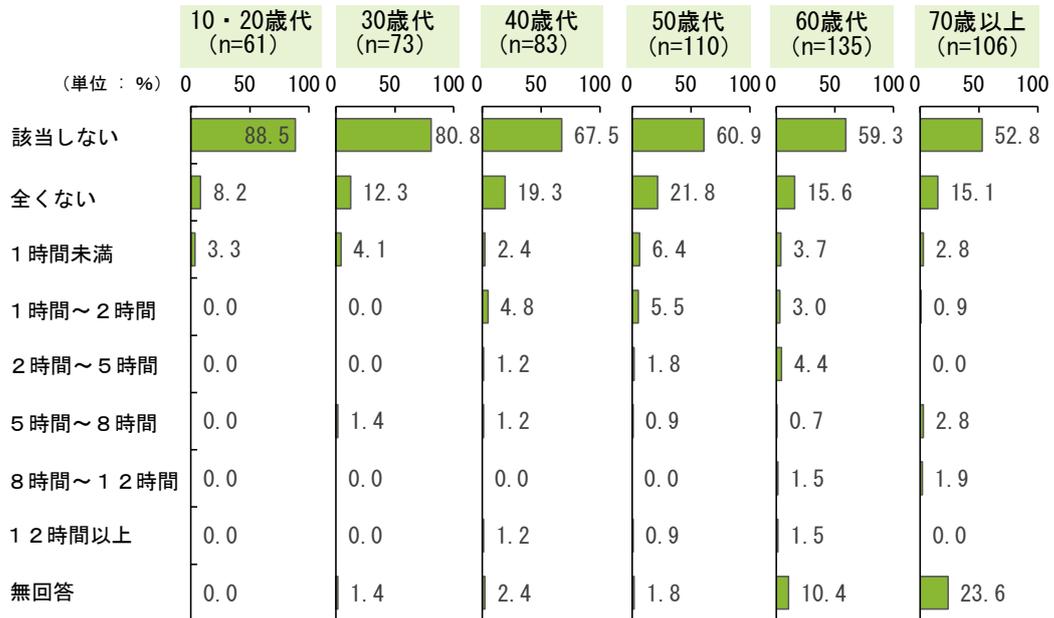


③ 介護（平日）

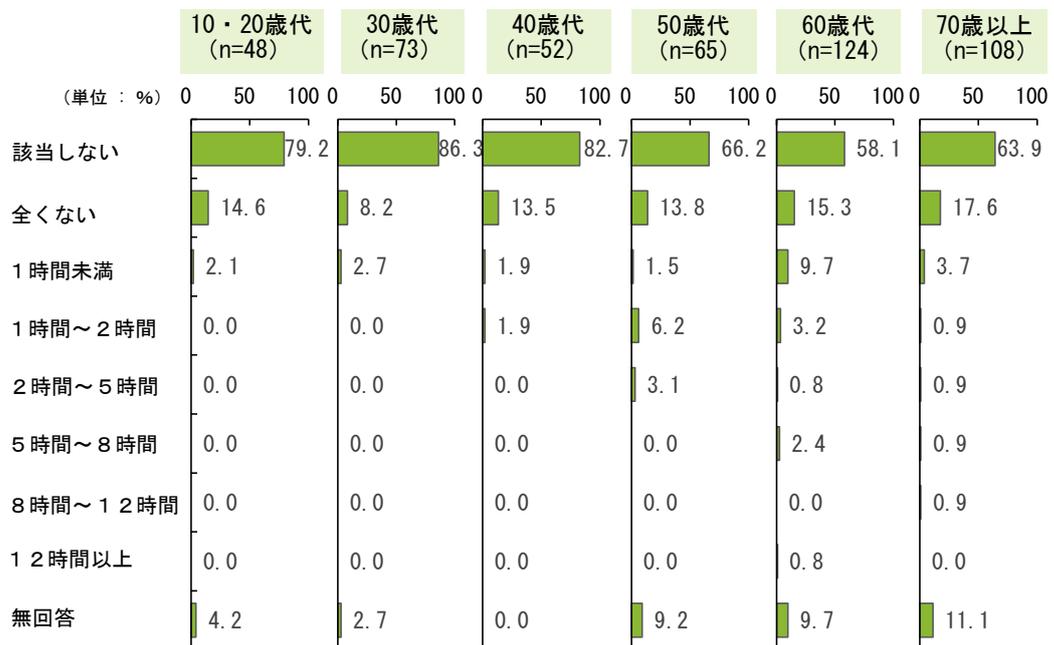


③ 介護（休日）

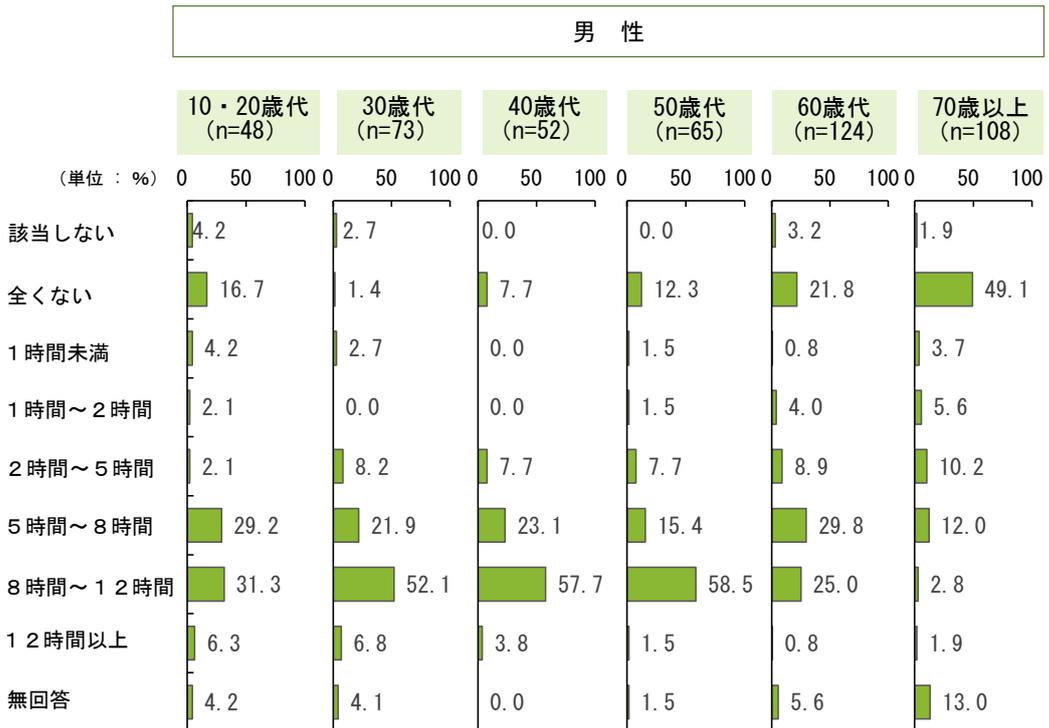
女 性



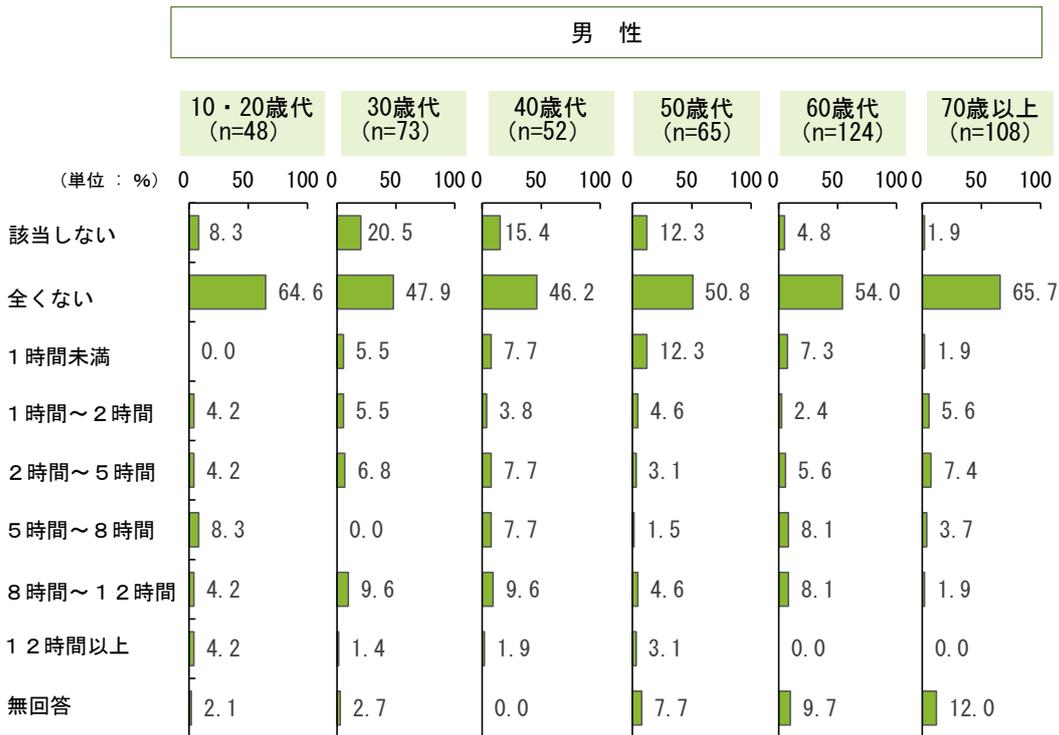
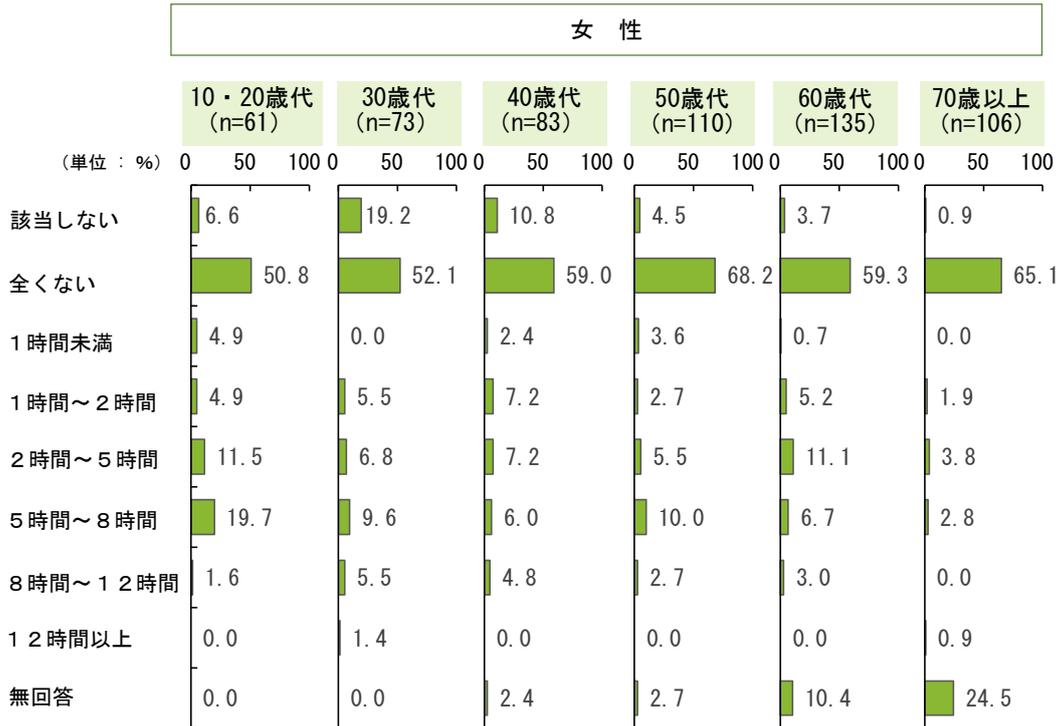
男 性



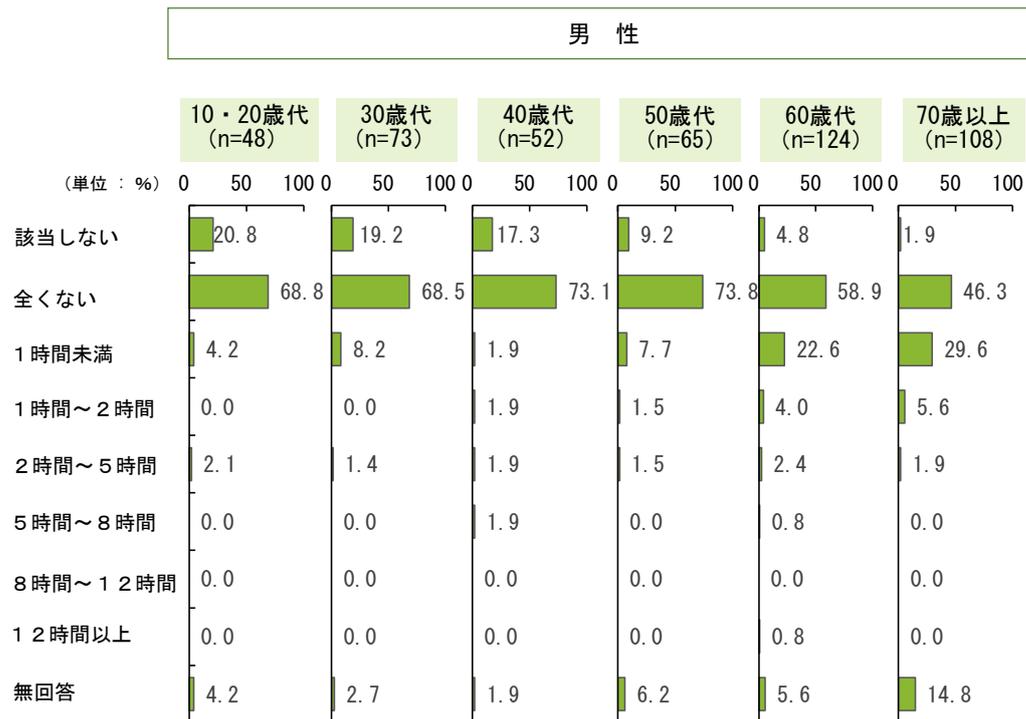
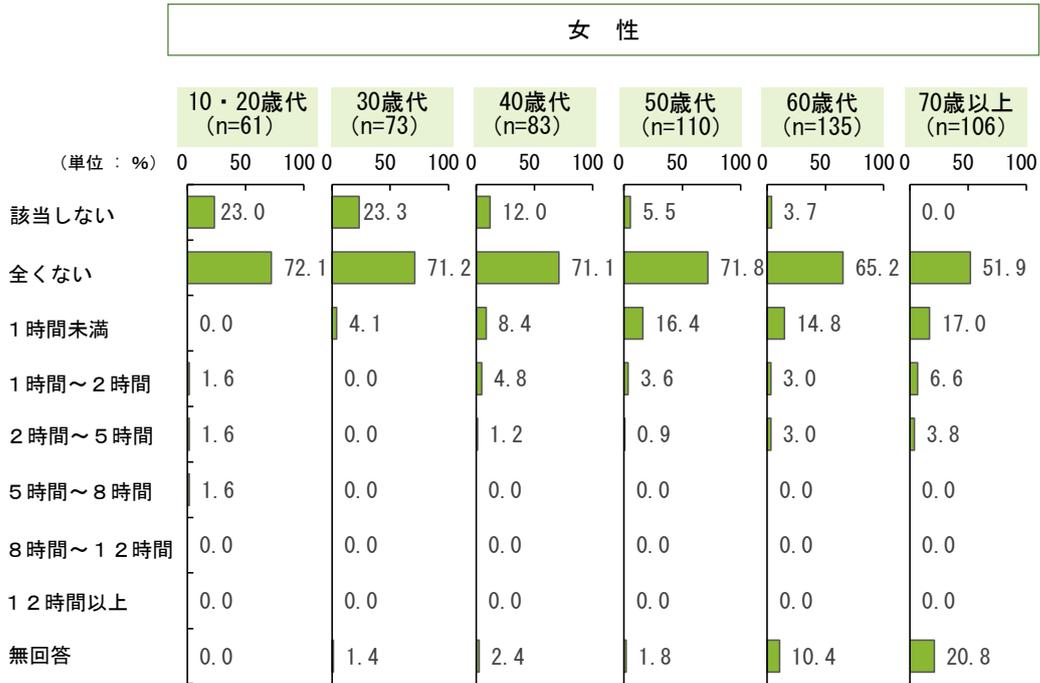
④ 収入を得る仕事（平日）



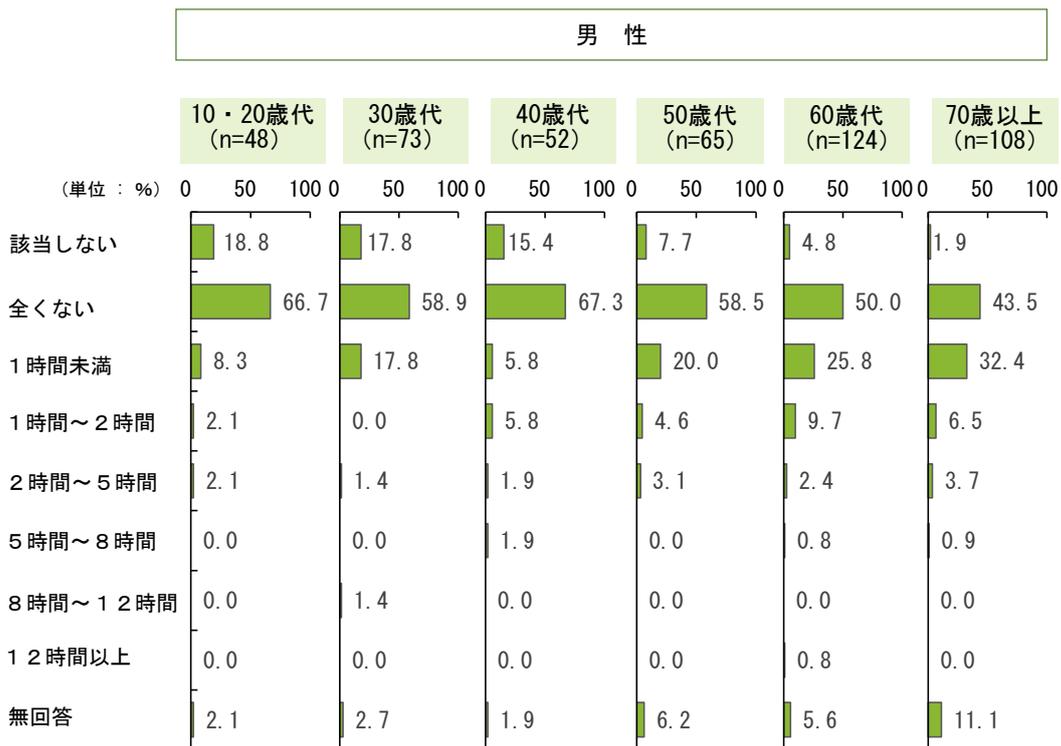
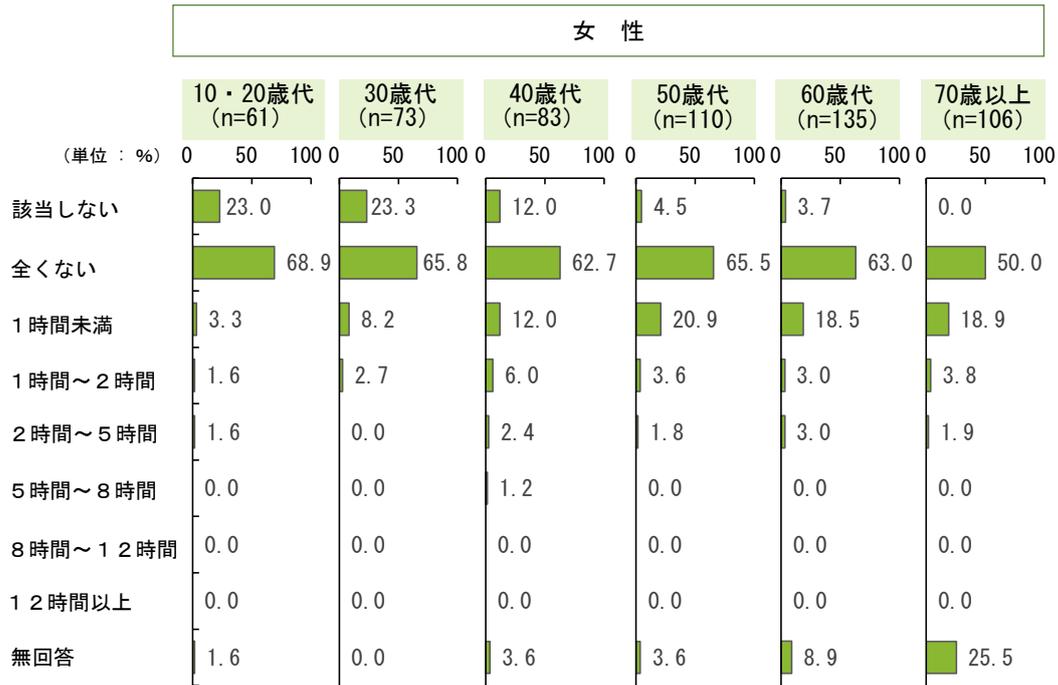
④ 収入を得る仕事（休日）



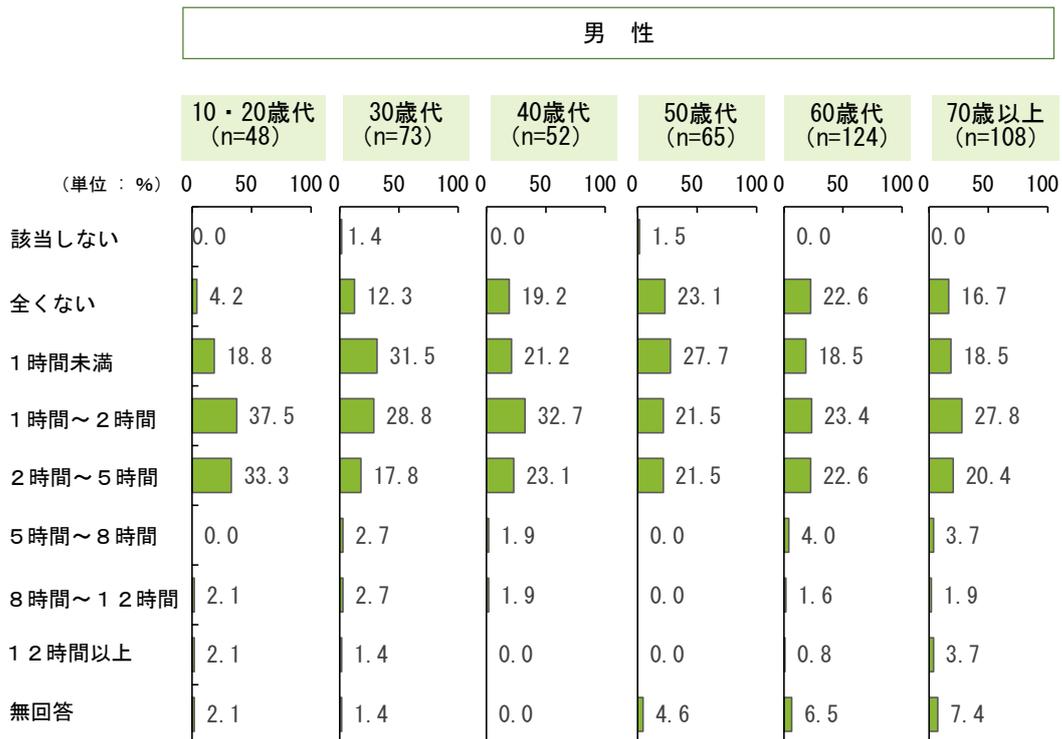
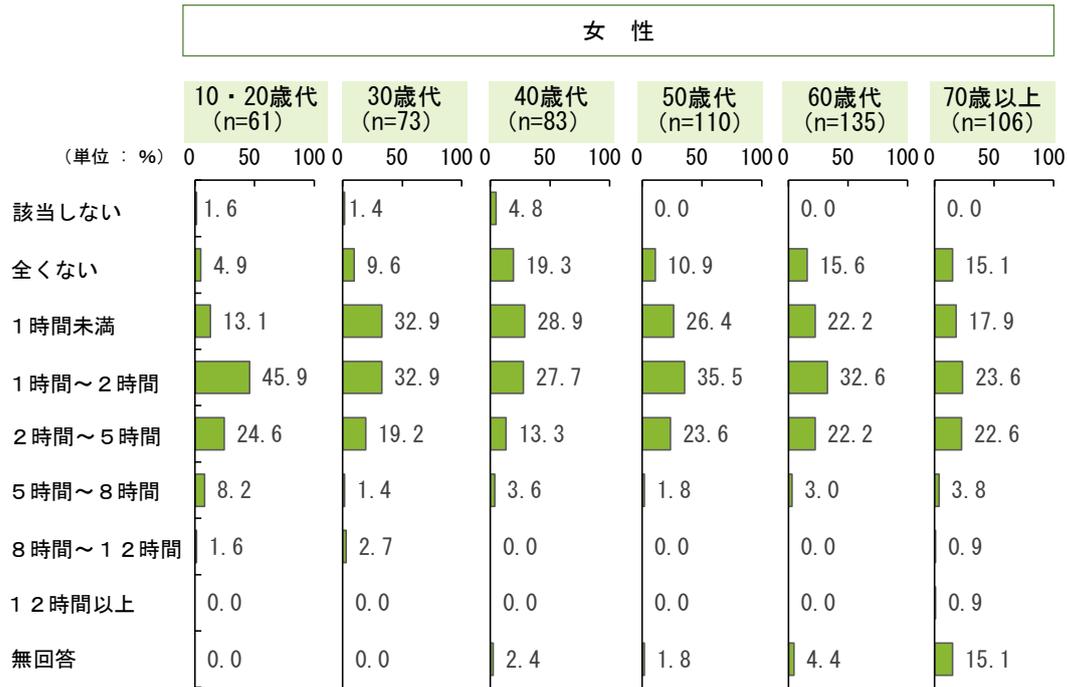
⑤ 地域活動（平日）



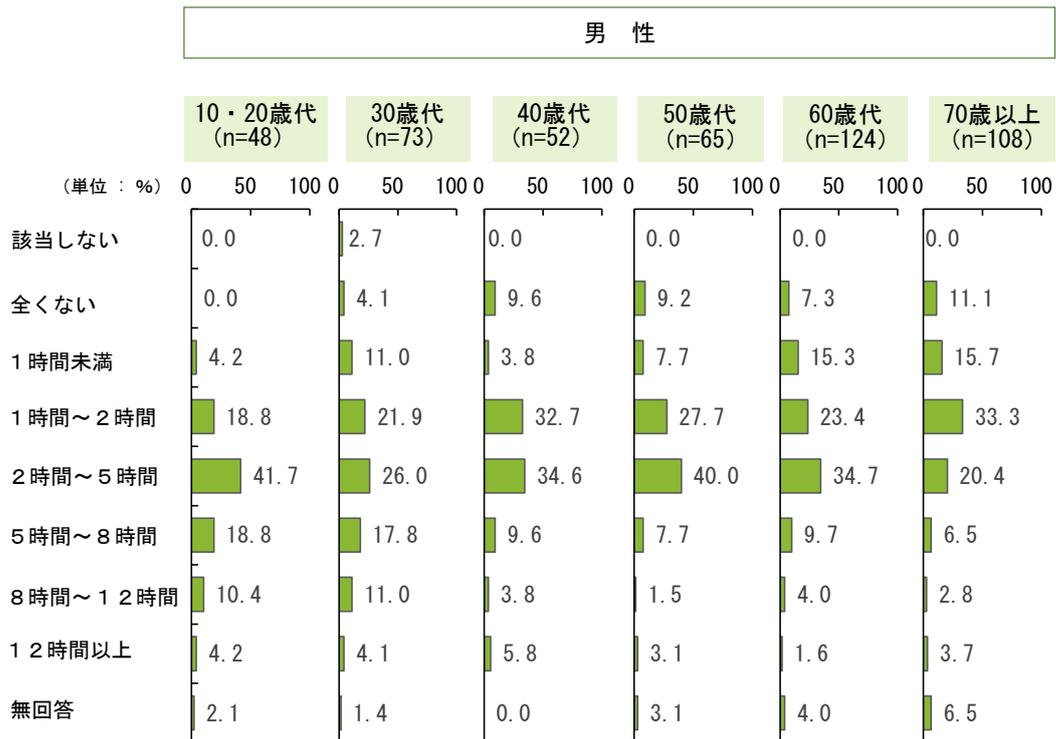
⑤ 地域活動（休日）



⑥ 余暇や娯楽・趣味（平日）



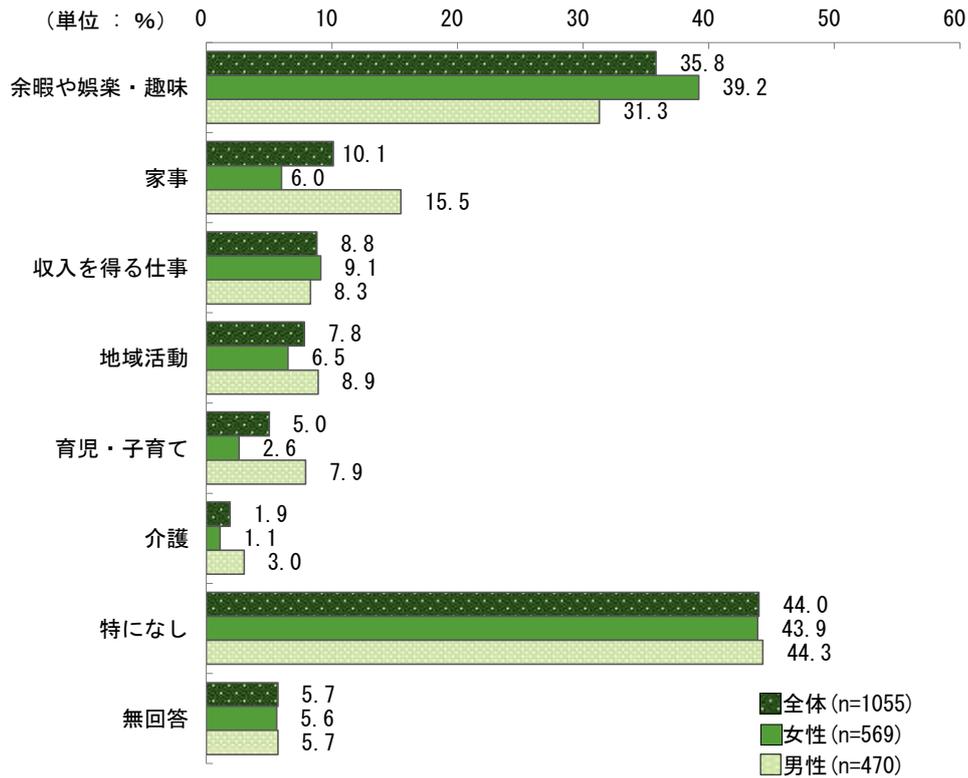
⑥ 余暇や娯楽・趣味（休日）



3-2 生活時間における理想時間との差（短いと感じるもの） 【クロス集計（性別）】

**問5** 問4で回答された生活時間について、あなたの考える理想の時間より短いと思うものはどれですか。（あてはまるもの全て選択）

- 「特になし」が44.0%で最も高く、続いて「余暇や娯楽・趣味」（35.8%）、「家事」（10.1%）、「収入を得る仕事」（8.8%）となっている。
- 性別で見ると、女性は「余暇や娯楽・趣味」において、男性よりも回答が高く（女性39.2%、男性31.3%）、男性は「家事」において、女性よりも回答が高くなっている（女性6.0%、男性15.5%）。



### 3-2 生活時間における理想時間との差（短いと感じるもの）【クロス集計（性年代別）】

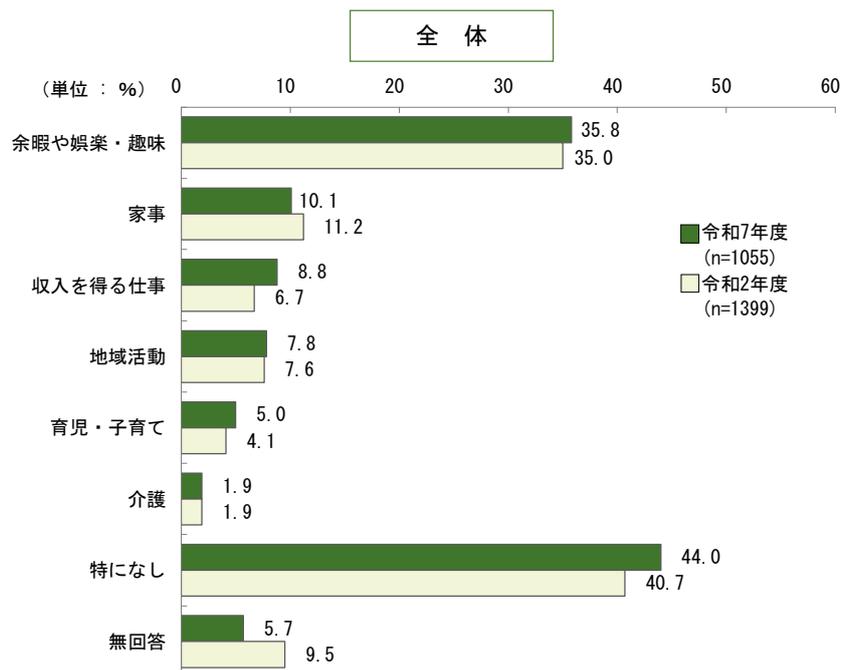
- 性年代別に見ると、いずれの年齢階層においても、「余暇や娯楽・趣味」とする回答は、女性の方が、男性よりも高い（特に30歳代では、男性が46.6%に対して女性は63.0%）。
- 30歳以上の年齢階層において、「家事」とする回答は男性の方が、女性よりも高い。
- 30歳の男性において、「育児・子育て」（26.0%）が、他の年齢階層よりも高い。

(単位：%)

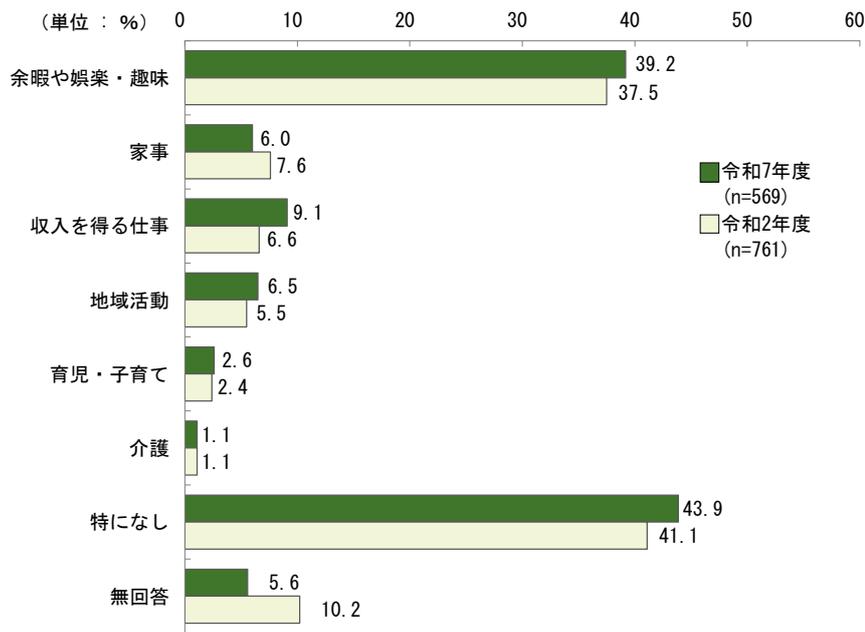
		回答数	余暇や娯楽・趣味	家事	収入を得る仕事	地域活動	育児・子育て	介護	特になし	無回答
全体		1055	35.8	10.1	8.8	7.8	5.0	1.9	44.0	5.7
女性	10・20歳代	61	36.1	6.6	8.2	3.3	3.3	0.0	50.8	0.0
	30歳代	73	63.0	5.5	15.1	2.7	6.8	0.0	26.0	1.4
	40歳代	83	50.6	6.0	8.4	6.0	4.8	0.0	38.6	1.2
	50歳代	110	40.9	7.3	6.4	2.7	1.8	2.7	41.8	6.4
	60歳代	135	31.9	4.4	11.1	10.4	0.7	0.0	49.6	5.2
	70歳以上	106	22.6	6.6	6.6	10.4	0.9	2.8	51.9	15.1
男性	10・20歳代	48	35.4	6.3	4.2	6.3	6.3	2.1	47.9	4.2
	30歳代	73	46.6	17.8	4.1	5.5	26.0	1.4	28.8	1.4
	40歳代	52	38.5	17.3	7.7	5.8	11.5	0.0	44.2	5.8
	50歳代	65	33.8	15.4	6.2	7.7	1.5	6.2	47.7	3.1
	60歳代	124	25.8	17.7	11.3	12.1	4.0	3.2	40.3	9.7
	70歳以上	108	20.4	14.8	11.1	11.1	2.8	3.7	55.6	6.5

### 3-2 生活時間における理想時間との差【前回調査との比較】

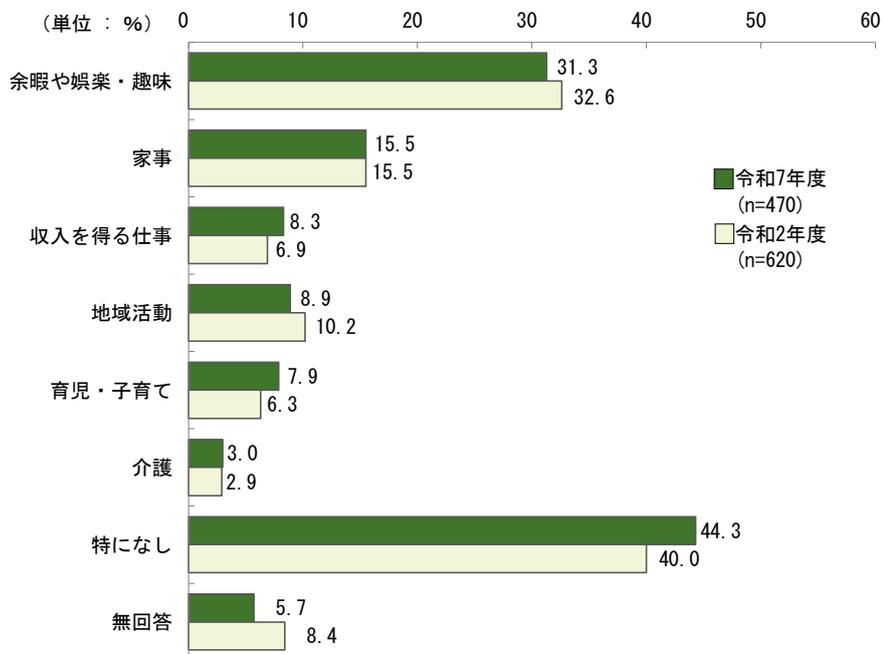
- 前回調査と比較すると、全体では「余暇や娯楽・趣味」（0.8ポイント増）、「収入を得る仕事」（2.1ポイント増）等で回答は増えているが、最も大きく増加したのは「特になし」で3.3ポイント増加している。



女性



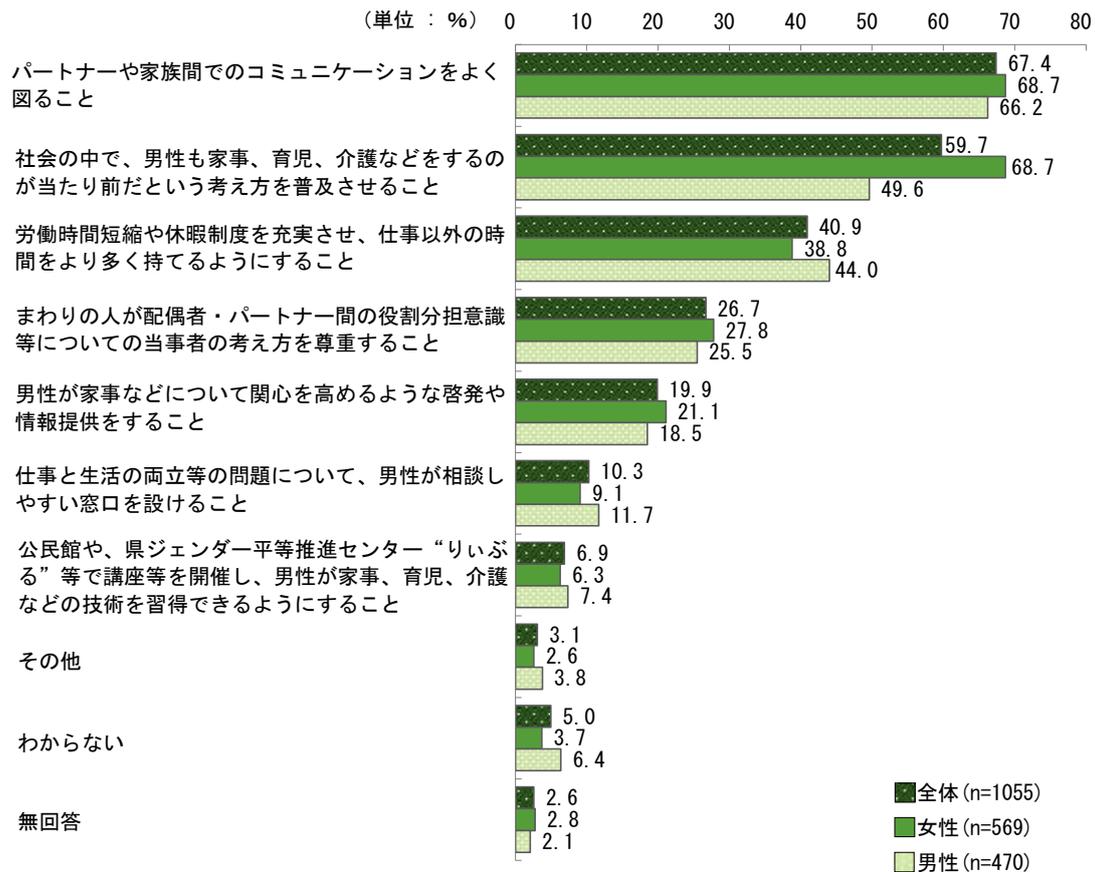
男性



3-3 男性の家事・育児等の積極的参加推進【クロス集計（性別）】

**問 6** 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。（3 つまで選択）

○ 全体では、「パートナーや家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 67.4%で最も高く、次いで「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」（59.7%）となっている。性別による回答で特に差がみられたのは、「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」で、女性の方が男性よりも 19.1 ポイント高い回答であった。



### 3-3 男性の家事・育児等の積極的参加推進【クロス集計（性年代別）】

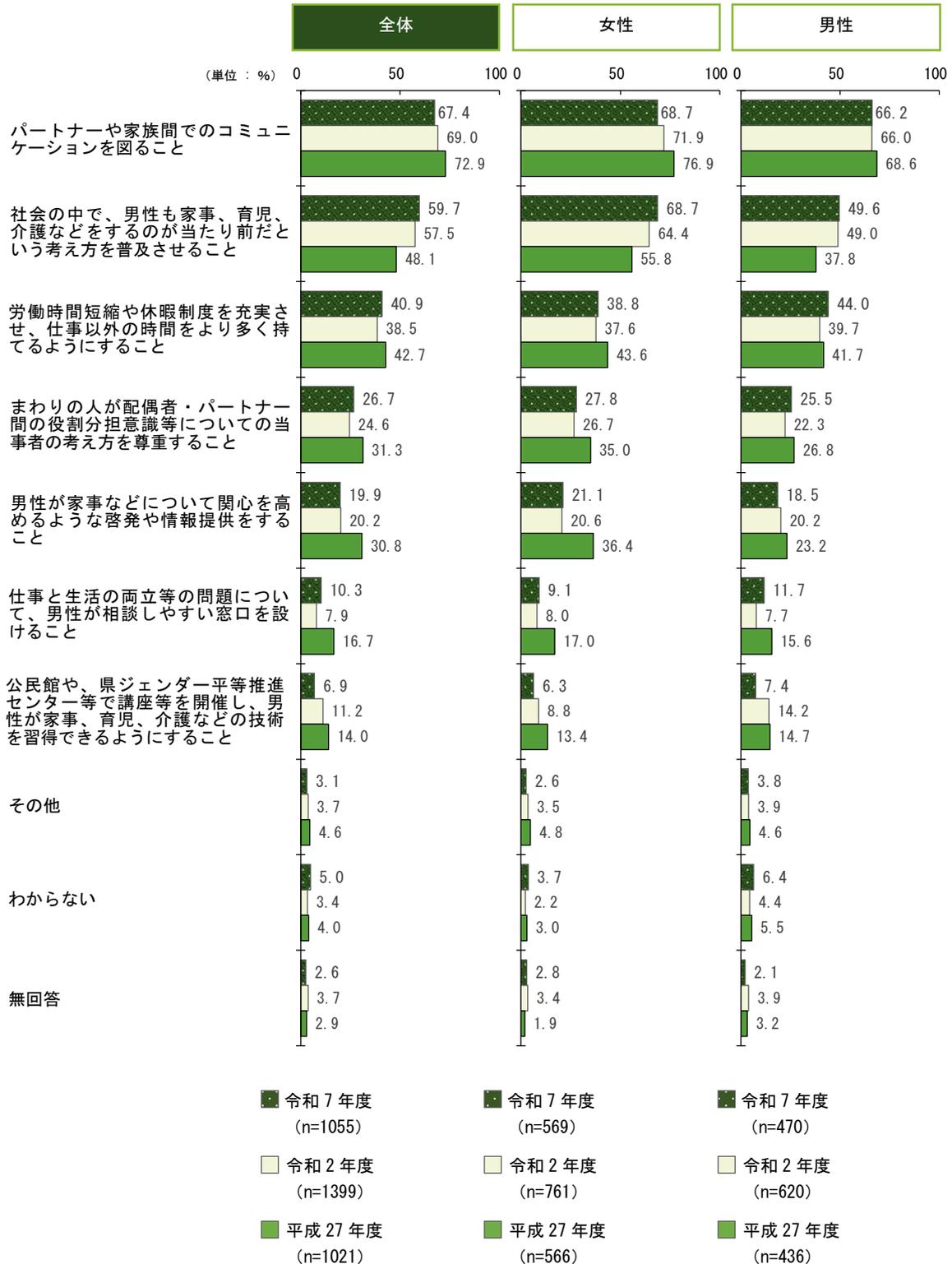
○ 性年代別に見ると、30歳代・40歳代・60歳代の女性では、「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」が最も高く、同じ年齢階層の男性と比べて、回答割合に大きな違いが見られる（一例として40歳代を見ると女性75.9%、男性42.3%）。



(単位：%)

### 3-3 男性の家事・育児等の積極的参加推進 【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、「パートナーや家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が1.6ポイント減となる一方で、「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」は2.2ポイント増加しており、特に女性で4.3ポイント増加している。また、「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は2.4ポイント増加しており、特に男性では4.3ポイントの増加がみられるほか、「仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」は女性よりも男性の方が増加している。



### 3-4 家庭での介護の担い手

**問7** 現在、あなたの家庭に介護が必要な方がおられる場合、その方の介護は主にどなたがしていますか。※介護が必要な方からみた続柄をお答えください。

- 全体では、「介護が必要な人はいない」が52.9%と過半数を占めた。
- 「介護が必要な人はいない」、「無回答」を除き集計すると、「女性が介護」が53.8%で最も高く、続いて「男性が介護」(17.9%)となっている。
- 前回調査に比べ、「女性が介護」と答えた人の割合が7.3ポイント減少し、「男性が介護」と答えた人の割合が1.9ポイント増加している。

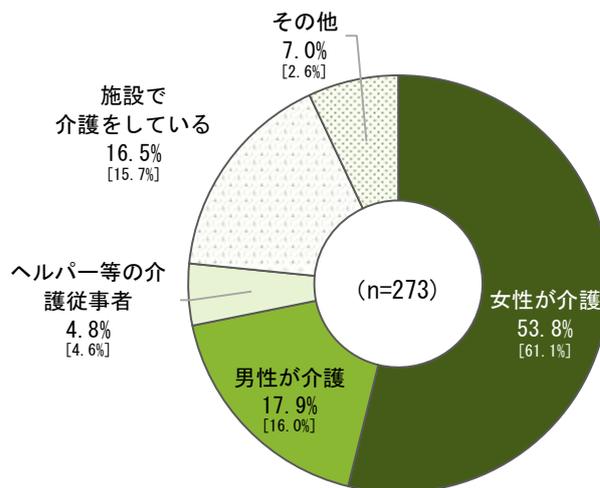
(単位：%)

	回答数	父	母	兄弟	姉妹	夫	妻	パートナーシップ宣誓制度 のパートナー(*)	息子	娘	息子の妻	娘の夫	ヘルパー等の介護従事者	施設で介護をしている	その他	介護が必要な人はいない	無回答
全体	1055	0.6	4.5	0.9	0.7	1.3	3.9	0.1	1.8	3.5	1.3	0.0	1.2	4.3	1.7	52.9	21.2
一部除く全体(◆)	273	2.2	17.6	3.7	2.6	5.1	15.0	0.4	7.0	13.6	5.1	0.0	4.8	16.5	6.6	◆	◆

(\*) パートナーシップ宣誓制度とは、お互いを人生のパートナーと約束する性的少数者のカップルが協力して共同生活を行う「パートナーシップ関係」にあると宣誓したことを、県が証明し、法律の範囲内で婚姻関係にある夫婦と同等のサービスを受けられるようにする制度です。

(◆) 介護の担い手の実態を見るため、「一部除く全体」では、「介護が必要な人はいない」、「無回答」を除く集計を行っている。

【(\*)「介護が必要な人はいない」「無回答」を除く集計】



(\*) [ ]内は、前回調査(令和2年実施、n=306)の値

(\*) 『女性が介護』は、母、姉妹、妻、娘、息子の妻を合わせたもの。  
『男性が介護』は、父、兄弟、夫、息子、娘の夫を合わせたもの。

## 4. 子育てやこどもの教育について

### 4-1 理想のこどもの人数、実際のこどもの人数 【クロス集計（性別）】

問 8-1 あなたの理想とするこどもの数は何人ですか。（1つ選択）

問 8-2 実際のこどもの数は何人ですか。（1つ選択）

- 「理想のこどもの人数」は、全体では「2人」が42.3%で最も高く、続いて「3人」が33.6%となっている。性別ごとに見ると、男性において「3人」とする回答（36.4%）が、女性（31.8%）よりも高くなっている。
- 「実際のこどもの人数」は、全体では「2人」が36.9%で最も高く、続いて「0人」が28.4%となっている。性別ごとに見ると、男性において「0人」の回答（32.1%）が、女性（24.6%）よりも高い。

#### 【理想のこどもの人数】



#### 【実際のこどもの人数】



#### 4-1 理想のこどもの人数、実際のこどもの人数 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、男女ともに70歳以上を除く全ての年齢階層において、理想のこどもの人数を「2人」とする割合が最も高くなっている（70歳以上においては、男女ともに理想のこどもの人数を「3人」とする割合が最も高い（女性42.5%、男性61.1%）。理想のこどもの人数が「0人」と回答する割合は、年齢階層が低くなるにつれ高くなる傾向があり、特に10・20歳代の女性で「0人」と回答した割合が11.5%と他の年齢階層よりも高い。
- 実際のこどもの人数については、女性では10・20歳代を除く全ての年齢階層において、「2人」の割合が最も高く、男性では40歳代、60歳代、70歳以上において、「2人」の割合が最も高い。女性の10・20歳代、男性の10・20歳代、30歳代、50歳代では「0人」の割合が最も高くなっている。

#### 【理想のこどもの人数】

(単位：%)

		回答数	1人	2人	3人	4人	0人	わからない	無回答
全体		1055	2.9	42.3	33.6	3.2	2.1	12.9	2.9
女性	10・20歳代	61	3.3	44.3	18.0	1.6	11.5	19.7	1.6
	30歳代	73	8.2	49.3	17.8	1.4	6.8	13.7	2.7
	40歳代	83	4.8	43.4	27.7	6.0	2.4	15.7	0.0
	50歳代	110	1.8	41.8	32.7	5.5	0.9	15.5	1.8
	60歳代	135	1.5	43.7	39.3	3.7	0.7	6.7	4.4
	70歳以上	106	0.0	38.7	42.5	0.0	0.0	10.4	8.5
男性	10・20歳代	48	8.3	52.1	16.7	6.3	0.0	14.6	2.1
	30歳代	73	5.5	54.8	19.2	1.4	2.7	15.1	1.4
	40歳代	52	1.9	51.9	25.0	3.8	1.9	15.4	0.0
	50歳代	65	1.5	44.6	33.8	1.5	1.5	15.4	1.5
	60歳代	124	1.6	41.1	38.7	6.5	1.6	8.9	1.6
	70歳以上	108	1.9	22.2	61.1	0.0	0.0	11.1	3.7

#### 【実際のこどもの人数】

(単位：%)

		回答数	1人	2人	3人	4人	0人	無回答
全体		1055	12.4	36.9	16.3	2.7	28.4	3.3
女性	10・20歳代	61	4.9	3.3	3.3	0.0	83.6	4.9
	30歳代	73	20.5	35.6	11.0	1.4	30.1	1.4
	40歳代	83	24.1	27.7	16.9	7.2	24.1	0.0
	50歳代	110	15.5	42.7	17.3	0.9	21.8	1.8
	60歳代	135	8.9	43.0	27.4	3.0	13.3	4.4
	70歳以上	106	6.6	59.4	20.8	2.8	3.8	6.6
男性	10・20歳代	48	6.3	2.1	0.0	0.0	83.3	8.3
	30歳代	73	12.3	20.5	5.5	2.7	56.2	2.7
	40歳代	52	9.6	38.5	11.5	5.8	34.6	0.0
	50歳代	65	23.1	33.8	6.2	0.0	35.4	1.5
	60歳代	124	11.3	45.2	24.2	4.0	13.7	1.6
	70歳以上	108	9.3	50.0	23.1	1.9	11.1	4.6

4-1 理想のこどもの人数、実際のこどもの人数 【クロス集計（結婚経験者のみ、性別）】

- 理想のこどもの人数を「3人」とした女性（結婚経験者のみ）は36.1%だが、実際のこどもの人数が「3人」であった割合は21.9%にとどまる。
- 理想のこどもの人数を「3人」とした男性（結婚経験者のみ）は44.1%だが、実際のこどもの人数が「3人」であった割合は19.4%にとどまる。

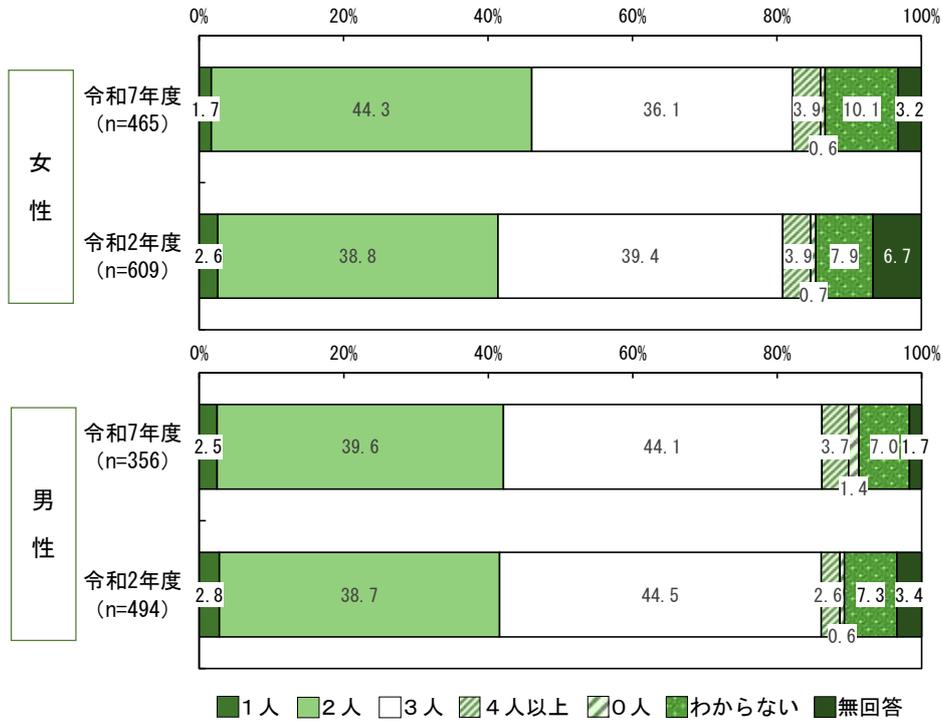


(\*) 「実際のこどもの人数」では「わからない」という選択肢はない。

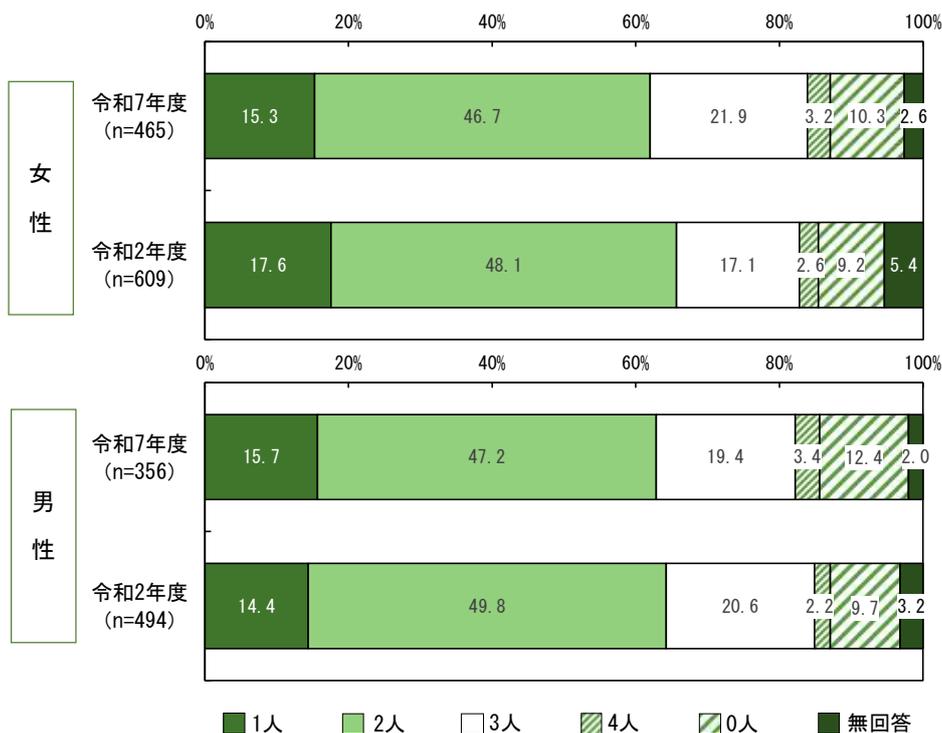
4-1 理想のこどもの人数、実際のこどもの人数 【クロス集計（前回調査との比較）】

- 前回調査と比較すると、理想のこどもの人数を「2人」とする回答は女性（結婚経験者のみ）で増えた（5.5ポイント増）。
- 前回調査と比較すると、実際のこどもの人数が「3人」であった回答は女性（結婚経験者のみ）で増えた（4.8ポイント増）。

【理想のこどもの人数】※結婚経験者のみ・性別



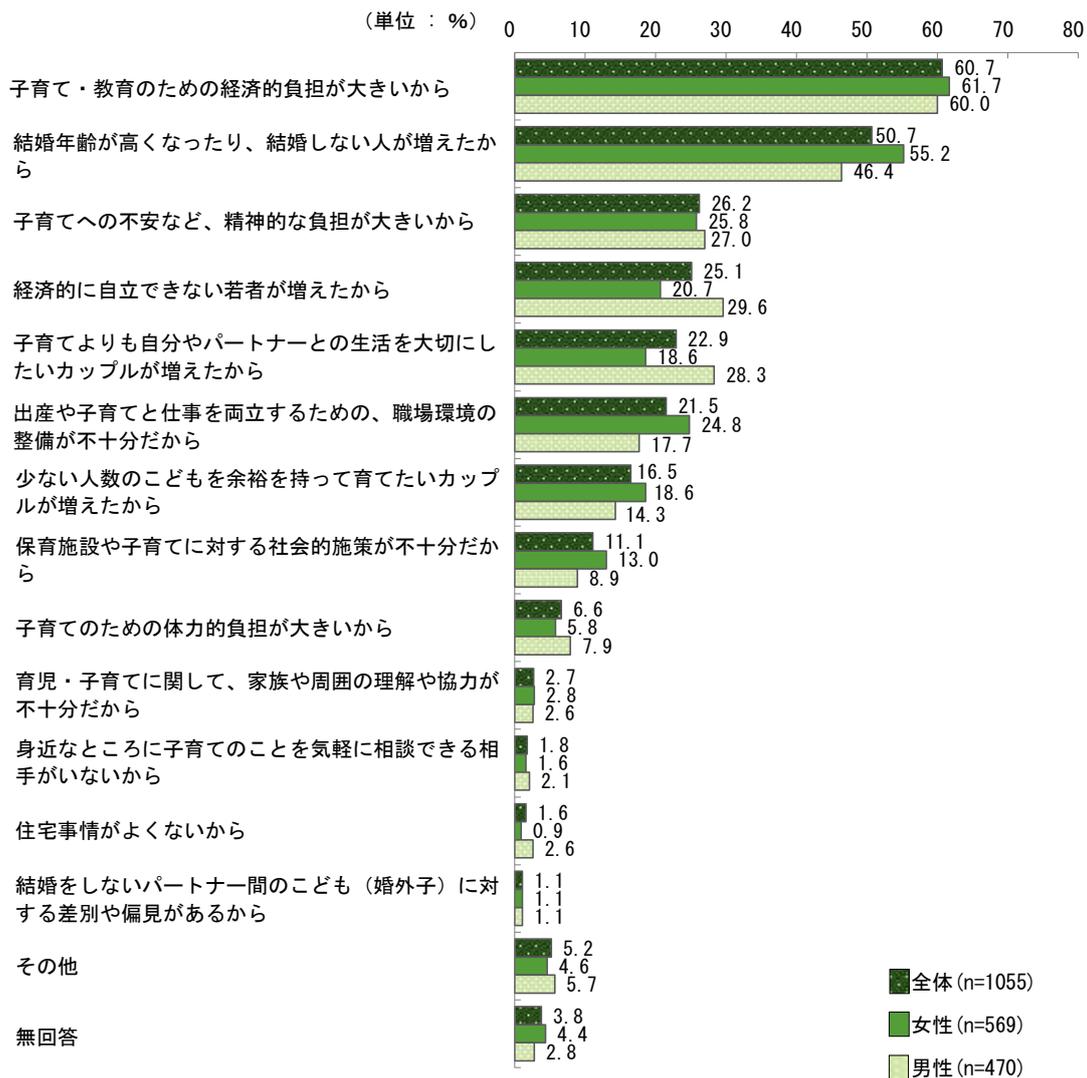
【実際のこどもの人数】※結婚経験者のみ・性別



4-2 こどもの減少の理由についての考え【クロス集計（性別）】

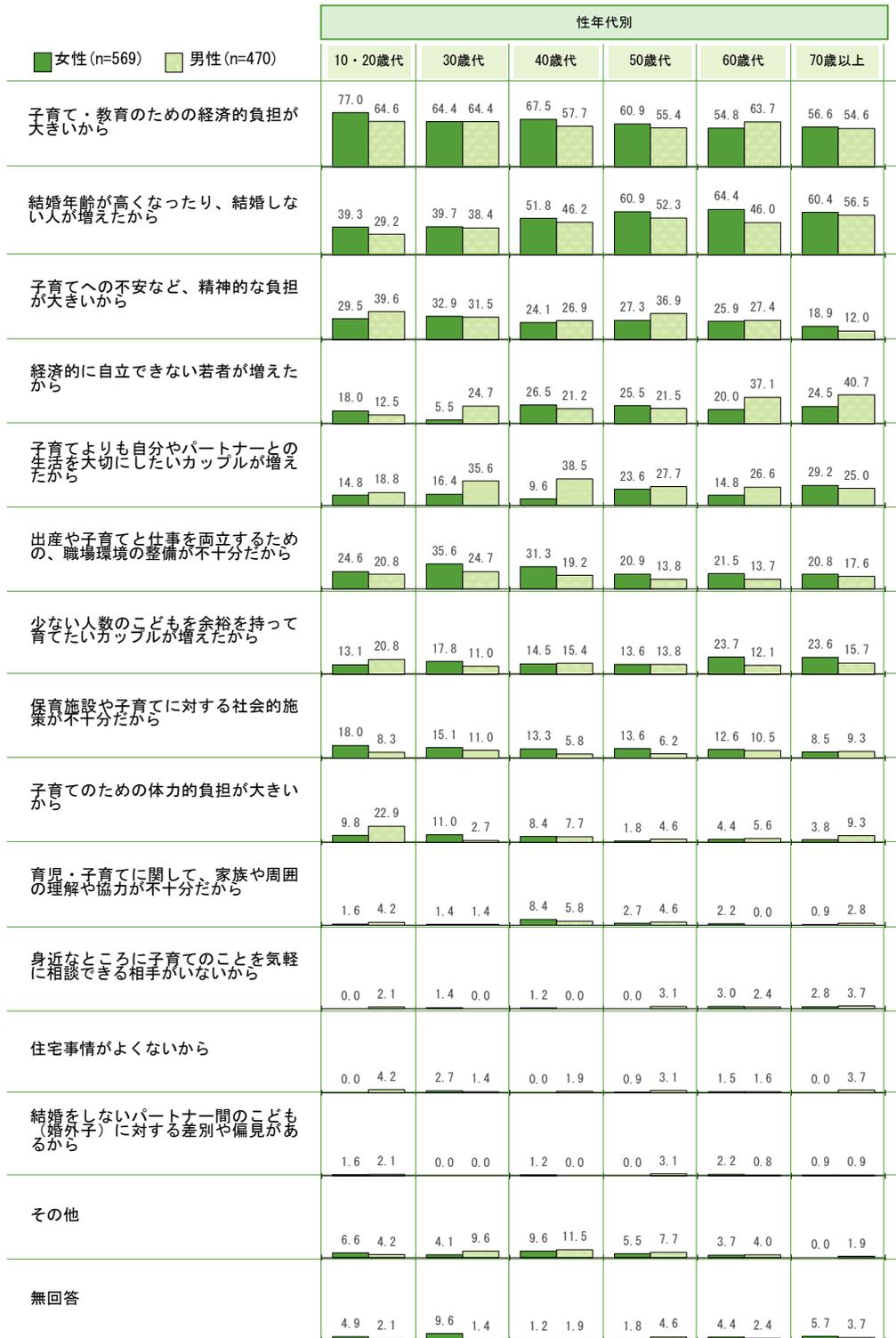
問9 最近、生まれてくるこどもの数が減っています。それはなぜだと思いますか（3つまで選択）

- 全体では、「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」が60.7%で最も多く、続いて「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」（50.7%）、「子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから」（26.2%）となっている。
- 性別ごとに見ると「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」との回答は女性が55.2%で、男性の46.4%を8.8ポイント上回った。その一方で、「経済的に自立できない若者が増えたから」は8.9ポイント、「子育てよりも自分やパートナーとの生活を大切にしたいカップルが増えたから」は9.7ポイントの差で男性の方が女性よりも回答が高くなっている。



4-2 こどもの減少の理由についての考え【クロス集計（性年代別）】

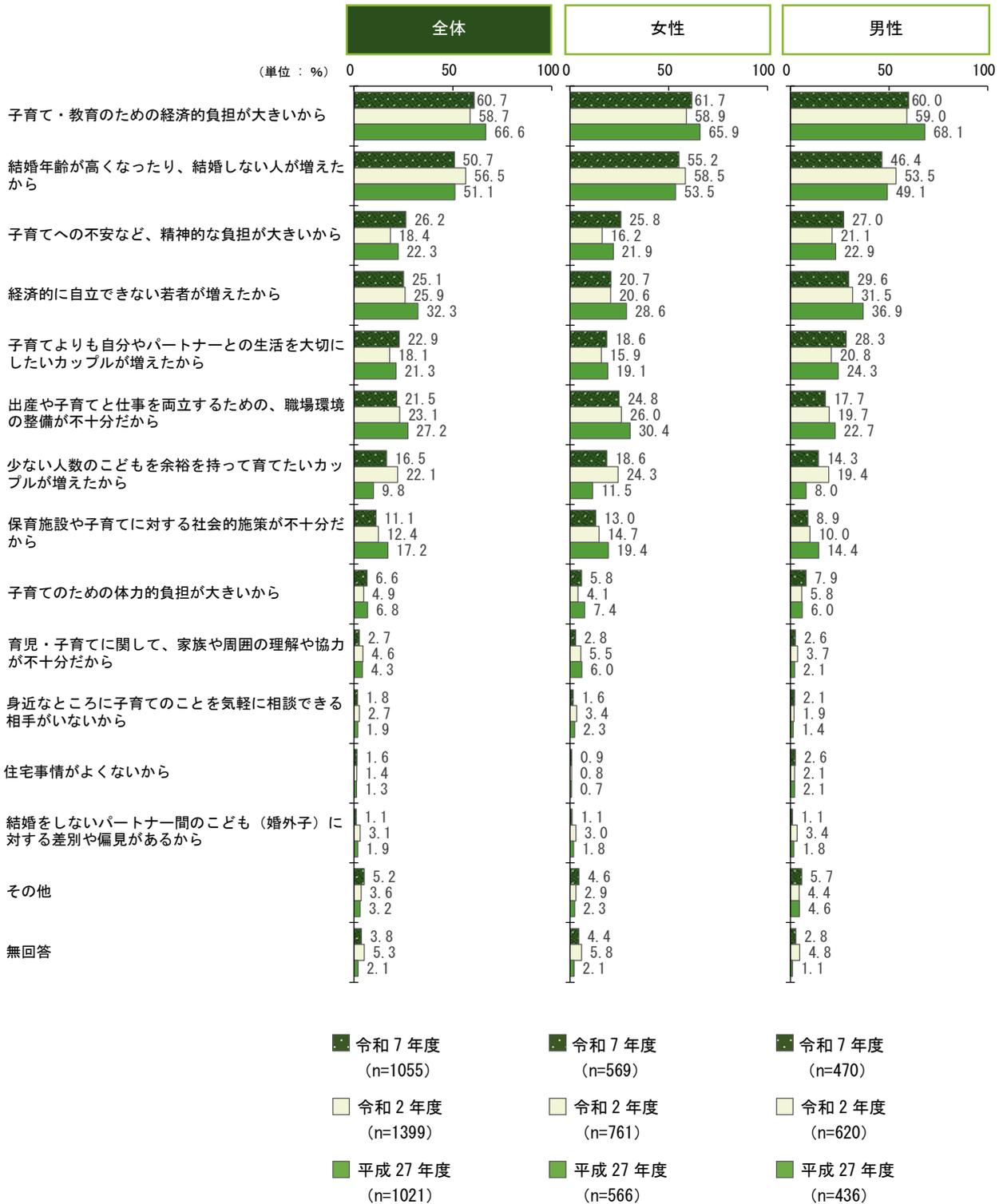
- 性年代別に見ると、「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」は、女性の10・20歳代から50歳代および男性の10・20歳代から60歳代で最も高い回答となっている。一方で、女性の60歳代から70歳以上と男性の70歳以上においては、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が最も高くなっている。
- 女性の30歳代、40歳代では、「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」に続いて、「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」が3番目に高い回答となっている。



(単位：%)

4-2 こどもの減少の理由についての考え【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、全体では「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」(2.0ポイント増)、「子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから」(7.8ポイント増)が増加する一方で、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」(5.8ポイント減)などは減少した。

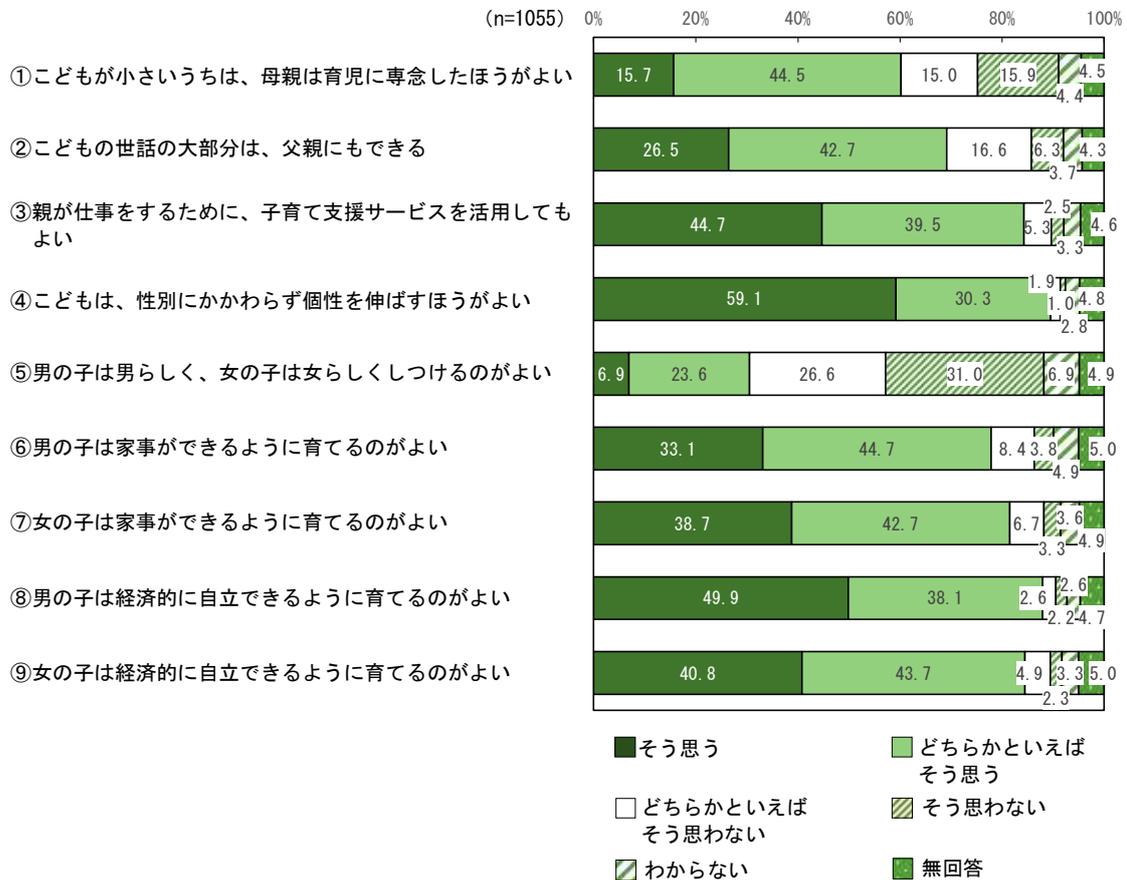


### 4-3 子育てについての考え

#### 問 10 子育てについて、あなたの意見に近いものはどれですか。(それぞれ1つ選択)

○「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」を除くすべての項目で『肯定的な意見』が6割を超えている。

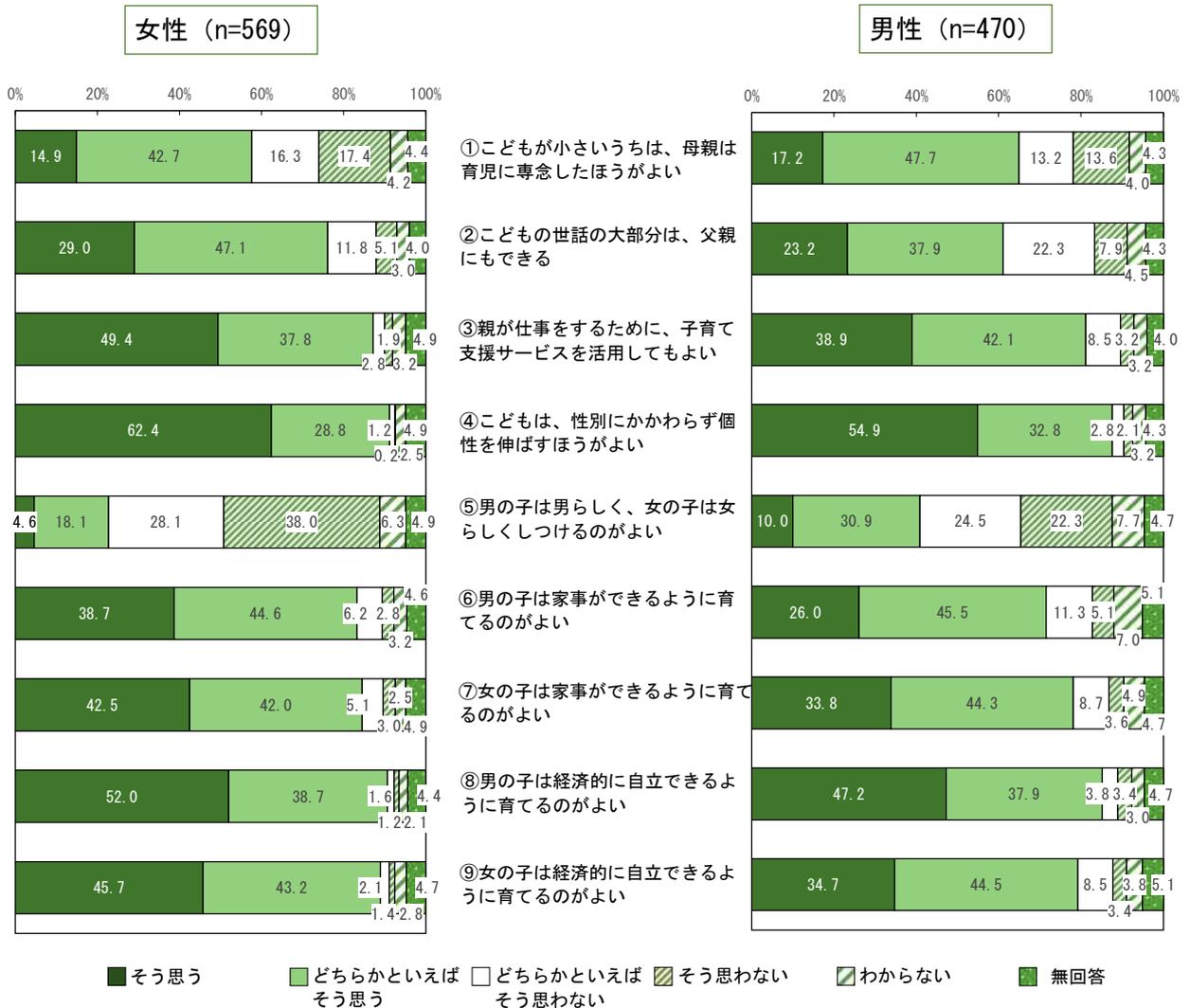
(\*)『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。



#### 4-3 子育てについての考え【クロス集計（性別）】

○ 性別ごとに見ると、『肯定的な意見』では「④こどもは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい」で男女ともに最も高く（女性 91.2%、男性 87.7%）、性別による回答の差はみられないが、「②こどもの世話の大部分は、父親にもできる」では女性が 76.1% であるのに対し男性は 61.1% となっており、15 ポイントの差がみられる。「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では、女性で 22.7% と最も低くなっており、男性の 40.9% と比べ 18.2 ポイント低く、性別間の認識の違いがみられる。

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。



#### 4-3 子育てについての考え【クロス集計（性年代別）】

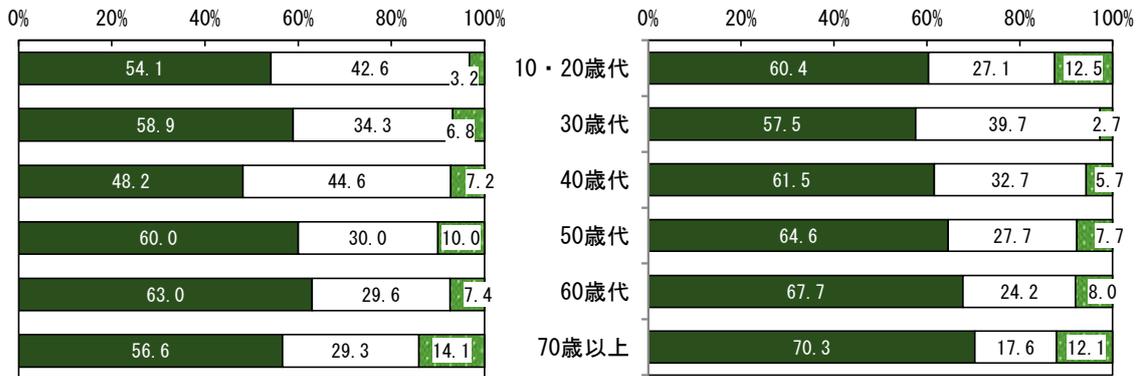
- 性年代別に見ると、「①こどもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」については女性の40歳代を除くすべての性年代で『肯定的な意見』が5割を超えている。また、10・20歳代では『否定的な意見』は性別間で15.5ポイントの差（女性42.6%、男性27.1%）の開きがあるほか、40歳代においては『否定的な意見』が男性は女性に比べ11.9ポイント低く（女性44.6%、男性32.7%）、『肯定的な意見』が13.3ポイント高い（女性48.2%、男性61.5%）。
- 「②こどもの世話の大部分は、父親にもできる」についても性別による回答の差があり、30歳代を除くいずれの年代でも『肯定的な意見』で女性が男性よりも10ポイント以上高い。「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」については、どの年代においても男性が女性よりも『肯定的な意見』が大きく上回る。

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」を合わせて集計している。

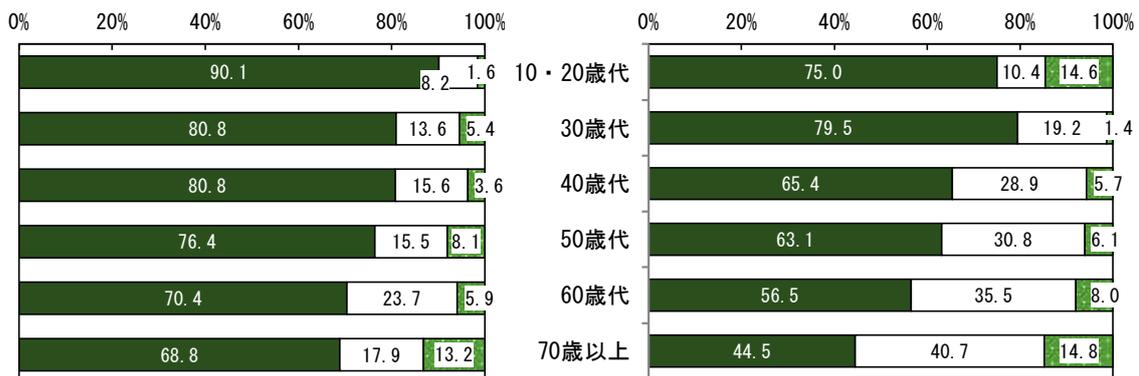
女性 (n=569)

男性 (n=470)

##### ①こどもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



##### ②こどもの世話の大部分は、父親にもできる



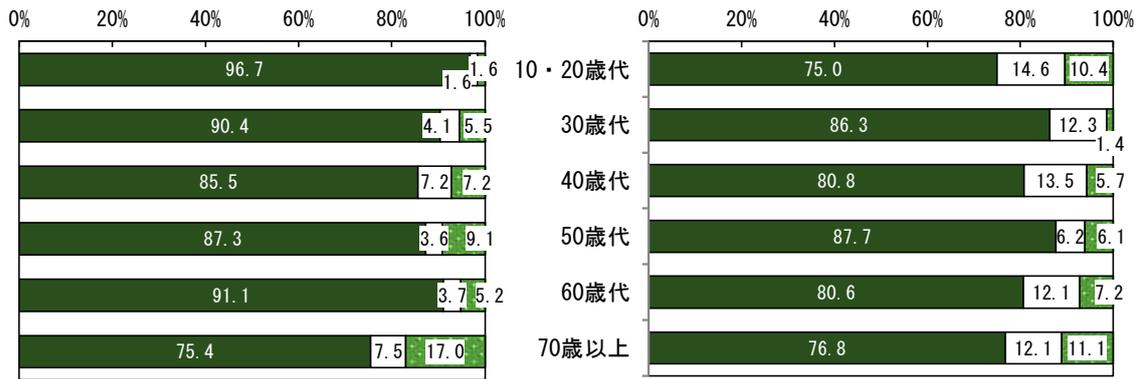
■ 『肯定的な意見』 □ 『否定的な意見』 ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

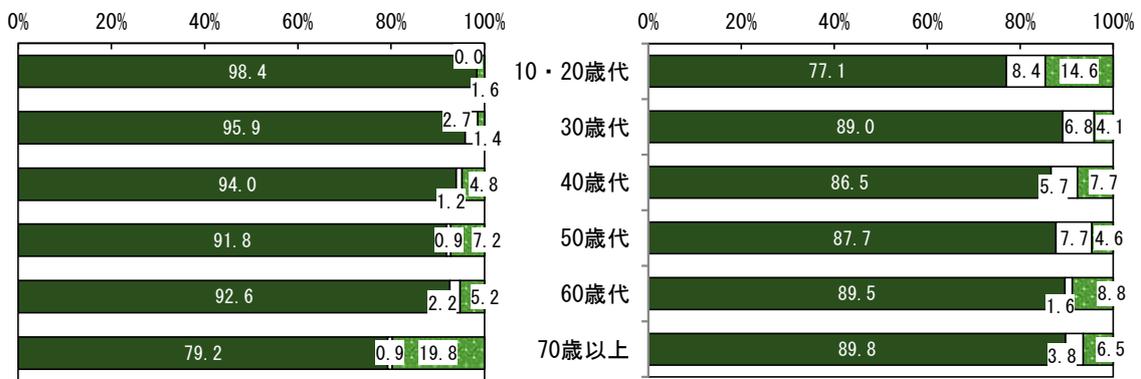
女性 (n=569)

男性 (n=470)

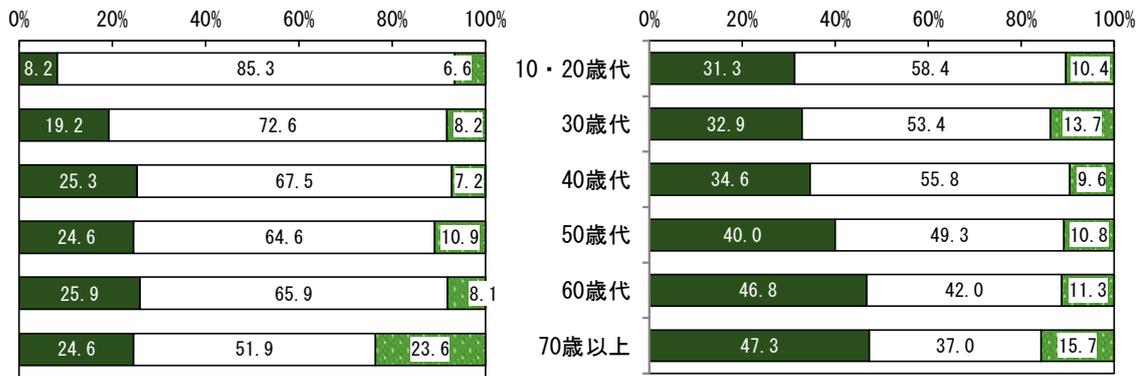
③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい



④こどもは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい



⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい



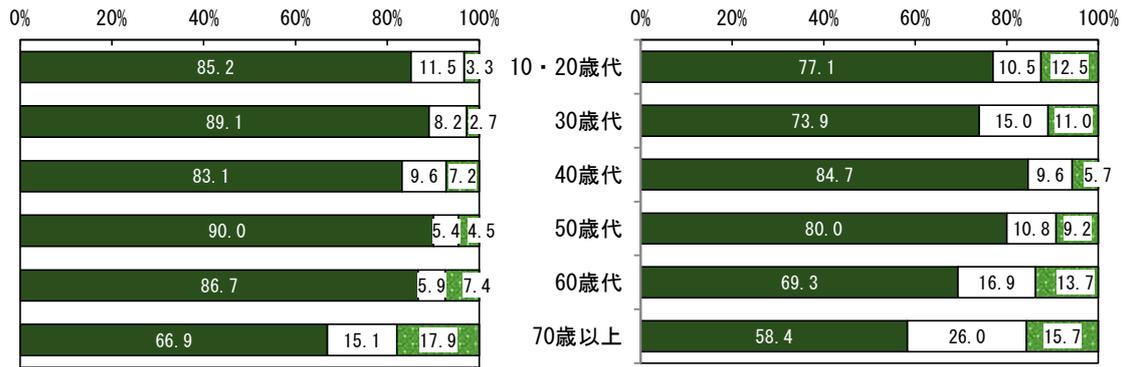
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

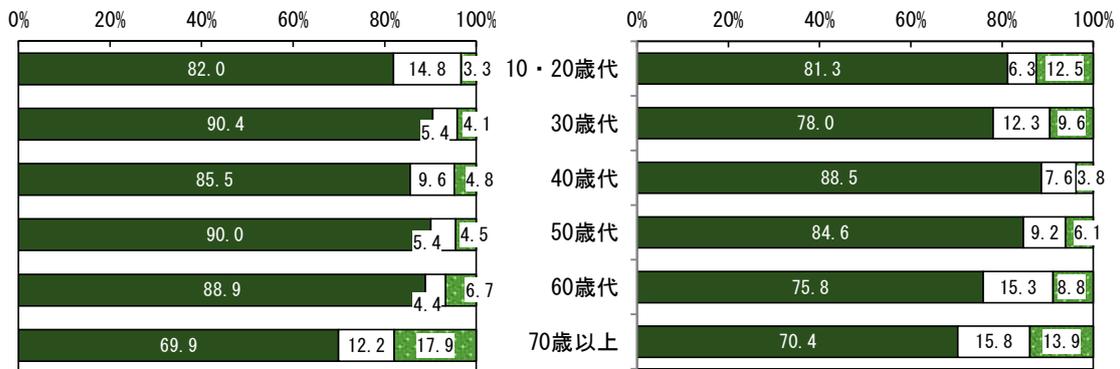
女性 (n=569)

男性 (n=470)

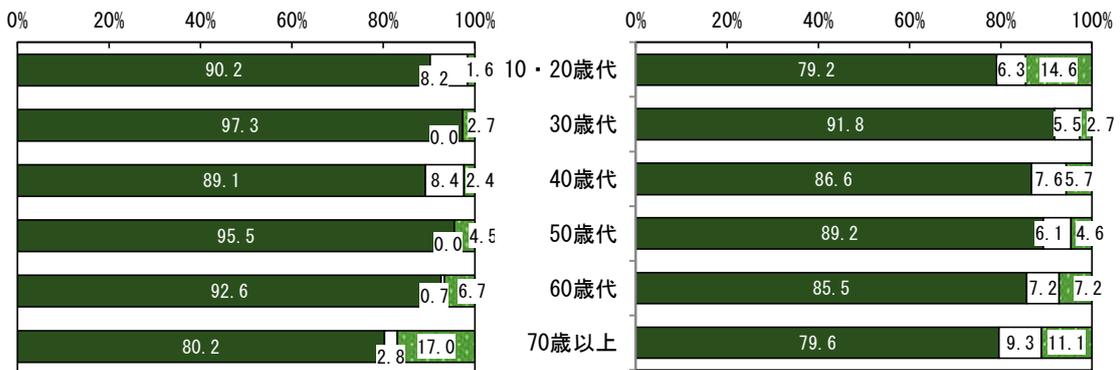
⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい



⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



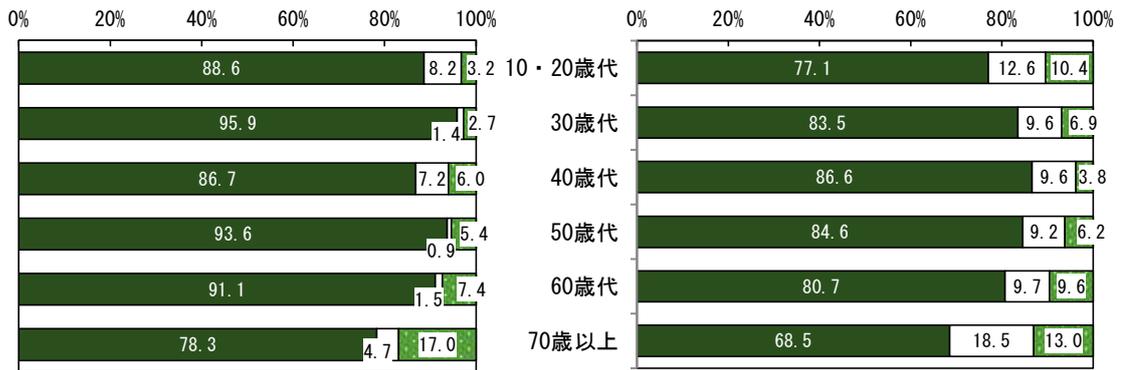
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
 『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



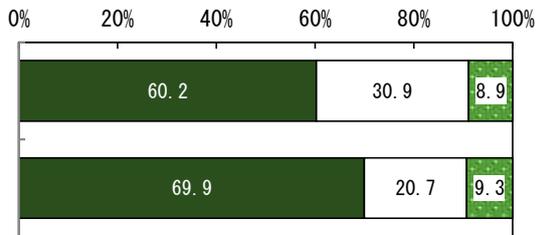
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

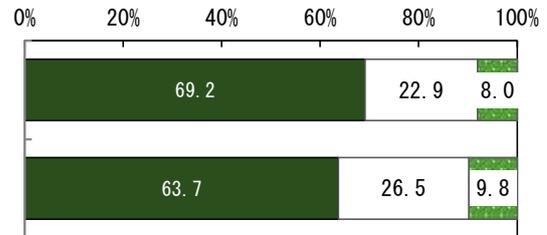
#### 4-3 子育てについての考え【前回調査との比較・全体】

○ 前回調査と比較すると、『肯定的な意見』は、「①こどもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」(9.7ポイント減)、「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」(8.5ポイント減)などで減少した。その一方で、「②こどもの世話の大部分は、父親にもできる」(5.5ポイント増)、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」(4.8ポイント増)などでは増加している。

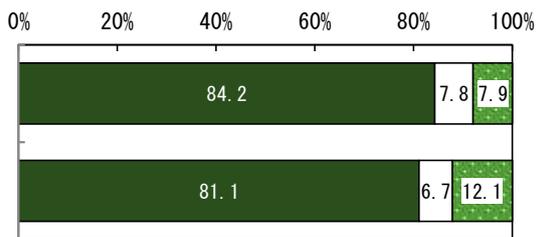
①こどもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



②こどもの世話の大部分は、父親にもできる



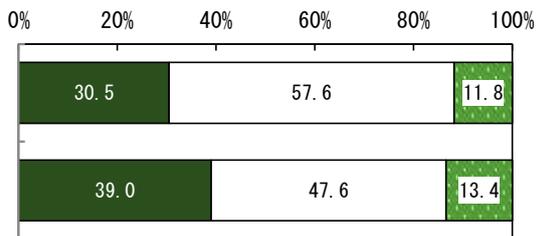
③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい



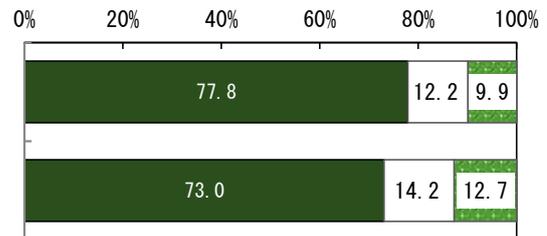
④こどもは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい



⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい



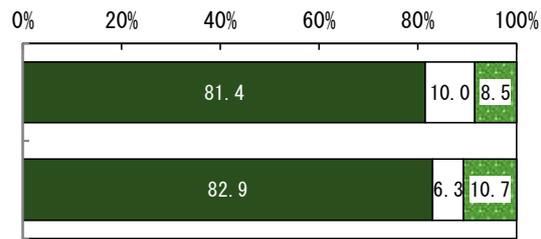
⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



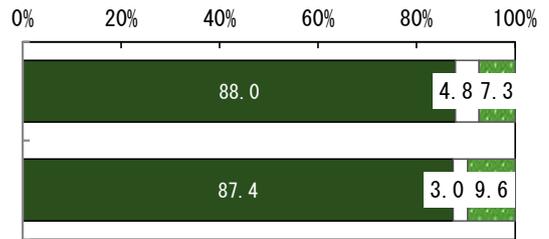
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
『不明』は、「わからない」または「無回答」

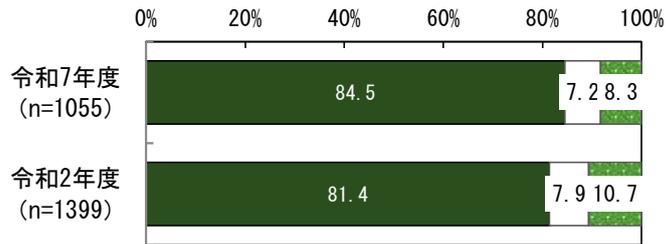
⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい



⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



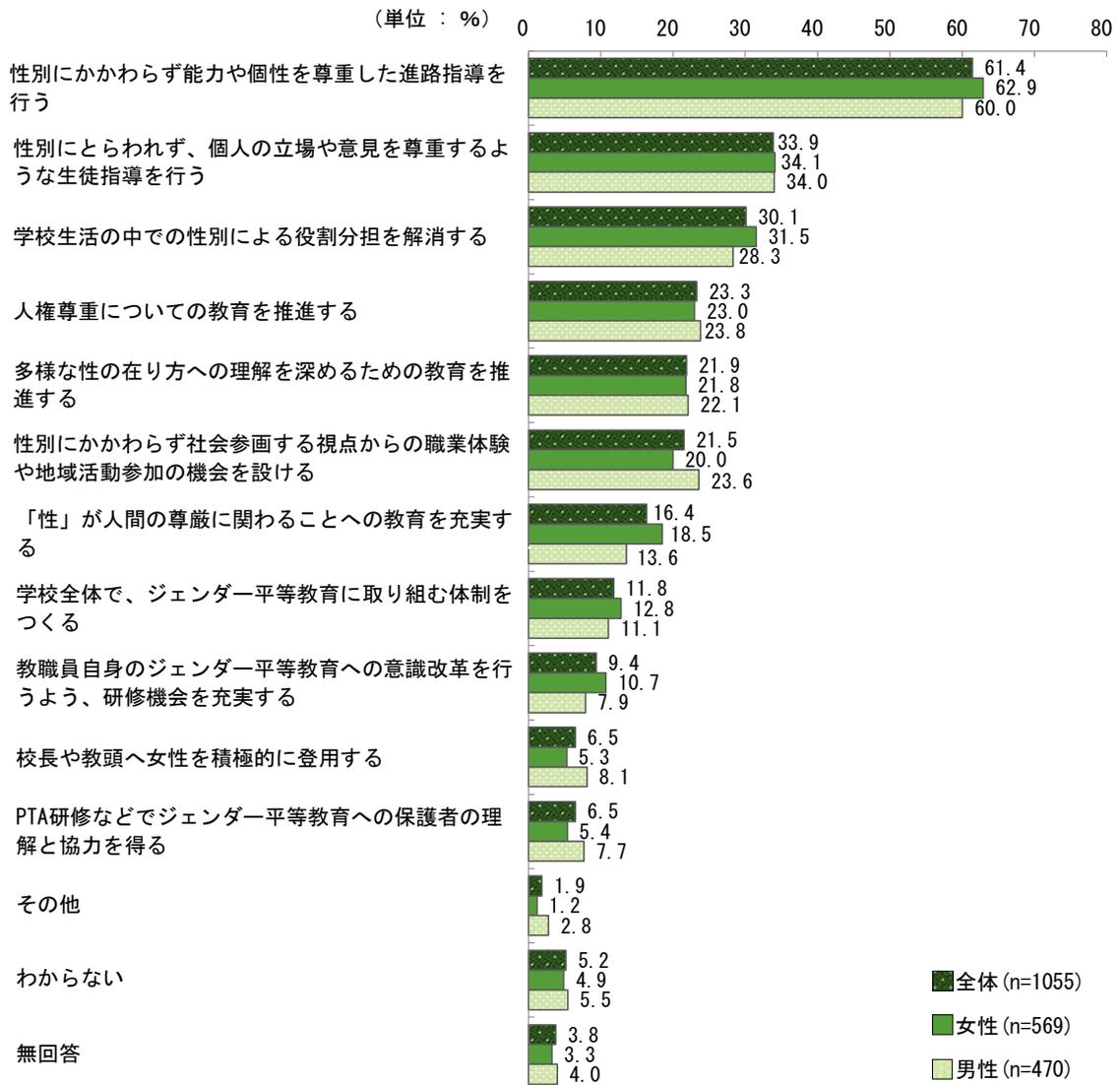
■ 『肯定的な意見』    □ 『否定的な意見』    ■ 『不明』

(\*) 『肯定的な意見』は、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」  
 『否定的な意見』は、「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること【クロス集計（性別）】

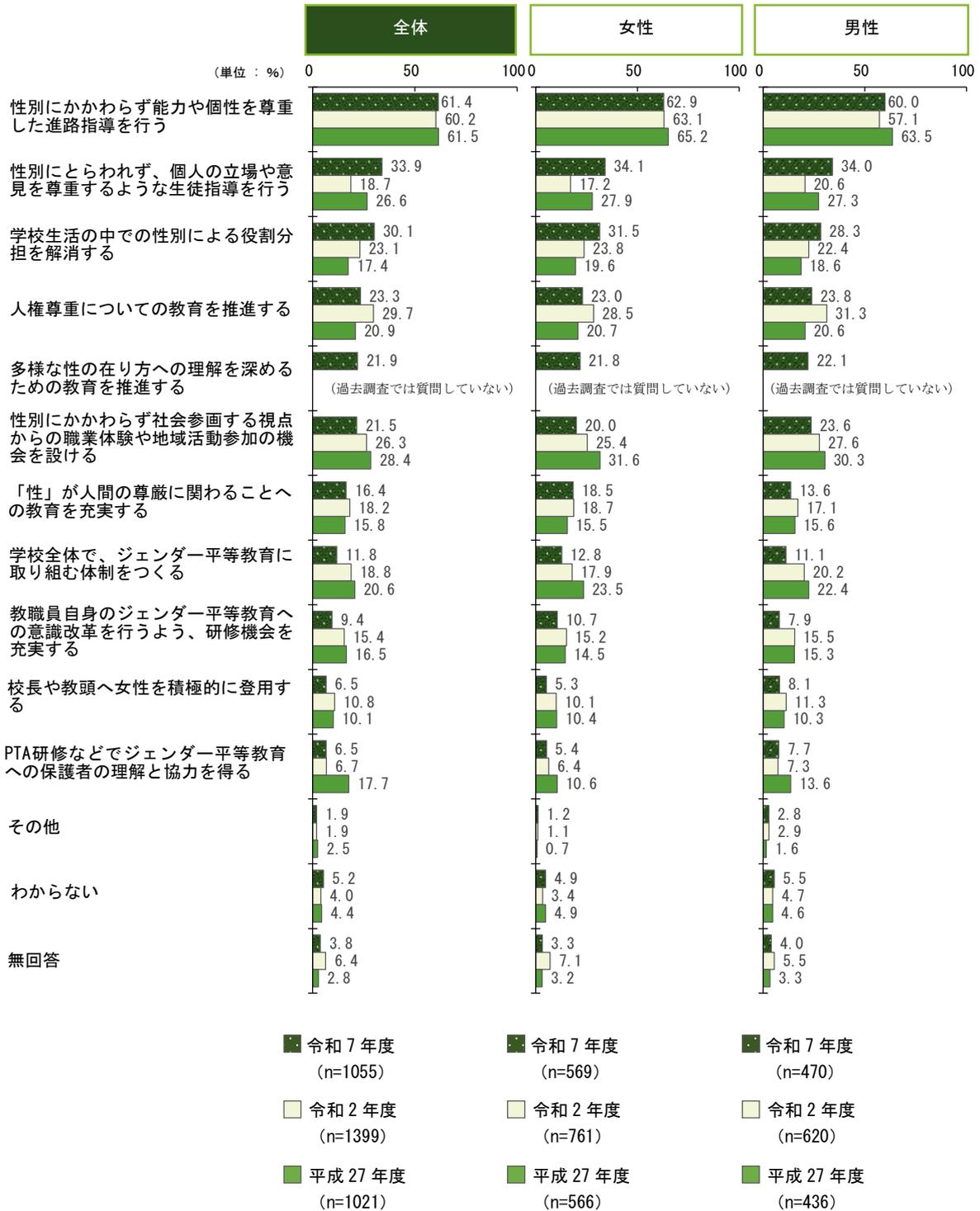
問 11 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。（3 つまで選択）

○ 「性別にかかわらず能力や個性を尊重した進路指導を行う」が 61.4%で最も高く、次いで「性別にとらわれず、個人の立場や意見を尊重するような生徒指導を行う」（33.9%）、「学校生活の中での性別による役割分担を解消する」（30.1%）となっている。この順位について、性別による違いは見られなかった。



4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること【前回調査との比較・性別】

○ 前回調査と比較すると、全体では「性別にとらわれず、個人の立場や意見を尊重するような生徒指導を行う」の回答が15.2ポイント増加、「学校生活の中での性別による役割分担を解消する」(7.0ポイント増)となっている。その一方で、「学校全体で、ジェンダー平等教育に取り組む体制をつくる」(7.0ポイント減)、「人権尊重についての教育を推進する」(6.4ポイント減)となっている。



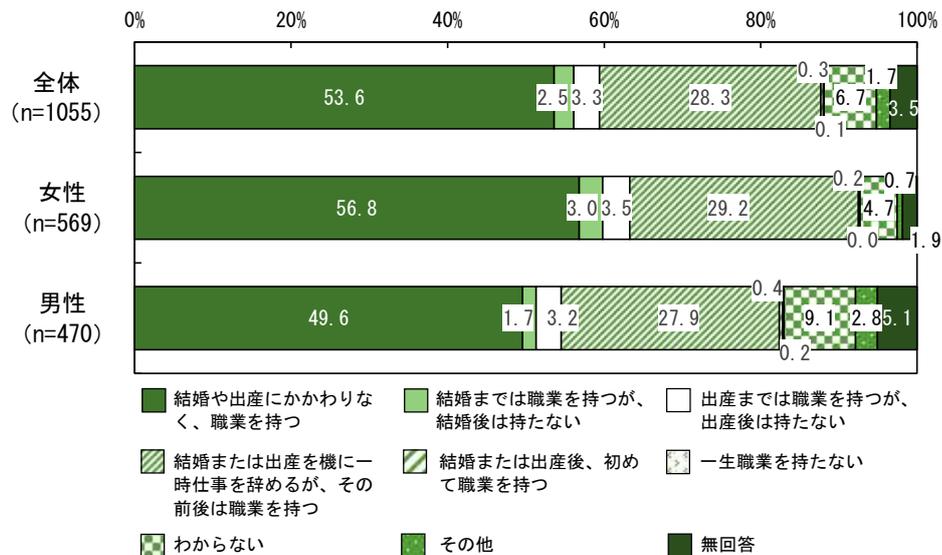
## 5. 就労について

### 5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方 【クロス集計（性別）】

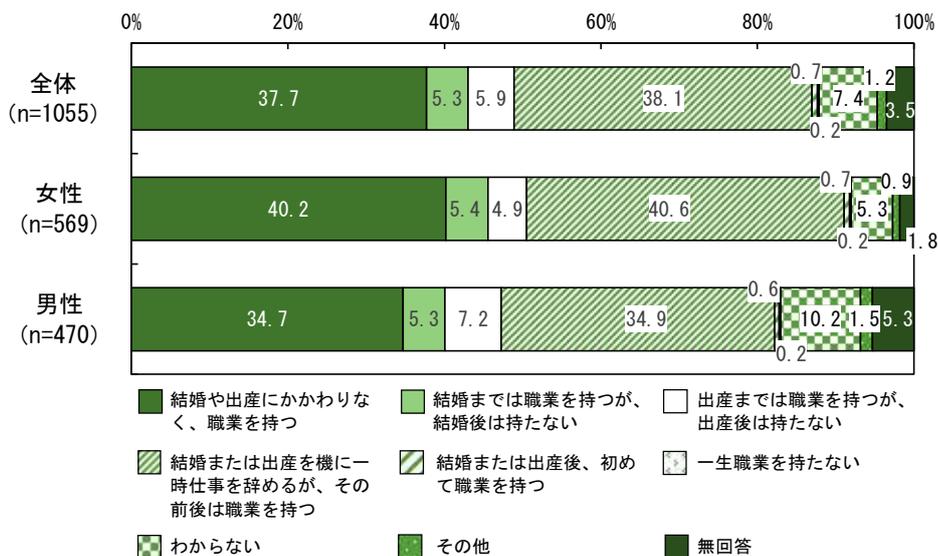
**問 12-1** 就職と結婚、出産を中心にした「女性」の生き方について、あなたはどの考えに近いですか。理想の（理想としていた）「女性」の生き方についてお教えてください。（1つ選択）

○ 性別ごとに見ると、女性では「理想の（理想としていた）生き方」として、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が56.8%で最も高くなっている。その一方で、「実際になりそうな（現実にそうなっている）生き方」では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が40.6%で最も高くなっている。

#### 【理想の（理想としていた）生き方】



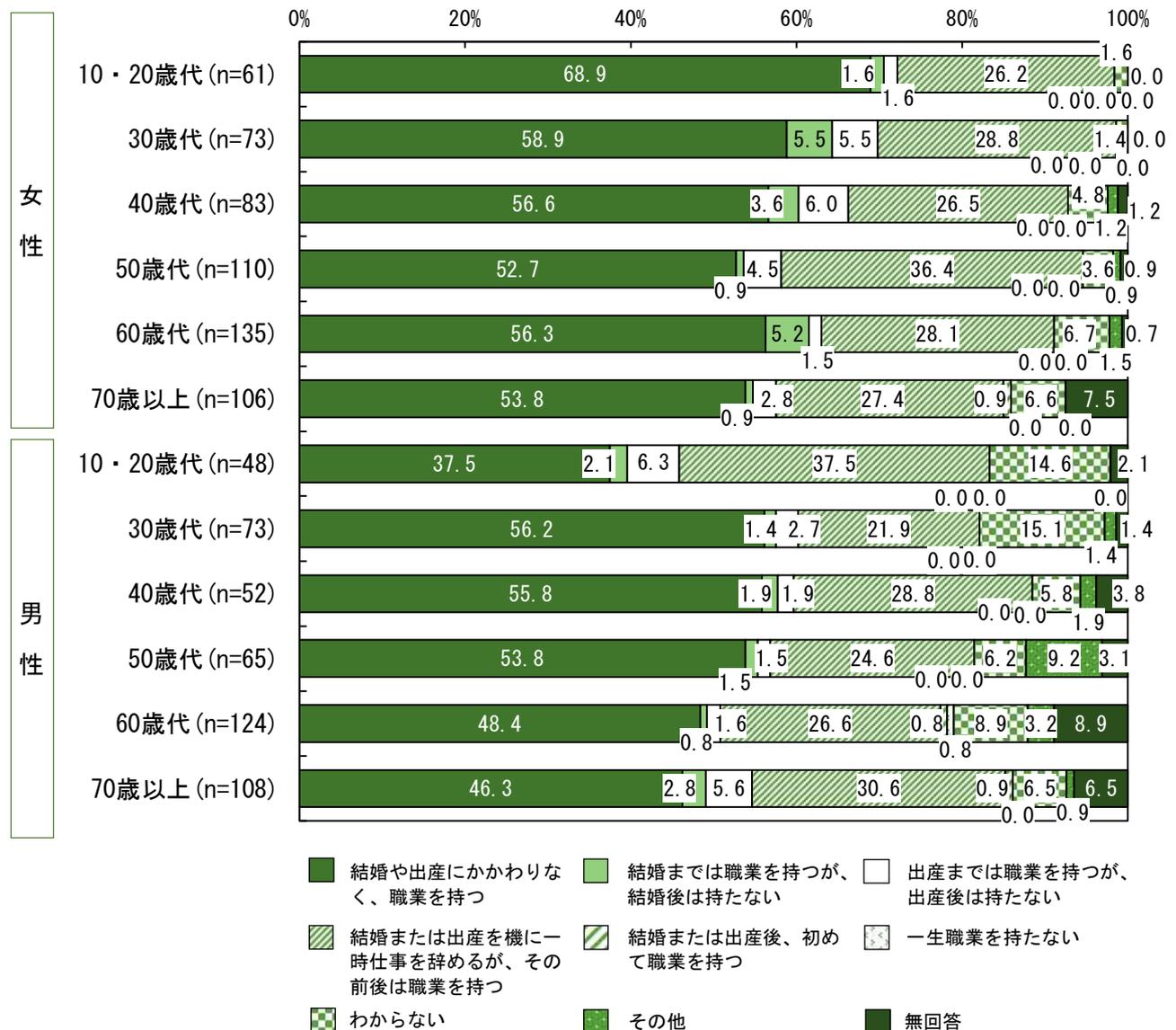
#### 【実際になりそうな（現実にそうなっている）生き方】



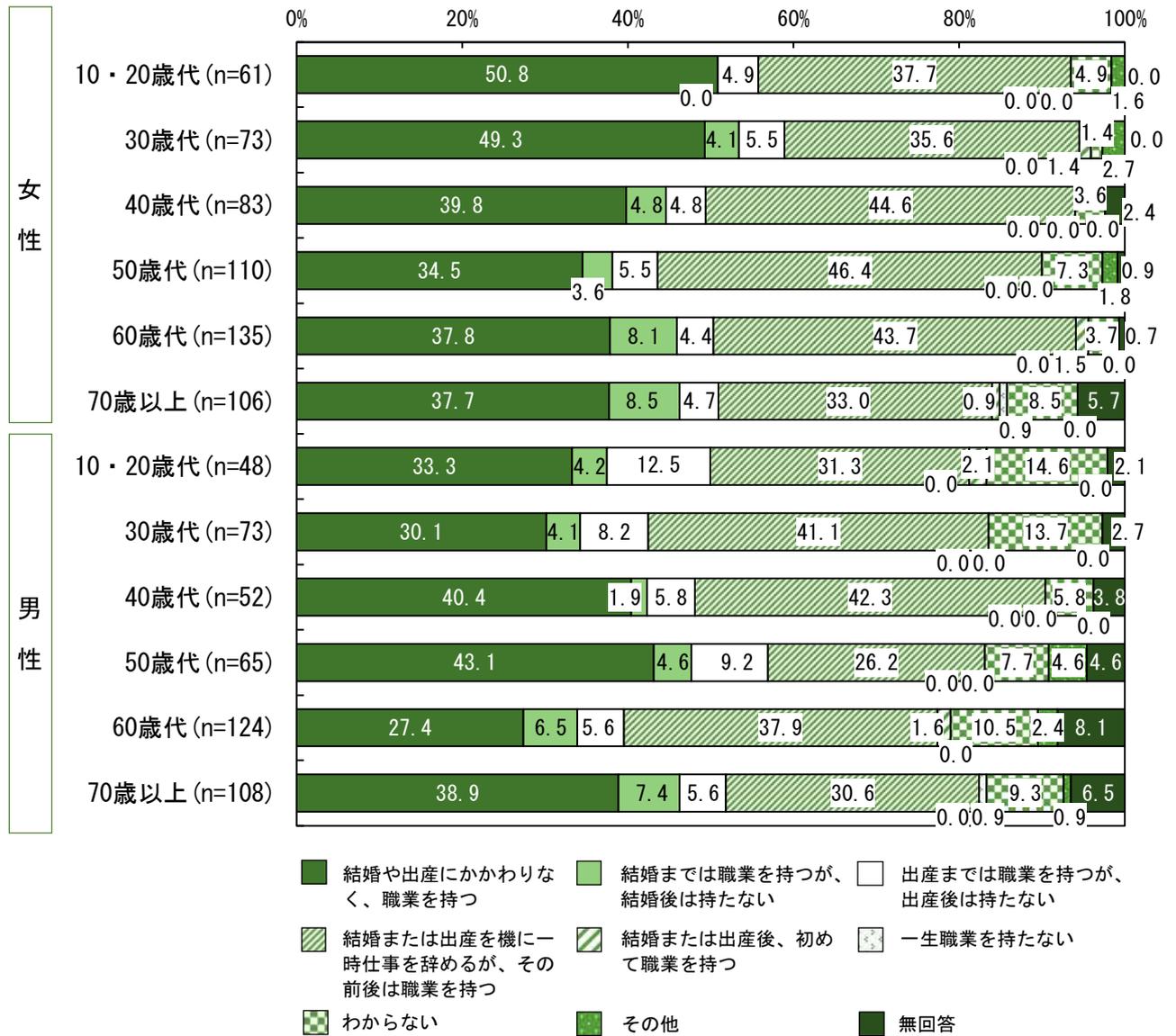
5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、男女ともに全ての年齢階層において「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」を「理想の生き方」としている割合が最も高い。ただし、実際の生き方については、女性の40歳代、50歳代、60歳代ならびに男性の30歳代、40歳代、60歳代において、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が最も高くなっている。
- 理想の生き方としては、男性においては10・20歳代で特徴があり、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」と答える人の割合が37.5%で他の年代に比べて最も高く、「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」と同率となっている。

【理想の（理想としていた）生き方】



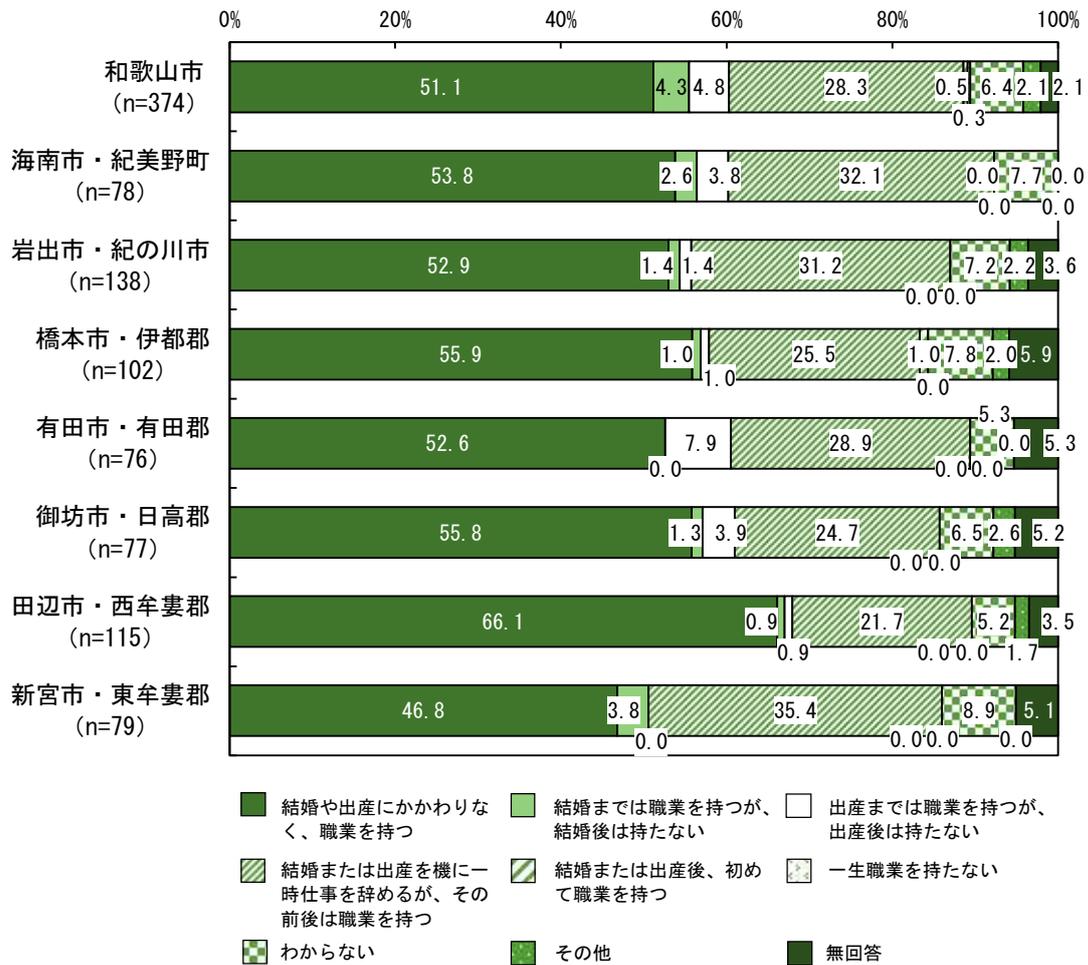
【実際になりそうな（現実にそうなっている）生き方】



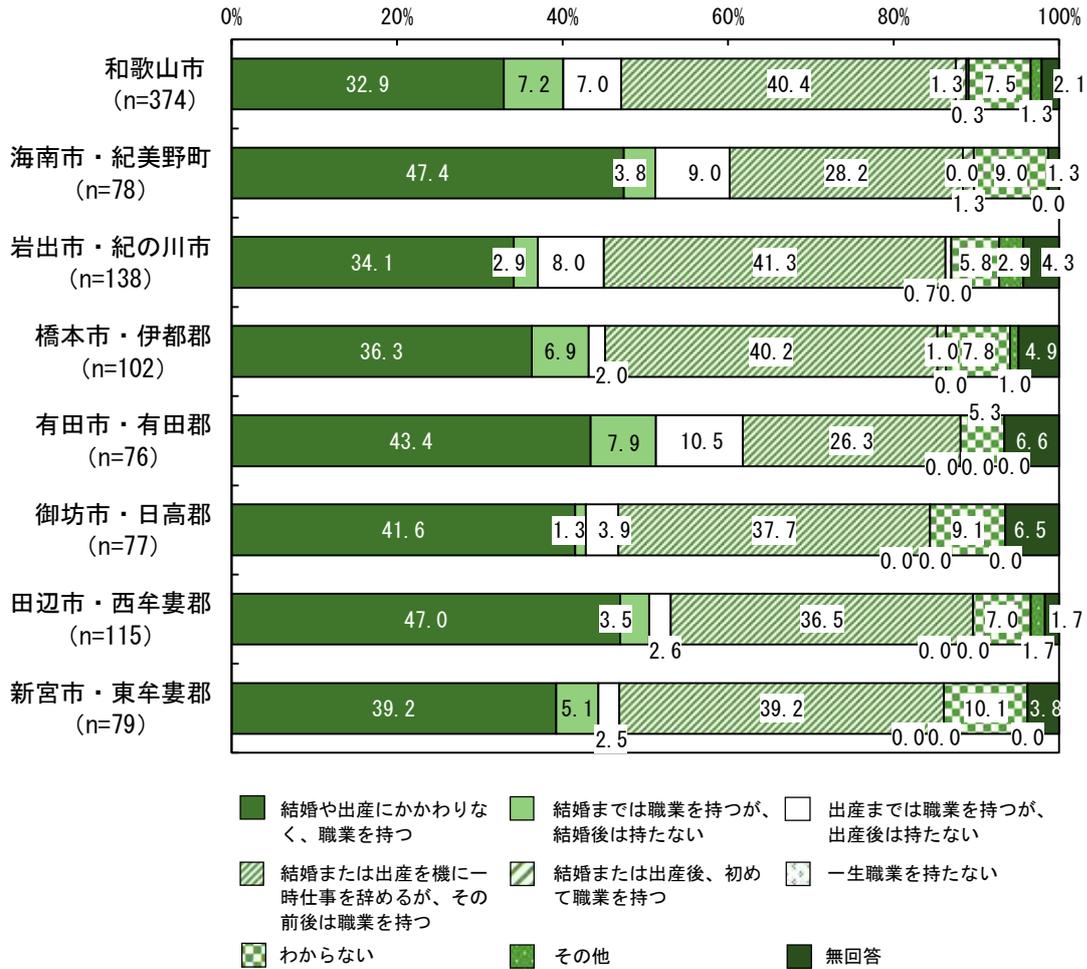
5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方 【クロス集計（地域別）】

- 地域別に見ると、全ての地域において、「理想の生き方」としては、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高くなっている（特に田辺市・西牟婁郡で66.1%と高い）。
  - 実際の生き方については、海南市・紀美野町、有田市・有田郡、御坊市・日高郡、田辺市・西牟婁郡、新宮市・東牟婁郡では、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高くなる一方で、和歌山市、岩出市・紀の川市、橋本市・伊都郡、新宮市・東牟婁郡では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が最も高い。
- \*新宮市・東牟婁郡は上記2項目が同率で最も高い回答

【理想の（理想としていた）生き方】



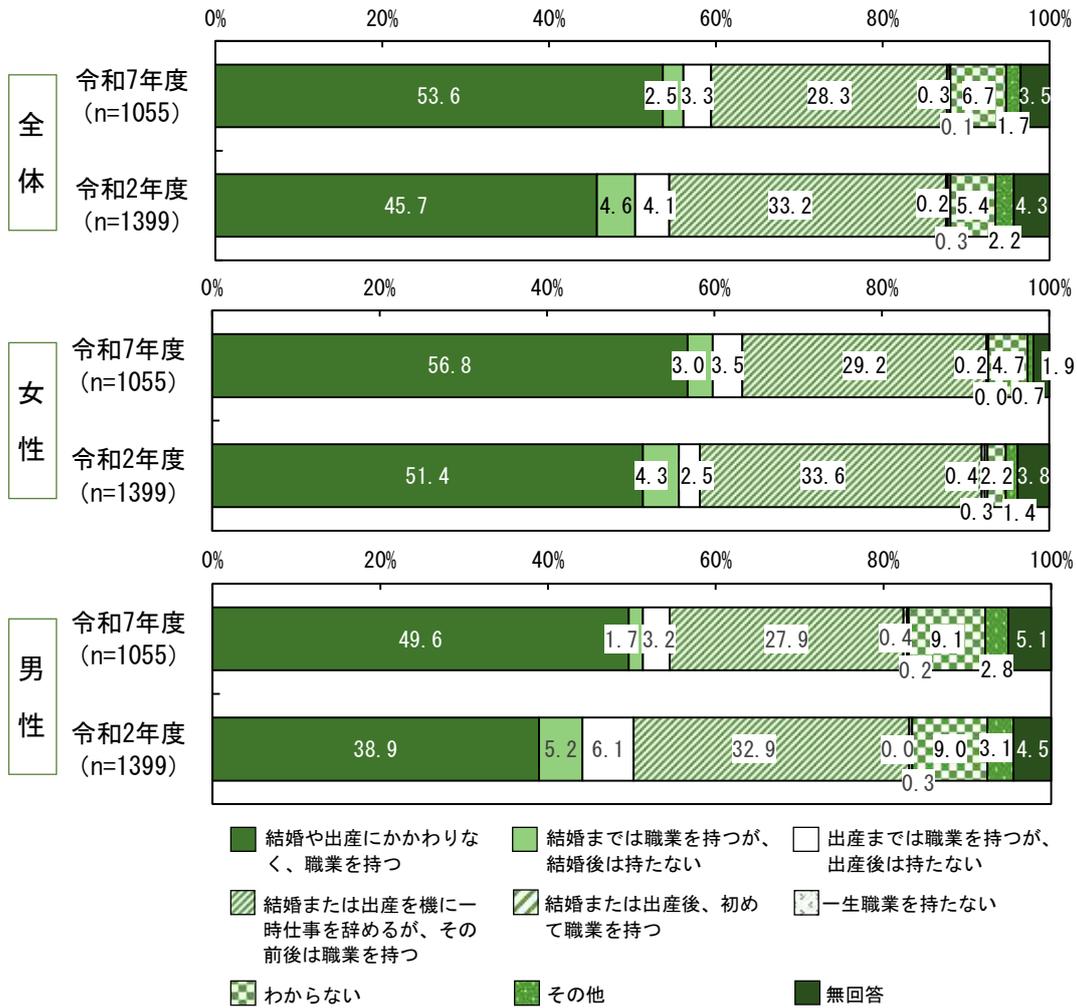
【実際になりそうな（現実にそうなっている）生き方】



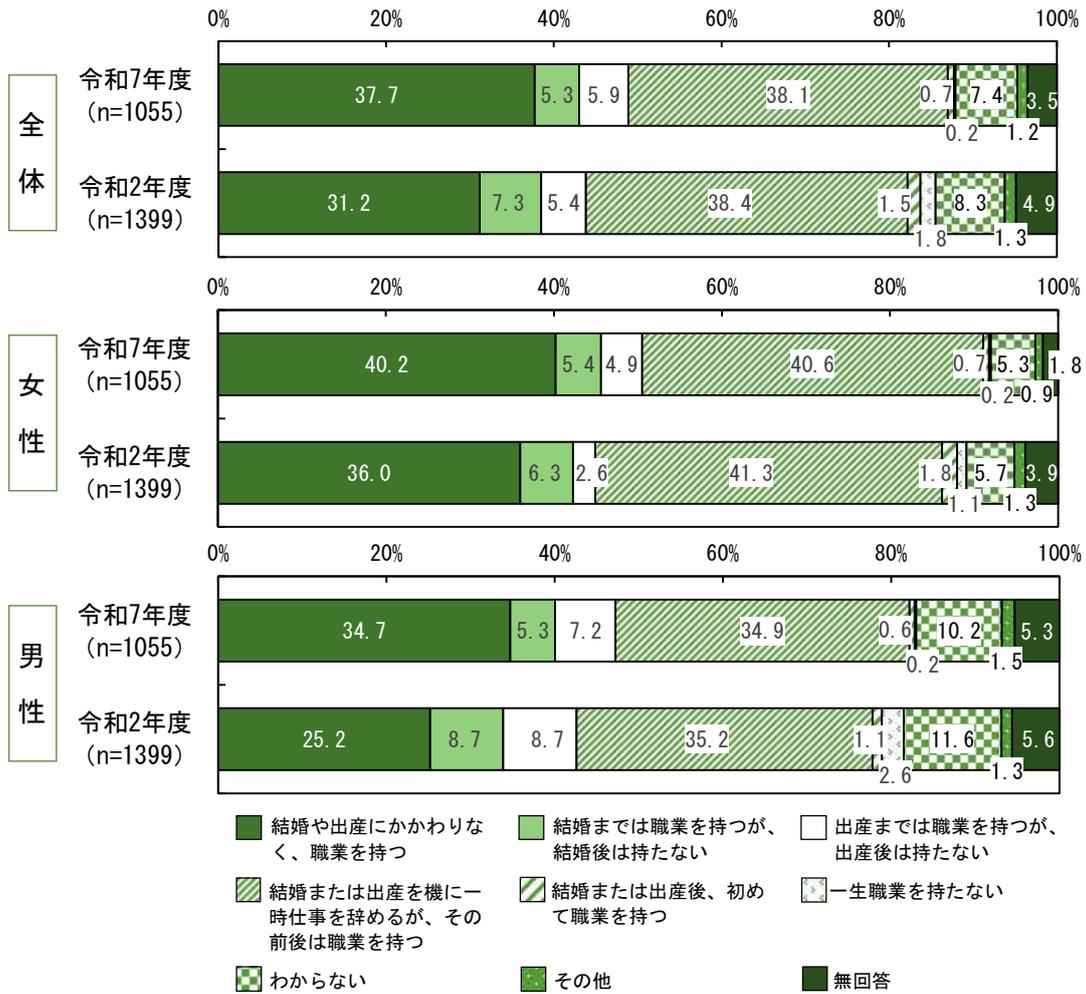
5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方 【前回調査との比較・性別】

- 前回調査と比較すると、「理想の生き方」に関しては男女ともに「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」が増加（女性 5.4 ポイント増、男性 10.7 ポイント増）し、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」という考え方が減少している（女性 4.4 ポイント減、男性 5.0 ポイント減）。
- 実際の生き方についても男女ともに「結婚や出産にかかわりなく、職業を持つ」が増加し（女性 4.2 ポイント増、男性 9.5 ポイント増）、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」や「結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない」が微減している。

【理想の（理想としていた）生き方】



【実際になりそうな（現実にそうなっている）生き方】

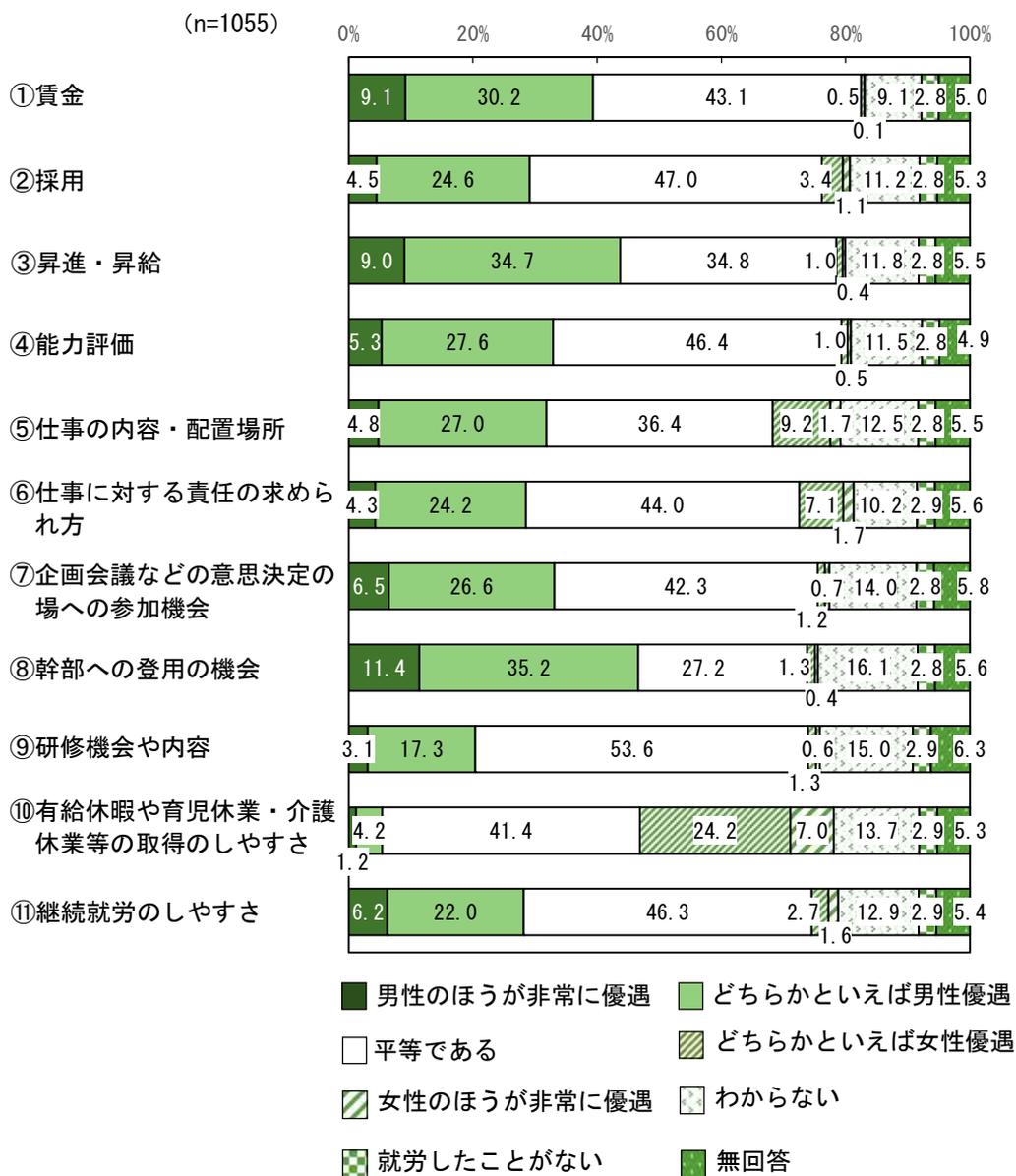


5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと

**問 13** あなたの職場で、次の項目において女性と男性は平等になっていると思いますか。  
(それぞれ1つ選択)

- 「③昇進・昇給」、「⑧幹部への登用の機会」を除く項目では、「平等である」が最も高くなっている。
- 『男性優遇』と答える人の割合が高かった項目は、順に「⑧幹部への登用の機会」(46.6%)、「③昇進・昇給」(43.7%)、「①賃金」(39.3%)となっている。
- 一方で『女性優遇』については「⑩有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ」で31.2%となっており、次いで「⑤仕事の内容・配置場所」(10.9%)、「⑥仕事に対する責任の求められ方」(8.8%)の順に高くなっている。

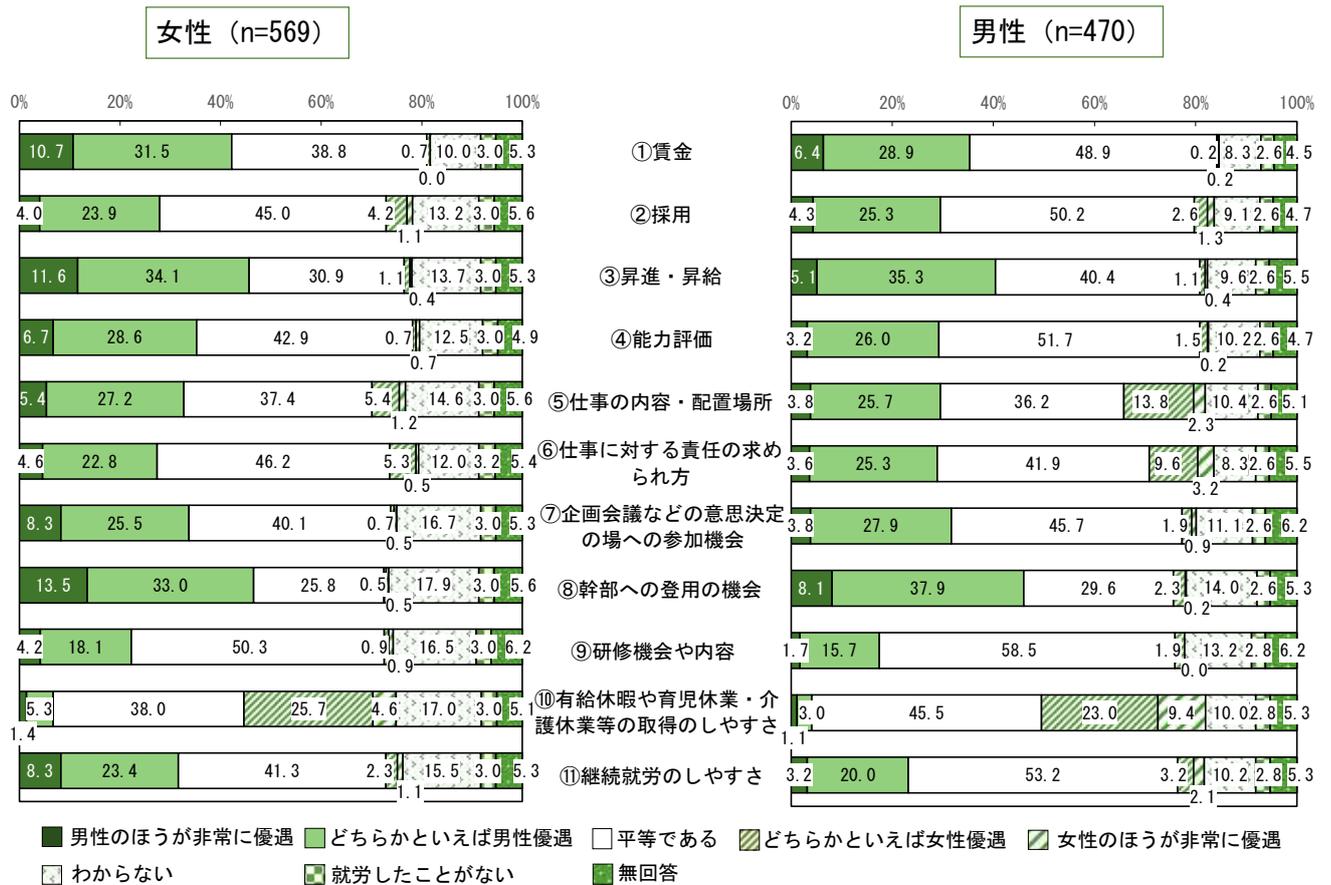
(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせたものであり、『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」、「どちらかといえば女性が優遇」を合わせたもの。



5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと 【クロス集計（性別）】

- 性別ごとに見ると、男女ともに「⑧幹部への登用の機会」で『男性優遇』が最も高い。『男性優遇』との回答が高かった項目のうち、性別ごとに差異があったのは「①賃金」（6.9ポイント差）で、女性の方が『男性優遇』と感じている結果となった。
- 一方で「⑤仕事の内容・配置場所」では『女性優遇』と感じている人の割合が女性は6.6%であるのに対して男性では16.1%で9.5ポイントの差があり、性別間で認識の違いがみられる。また「⑥仕事に対する責任の求められ方」についても『女性優遇』と答える人の割合が女性より男性が7.0ポイント高くなっており、性別による回答状況の差がある。

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」を合わせたものであり、『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」、「どちらかといえば女性が優遇」を合わせたもの。



5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、全ての項目で概ね男女ともに年齢層が上がるにつれ『男性優遇』と感じている傾向にある。
- 「②採用」については女性の10・20歳代、30歳代、40歳代において約1割が『女性優遇』と感じている（男性は10・20歳代で『女性優遇』が約1割）。
- 「⑤仕事の内容・配置場所」では男性でどの年代においても『女性優遇』と感じる割合が女性よりも高く、10・20歳代、40歳代では『男性優遇』を上回っている。

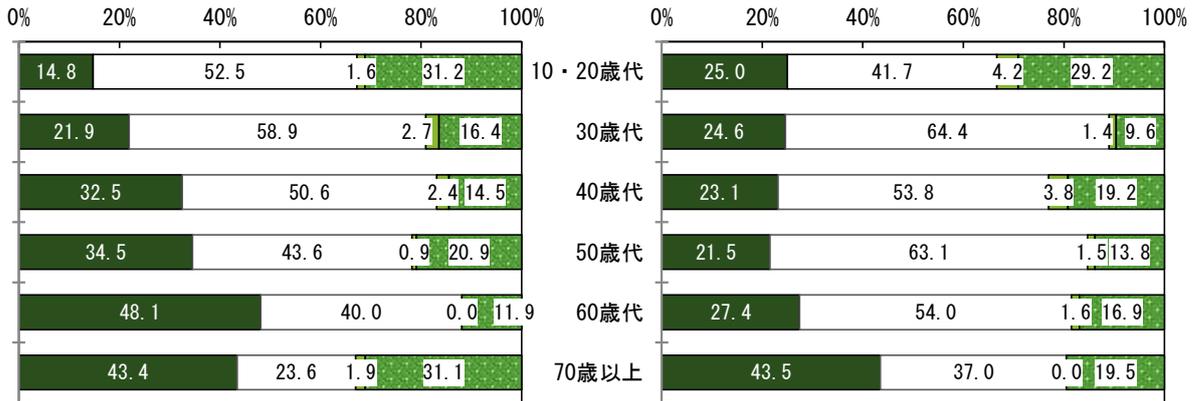


(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

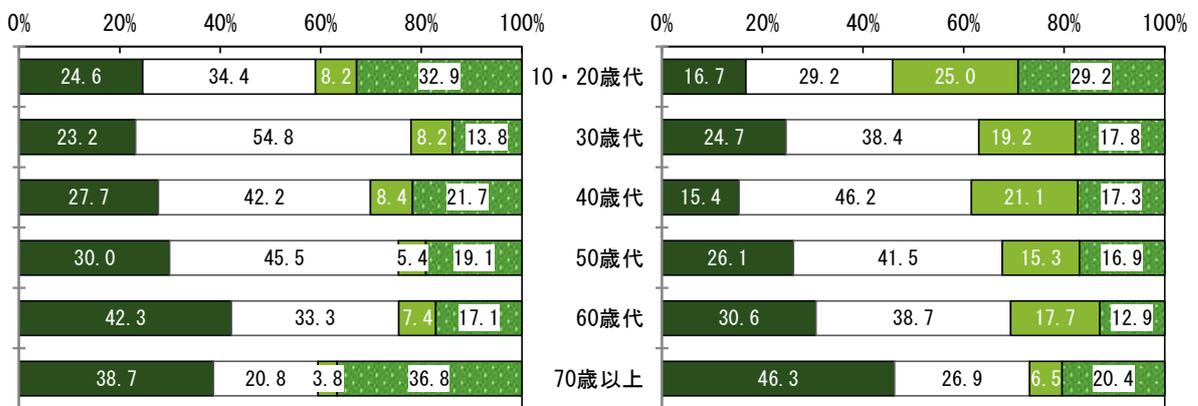
女性 (n=569)

男性 (n=470)

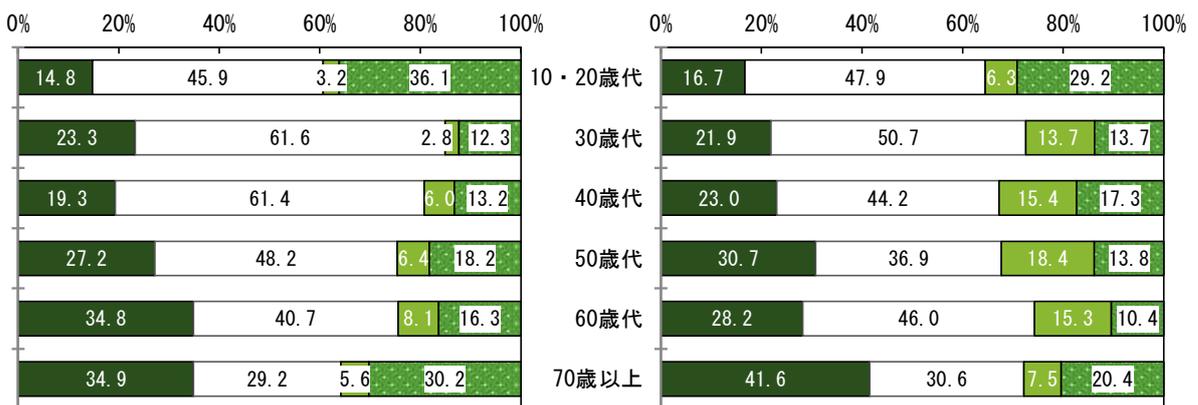
④能力評価



⑤仕事の内容・配置場所



⑥仕事に対する責任の求められ方



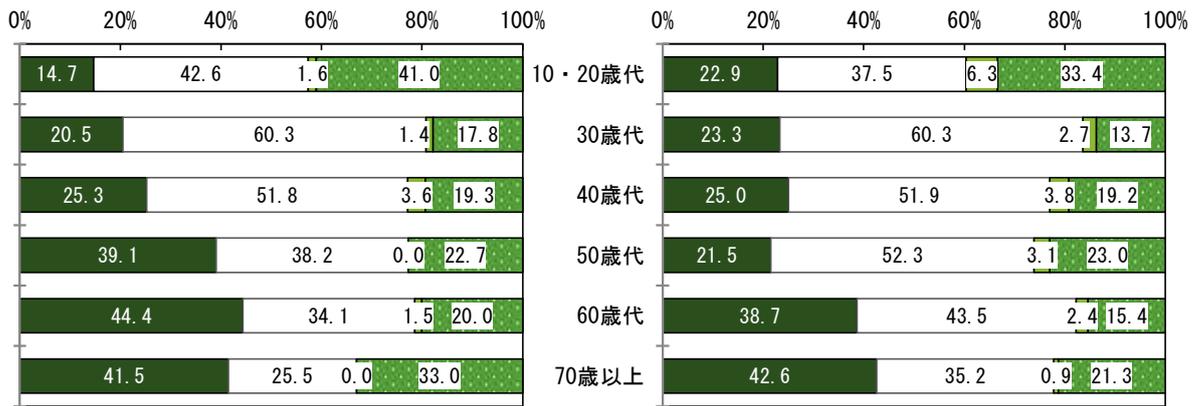
■ 『男性優遇』 □ 『平等』 ■ 『女性優遇』 ■ 『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

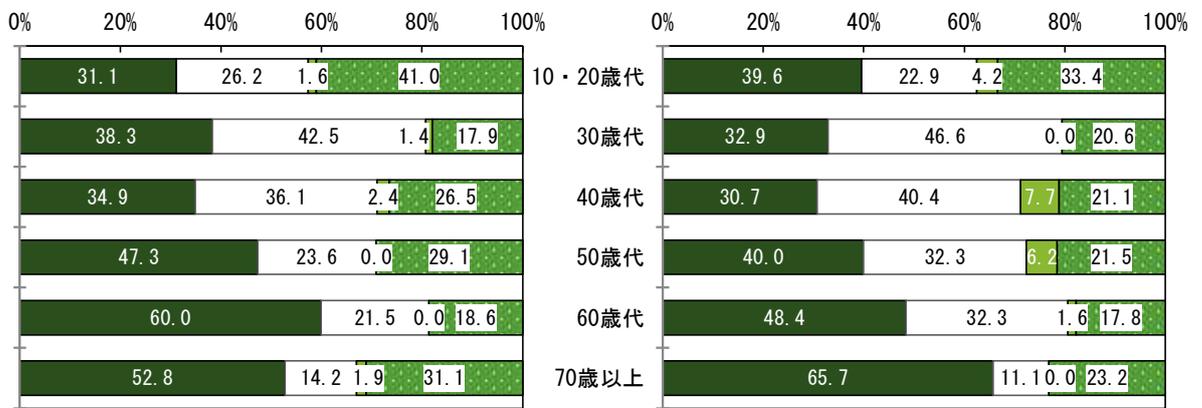
女性 (n=569)

男性 (n=470)

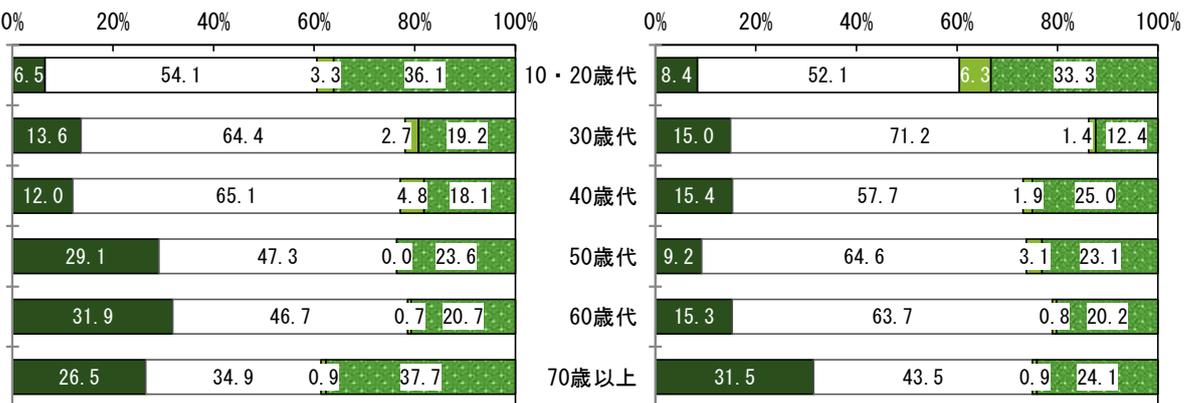
⑦企画会議などの意思決定の場への参加機会



⑧幹部への登用の機会



⑨研修機会や内容



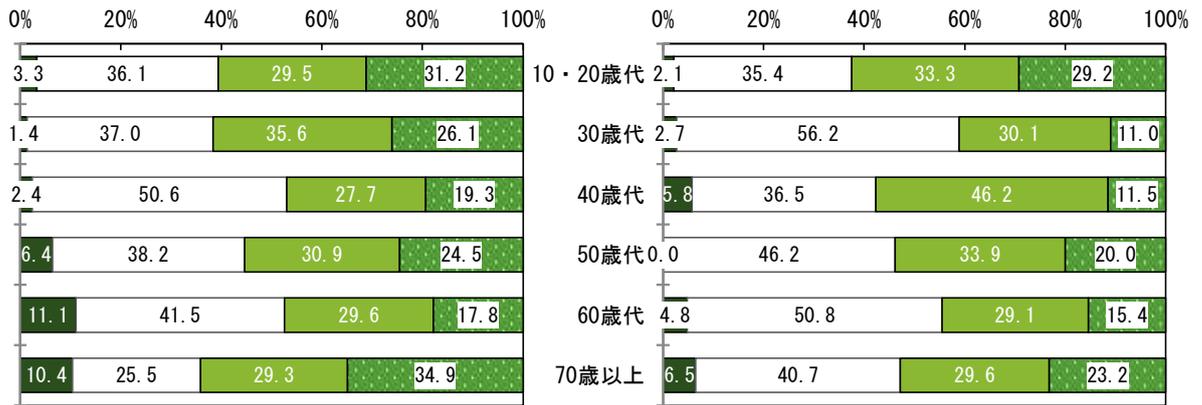
■『男性優遇』 □『平等』 ■『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

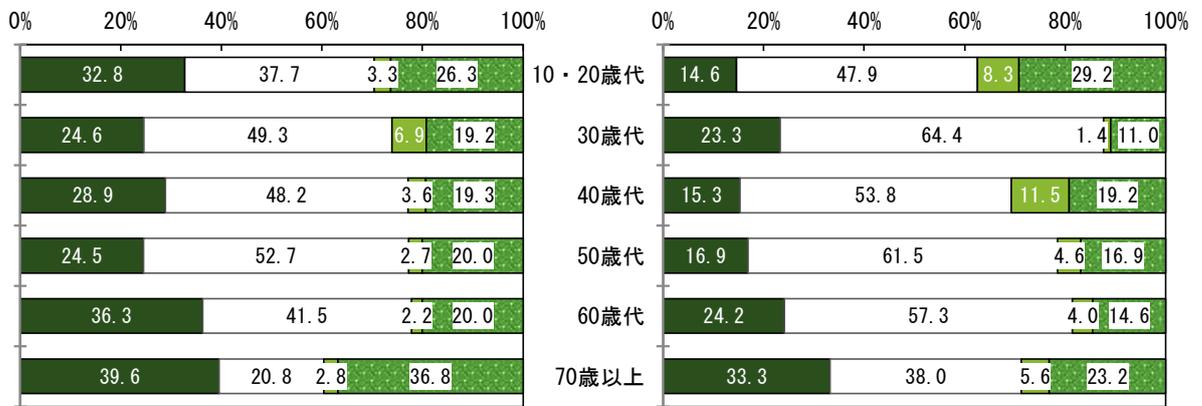
女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑩有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ



⑪継続就労のしやすさ

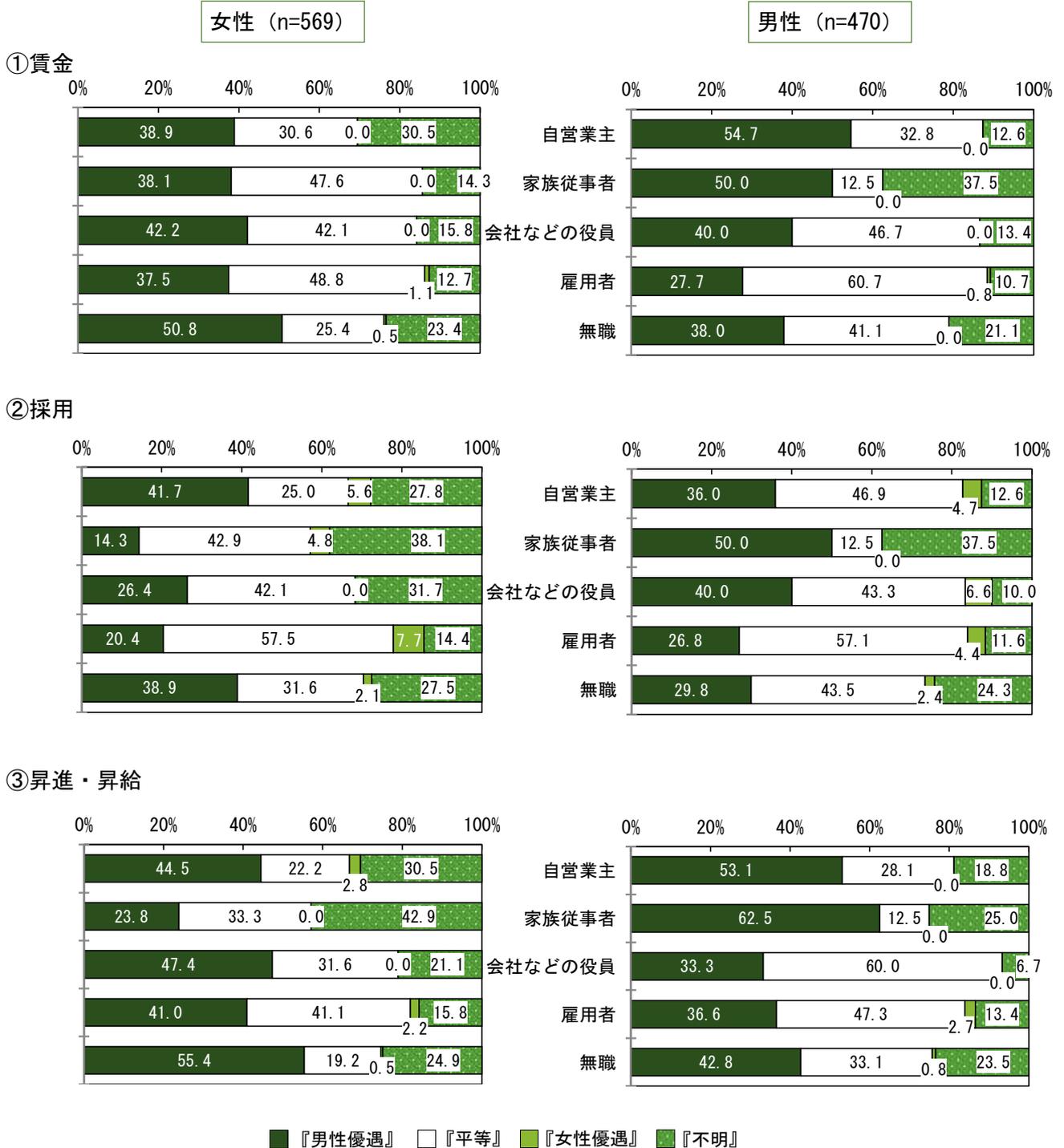


■ 『男性優遇』 □ 『平等』 ■ 『女性優遇』 ■ 『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと 【クロス集計（性・職業別）】

○ 性・職業別に見ると、自営業主（男性・女性）、家族従事者（男性）、無職（女性）において他の職業に比べ多くの項目で『男性優遇』と回答している割合が高い傾向となっている。

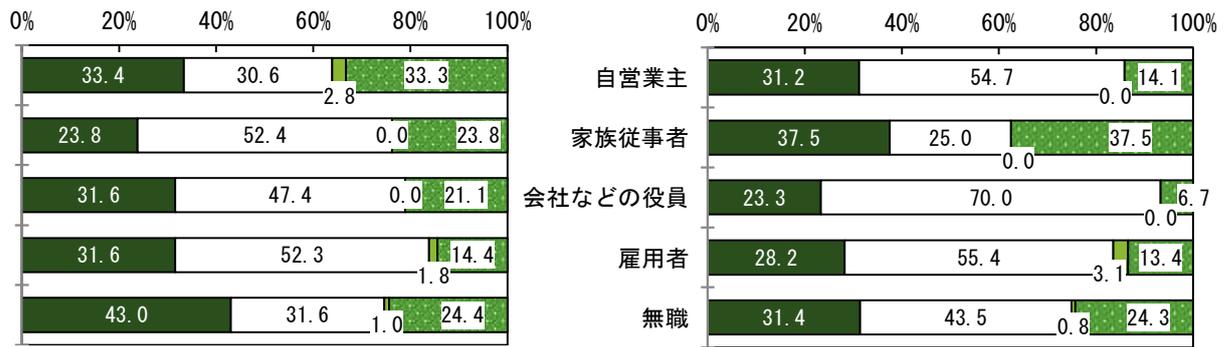


(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

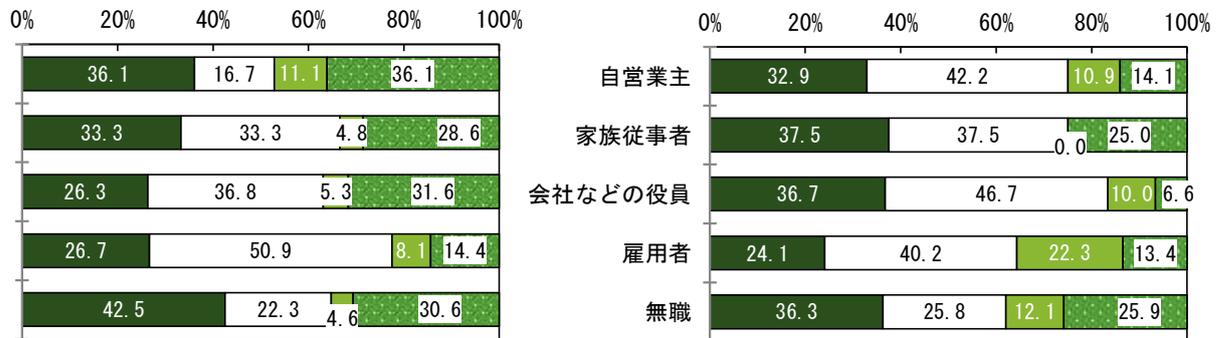
女性 (n=569)

男性 (n=470)

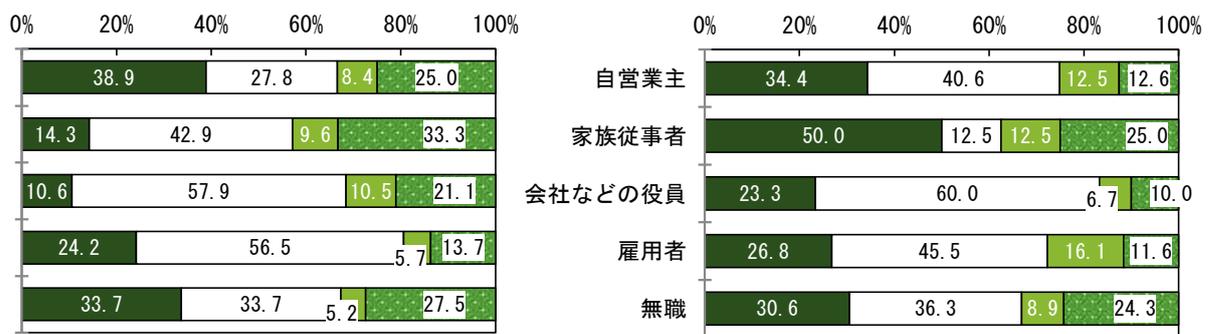
④能力評価



⑤仕事の内容・配置場所



⑥仕事に対する責任の求められ方



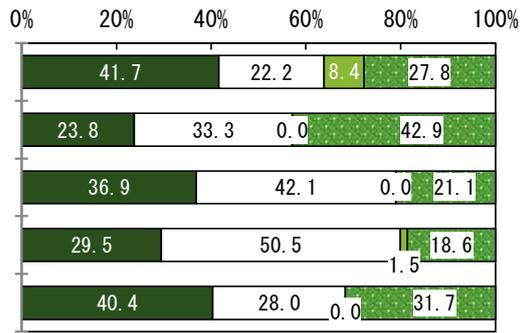
■ 『男性優遇』 □ 『平等』 ■ 『女性優遇』 ■ 『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

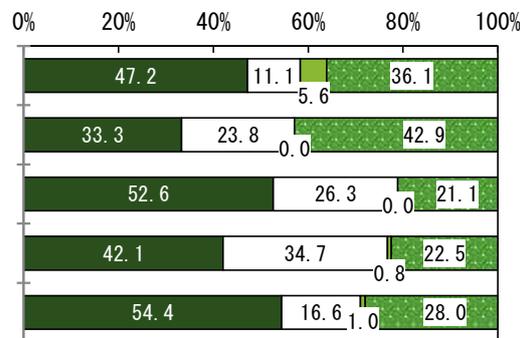
女性 (n=569)

男性 (n=470)

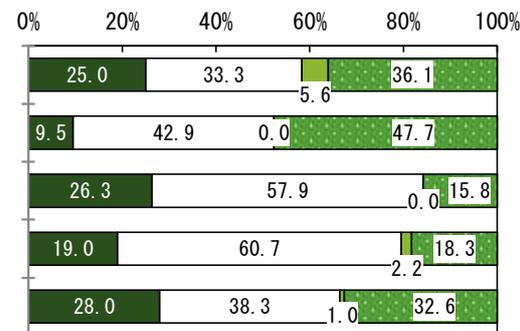
⑦企画会議などの意思決定の場への参加機会



⑧幹部への登用の機会



⑨研修機会や内容



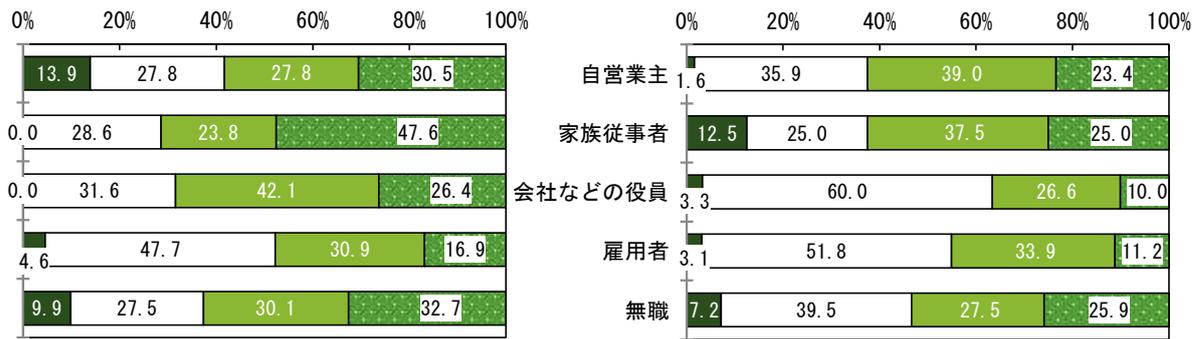
■『男性優遇』 □『平等』 ■『女性優遇』 ■『不明』

(\*) 『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

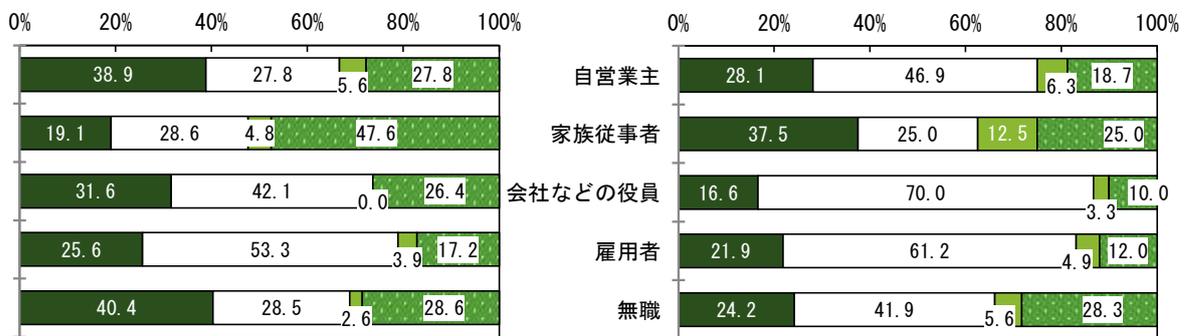
女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑩有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ



⑪継続就労のしやすさ



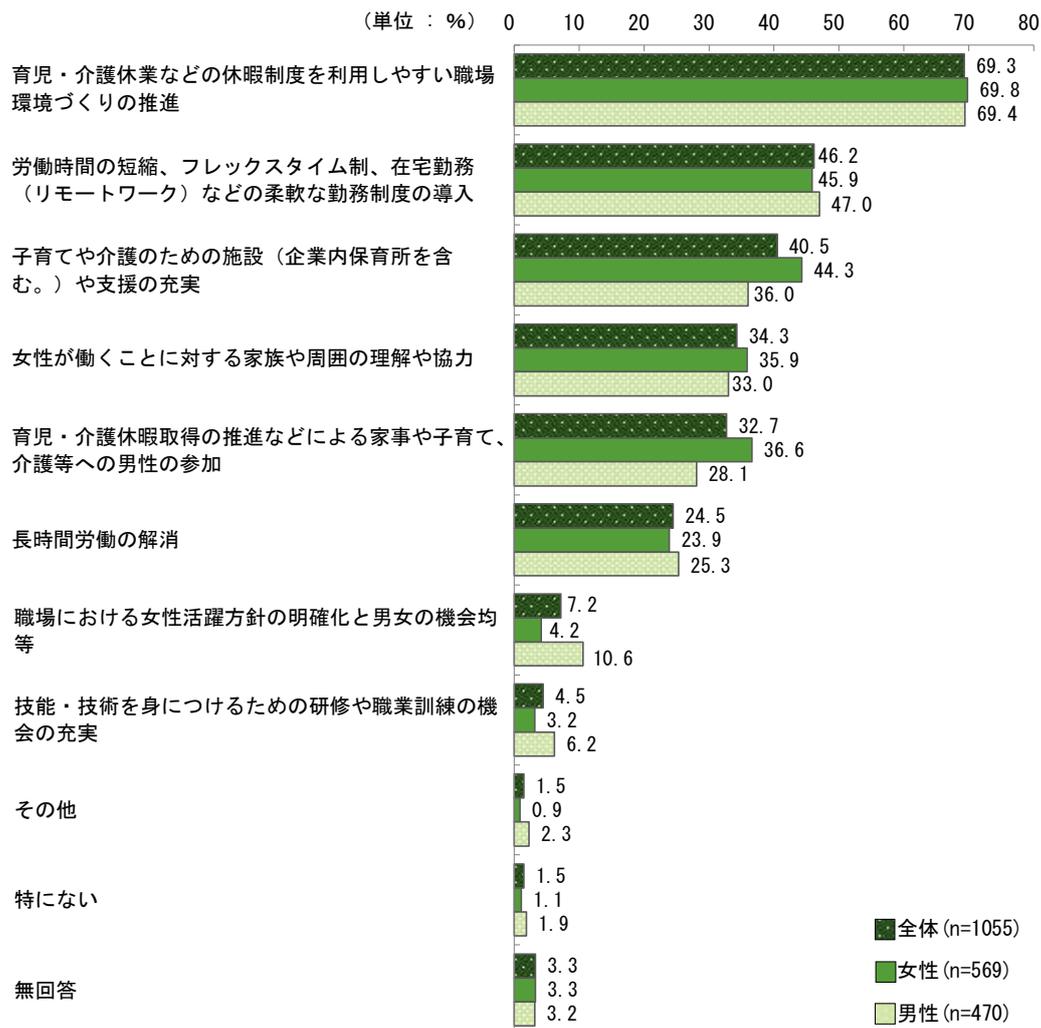
■『男性優遇』 □『平等』 ■『女性優遇』 ■『不明』

(\*)『男性優遇』は、「男性が非常に優遇」または「どちらかといえば男性が優遇」  
 『平等』は「平等である」  
 『女性優遇』は、「女性が非常に優遇」または「どちらかといえば女性が優遇」  
 『不明』は、「わからない」または「就労したことがない」または「無回答」

5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと【クロス集計（性別）】

**問 14** 女性が結婚後、出産後も継続的に就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択）

- 全体では、「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が69.3%で最も高く、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務（リモートワーク）などの柔軟な勤務制度の導入」（46.2%）となっている。
- 性別ごとに見ると、回答状況に大きな違いは見られないが、「子育てや介護のための施設や支援の充実」（女性44.3%、男性36.0%）、「育児・介護休暇取得の推進などによる家事や子育て、介護等への男性の参加」（女性36.6%、男性28.1%）では、女性の方が男性よりも回答割合が高い。



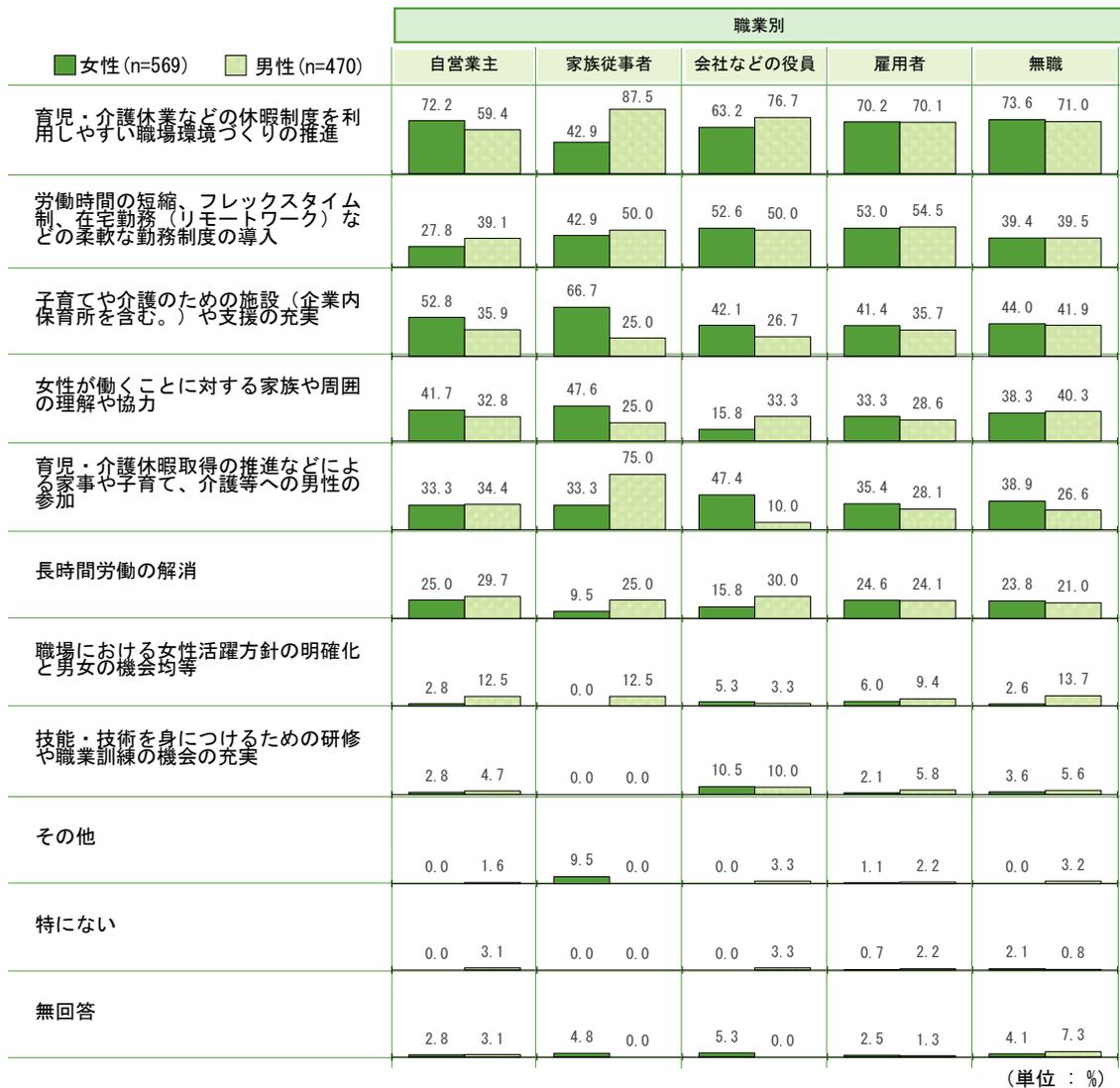
5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、いずれの性年代においても、「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が最も高くなっている。また、多くの性年代において、「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務（リモートワーク）などの柔軟な勤務制度の導入」が2番目に高い回答となっている。ただし、女性の60歳代、70歳以上では、「子育てや介護のための施設や支援の充実」が2番目に高い。



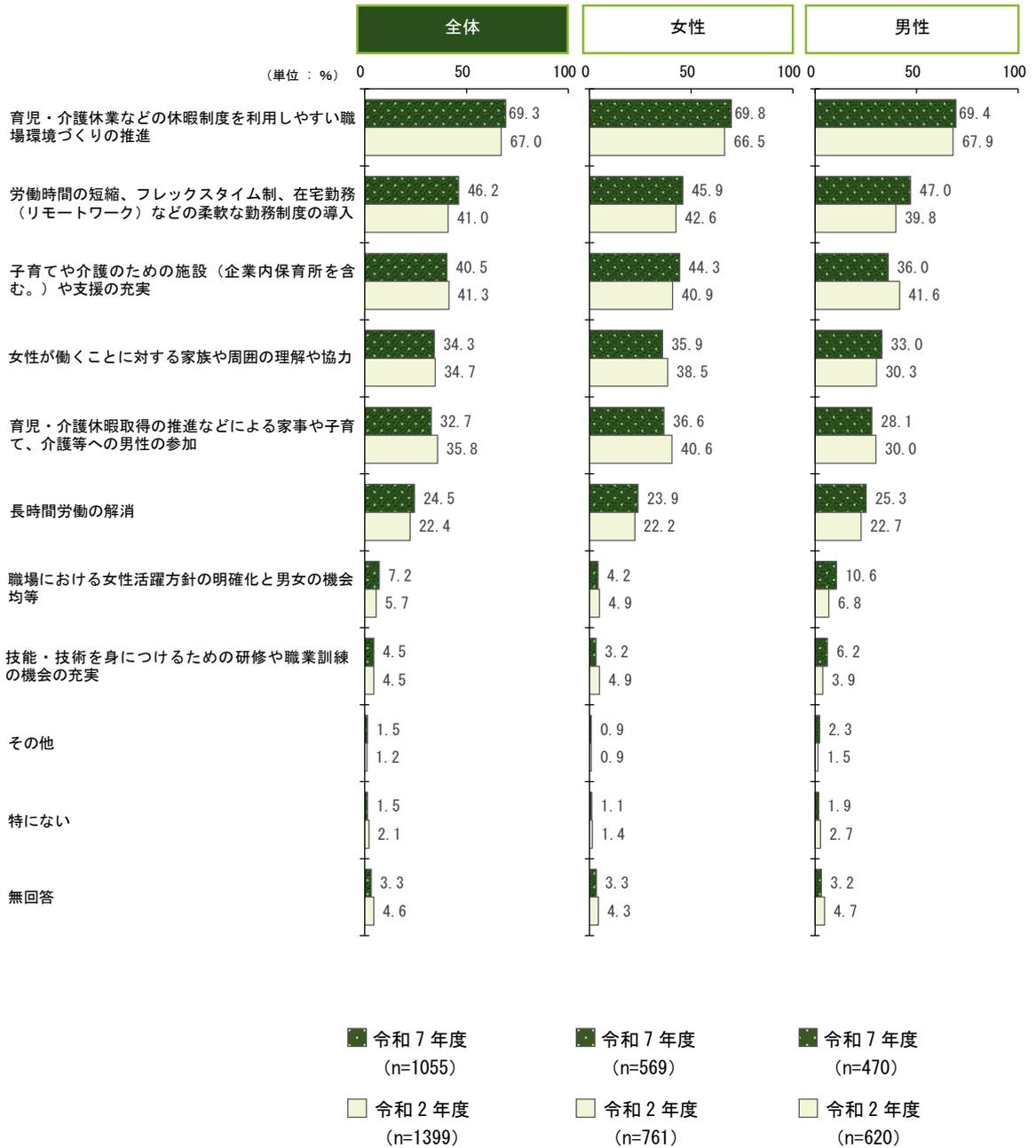
5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと【クロス集計（性・職業別）】

- 性・職業別に見ると、家族従事者（女性）を除く全ての性・職業で「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が最も高くなっている。
- 男女ともに会社などの役員、雇用者では、「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務（リモートワーク）などの柔軟勤務制度の導入」が2番目に高い。自営業主（女性）、無職の男女では「子育てや介護のための施設や支援の充実」が2番目に高くなっている。



5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 【前回調査との比較】

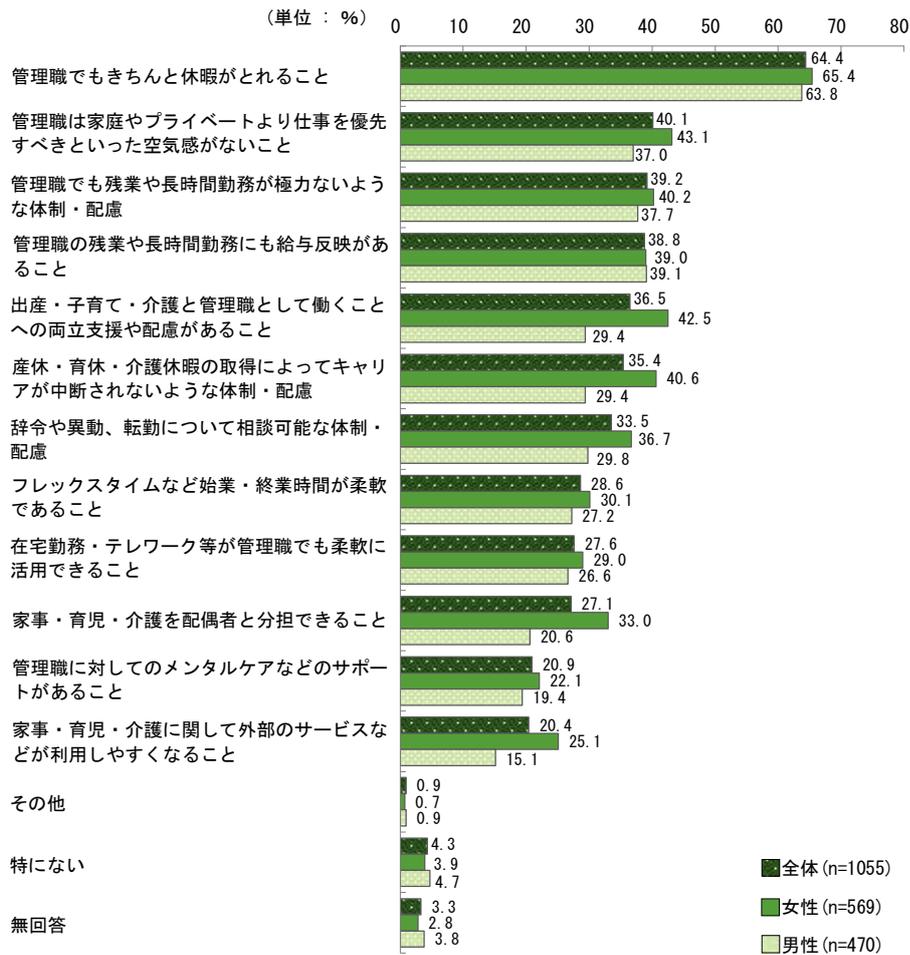
- 前回調査と比較すると、「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が2.3ポイント増加し、「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務などの柔軟な勤務制度の導入」も5.2ポイント増加した。
- 性別ごとに見ると、「労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務などの柔軟な勤務制度の導入」では男性の方が女性よりも増加している（女性3.3ポイント増、男性7.2ポイント増）。「子育てや介護のための施設や支援の充実」は、男性が5.6ポイント減少する一方で、女性は3.4ポイント増加した。



5-4 管理職として働く条件 【クロス集計（性別）】

**問 15** 仕事において、どんなことがあれば、管理職として働きたい・働けそうだと思いますか。（3 つまで選択）

- 全体では、「管理職でもきちんと休暇がとれること」（64.4%）が最も高く、次いで「管理職は家庭やプライベートより仕事を優先すべきといった空気感がないこと」（40.1%）、「管理職でも残業や長時間勤務が極力ないような体制・配慮」（39.2%）となっている。
- 性別ごとに見ると、回答に差異があったものとして「出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること」で女性が 13.1 ポイント男性よりも高く、「家事・育児・介護を配偶者と分担できること」で 12.4 ポイント、「産休・育休・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮」で 11.2 ポイント高くなっていることが挙げられる。



5-4 管理職として働く条件 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、男女ともにいずれの年代においても「管理職でもきちんと休暇がとれること」の割合が最も高くなっており、全体の回答状況との大きな差異はみられないが、女性の30歳代において、「フレックスタイムなど始業・終業時間が柔軟であること」が他の性年代に比べて高くなっている。
- 「管理職でも残業が極力ないような体制・配慮」の項目では、60歳以上の女性の回答が全体の数値よりも低いのにに対して、10～40歳代女性の回答では全体の数値よりも10ポイント以上高くなっている。

	全体 (n=1055)	性年代別					
		10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
管理職でもきちんと休暇がとれること	64.4	72.1 64.6	75.3 72.6	68.7 65.4	67.3 66.2	54.1 57.3	65.1 63.0
管理職は家庭やプライベートより仕事を優先すべきといった空気感がないこと	40.1	54.1 33.3	61.6 50.7	53.0 44.2	40.9 33.8	33.3 36.3	31.1 28.7
管理職でも残業や長時間勤務が極力ないような体制・配慮	39.2	49.2 35.4	54.8 43.8	54.2 40.4	40.0 36.9	31.1 37.1	26.4 34.3
管理職の残業や長時間勤務にも給与反映があること	38.8	41.0 41.7	43.8 46.6	51.8 48.1	44.5 36.9	34.1 34.7	25.5 35.2
出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること	36.5	42.6 20.8	47.9 37.0	45.8 32.7	32.7 27.7	48.1 31.5	39.6 25.0
産休・育休・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮	35.4	41.0 31.3	42.5 28.8	47.0 36.5	40.9 20.0	37.8 30.6	37.7 29.6
辞令や異動、転勤について相談可能な体制・配慮	33.5	29.5 14.6	39.7 34.2	41.0 30.8	35.5 26.2	37.0 30.6	36.8 34.3
フレックスタイムなど始業・終業時間が柔軟であること	28.6	37.7 22.9	53.4 31.5	30.1 26.9	29.1 36.9	25.9 25.8	16.0 22.2
在宅勤務・テレワーク等が管理職でも柔軟に活用できること	27.6	29.5 33.3	43.8 30.1	24.1 25.0	29.1 21.5	22.2 27.4	31.1 24.1
家事・育児・介護を配偶者と分担できること	27.1	23.0 18.8	42.5 21.9	37.3 21.2	30.0 20.0	35.6 21.0	29.2 20.4
管理職に対してのメンタルケアなどのサポートがあること	20.9	24.6 10.4	28.8 20.5	31.3 17.3	26.4 26.2	16.3 20.2	12.3 18.5
家事・育児・介護に関して外部のサービスなどが利用しやすくなること	20.4	18.0 14.6	28.8 9.6	25.3 15.4	20.9 18.5	26.7 12.9	29.2 19.4
その他	0.9	1.6 2.1	0.0 0.0	1.2 0.0	0.9 3.1	0.0 0.0	0.9 0.9
特になし	4.3	1.6 6.3	2.7 4.1	1.2 0.0	6.4 4.6	3.7 6.5	5.7 4.6
無回答	3.3	3.3 6.3	1.4 1.4	1.2 0.0	0.0 3.1	2.2 5.6	7.5 4.6

(単位：%)

5-4 管理職として働く条件 【クロス集計（性・職業別）】

- 性・職業別に見ると、男性の家族従事者を除くいずれの性・職業においても、「管理職でもきちんと休暇がとれること」が最も高くなっており、全体の回答状況と変わらない。
- 次いで回答割合の高い項目としては、女性の自営業主では「産休・育休・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮」、家族従事者では「管理職でも残業や長時間労働が極力ないような体制・配慮」、会社などの役員では「出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること」となっており、女性全体との回答に差が見られる。男性においては、2番目に回答が高い項目としては、全体では「管理職の残業や長時間勤務にも給与反映があること」であるのに対し、自営業主では「管理職でも残業や長時間勤務が極力ないような体制・配慮」となっており、会社などの役員では「管理職は家庭やプライベートより仕事を優先すべきといった空気感がないこと」となっており、男性全体との回答状況に差が見られる。
- 雇用者においては男女ともに上位2項目については全体との回答状況に差異は見られない。

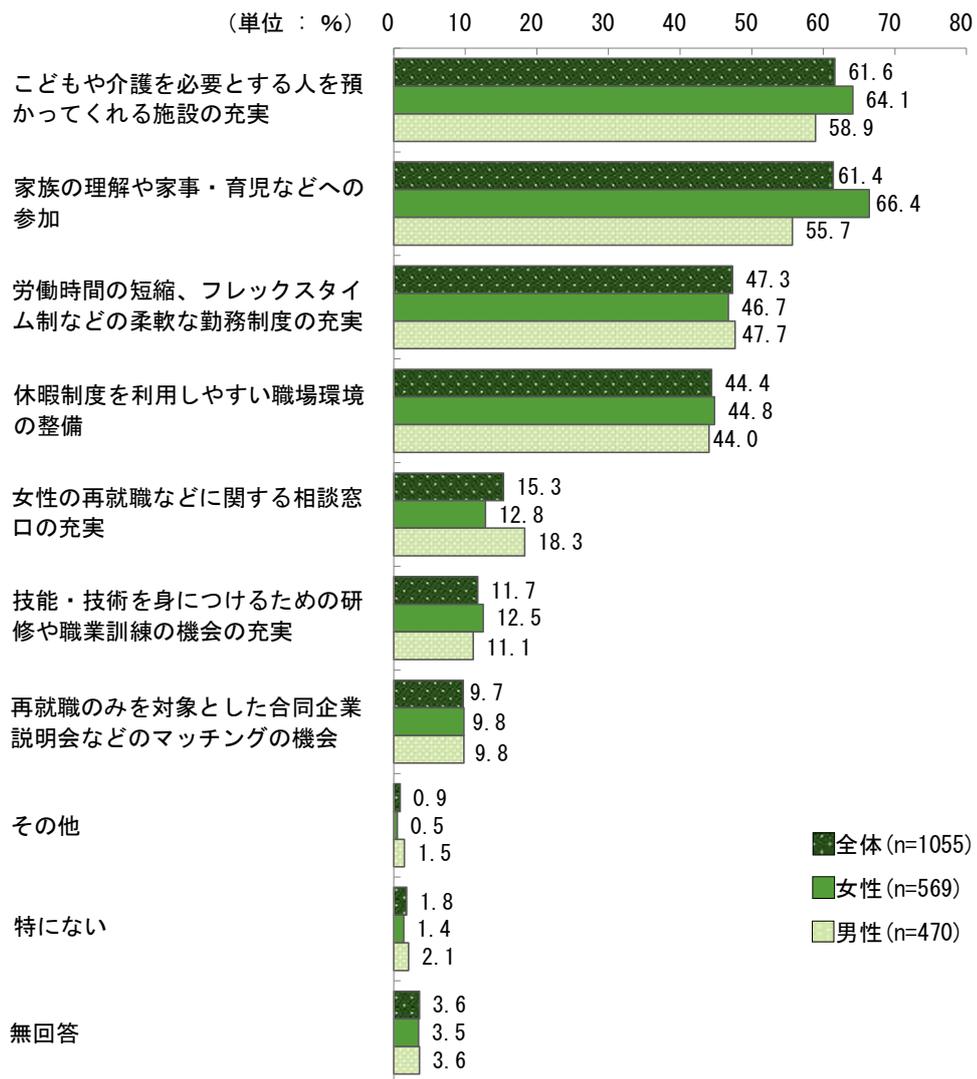
	女性 (n=569)	男性 (n=470)	性・職業別										
			全体 (n=1055)	自営業主		家族従事者		会社などの役員		雇用者		無職	
管理職でもきちんと休暇がとれること	64.4		64.4	55.6	54.7	66.7	50.0	68.4	66.7	65.6	68.3	66.3	59.7
管理職は家庭やプライベートより仕事を優先すべきといった空気感がないこと	40.1		40.1	25.0	34.4	38.1	25.0	36.8	43.3	48.1	41.5	40.4	31.5
管理職でも残業や長時間勤務が極力ないような体制・配慮	39.2		39.2	27.8	42.2	52.4	50.0	36.8	36.7	45.6	41.1	34.7	30.6
管理職の残業や長時間勤務にも給与反映があること	38.8		38.8	27.8	28.1	23.8	50.0	36.8	33.3	47.7	43.8	31.6	39.5
出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること	36.5		36.5	27.8	32.8	38.1	25.0	47.4	20.0	44.6	32.1	43.0	25.0
産休・育休・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮	35.4		35.4	36.1	32.8	19.0	12.5	31.6	26.7	44.2	30.4	39.4	27.4
辞令や異動、転勤について相談可能な体制・配慮	33.5		33.5	27.8	25.0	28.6	62.5	26.3	30.0	39.6	29.5	37.3	30.6
フレックスタイムなど始業・終業時間が柔軟であること	28.6		28.6	16.7	28.1	28.6	37.5	42.1	40.0	34.7	26.8	26.4	24.2
在宅勤務・テレワーク等が管理職でも柔軟に活用できること	27.6		27.6	25.0	18.8	38.1	25.0	21.1	36.7	30.5	28.1	28.0	26.6
家事・育児・介護を配偶者と分担できること	27.1		27.1	25.0	26.6	47.6	25.0	31.6	16.7	35.4	17.4	30.1	22.6
管理職に対してのメンタルケアなどのサポートがあること	20.9		20.9	5.6	10.9	9.5	12.5	15.8	30.0	27.4	20.1	19.7	21.0
家事・育児・介護に関して外部のサービスなどが利用しやすくなること	20.4		20.4	22.2	10.9	38.1	12.5	36.8	20.0	22.5	13.4	28.0	16.9
その他	0.9		0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.3	0.5	0.8
特にない	4.3		4.3	2.8	10.9	9.5	0.0	0.0	10.0	2.5	2.7	5.2	4.8
無回答	3.3		3.3	13.9	3.1	0.0	12.5	0.0	3.3	1.1	0.9	3.6	7.3

(単位：%)

5-5 女性の再就職に必要な支援 【クロス集計（性別）】

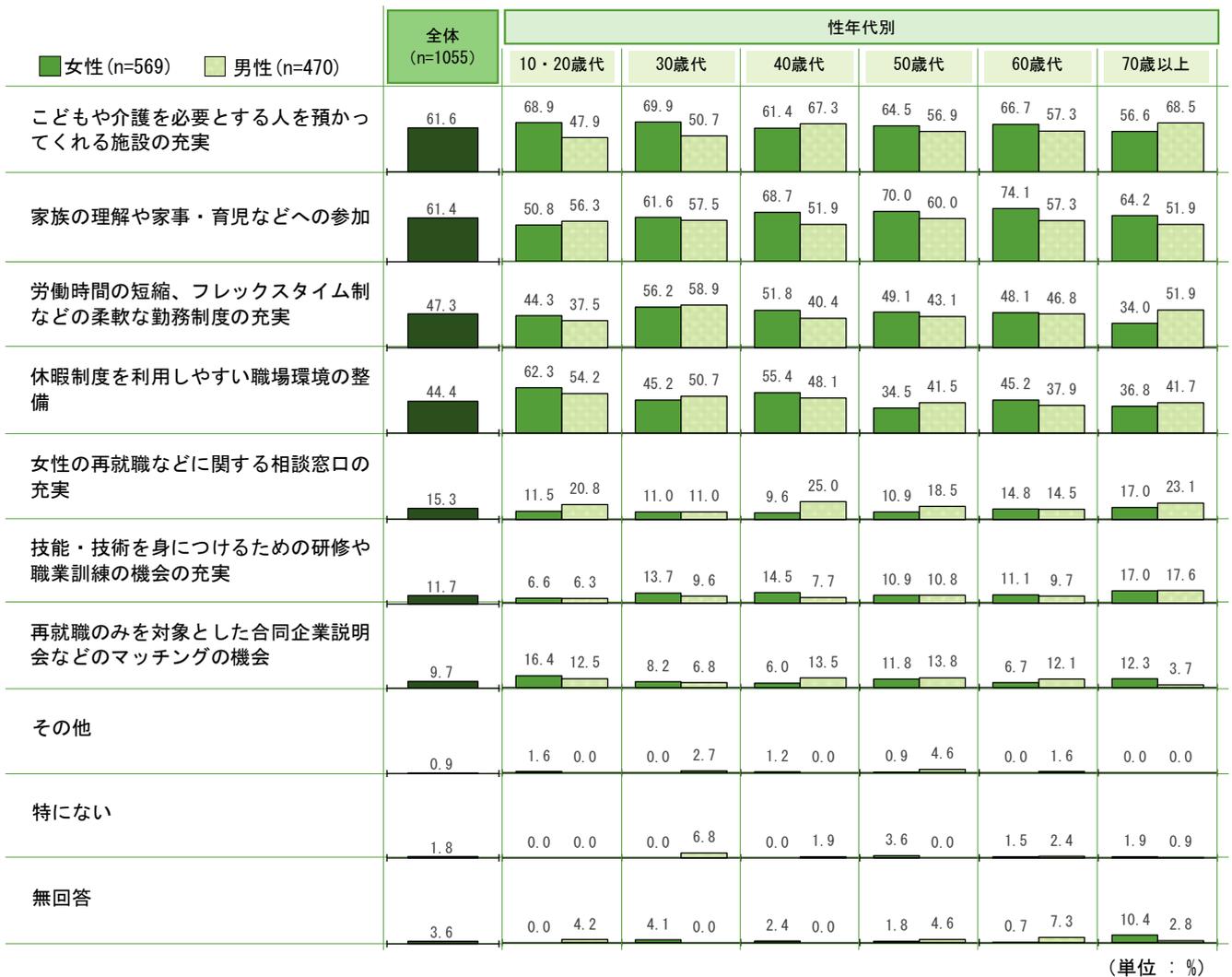
**問 16** 結婚や出産のために退職した女性が、再就職するために必要だと思うものは何ですか。（3 つまで選択）

- 全体では、「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」61.6%で最も高く、次いで「家族の理解や家事・育児などへの参加」（61.4%）、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」（47.3%）、「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」（44.4%）となっている。
- 性別ごとに見た場合、回答の差があるものとして、「家族の理解や家事・育児などへの参加」（10.7ポイント差）、「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」（5.2ポイント差）では女性が男性よりも高くなっている。



5-5 女性の再就職に必要な支援 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別で見ると、女性の10・20歳代、30歳代では「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」が最も高くなる一方で、40歳以上では「家族の理解や家事・育児などへの参加」が最も高くなっている。
- 男性の30歳代では「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」が最も高く、全体回答の順位と差が見られる。また、10・20歳代及び40歳代女性の「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」の回答では全体よりも10ポイント以上高い。「家族の理解や家事・育児などへの参加」については、女性では10・20歳代を除くすべての年代で全体より高いが、男性ではいずれの年代でも全体より低くなっている。



5-5 女性の再就職に必要な支援 【クロス集計（性・職業別）】

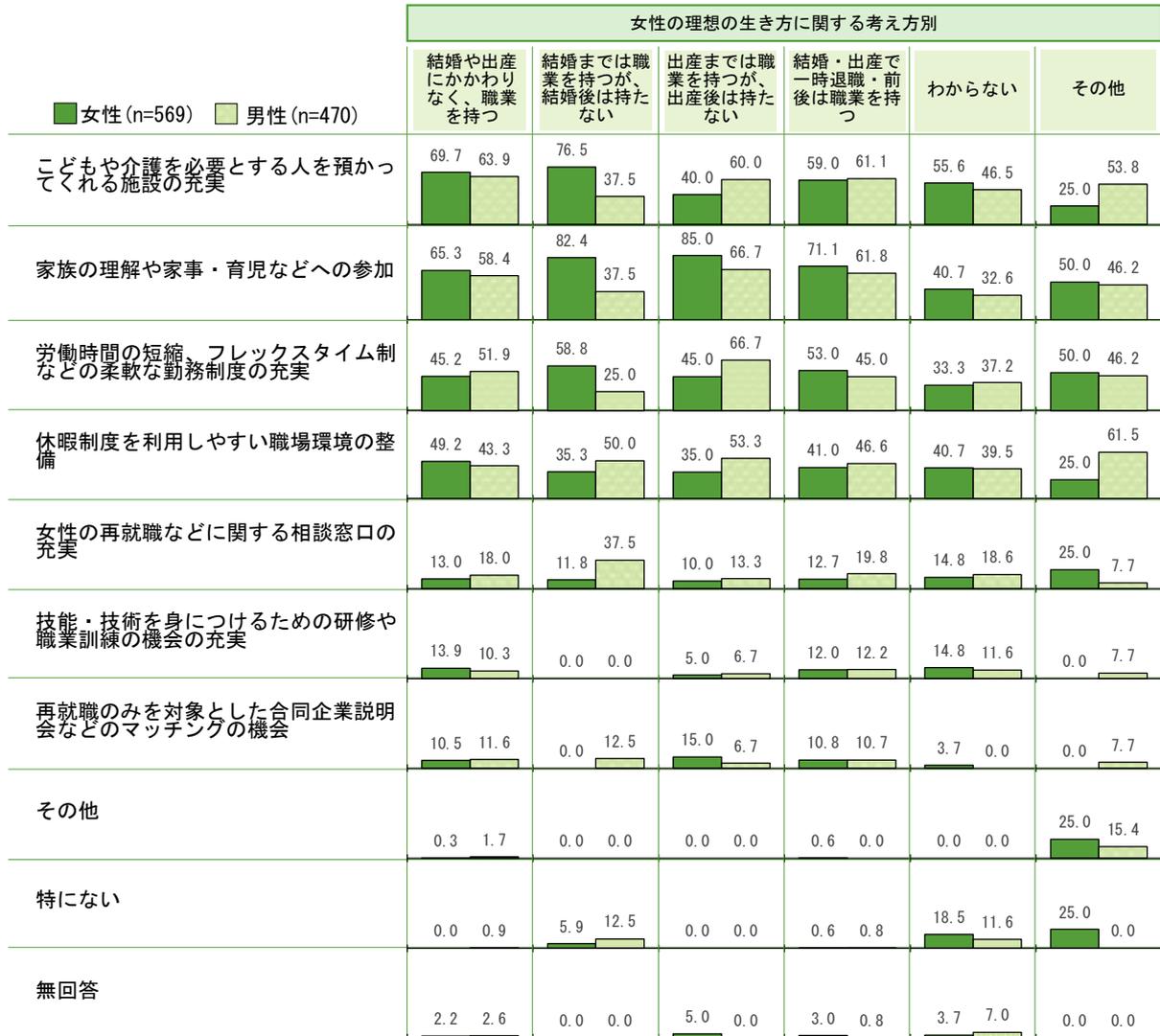
○ 性・職業別に見ると、男女ともに雇用者で最も高いのは全体の傾向と同じく「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」となっている。ただし、次いで高くなっている項目は男性の雇用者では「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」となっており全体の順位と比較して差が見られる。また、女性の雇用者は「女性の再就職などに関する相談窓口の充実」を除いて全ての項目で全体の各項目の数値を上回る。

	女性 (n=569)	男性 (n=470)	性・職業別					
			全体 (n=1055)	自営業主	家族従事者	会社などの役員	雇用者	無職
子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実	61.6		61.6	55.6 56.3	71.4 62.5	73.7 53.3	68.4 57.6	58.0 63.7
家族の理解や家事・育児などへの参加	61.4		61.4	83.3 59.4	81.0 62.5	52.6 56.7	63.9 52.7	66.3 57.3
労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実	47.3		47.3	33.3 42.2	52.4 37.5	36.8 36.7	53.0 52.7	42.0 44.4
休暇制度を利用しやすい職場環境の整備	44.4		44.4	36.1 37.5	38.1 37.5	36.8 40.0	47.7 53.6	43.5 35.5
女性の再就職などに関する相談窓口の充実	15.3		15.3	19.4 15.6	9.5 25.0	10.5 6.7	10.5 17.4	14.5 22.6
技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実	11.7		11.7	8.3 6.3	14.3 37.5	5.3 13.3	11.9 11.6	15.0 8.9
再就職のみを対象とした合同企業説明会などのマッチングの機会	9.7		9.7	0.0 10.9	4.8 0.0	5.3 0.0	9.8 12.1	12.4 8.9
その他	0.9		0.9	0.0 1.6	0.0 0.0	0.0 0.0	1.1 1.8	0.0 1.6
特になし	1.8		1.8	0.0 3.1	4.8 12.5	0.0 16.7	0.7 0.9	2.6 0.0
無回答	3.6		3.6	5.6 6.3	0.0 0.0	5.3 0.0	2.1 1.3	5.2 7.3

(単位：%)

5-5 女性の再就職に必要な支援【クロス集計（女性の理想の生き方に関する考え別）】

○ 女性の理想の生き方に関する考え別に見ると、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」では、男女ともに「子どもや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」が最も高くなっている。また、「結婚・出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」では、男女ともに「家族の理解や家事・育児などへの参加」が最も高くなっている。

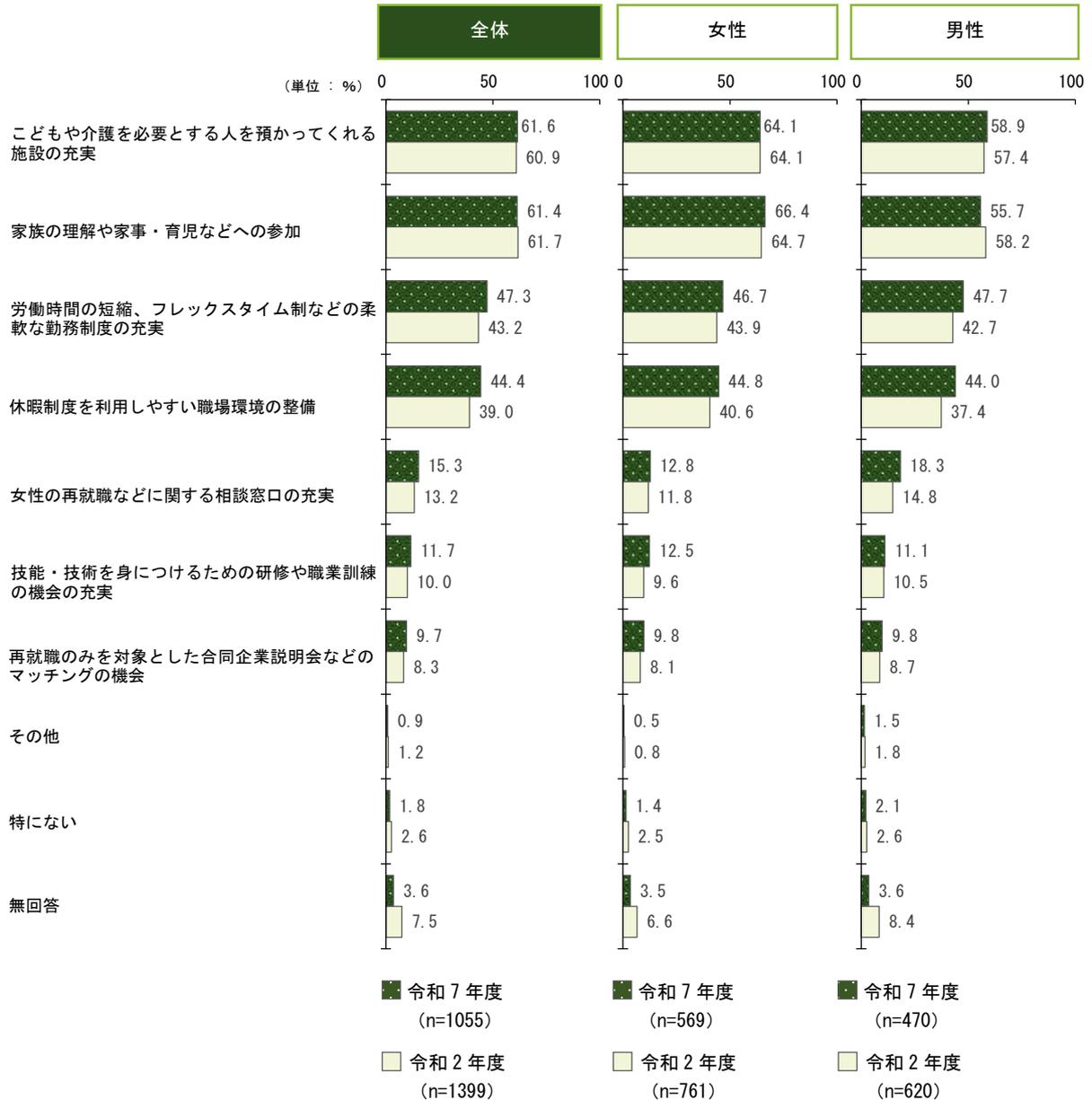


(単位：%)

(\*) サンプル数の少なかった「結婚・出産後、初めて職業を持つ」、「一生職業を持たない」についてはグラフ表記を割愛。

5-5 女性の再就職に必要な支援 【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」が女性で 4.2 ポイント、男性で 6.6 ポイント増加しているほか、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」が女性で 2.8 ポイント、男性で 5.0 ポイント増加している。



5-6 就労意向の有無・希望する就労形態 【クロス集計（性別）】

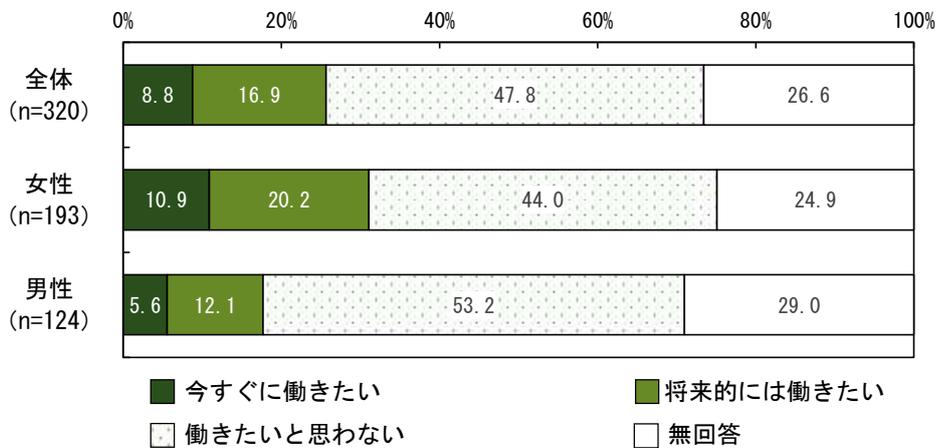
**問 17** あなたは今後、適切な仕事があれば働きたいと思いますか。(1つ選択)

**問 17-1** 働くとするば、どのような形で働きたいですか。(1つ選択)

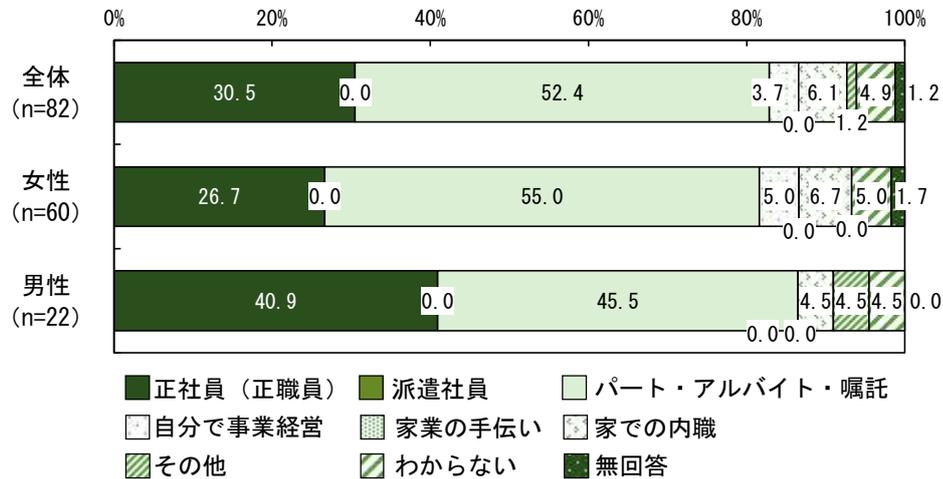
(\*) 現在、職業（収入を得る仕事）を持っていない方を対象に質問

- 全体では、「働きたいと思わない」が47.8%で最も高く、次いで「将来的には働きたい」(16.9%)、「今すぐに働きたい」(8.8%)となっている。
- 性別ごとに見ると、女性で「今すぐに働きたい」、「将来的には働きたい」を合わせると31.1%、男性では17.7%となっている。
- 希望する就労形態では、全体において「パート・アルバイト・嘱託」が52.4%で最も高く、次いで「正社員（正職員）」(30.5%)となっている。性別ごとに見ると、「正社員（正職員）」の割合に大きな違いが見られる（女性26.7%、男性40.9%）。

就労意向の有無



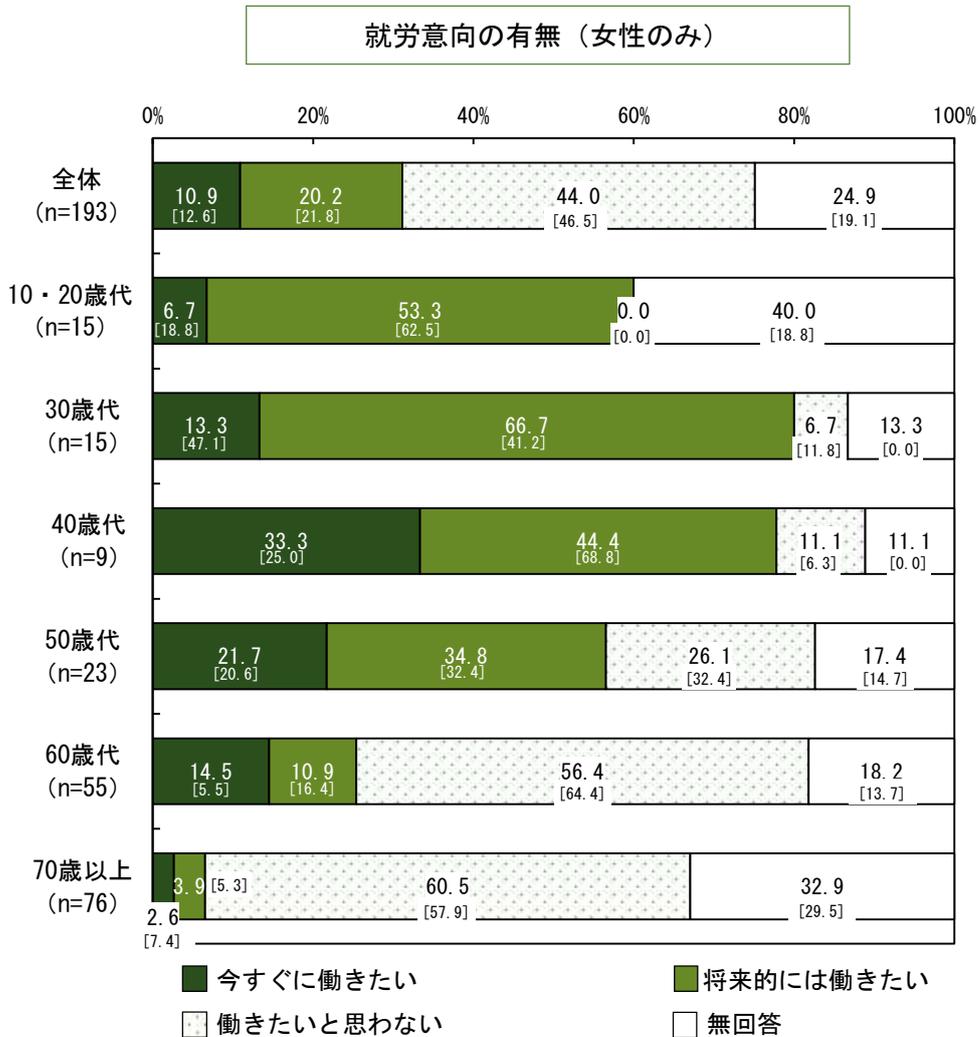
希望する就労形態



5-6 就労意向の有無・希望する就労形態 【クロス集計（年代別 \*女性のみ）】

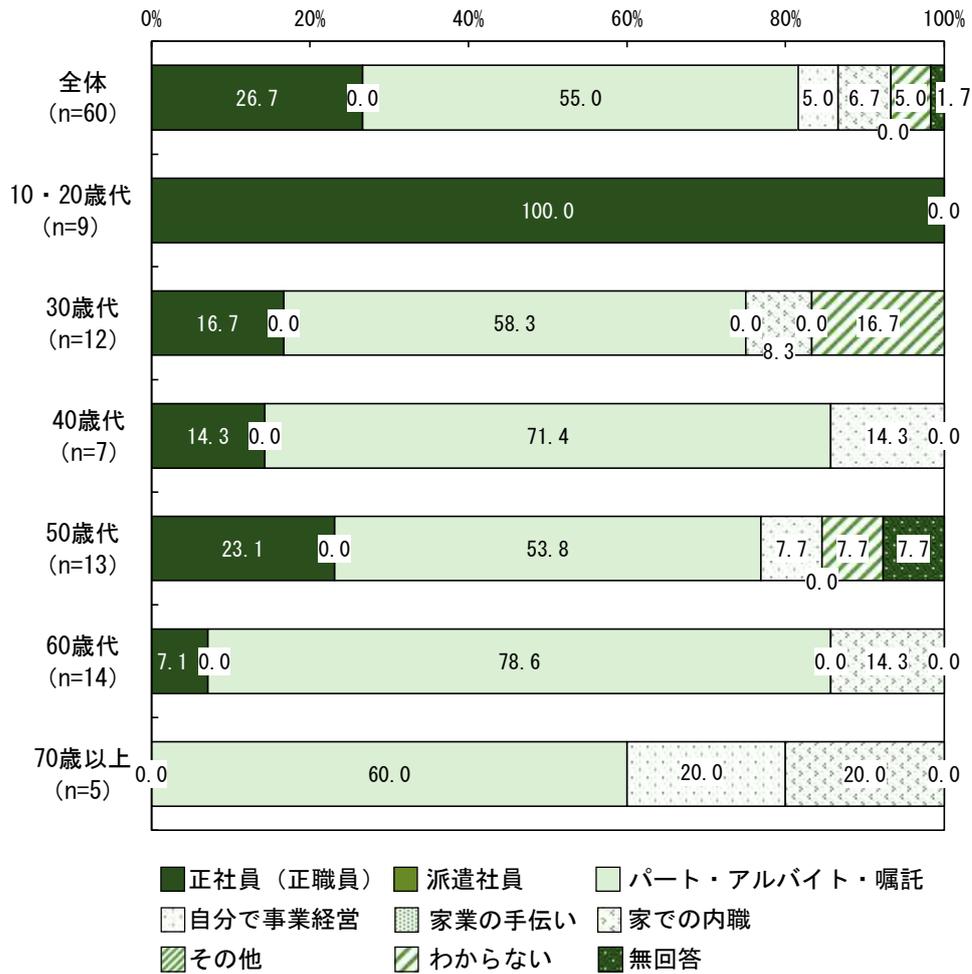
- 年代別（女性のみ）に見ると、『就労意向あり』は30歳代で80.0%と最も高く、次いで40歳代（77.7%）、10・20歳代（60.0%）、50歳代（56.5%）となっている。
- 年代別（女性のみ）に見ると、希望する就労形態では、10・20歳代を除く全ての年齢階層で「パート・アルバイト・嘱託」が最も高い。

(\*) 『就労意向あり』は、「今すぐに働きたい」、「将来的には働きたい」を合わせたもの。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=267）の値

希望する就労形態（女性のみ）

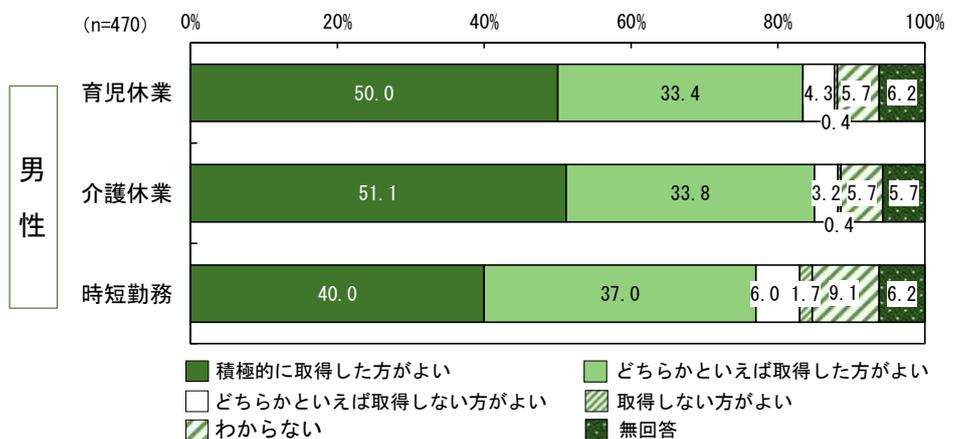
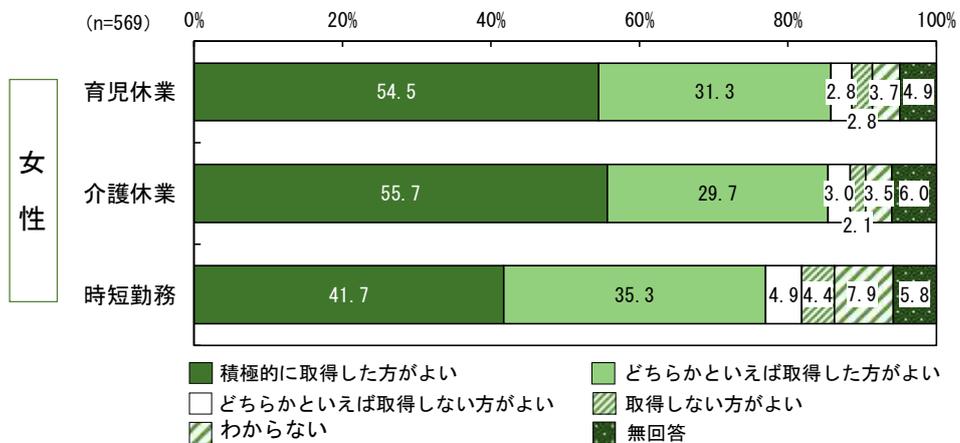
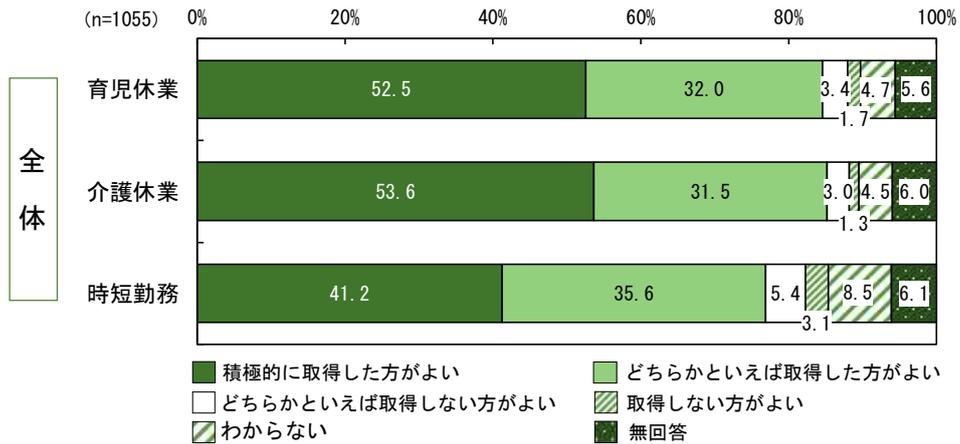


5-7 男性が育児休業・介護休業、時短勤務を取得することについて 【クロス集計（性別）】

問 18 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについて、どのように思いますか。（それぞれ1つ選択）

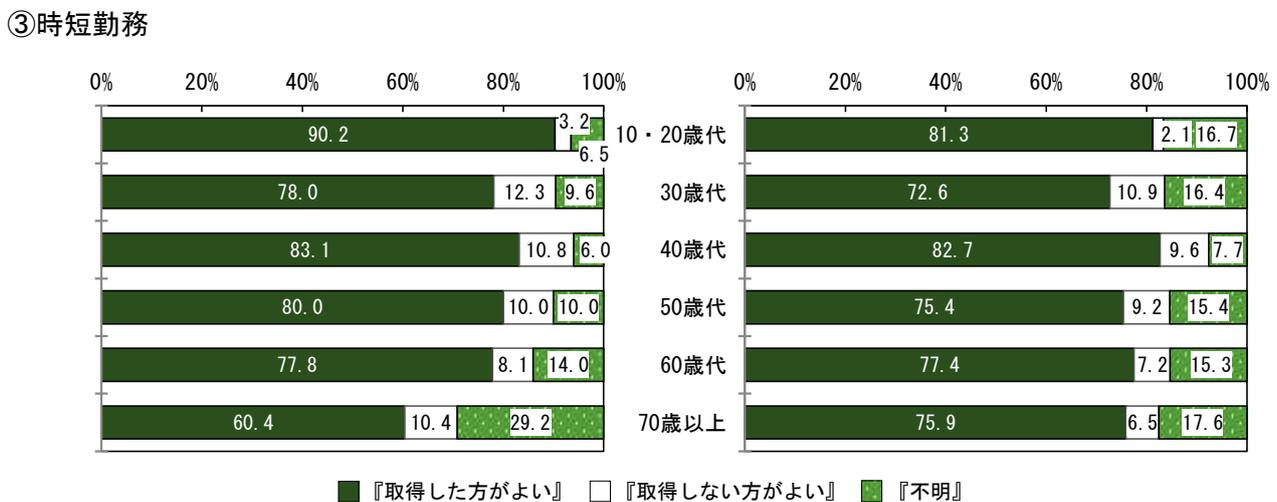
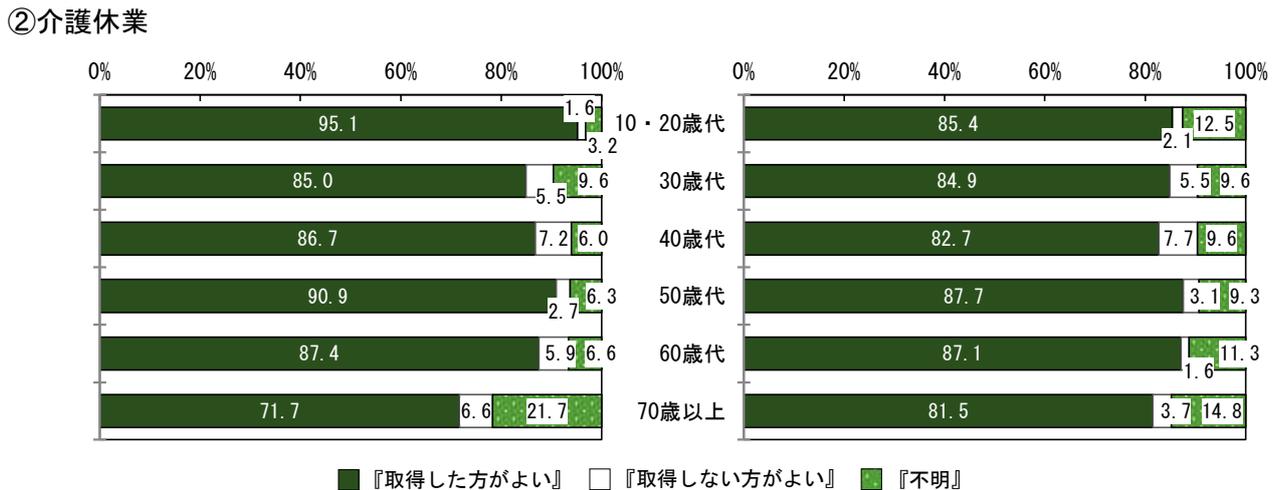
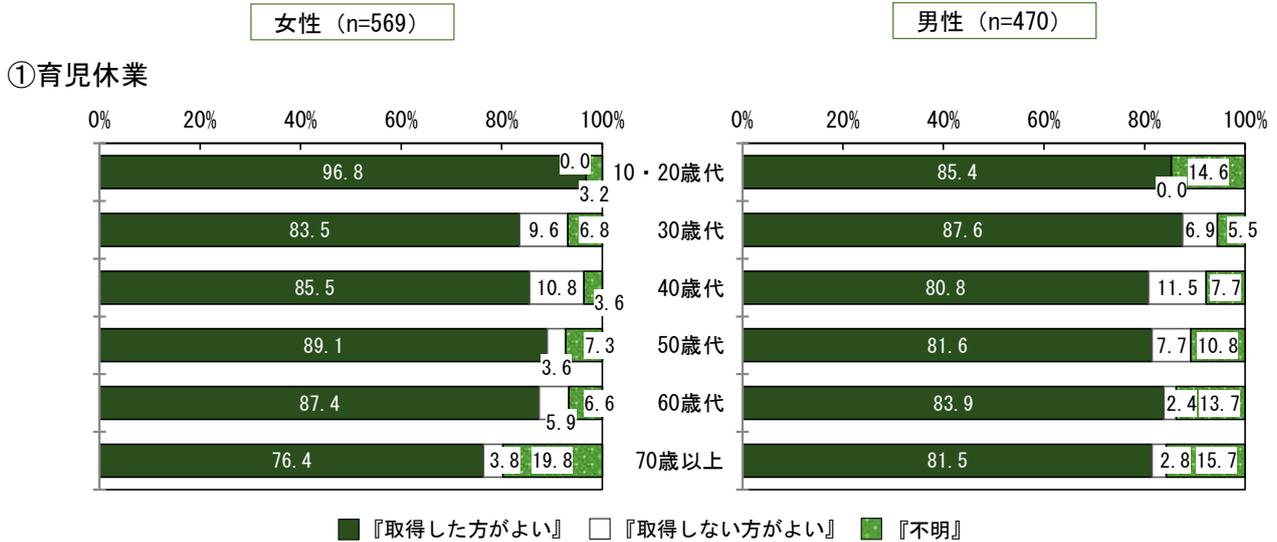
○ 育児休業、介護休業については、全体・女性・男性ともに『取得した方がよい』が8割強を占める。時短勤務については、全体・女性・男性ともに『取得した方がよい』は7割強となっている。性別による多少の回答の差はあるものの、大きな違いは見られず、男性が育休や介護休業、時短勤務を取得すべきだと感じているのは、女性のみでなく男性も同様であることがうかがえる。

(\*) 『取得した方がよい』は、「積極的に取得した方がよい」、「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせたもの。



5-7 男性が育児休業・介護休業、時短勤務を取得することについて【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、「わからない」、「無回答」の多い70歳以上（男女ともに）を除けば、いずれの性年代においても、『取得した方がよい』が高くなっている。ただし、育児休業に関しては、男女ともに40歳代で『取得しない方がよい』が1割程度を占めた。

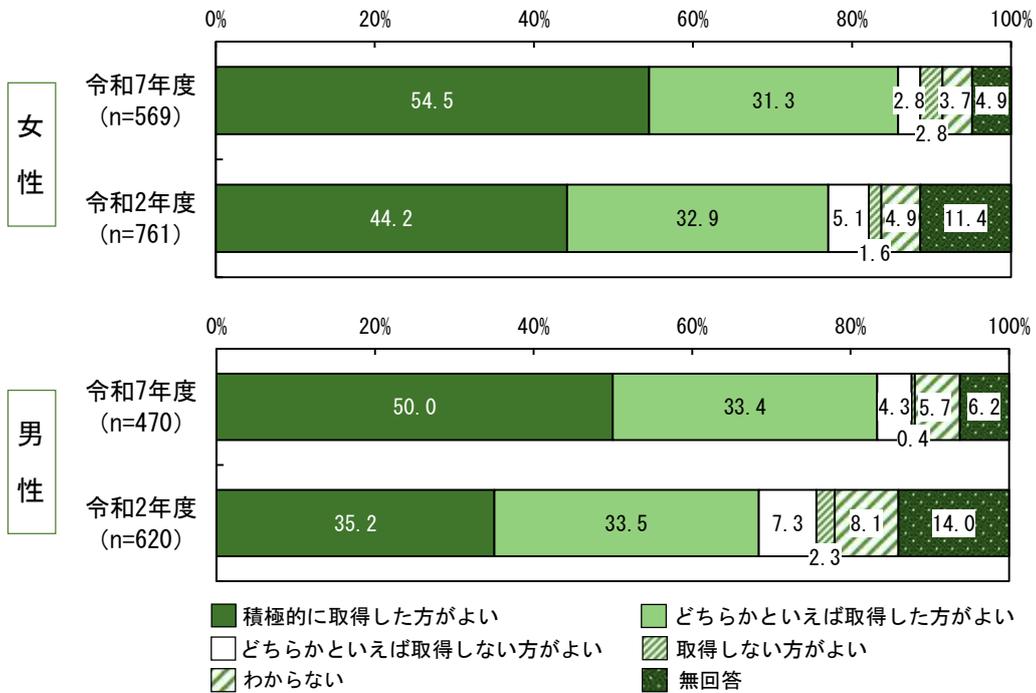


(\*) 『取得した方がよい』は、「積極的に取得した方がよい」または「どちらかといえば取得した方がよい」  
 『取得しない方がよい』は、「取得しない方がよい」または「どちらかといえば取得しない方がよい」  
 『不明』は、「わからない」または「無回答」

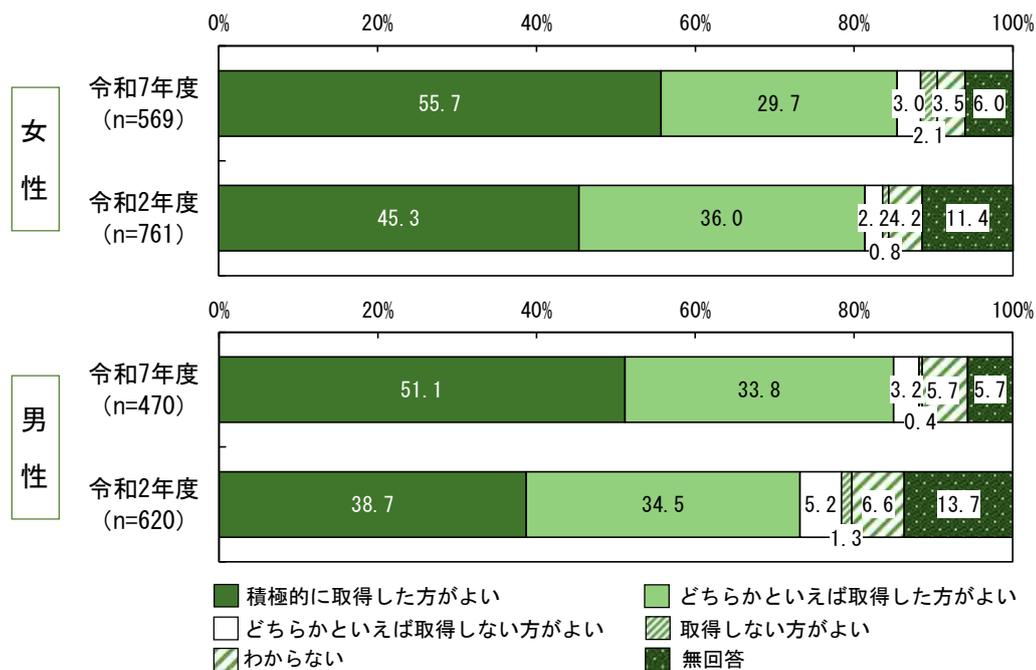
5-7 男性が育児休業・介護休業、時短勤務を取得することについて 【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、育児休業、介護休業、時短勤務のいずれにおいても男女ともに「積極的に取得した方がよい」が増加しており、特に育児休業では男性において14.8ポイント増加している。どの項目においても女性よりも男性で増加幅が大きくなっており、男性の意識の変化がうかがえる。

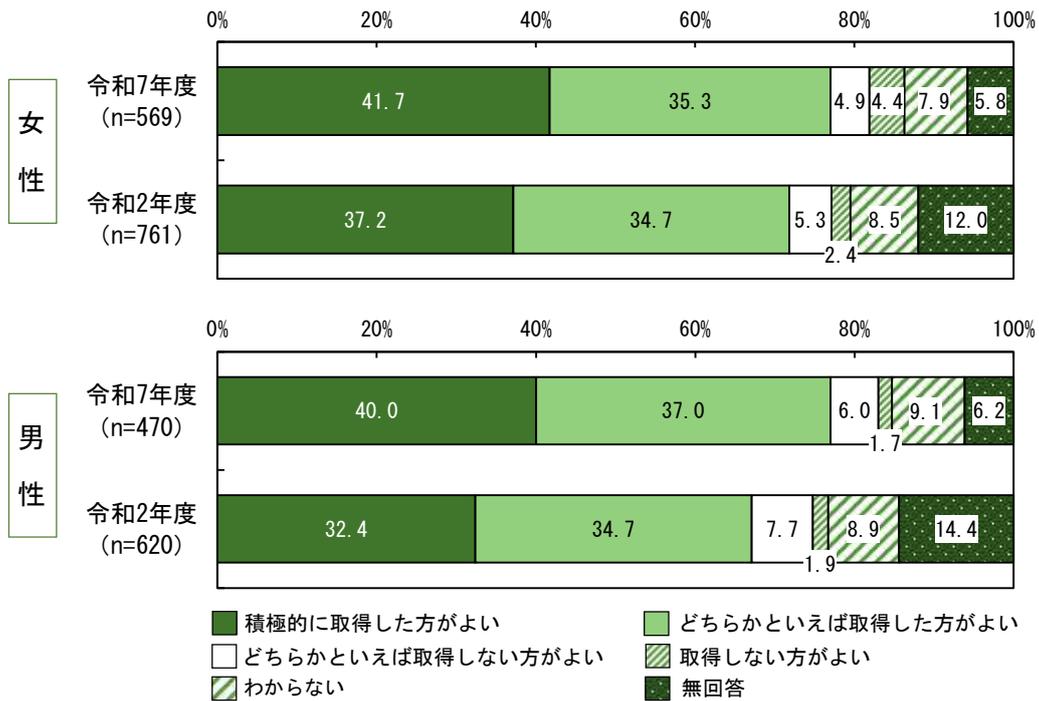
① 育児休業



② 介護休業



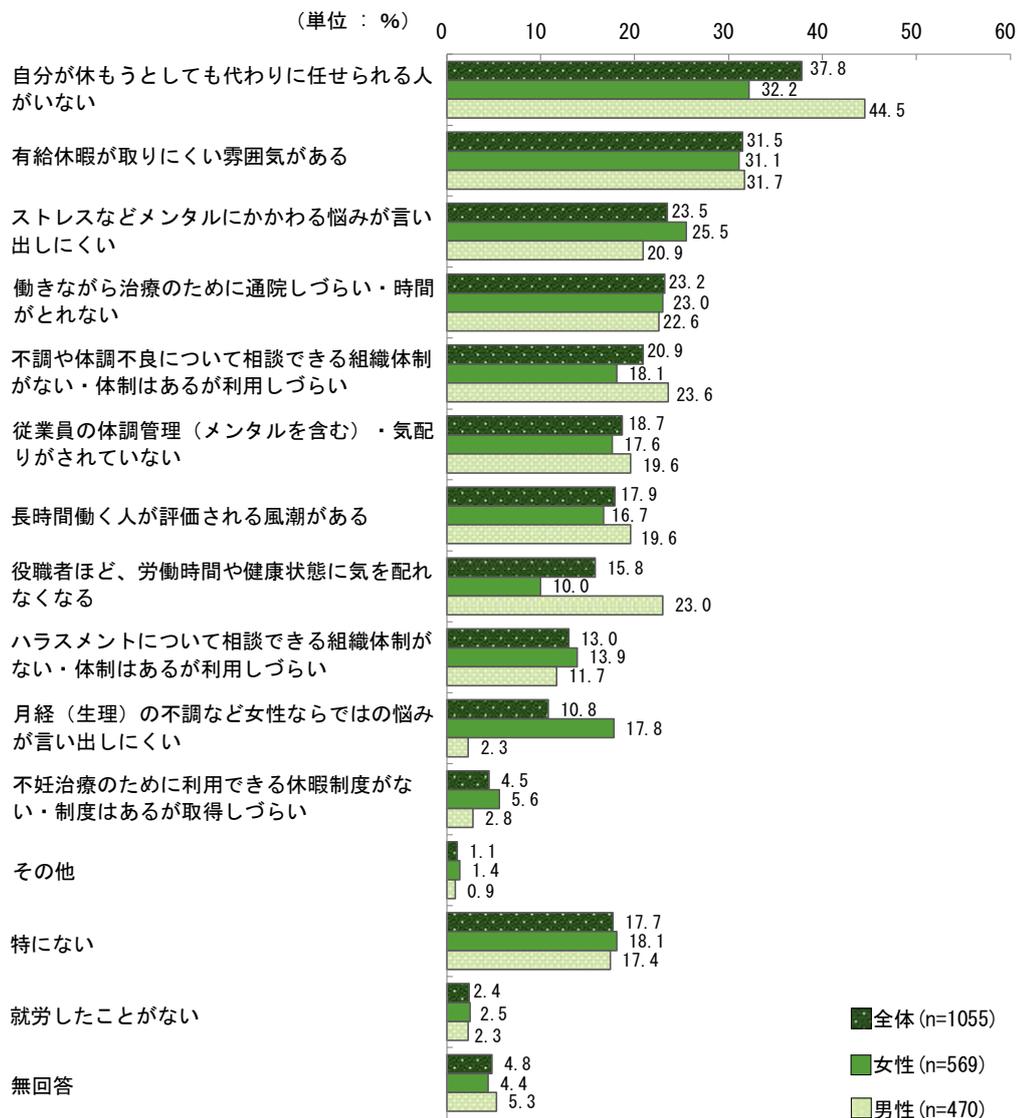
③時短勤務



5-8 働くうえでの健康問題

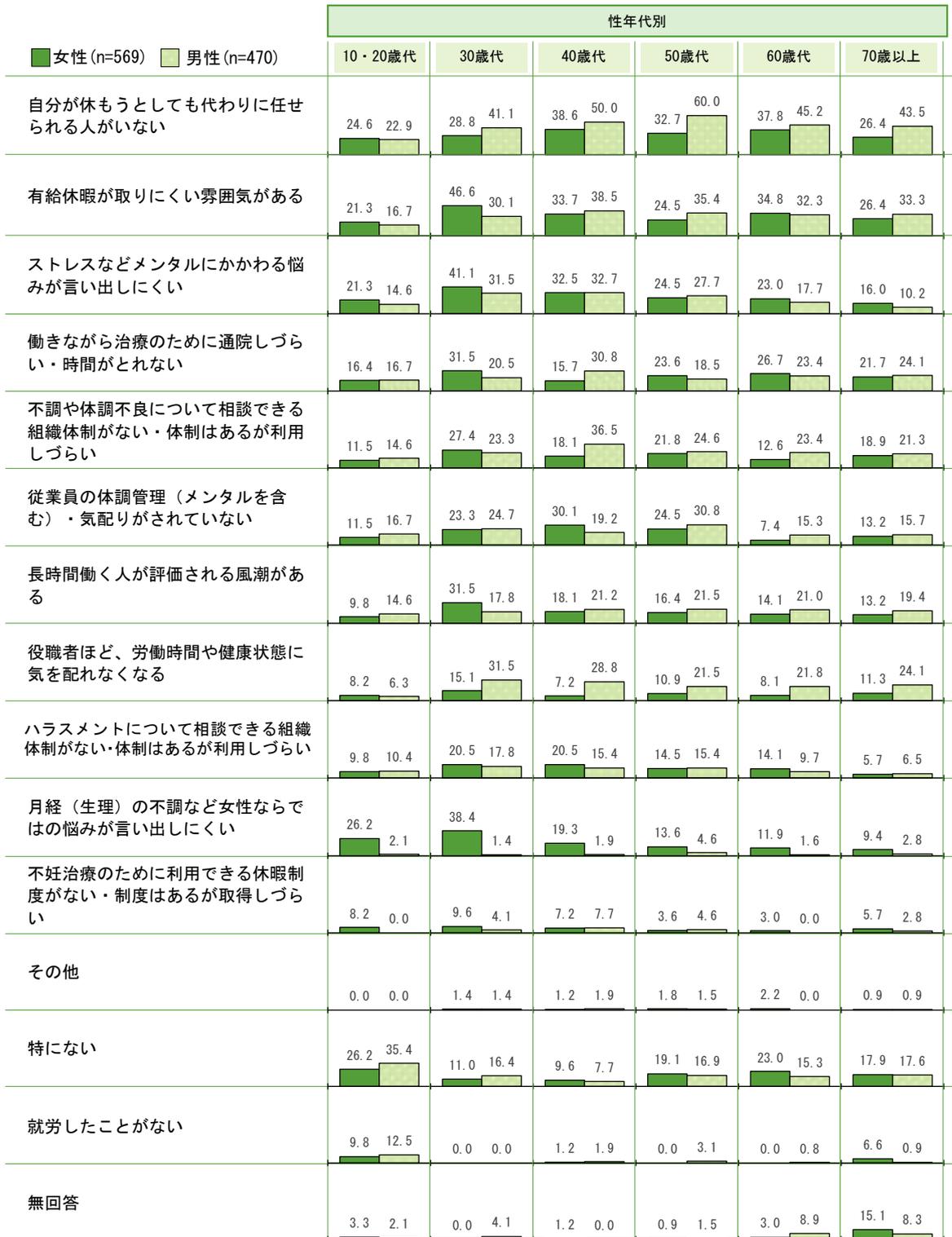
**問 19** 過去～現在含めて、働くうえで身体や心の不調、健康問題に関して、どんな困りごとがありましたか。(あてはまるもの全て選択)

- 全体では、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」が37.8%で最も高く、次いで「有給休暇が取りにくい雰囲気がある」(31.5%)、「ストレスなどメンタルにかかわる悩みが言い出しにくい」(23.5%)となっている。
- 性別ごとに見ると、「自分が休もうとしても代わりに任せられる人がいない」(女性32.2%、男性44.5%)、「役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる」(女性10.0%、男性23.0%)では女性に比べ男性の回答割合が大きく上回っている。「ストレスなどメンタルにかかわる悩みが言い出しにくい」(女性25.5%、男性20.9%)では男性よりも女性の回答割合が高い。



5-8 働くうえでの健康問題 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、女性の10・20歳代では、「月経（生理）の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい」（26.2%）が最も高く、女性の30歳代では、「有給休暇が取りにくい雰囲気がある」が最も高い。また、男性の10・20歳代では、「特にない」が最も高くなっているが、一方男性の40歳代では「特にない」は回答割合がどの性年代に比べても最も低く、「不調や体調不良について相談できる組織体制がない・体制はあるが利用しづらい」と答える割合が、30歳代女性を除く他の性年代に比べ10ポイント以上高くなっている。



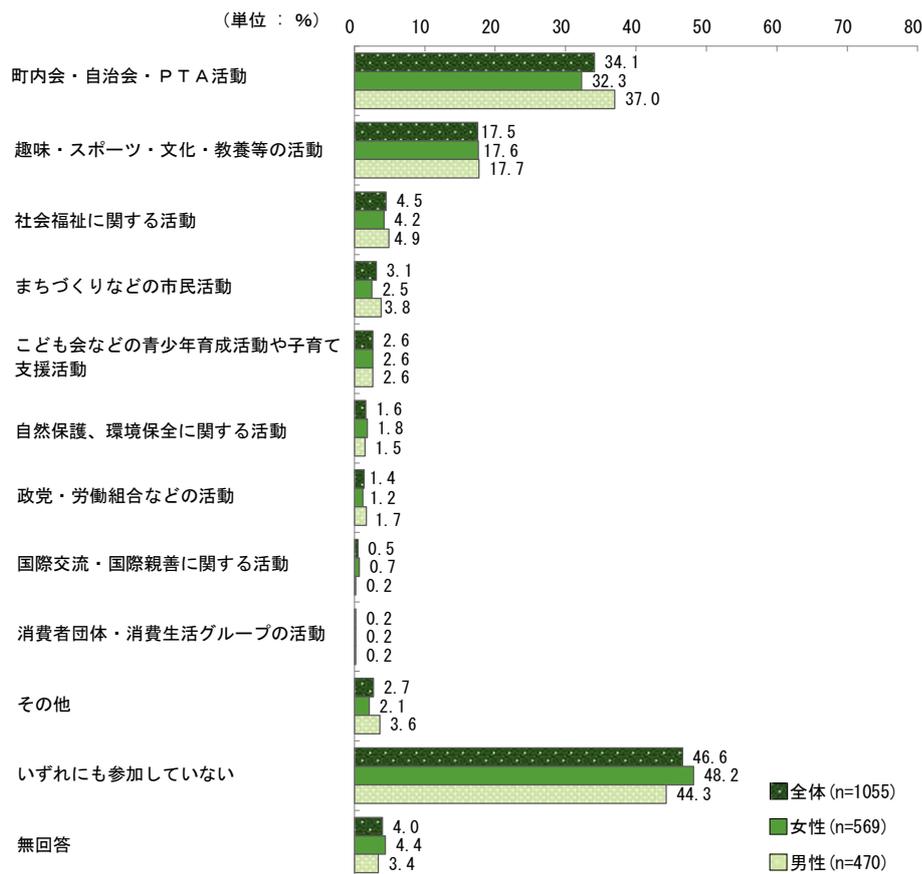
（単位：％）

## 6. 社会活動、地域活動等について

### 6-1 現在参加している社会活動、地域活動【クロス集計（性別）】

**問 20** あなたが現在参加している社会活動、地域活動をお答えください。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「いずれにも参加していない」が46.6%で最も高く、次いで「町内会・自治会・PTA活動」（34.1%）、「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」（17.5%）となっている。
- 性別で見ると、回答状況に大きな違いは見られないが、「町内会・自治会・PTA活動」（女性32.3%、男性37.0%）について、男性が女性よりも回答割合が高い。



6-1 現在参加している社会活動、地域活動 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別で見ると、女性の40歳代、男性の60歳代・70歳以上において、「町内会・自治会・PTA活動」が最も高く、その他の性年代では、「いずれにも参加していない」が最も高くなっている。

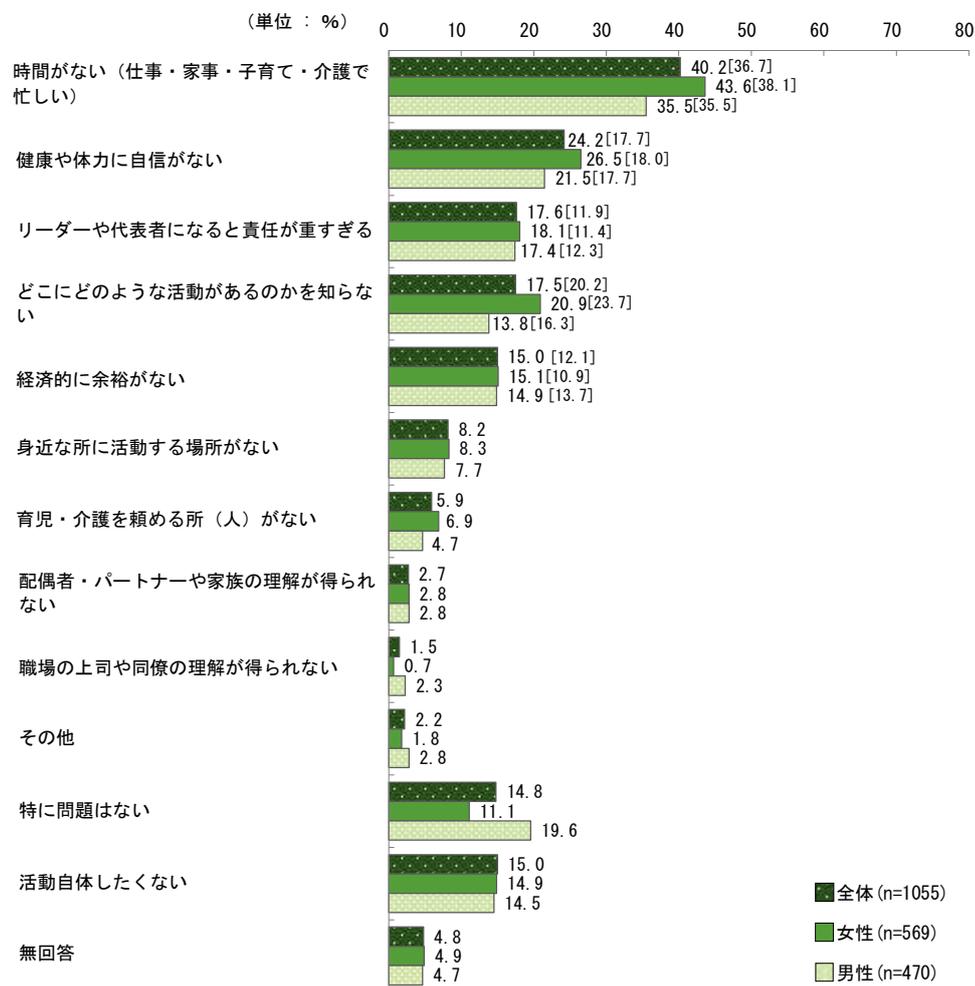
	性年代別					
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
町内会・自治会・PTA活動	6.6 2.1	27.4 32.9	48.2 30.8	41.8 40.0	31.9 47.6	29.2 44.4
趣味・スポーツ・文化・教養等の活動	6.6 22.9	5.5 15.1	10.8 15.4	20.0 15.4	23.0 16.1	28.3 21.3
社会福祉に関する活動	0.0 4.2	0.0 2.7	2.4 1.9	2.7 3.1	6.7 4.8	9.4 9.3
まちづくりなどの市民活動	1.6 0.0	0.0 0.0	6.0 1.9	0.9 3.1	1.5 5.6	4.7 7.4
こども会などの青少年育成活動や子育て支援活動	0.0 4.2	4.1 0.0	6.0 1.9	0.0 3.1	3.0 3.2	2.8 2.8
自然保護、環境保全に関する活動	1.6 2.1	1.4 0.0	0.0 1.9	0.0 1.5	3.0 0.8	3.8 2.8
政党・労働組合などの活動	3.3 6.3	0.0 1.4	1.2 0.0	1.8 1.5	1.5 0.8	0.0 1.9
国際交流・国際親善に関する活動	1.6 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	2.2 0.8	0.0 0.0
消費者団体・消費生活グループの活動	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.7 0.0	0.0 0.9
その他	3.3 2.1	0.0 4.1	2.4 3.8	1.8 3.1	3.7 4.8	0.9 2.8
いずれにも参加していない	80.3 62.5	64.4 52.1	41.0 53.8	44.5 41.5	40.0 37.1	38.7 36.1
無回答	0.0 0.0	4.1 2.7	0.0 0.0	2.7 3.1	4.4 4.8	11.3 5.6

(単位：%)

6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと【クロス集計（性別）】

**問 21** あなたが社会活動、地域活動を行う上で、どのようなことが問題になると思いますか。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「時間がない」が40.2%で最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」（24.2%）、「リーダーや代表者になると責任が重すぎる」（17.6%）となっている。
- 性別で見ると、「時間がない」（女性43.6%、男性35.5%）、「健康や体力に自信がない」（女性26.5%、男性21.5%）、「どこにどのような活動があるのかを知らない」（女性20.9%、男性13.8%）において、女性の方が男性よりも回答割合が高い。
- 前回調査に比べて、全体では「時間がない」（3.5ポイント増）、「健康や体力に自信がない」（6.5ポイント増）、「リーダーや代表者になると責任が重すぎる」（5.7ポイント増）、「経済的に余裕がない」（2.9ポイント増）などが増加した。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値。但し、上位5項目のみ表記

6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別で見ると、女性の60歳未満、男性の70歳未満では「時間がない」が最も高くなっているが、女性の60歳以上、男性の70歳以上では「健康や体力に自信がない」が最も高く。また、女性の10・20歳代、30歳代では「どこにどのような活動があるのかを知らない」が他の性年代に比べて高くなっている。

	性年代別					
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
■ 女性(n=569) □ 男性(n=470)						
時間がない（仕事・家事・子育て・介護で忙しい）	63.9 43.8	67.1 54.8	63.9 61.5	50.9 49.2	26.7 25.0	14.2 10.2
健康や体力に自信がない	9.8 8.3	17.8 8.2	19.3 9.6	23.6 16.9	35.6 21.8	39.6 44.4
リーダーや代表者になると責任が重すぎる	21.3 12.5	17.8 15.1	19.3 11.5	20.0 21.5	17.0 21.0	15.1 17.6
どこにどのような活動があるのかを知らない	42.6 16.7	28.8 21.9	24.1 13.5	21.8 15.4	17.0 12.9	4.7 7.4
経済的に余裕がない	18.0 25.0	20.5 12.3	13.3 13.5	20.0 18.5	14.1 13.7	7.5 12.0
身近な所に活動する場所がない	18.0 12.5	13.7 8.2	10.8 3.8	4.5 4.6	5.9 4.8	3.8 12.0
育児・介護を頼める所（人）がない	13.1 4.2	15.1 6.8	9.6 5.8	3.6 6.2	2.2 4.0	4.7 2.8
配偶者・パートナーや家族の理解が得られない	1.6 6.3	2.7 1.4	3.6 5.8	3.6 4.6	4.4 2.4	0.0 0.0
職場の上司や同僚の理解が得られない	0.0 2.1	1.4 4.1	1.2 0.0	1.8 3.1	0.0 3.2	0.0 0.9
その他	0.0 0.0	0.0 2.7	1.2 1.9	0.9 1.5	3.0 4.0	3.8 3.7
特に問題はない	9.8 16.7	2.7 20.5	9.6 11.5	10.0 18.5	15.6 24.2	14.2 19.4
活動自体したくない	18.0 16.7	17.8 17.8	15.7 21.2	17.3 15.4	11.1 12.1	13.2 10.2
無回答	0.0 6.3	4.1 1.4	2.4 3.8	1.8 4.6	5.2 5.6	12.3 5.6

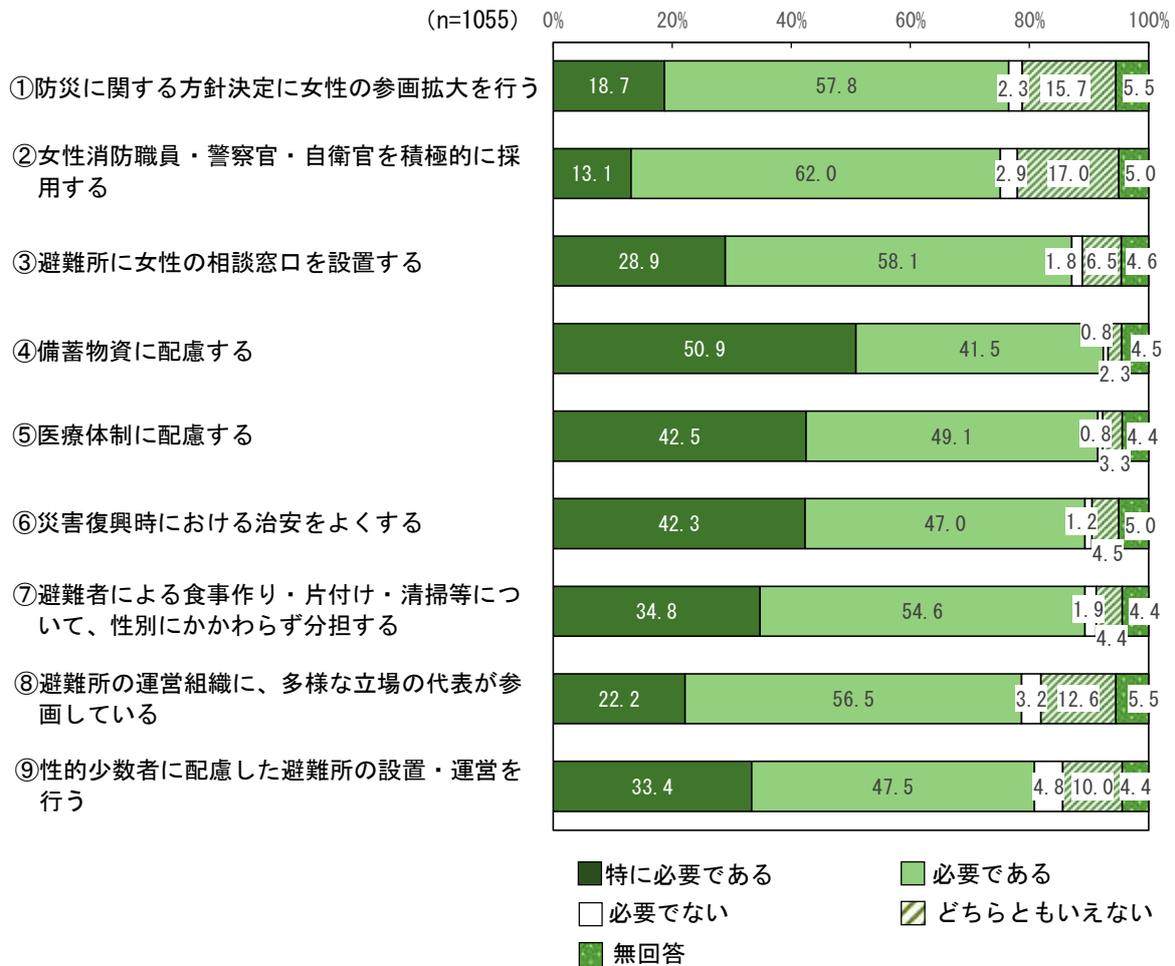
(単位：%)

6-3 防災・災害対策でジェンダー平等に配慮する必要があること

**問 21** 防災・災害対策における次の事項について、ジェンダー平等に配慮して取り組む必要があると思うものをお答えください。(それぞれ1つ選択)

○ 『必要』と考える人の割合は、「④備蓄物資に配慮する」(92.4%)、「⑤医療体制に配慮する」(91.6%)で高く、「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」(76.5%)、「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する」(75.1%)では比較的低くなっている。

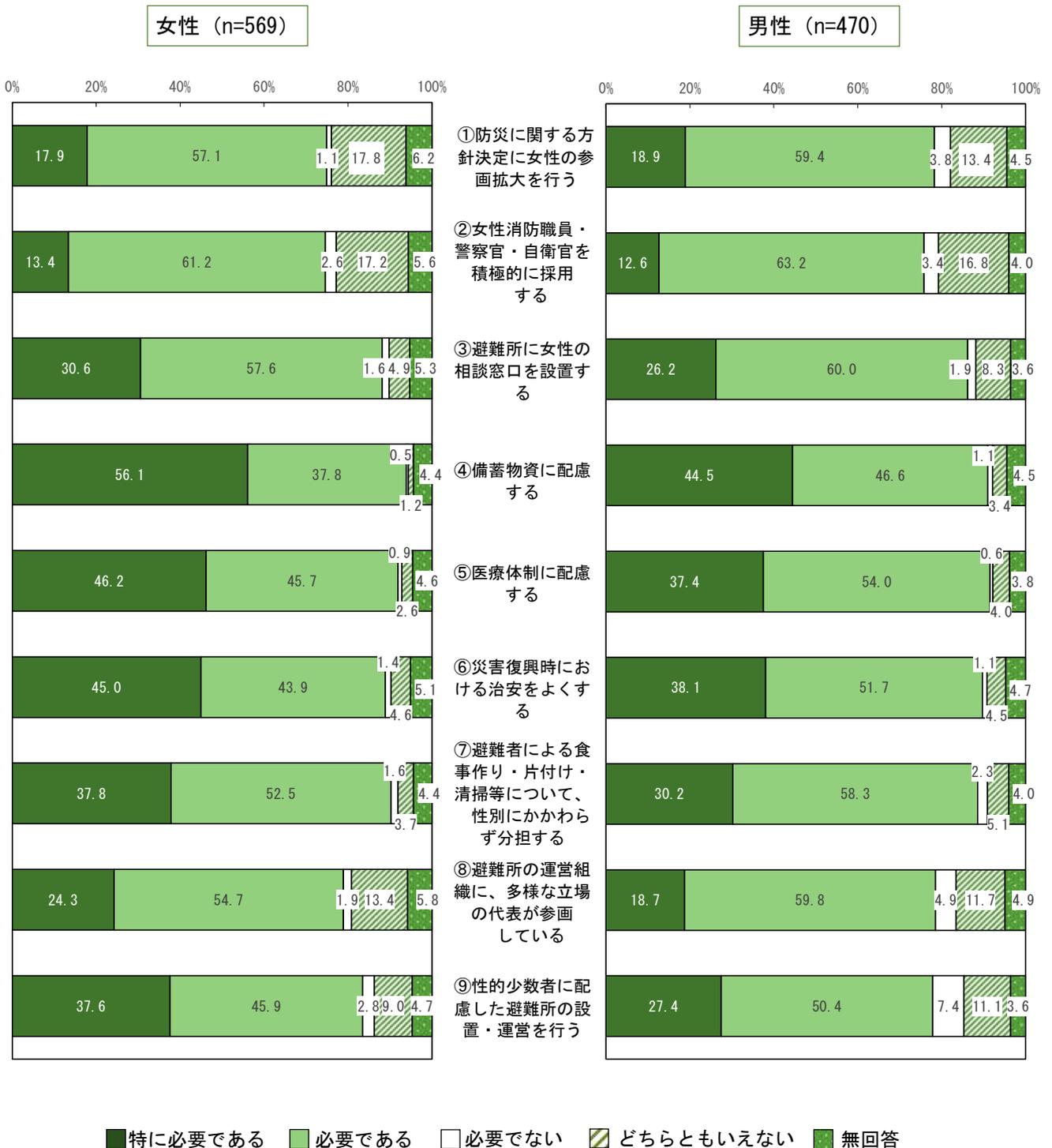
(\*) 『必要』は、「特に必要である」、「必要である」を合わせたもの。



6-3 防災・災害対策でジェンダー平等に配慮する必要があること【クロス集計（性別）】

○ 性別ごとに見ると、回答状況に大きな違いは見られないが、『必要』との回答において、上位4項目について女性では全体の回答順位と変わりなく、男性では「災害復興時における治安をよくする」が3番目に高くなっている（全体4番目）。

(\*) 『必要』は、「特に必要である」、「必要である」を合わせたもの。



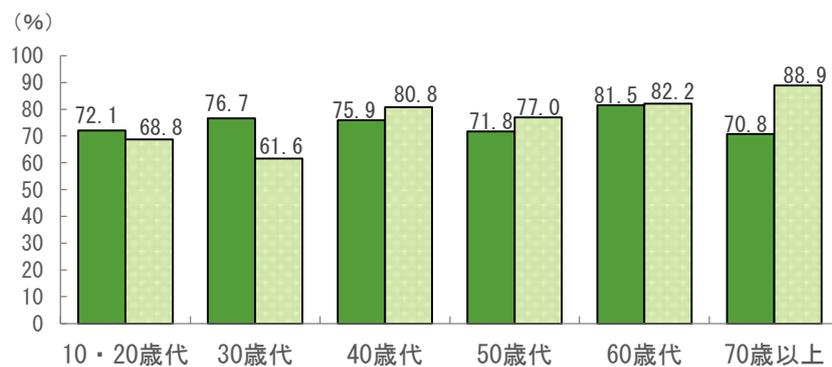
6-3 防災・災害対策でジェンダー平等に配慮する必要があること【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、女性ではいずれの年齢階層においても、「④備蓄物資に配慮」が最も多くなる一方で、男性では10・20歳代、60歳代で「⑤医療体制に配慮」、30歳代で「④備蓄物資に配慮」、40歳代、50歳代では「⑥災害復興時における治安維持」が最も高い（70歳以上では「④備蓄物資に配慮」と「⑤医療体制に配慮」が同率）。
- 男性の10・20歳代においては全ての項目で『必要』と答える割合が低い傾向にある。特に「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用」では全体の数値と比較して14.7ポイント差があり、「③避難所に女性の相談窓口を設置」（12ポイント差）、「④備蓄物資に配慮」（11.1ポイント差）、「⑥災害復興時における治安維持」（10.1ポイント差）、「⑦避難所による食事作り・片付け等について分担」（10.2ポイント差）、「⑨性的少数者に配慮した避難所の設置・運営」（20.5ポイント差）など多くの項目で10ポイント以上全体数値を下回る。

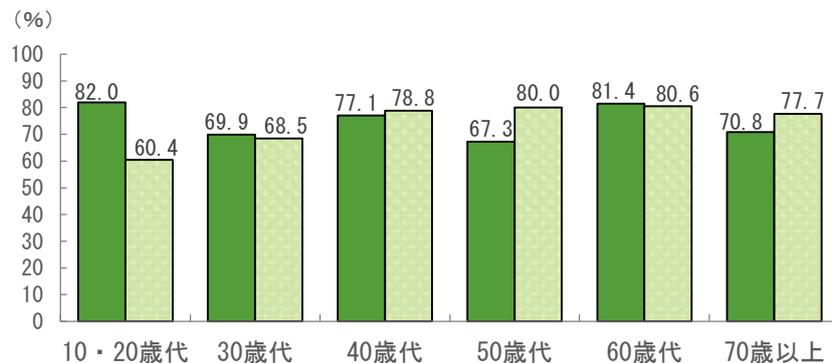
【『必要』（「特に必要である」、「必要である」）と答えた人の割合】

■ 女性（n=569）      ■ 男性（n=470）

① 防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う



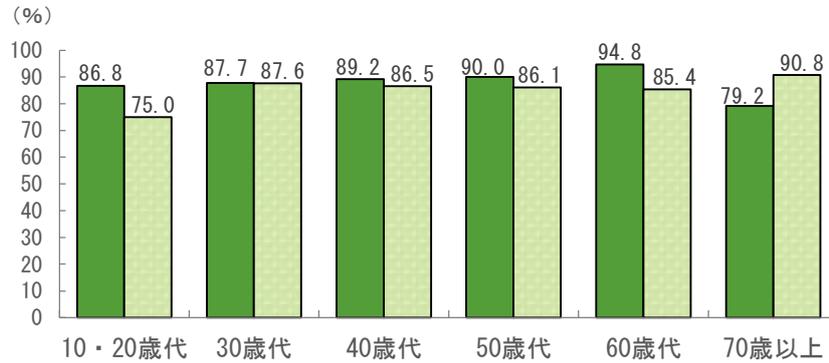
② 女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する



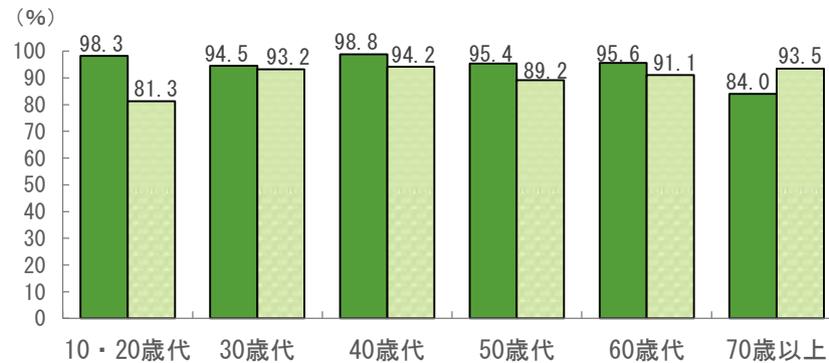
【 『必要』(「特に必要である」、「必要である」) と答えた人の割合 】

■ 女性 (n=569)      ■ 男性 (n=470)

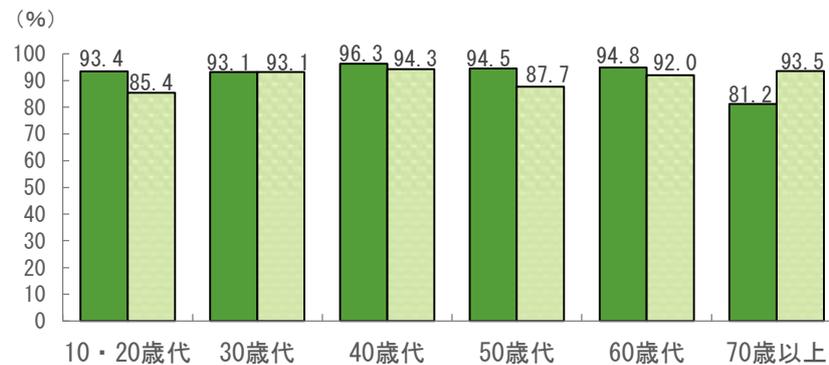
③ 避難所に女性の相談窓口を設置する



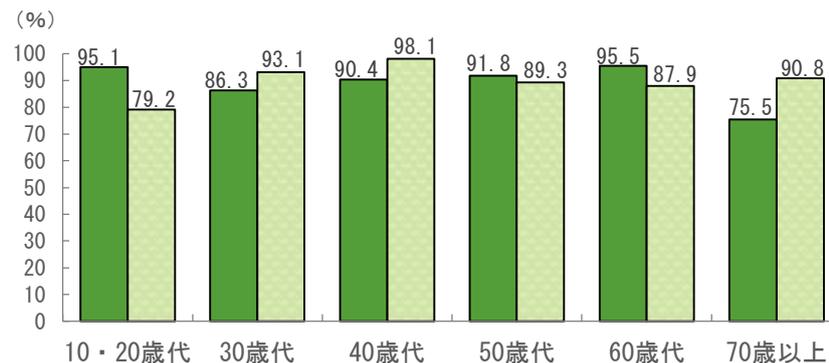
④ 備蓄物資に配慮する



⑤ 医療体制に配慮する



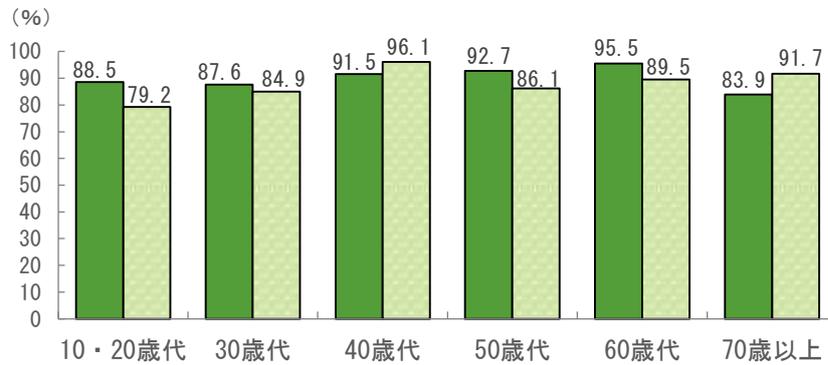
⑥ 災害復興時における治安をよくする



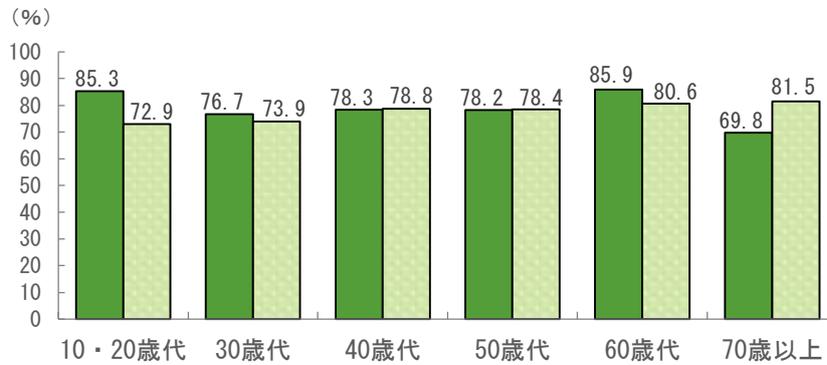
【 『必要』（「特に必要である」、「必要である」と答えた人の割合）】

■ 女性 (n=569)      ■ 男性 (n=470)

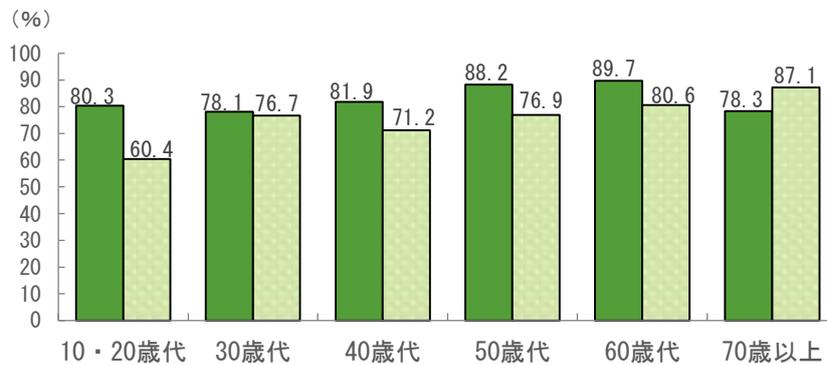
⑦ 避難者による食事作り・片付け・清掃等について、性別にかかわらず分担する



⑧ 避難所の運営組織に、多様な立場の代表が参画している



⑨ 性的少数者に配慮した避難所の設置・運営を行う

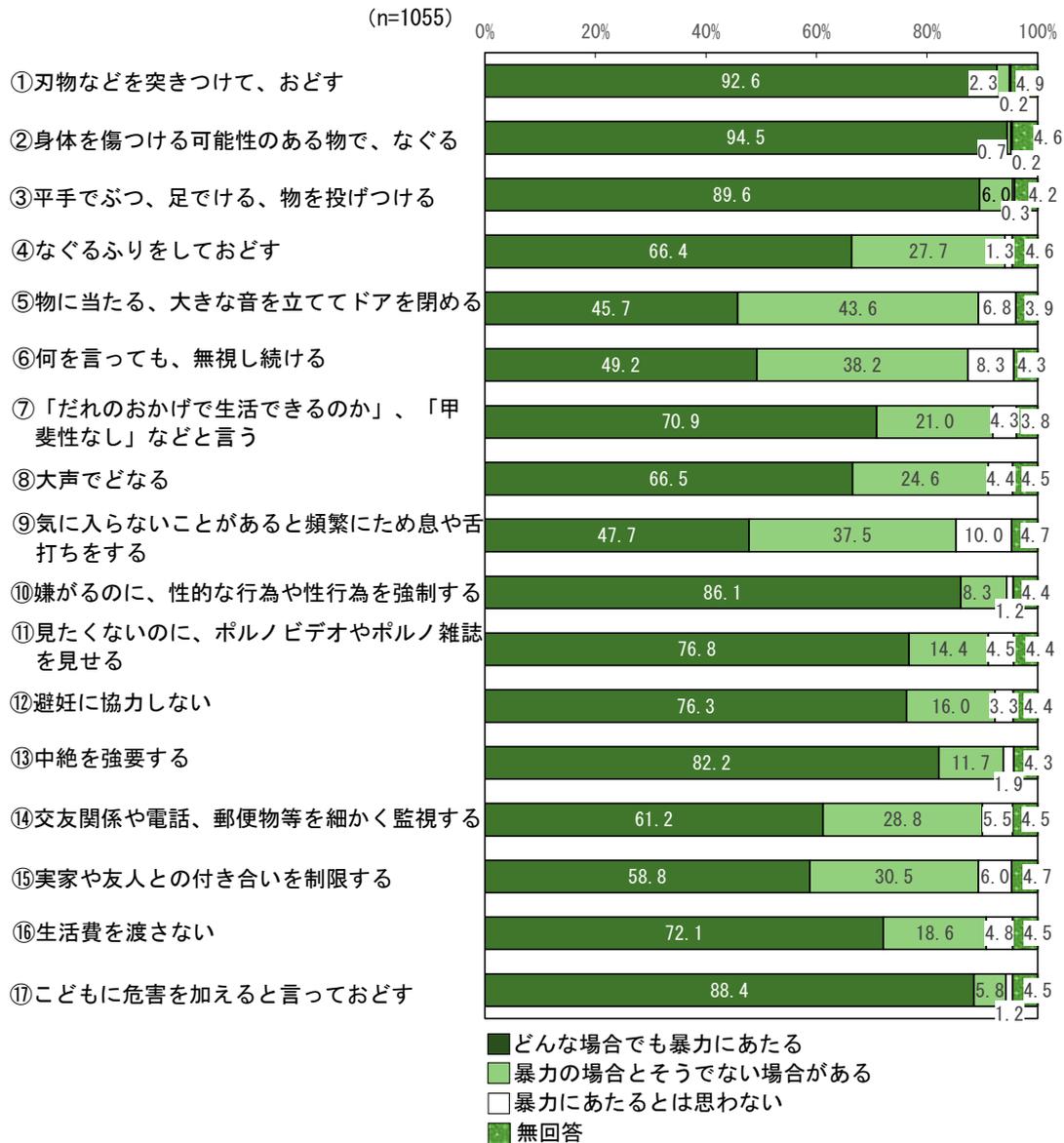


## 7. DV（配偶者等からの暴力）について

### 7-1 暴力と思う行為

**問 23** 次のようなことが配偶者・パートナー（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれ1つ選択）

○「どんな場合でも暴力にあたる」については、「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」（94.5%）、「①刃物などを突きつけて、おどす」（92.6%）などで高く、「⑨気に入らないことがあると頻繁にため息や舌打ちをする」（47.7%）、「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」（45.7%）などでは低い。

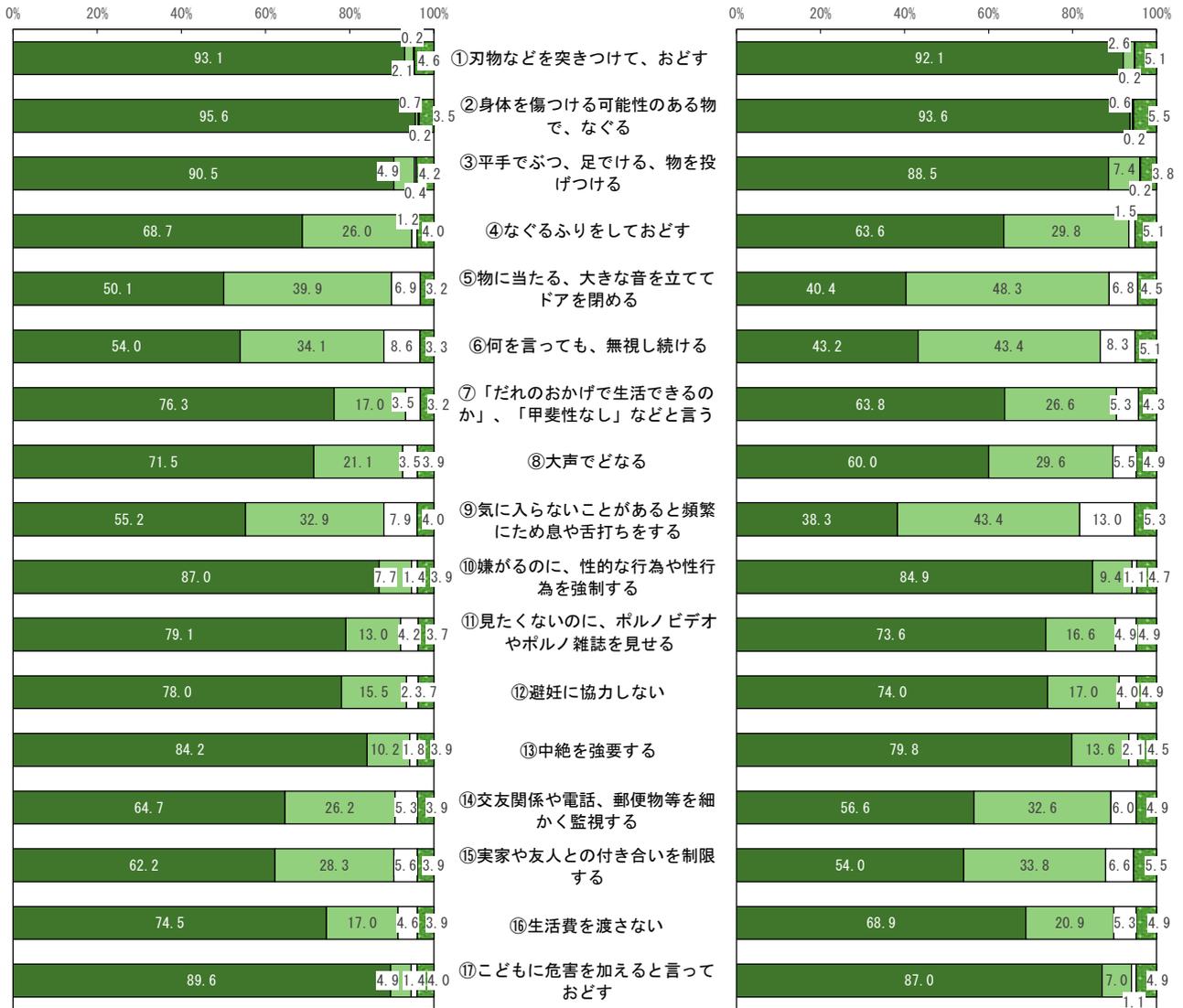


7-1 暴力と思う行為 【クロス集計（性別）】

○ 性別ごとに見ると、「どんな場合でも暴力にあたる」、「暴力の場合とそうでない場合がある」を合わせた割合では、男女間に大きな違いはみられない。ただし、「どんな場合でも暴力にあたる」のみについては、男女間の差が大きいものから順に「⑨気に入らないことがあると頻繁にため息や舌打ちをする」（16.9ポイント差）、「⑦「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う」（12.5ポイント差）、「⑧大声でどなる」（11.5ポイント差）、「⑥何を言っても、無視し続ける」（10.8ポイント差）で、女性の方が男性よりも高い。

女性 (n=569)

男性 (n=470)



■どんな場合でも暴力にあたる ■暴力の場合とそうでない場合がある □暴力にあたるとは思わない ■無回答

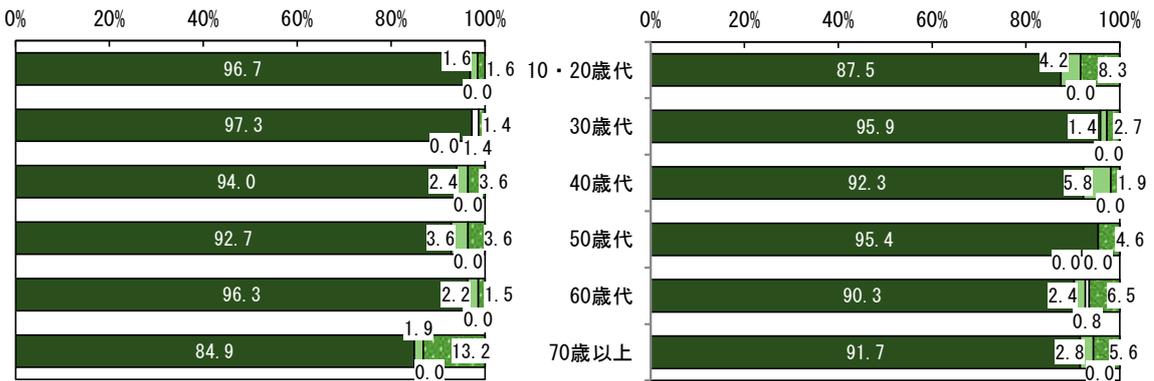
7-1 暴力と思う行為 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別で見ると、「①刃物などを突きつけて、おどす」、「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」、「③平手でぶつ、足でける、物を投げつける」に関しては、概ね全ての性年代において9割程度が「どんな場合でも暴力にあたる」と回答している。その一方で、「⑨気に入らないことがあると頻繁にため息や舌打ちをする」、「⑮実家や友人との付き合いを制限する」などでは、男性において年齢階層が高くなるほど、「どんな場合でも暴力にあたる」との回答が減少する傾向が見られる（女性については、年齢階層による違いはあまり見られない）。

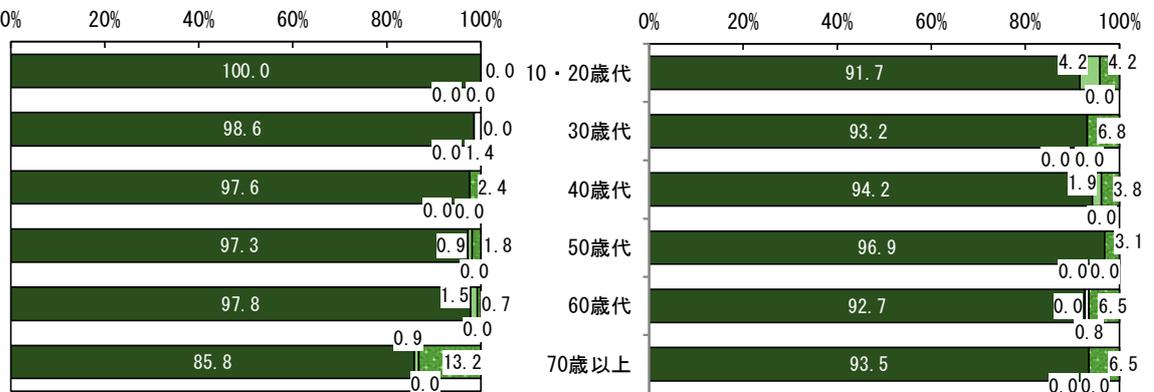
女性 (n=569)

男性 (n=470)

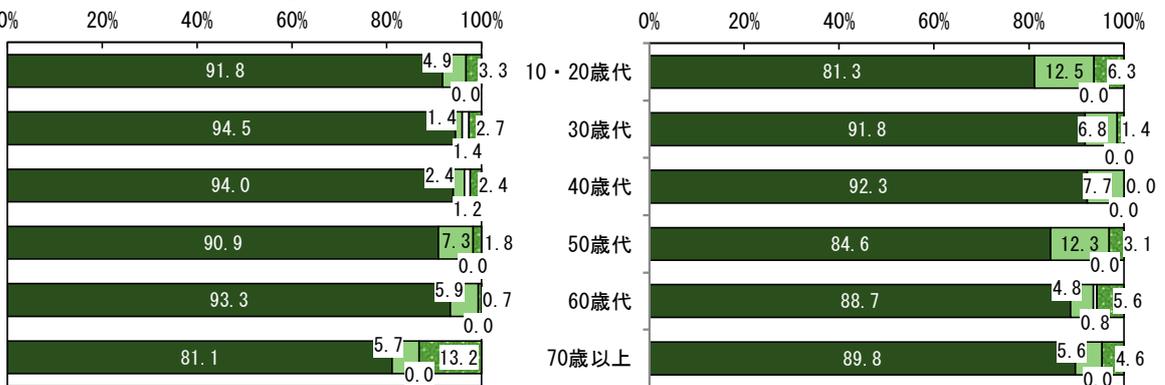
① 刃物などを突きつけて、おどす



② 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる



③ 平手でぶつ、足でける、物を投げつける

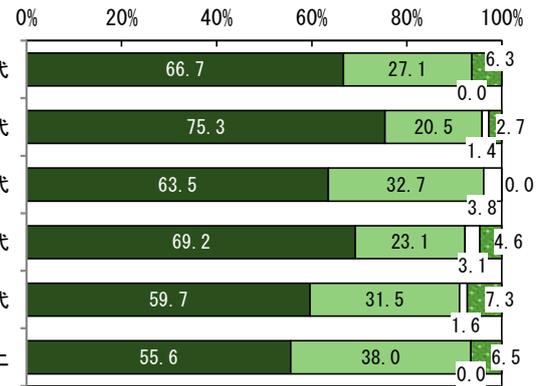


■どんな場合でも暴力にあたる ■暴力の場合とそうでない場合がある □暴力にあたるとは思わない ■無回答

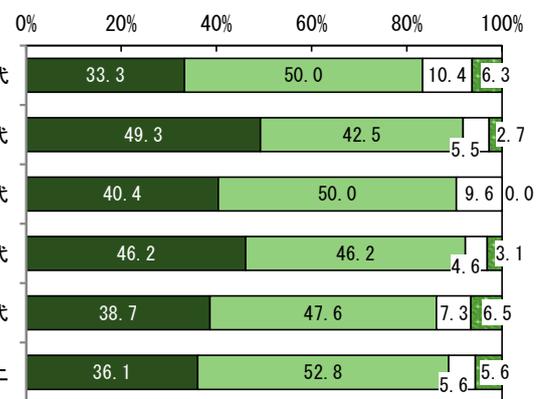
女性 (n=569)

男性 (n=470)

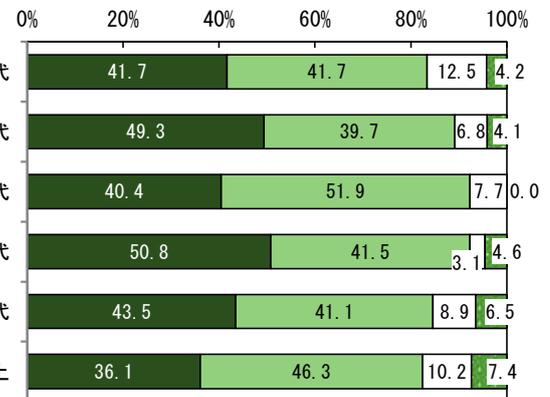
④ なぐるふりをしておどす



⑤ 物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める



⑥ 何を言っても、無視し続ける



⑦ 「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う

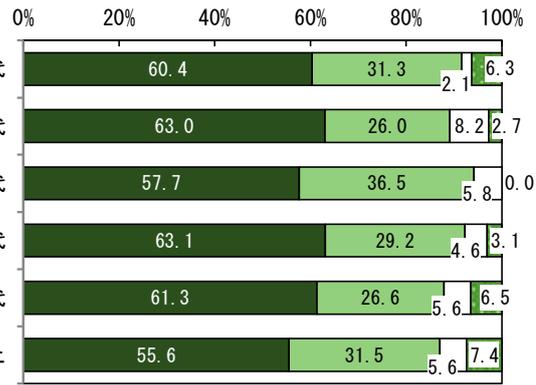
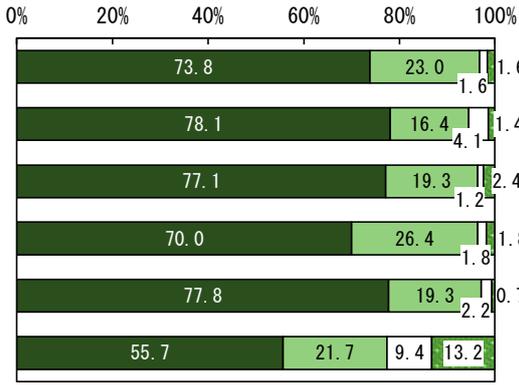


■どんな場合でも暴力にあたる ■暴力の場合とそうでない場合がある □暴力にあたるとは思わない ■無回答

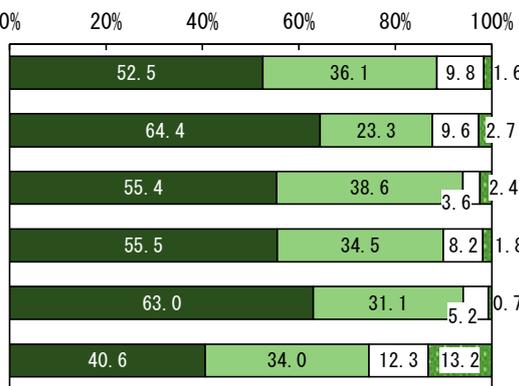
女性 (n=569)

男性 (n=470)

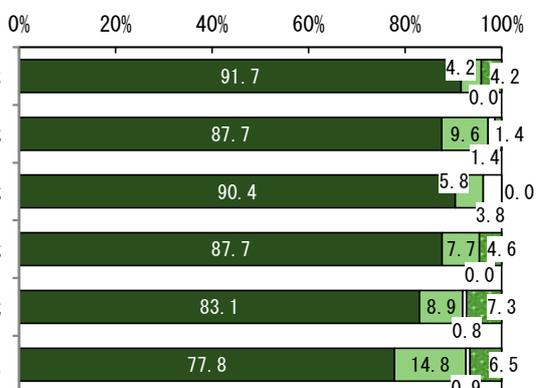
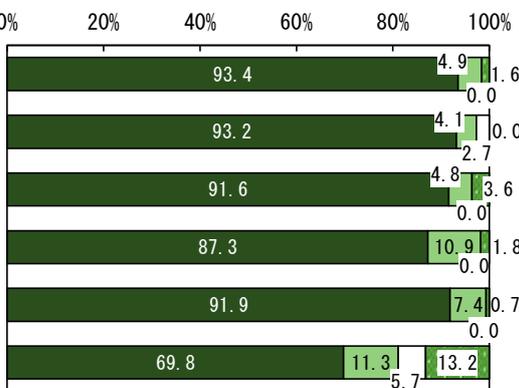
⑧ 大声でどなる



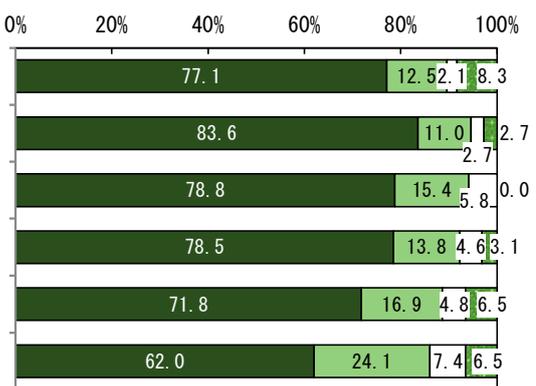
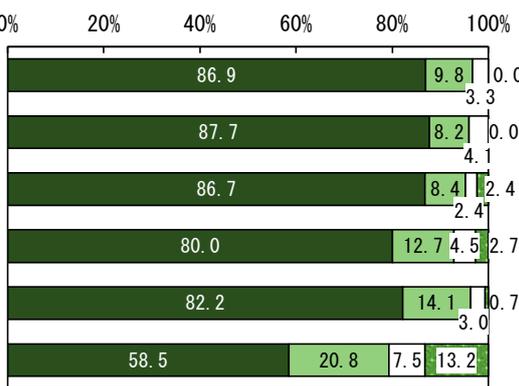
⑨ 気に入らないことがあると頻繁にため息や舌打ちをする



⑩ 嫌がるのに、性的な行為や性行為を強制する



⑪ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

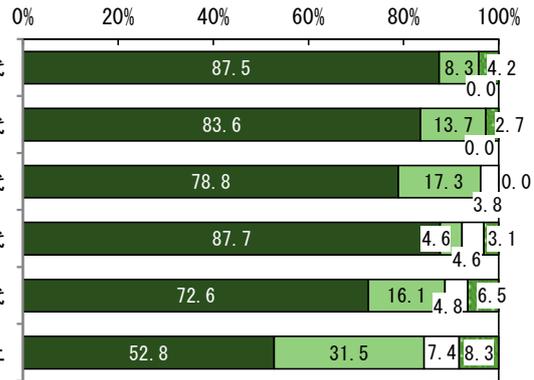
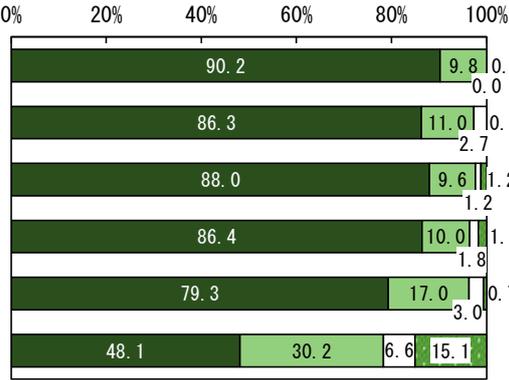


■ どんな場合でも暴力にあたる ■ 暴力の場合とそうでない場合がある □ 暴力にあたるとは思わない ■ 無回答

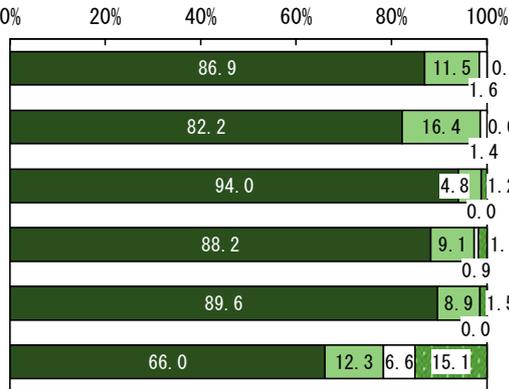
女性 (n=569)

男性 (n=470)

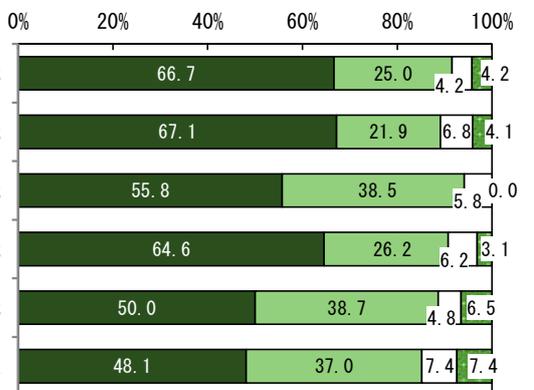
⑫ 避妊に協力しない



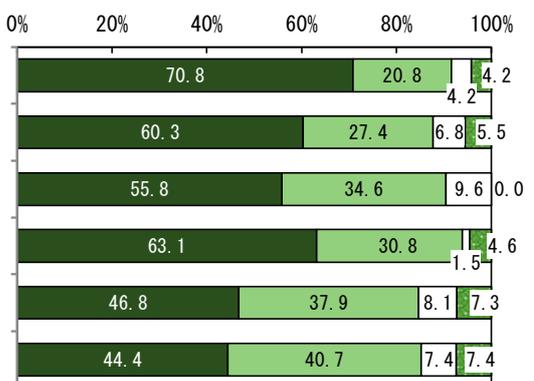
⑬ 中絶を強要する



⑭ 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



⑮ 実家や友人との付き合いを制限する

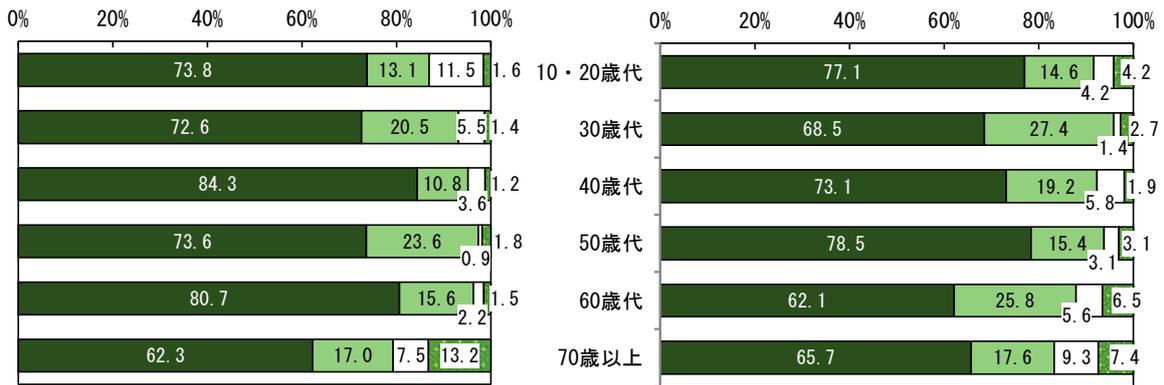


■ どんな場合でも暴力にあたる ■ 暴力の場合とそうでない場合がある □ 暴力にあたるとは思わない ■ 無回答

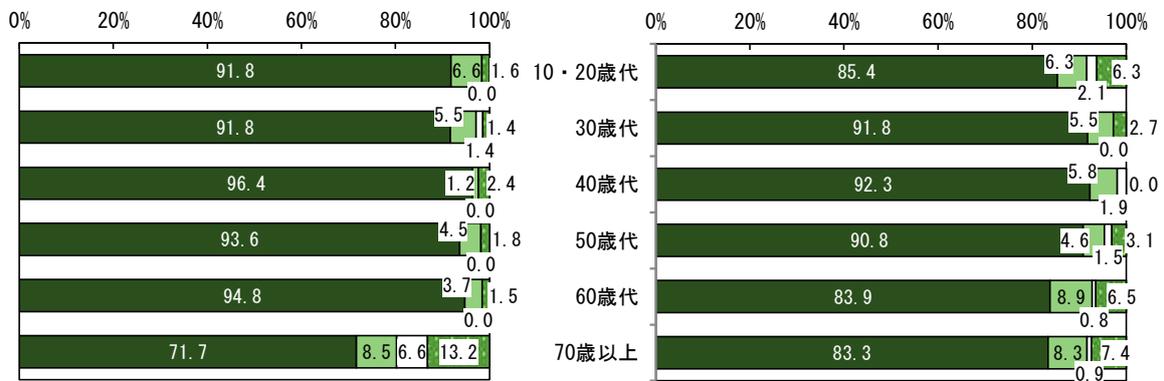
女性 (n=569)

男性 (n=470)

⑩ 生活費を渡さない



⑪ こどもに危害を加えると言っておどす



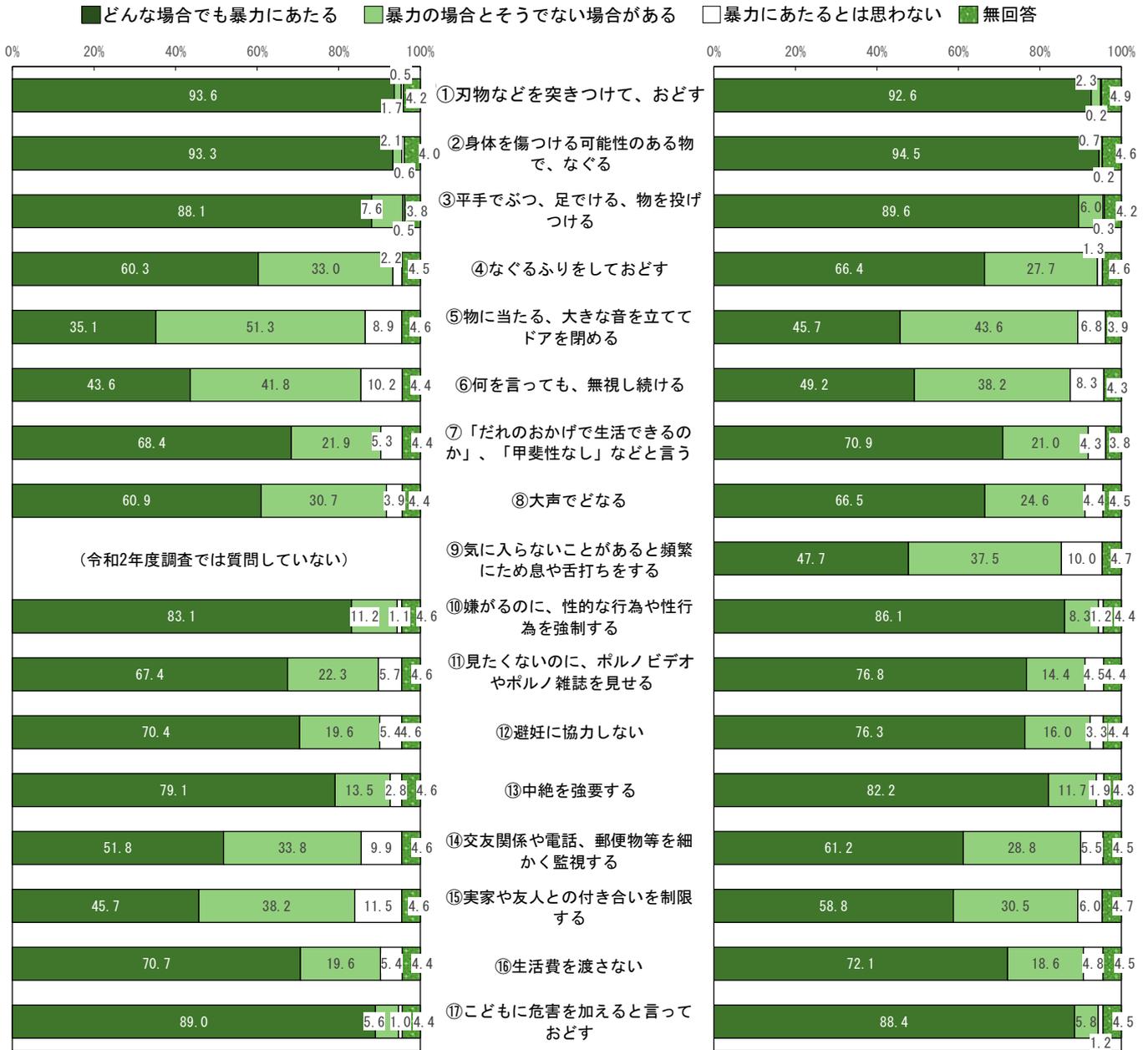
■どんな場合でも暴力にあたる ■暴力の場合とそうでない場合がある □暴力にあたるとは思わない ■無回答

7-1 暴力と思う行為 【前回調査との比較 \*全体】

○ 前回調査に比べて、全体的に「どんな場合でも暴力にあたる」の回答割合が増加し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」や「暴力にあたるとは思わない」が減少している。

令和2年度・全体 (n=1399)

令和7年度・全体 (n=1055)

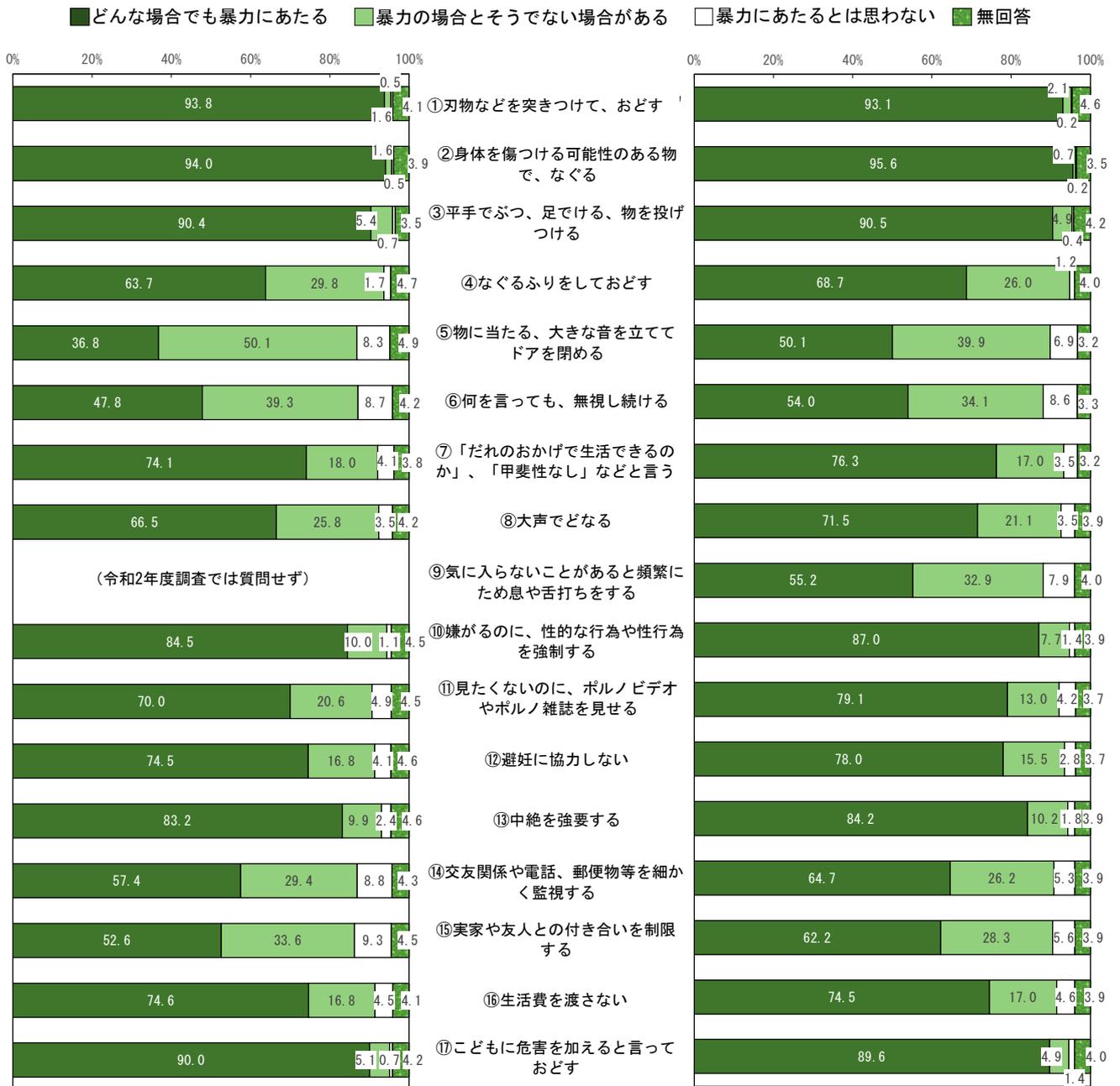


7-1 暴力と思う行為 【前回調査との比較 \*女性のみ】

○ 前回調査に比べて、女性の場合、「どんな場合でも暴力にあたる」、「暴力の場合とそうでない場合がある」を合わせた回答割合には大きな違いは見られない。ただし、「どんな場合でも暴力にあたる」のみの回答では、増加が大きいものから順に「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」(13.3ポイント)、「⑮実家や友人との付き合いを制限する」(9.6ポイント)、「⑪見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(9.1ポイント)となっており、13項目で増加している。

令和2年度・女性 (n=761)

令和7年度・女性 (n=569)



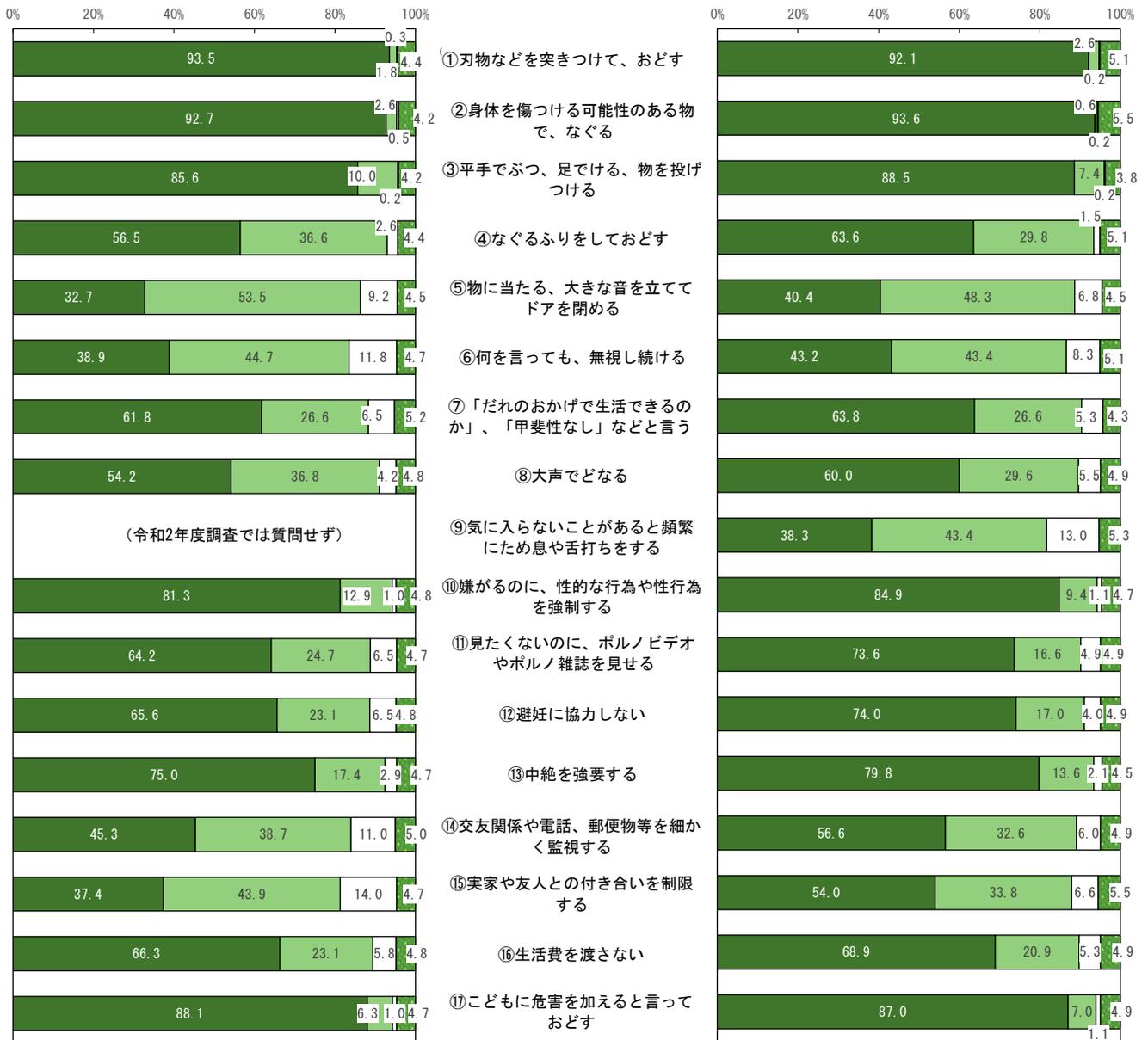
7-1 暴力と思う行為 【前回調査との比較 \*男性のみ】

○ 前回調査に比べて、男性の場合、「どんな場合でも暴力にあたる」、「暴力の場合とそうでない場合がある」を合わせた回答割合には、大きな違いは見られない。ただし、「どんな場合でも暴力にあたる」のみの回答では、増加が大きいものから順に「⑮実家や友人との付き合いを制限する」(16.6 ポイント)、「⑭交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」(11.3 ポイント)、「⑪見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(9.4 ポイント) となっており、14項目で増加している。

令和2年度・男性 (n=620)

令和7年度・男性 (n=470)

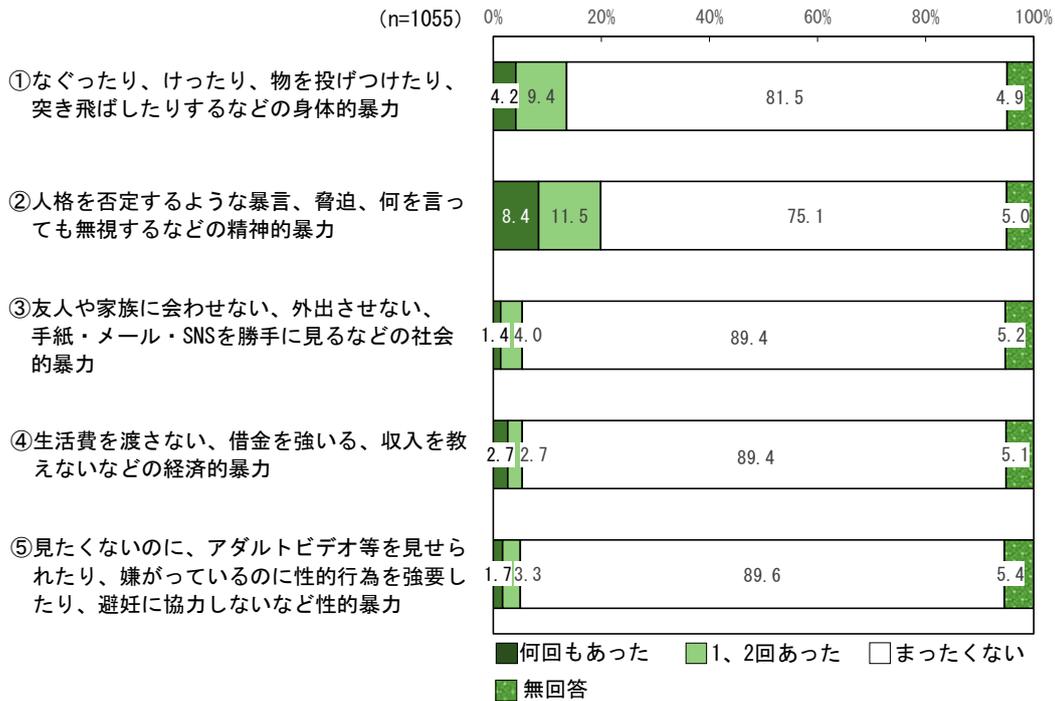
■ どんな場合でも暴力にあたる ■ 暴力の場合とそうでない場合がある □ 暴力にあたるとは思わない ■ 無回答



7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験

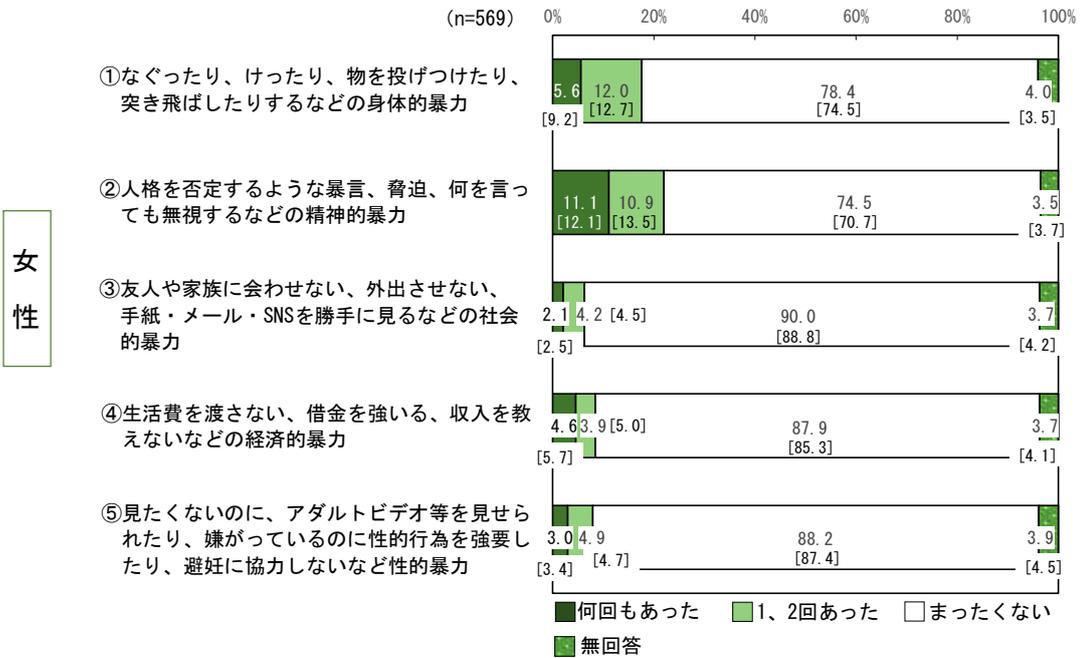
**問 24** あなたはこれまでに、配偶者・パートナーや恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。（それぞれ1つ選択）

○ 「何回もあった」、「1、2回あった」を合わせた回答割合について、「②人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力」が19.9%で最も高く、次いで「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力」（13.6%）となっている。

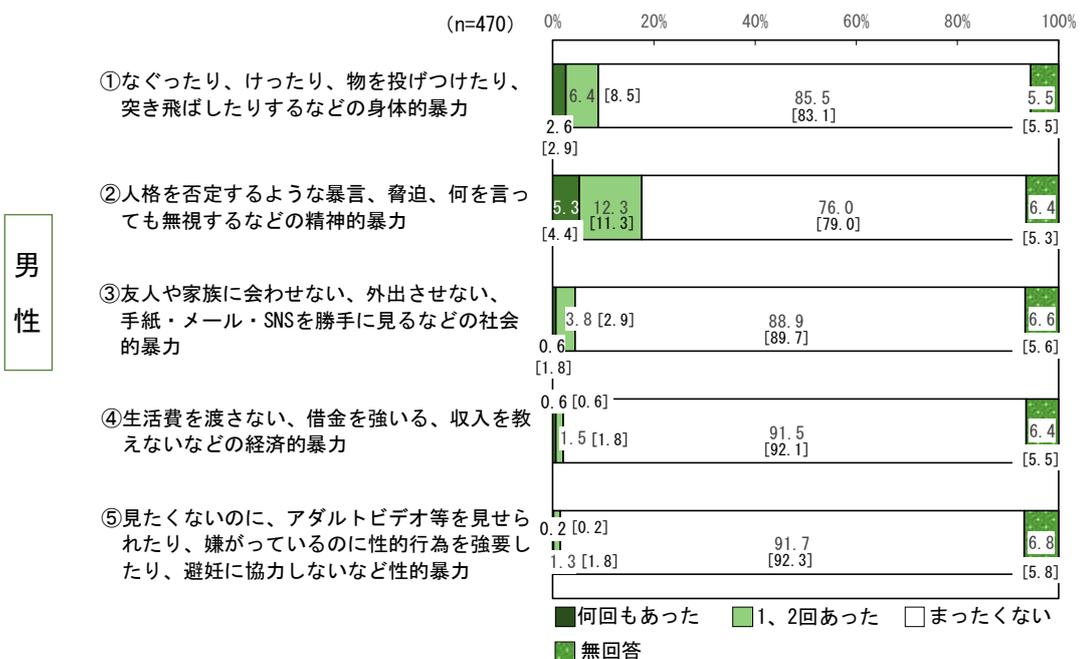


7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験 【クロス集計（性別）】

- 性別ごとに見ると、「何回もあった」、「1、2回あった」を合わせた回答割合について、女性では「②精神的暴力」が22.0%で最も高く、次いで「①身体的暴力」(17.6%)となっている。また、前回調査と比べると、「②精神的暴力」(3.6ポイント減)、「①身体的暴力」(4.3ポイント減)ともに減少している。
- 「何回もあった」、「1、2回あった」を合わせた回答割合について、男性では「②精神的暴力」が17.6%で最も高く、前回調査に比べて1.9ポイント増加している。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=761）の値。



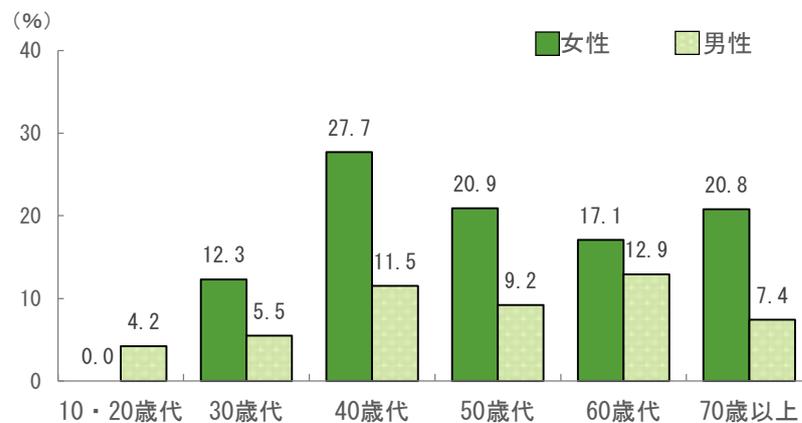
(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=620）の値。

## 7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験 【クロス集計（性年代別）】

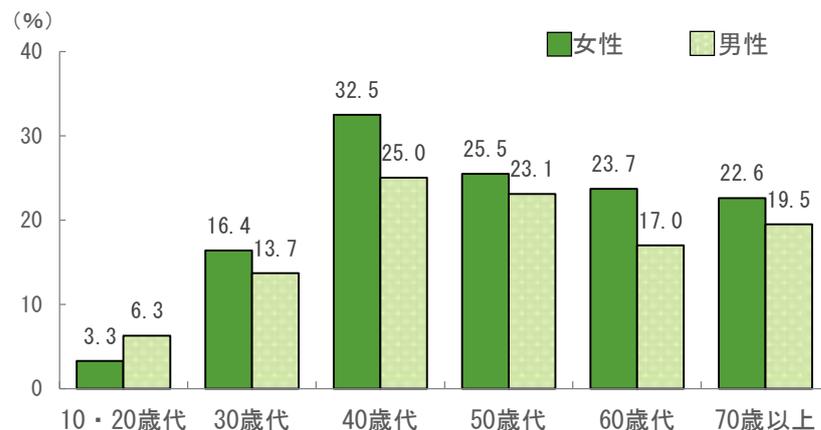
- 性年代別に見ると、「①身体的暴力」における『被害経験あり』の回答割合は、女性の40歳代（27.7%）、50歳代（20.9%）、70歳以上（20.8%）で2割を超えている。また、男性の60歳代（12.9%）、40歳代（11.5%）では1割を超えている。
- 性年代別に見ると、「②精神的暴力」における『被害経験あり』の回答割合は、女性の40歳代で32.5%と3割を超えており、50歳代（25.5%）、60歳代（23.7%）、70歳以上（22.6%）では2割を超えている。また、男性の40歳代（25.0%）、50歳代（23.1%）においても2割を超えている。

### 【『被害経験あり』（「何回もあった」＋「1、2回あった」）と答えた人の割合】

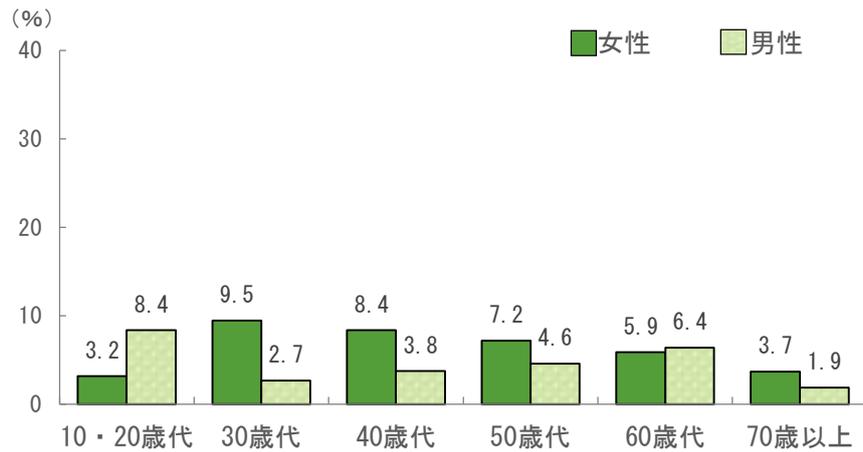
#### ① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力



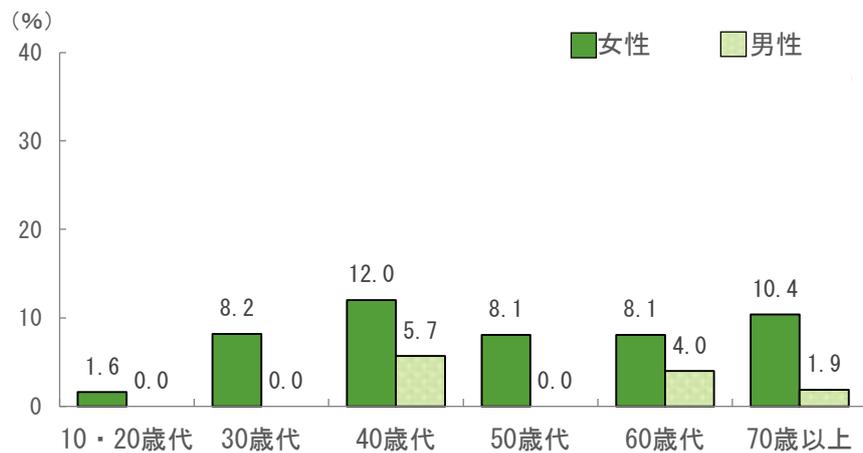
#### ② 人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力



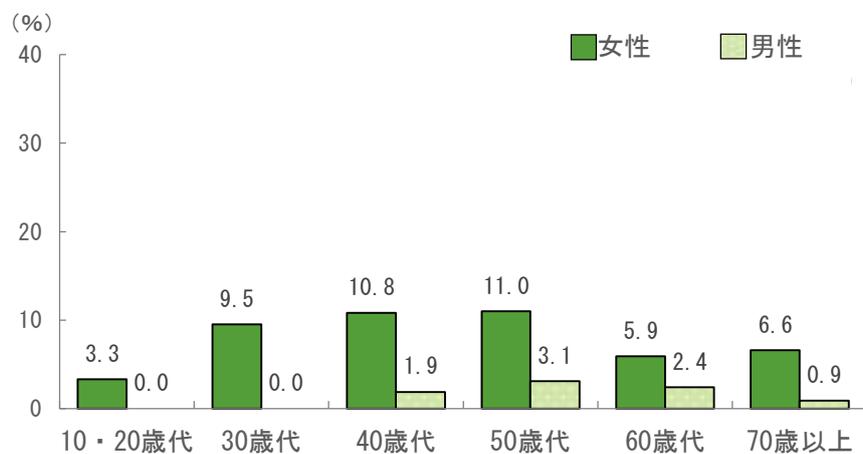
③ 友人や家族に会わせない、外出させない、手紙・メール・SNS を勝手に見るなどの社会的暴力



④ 生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えないなどの経済的暴力



⑤ 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力

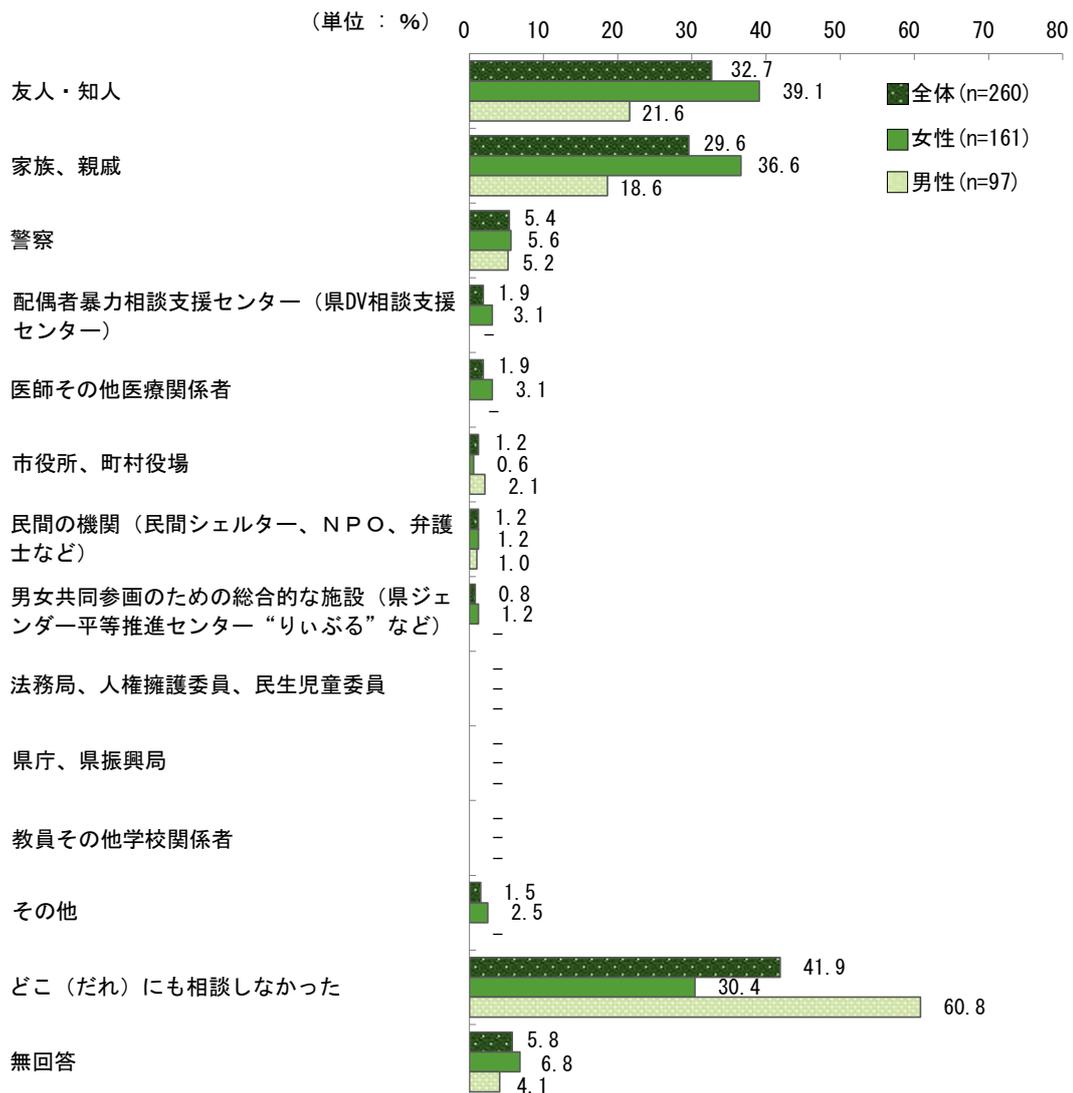


7-3 実際の相談先 【クロス集計（性別）】

**問 25** 【問 24 の①～⑤のうち、「何回もあった」、「1、2回あった」をひとつでも選んだ方にお聞きします。】

あなたはこれまでに、問 24 であげたような配偶者・パートナーや恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるもの全て選択）

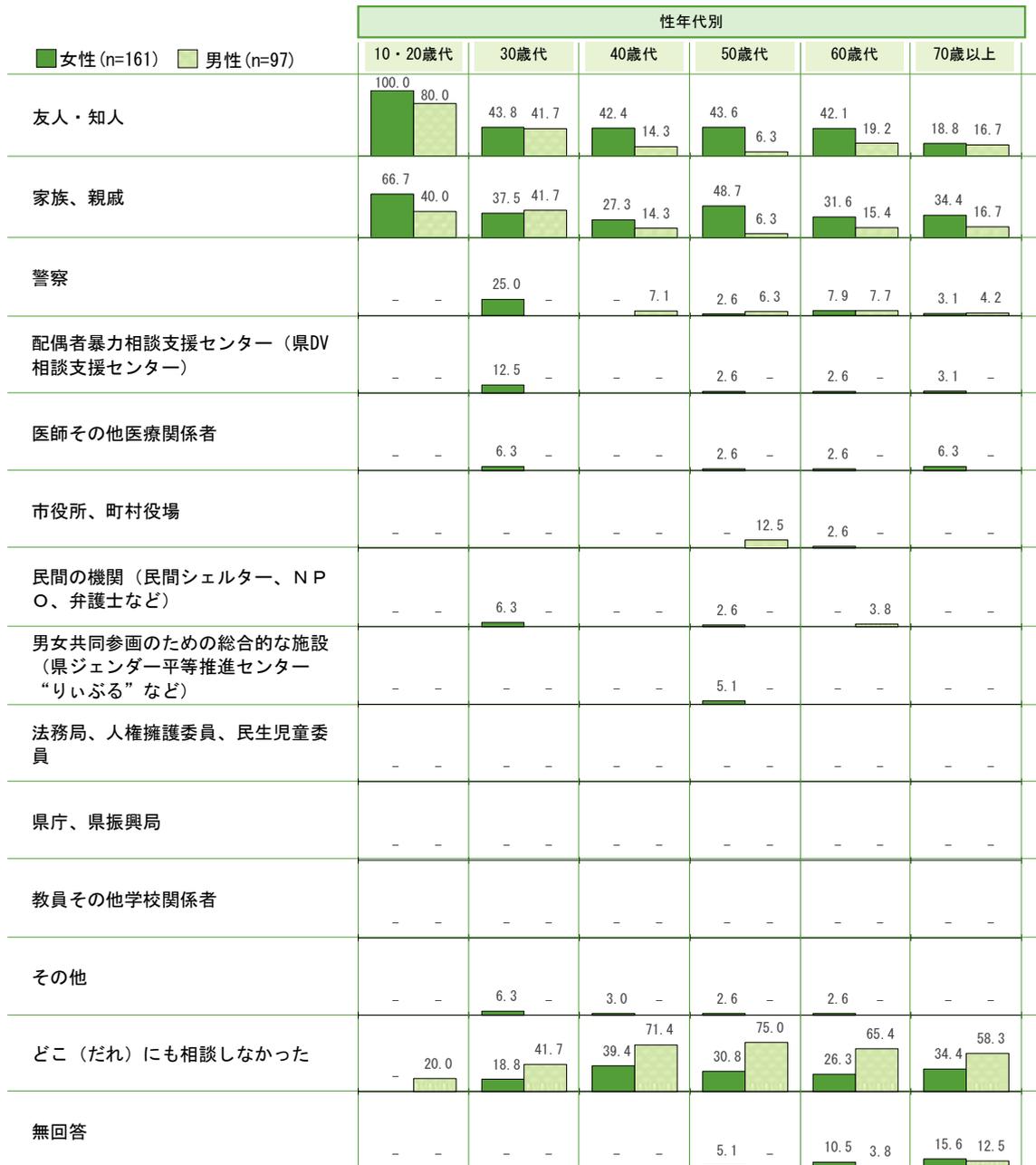
- 全体では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 41.9%で最も高く、次いで「友人・知人」（32.7%）、「家族、親戚」（29.6%）、「警察」（5.4%）となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では「友人・知人」が 39.1%で最も高く、次いで「家族、親戚」（36.6%）となっている。男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 60.8%で最も高く、次いで「友人・知人」（21.6%）、「家族、親戚」（18.6%）となっている。



(\* 図表内の「-」は、0.0%を意味する。

7-3 実際の相談先【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、女性では、50歳代、70歳以上を除く全ての年齢階層で「友人・知人」が最も高い回答となっている。また、男性では、10・20歳代を除く全ての年齢階層で「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高い回答となっている。



(\*) 表内の「-」は、0.0%を意味する。

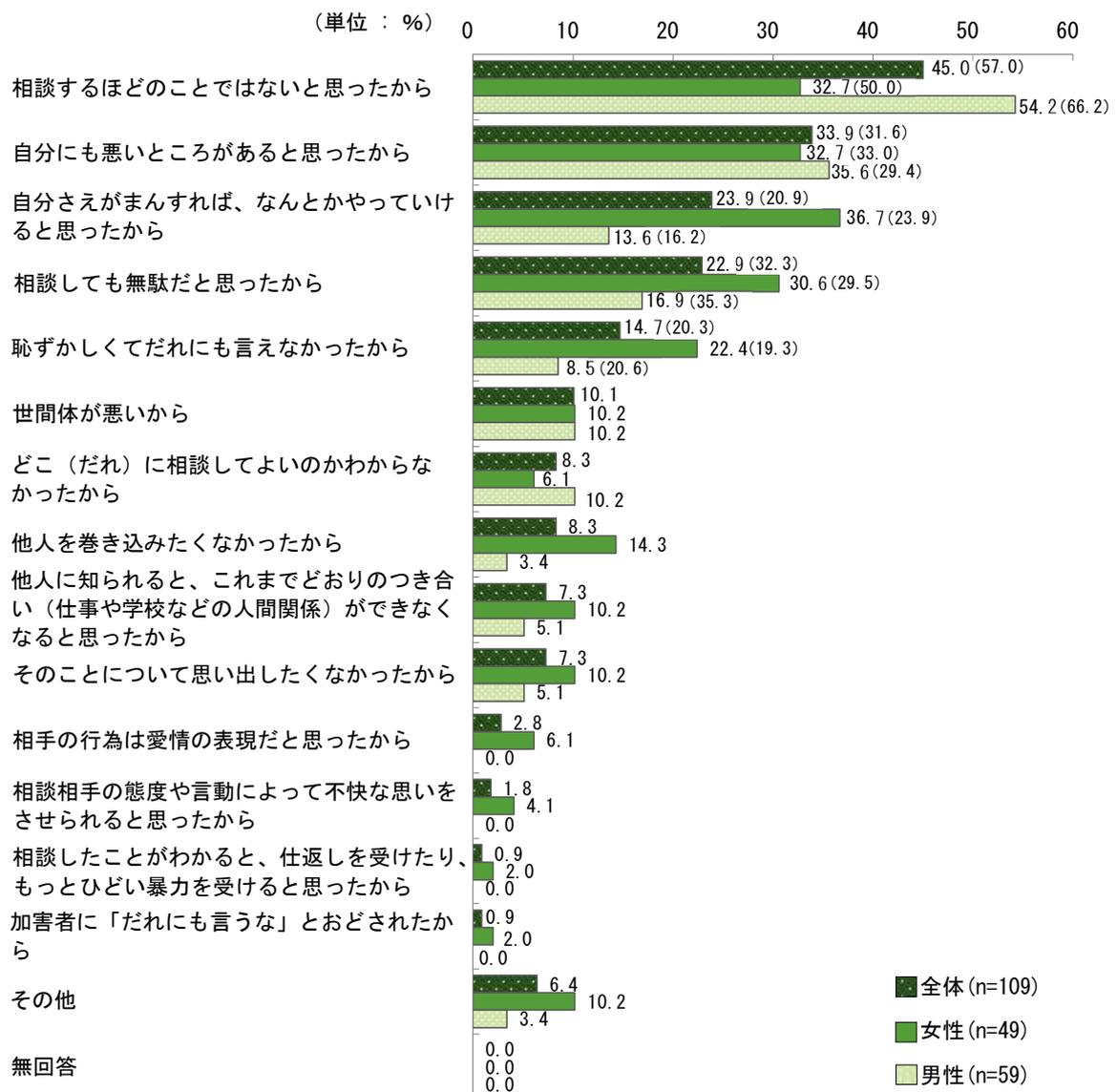
(単位：%)

7-4 相談しなかった理由 【クロス集計（性別）】

問 26 【問 25 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答え方にお聞きします。】

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が 45.0%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(33.9%)、「自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから」(23.9%) となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから」が 36.7%で最も高くなっており、男性に比べ 20 ポイント以上差がある。次いで回答が高いものは「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」（同率 32.7%）となっている。また、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が 54.2%で女性に比べ突出して高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(35.6%)、「相談しても無駄だと思ったから」(16.9%) となっている。
- 前回調査の比較としては「相談するほどのことではないと思ったから」で 12 ポイント減（女性 17.3 ポイント減、男性 12 ポイント減）、「相談しても無駄だと思ったから」で 9.4 ポイント減（女性 1.1 ポイント増、男性 18.4 ポイント減）、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が 5.6 ポイント減（女性 3.1 ポイント増、男性 12.1 ポイント減）となっており、性別間で変化の差異がみられる。



(\*) ( ) 内は、前回調査（令和 2 年実施、n=158）の値。但し、上位 5 項目のみ表記

7-4 相談しなかった理由 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、男性では全ての年齢階層で「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」が上位2項目となっており全体の回答状況と概ね同じ傾向がみられる（ただし男性30歳代では他の項目も同率で該当がある）。
- 女性では、40歳代においては「自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから」、「相談しても無駄だと思ったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が同率で最も高く、「他人を巻き込みたくなかったから」、「他人に知られると、これまでどおりのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから」も他の年代に比べ高い傾向にある。

	性年代別						
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
■ 女性(n=49) ■ 男性(n=59)							
相談するほどのことではないと思ったから	-	100.0	33.3 60.0	30.8 60.0	41.7 58.3	10.0 47.1	45.5 50.0
自分にも悪いところがあると思ったから	-	-	20.0	30.8 40.0	25.0 41.7	40.0 41.2	45.5 28.6
自分さえがまんすれば、なんとかやっていけると思ったから	-	-	66.7 20.0	46.2 20.0	16.7 16.7	30.0 11.8	45.5 7.1
相談しても無駄だと思ったから	-	-	33.3 20.0	46.2 30.0	16.7 25.0	20.0 17.6	36.4 -
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	-	-	66.7 -	46.2 -	8.3 8.3	10.0 11.8	9.1 14.3
世間体が悪いから	-	-	33.3 20.0	23.1 10.0	- -	10.0 5.9	- 21.4
どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	-	-	33.3 -	7.7 -	- 16.7	10.0 17.6	- 7.1
他人を巻き込みたくなかったから	-	-	- -	30.8 -	8.3 8.3	20.0 -	- 7.1
他人に知られると、これまでどおりのつき合い（仕事や学校などの人間関係）	-	-	- 20.0	23.1 -	8.3 -	10.0 5.9	- 7.1
そのことについて思い出したくなかったから	-	-	- 20.0	- -	8.3 -	30.0 5.9	9.1 7.1
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	-	-	- -	7.7 -	8.3 -	- -	9.1 -
相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから	-	-	- -	7.7 -	8.3 -	- -	- -
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	-	-	- -	7.7 -	- -	- -	- -
加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	-	-	- -	7.7 -	- -	- -	- -
その他	-	-	- -	15.4 -	8.3 8.3	10.0 5.9	9.1 -
無回答	-	-	- -	- -	- -	- -	- -

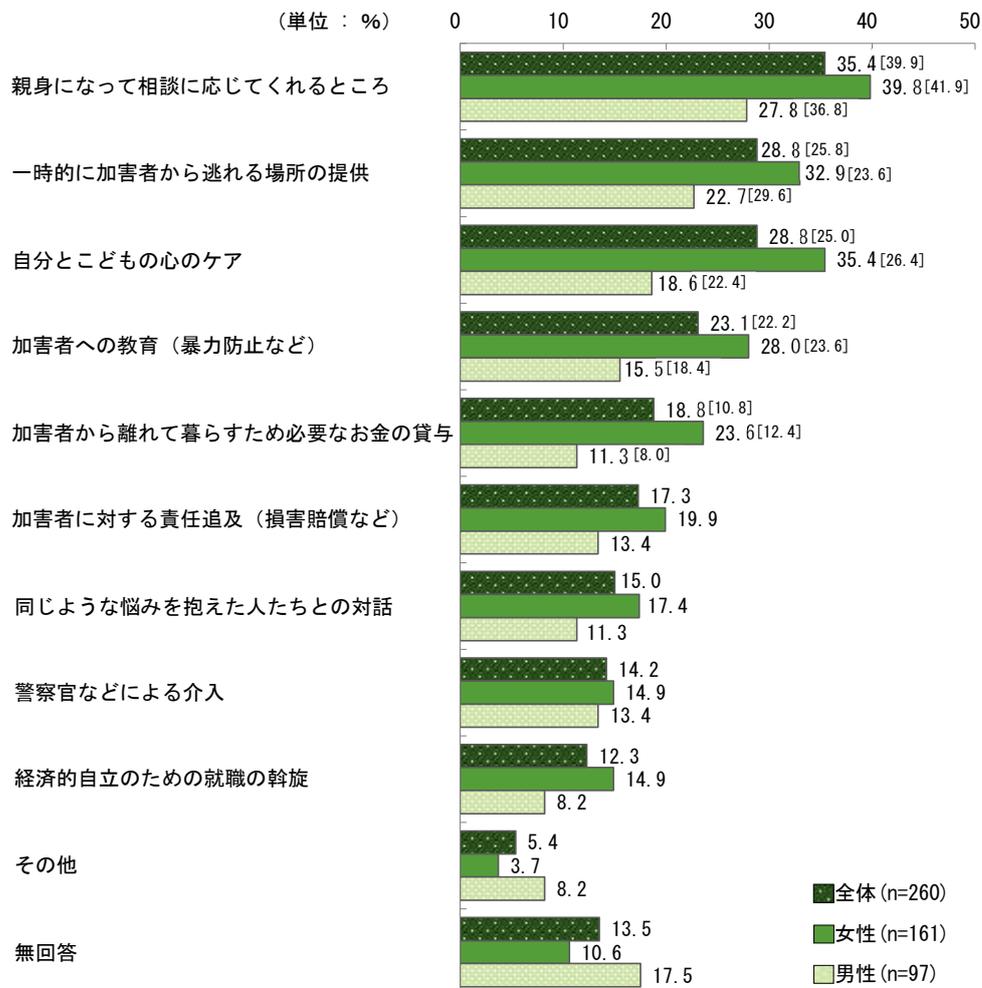
(\*) 表内の「-」は、0.0%を意味する。

(単位：%)

7-5 実際に求める支援 【クロス集計（性別）】

**問 27** あなたは、配偶者・パートナーや恋人から暴力を受けたとき、どのような助けが欲しいと思いましたが。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「親身になって相談に応じてくれるところ」が 35.4%で最も高く、次いで「一時的に加害者から逃れる場所の提供」(28.8%)、「自分とこどもの心のケア」(28.8%) となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では、「親身になって相談に応じてくれるところ」が 39.8%で最も高く、次いで「自分とこどもの心のケア」(35.4%)、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」(32.9%) となっている。一方で、男性で最も高いのは「親身になって相談に応じてくれるところ」(27.8%)とで女性と変わらないが、次いで「一時的に加害者から逃れる場所の提供」(22.7%)、「自分とこどもの心のケア」(18.6%)の順となっており差異が見られる(特に「自分とこどもの心のケア」については性別間で 16.8 ポイント差がある)。
- 前回調査と比べると増加幅が大きいものとしては、女性で「加害者から離れて暮らすため必要なお金の貸与」(11.2 ポイント増)、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」(9.3 ポイント増)、「自分とこどものこころのケア」(9.0 ポイント増) となっている。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=388）の値。但し、上位5項目のみ表記

7-5 実際に求める支援 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、女性の10・20歳代では「自分と子どもの心のケア」と「同じような悩みを抱えた人たちとの対話」が同率で高くなっている。また30歳代および70歳以上では「加害者への教育」が最も高い。40歳代では「自分と子どもの心のケア」（48.5%）が最も高く、50～60歳代では上位3項目については全体の女性の回答と相違がない。
- 男性では、10・20歳代では「一時的に加害者から逃れる場所の提供」が最も高く、40歳代以上においては全体回答の上位項目の傾向と概ね相違がないが、30歳代では「同じような悩みを抱えた人たちとの対話」が「親身になって相談に応じてくれるところ」等と同率の25%で最も高くなっている。



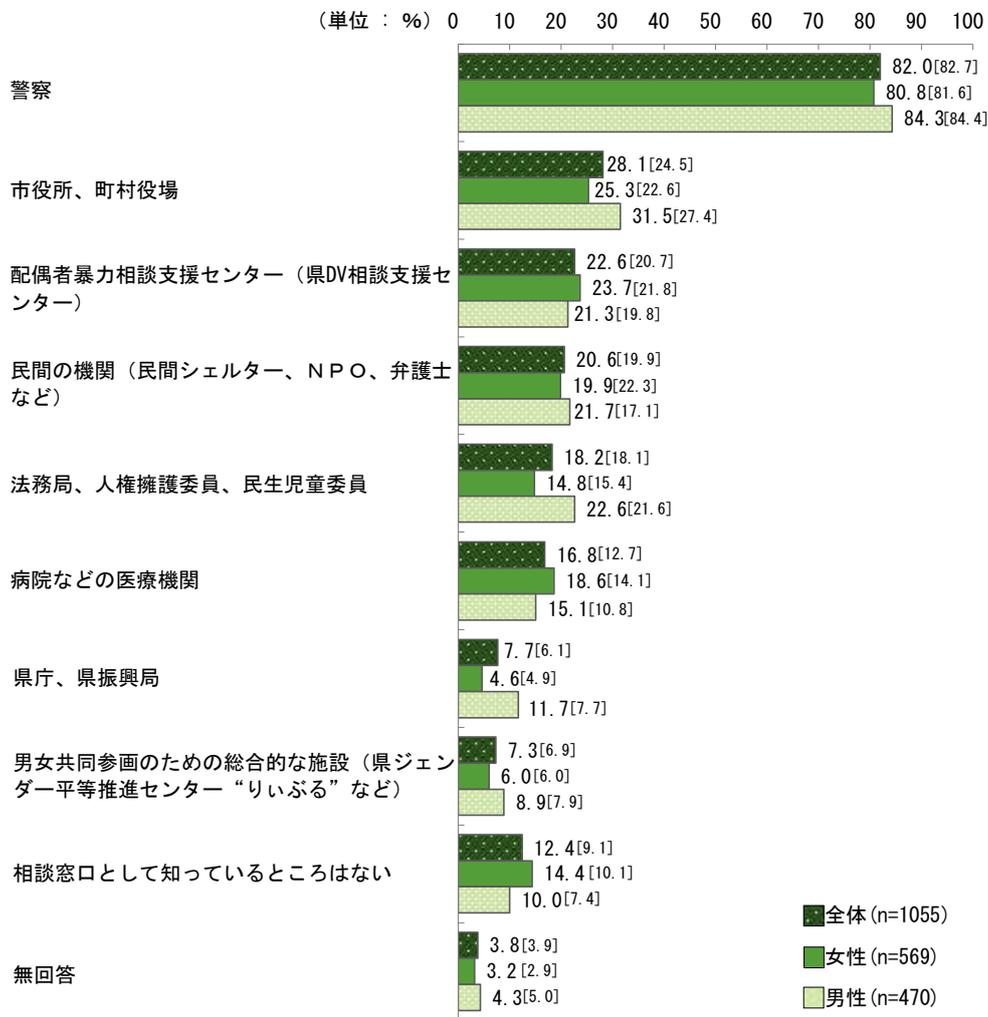
(\*) 表内の「-」は、0.0%を意味する。

(単位：%)

7-6 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの 【クロス集計（性別）】

問 28 配偶者・パートナーや恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関のうち、知っている所はどこですか。（あてはまるもの全て選択）

○ 全体では「警察」が82.0%で突出して高く、次いで「市役所、町村役場」（28.1%）、「配偶者暴力相談支援センター（県DV相談支援センター）」（22.6%）となっている。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値。

7-6 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの

【クロス集計（性年代別）】

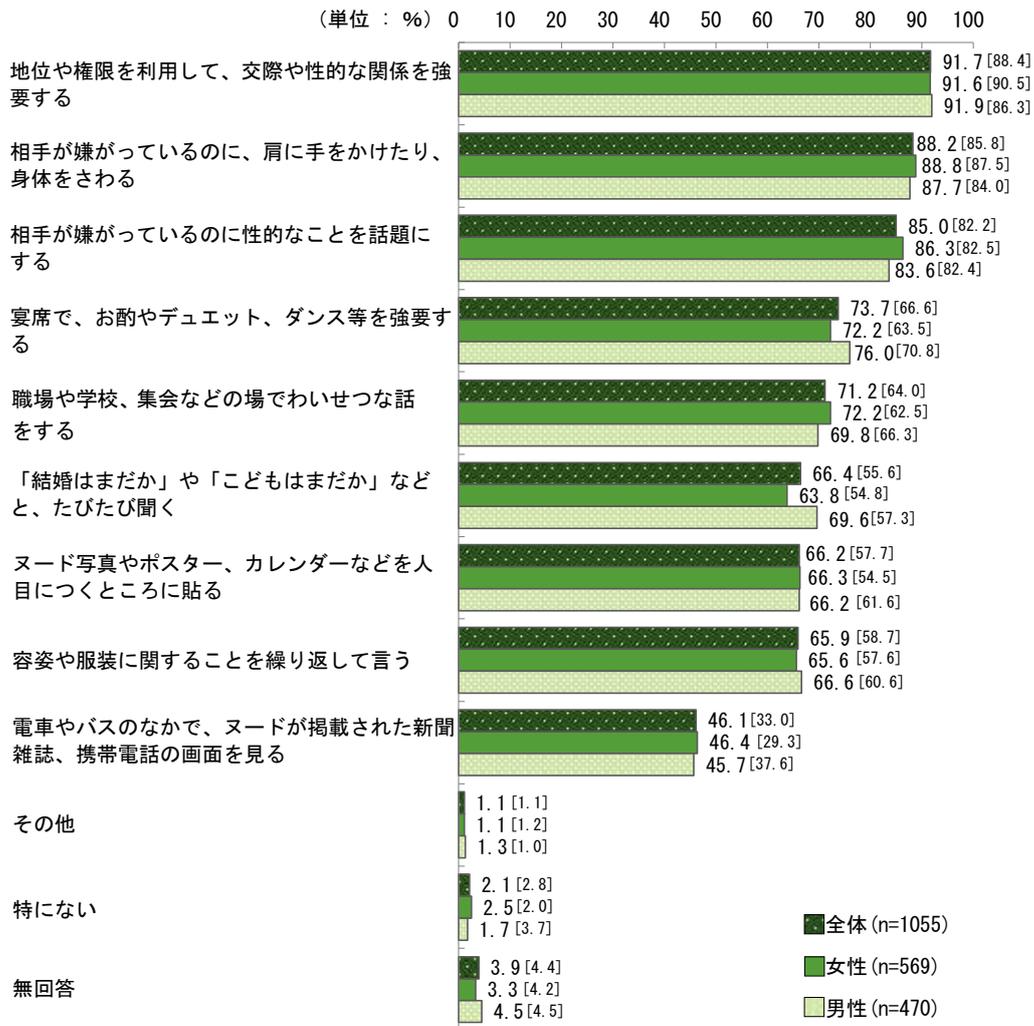
- 性年代別に見ると、女性では10・20歳代、30歳代において「相談窓口として知っているところはない」との回答割合がその他の年齢階層に比べて低く、「市役所、町村役場」、「配偶者暴力相談支援センター」、「病院などの医療機関」と答える割合が他の年齢階層に比べて高い。
- 男性では、「市役所、町村役場」、「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」において、年齢階層が高いほど、回答割合が高くなる傾向が見られた。



7-7 セクシャル・ハラスメントだと思うこと【クロス集計（性別）】

問 29 次にあげるもののうち、あなたがセクシャル・ハラスメントだと思うことはどれですか。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」が91.7%で最も多く、次いで「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる」（88.2%）、「相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする」（85.0%）となっている。また、前回調査と比較し、全ての項目で回答率が高くなっている（「その他」、「特にない」、「無回答」を除く）。
- 性別ごとに見た場合、回答状況に大きな違いは見られない。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値。

7-7 セクシャル・ハラスメントだと思うこと 【クロス集計（性年代別）】

- 性年代別に見ると、女性の10・20歳代、30歳代、40歳代において、他の年齢階層に比べて、より多くの項目をセクシャル・ハラスメントだと考える傾向が見られる。
- 男性では、10・20歳代で「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(56.3%)をはじめ、多くの項目において、回答割合が他の性年代に比べて低くなっている。

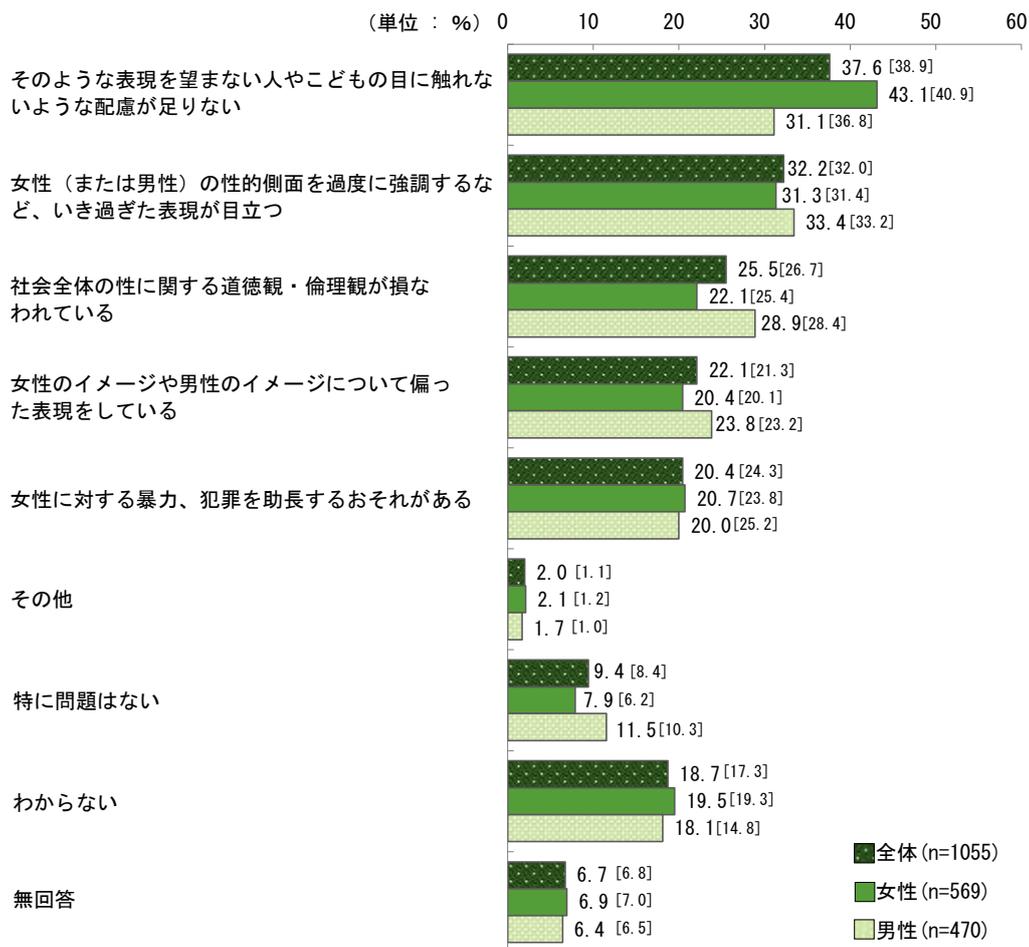


(単位：%)

7-8 メディアにおける性や暴力表現についての考え【クロス集計（性別）】

**問 30** メディア（新聞・雑誌・テレビ・インターネット等）における性・暴力表現について、あなたはどうにお考えですか。（3つまで選択）

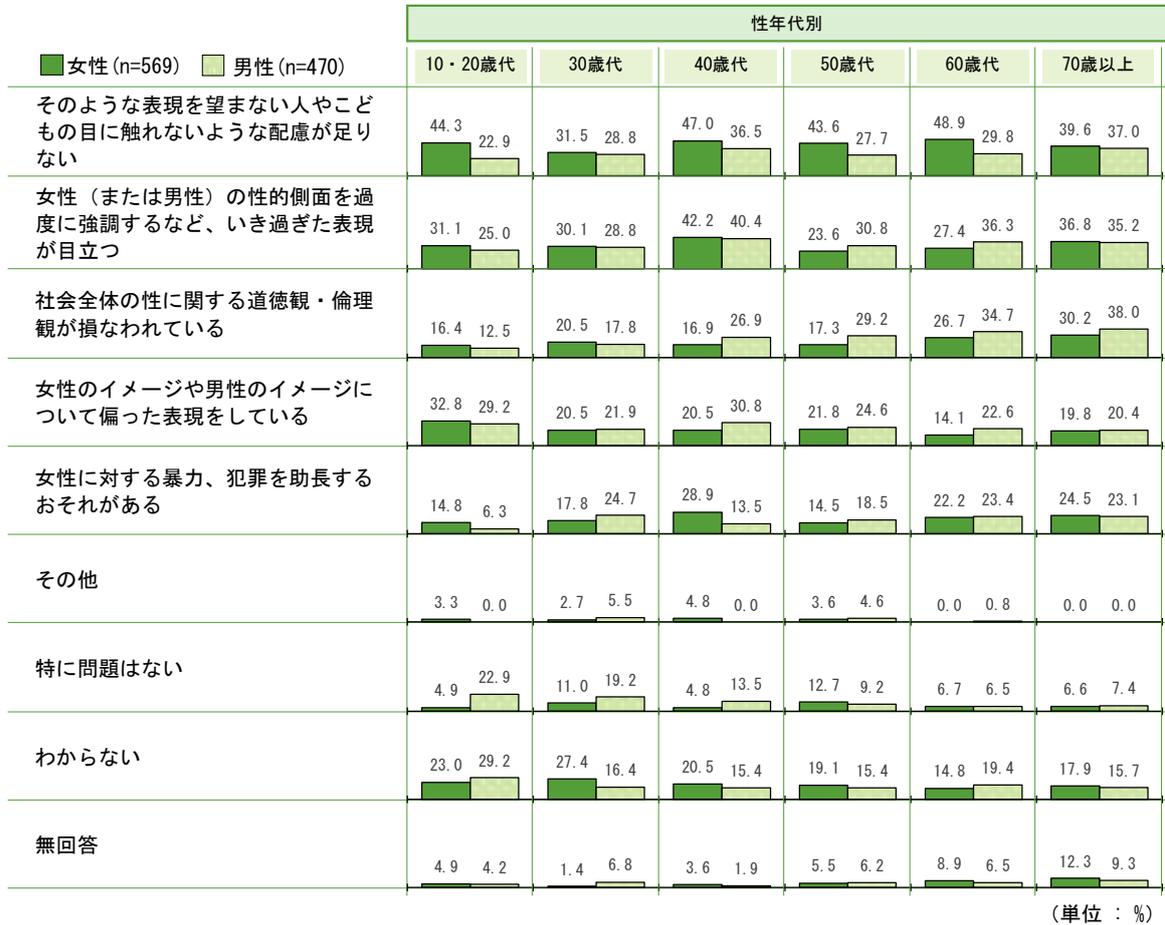
- 全体では、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が37.6%で最も高く、次いで「女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」（32.2%）、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（25.5%）となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が43.1%で最も高く、男性の31.1%に比べて12ポイント高い。また、男性では「女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が33.4%で最も高くなっている。



(\*) [ ]内は、前回調査（令和2年実施、n=1,399）の値。

7-8 メディアにおける性や暴力表現についての考え 【クロス集計（性年代別）】

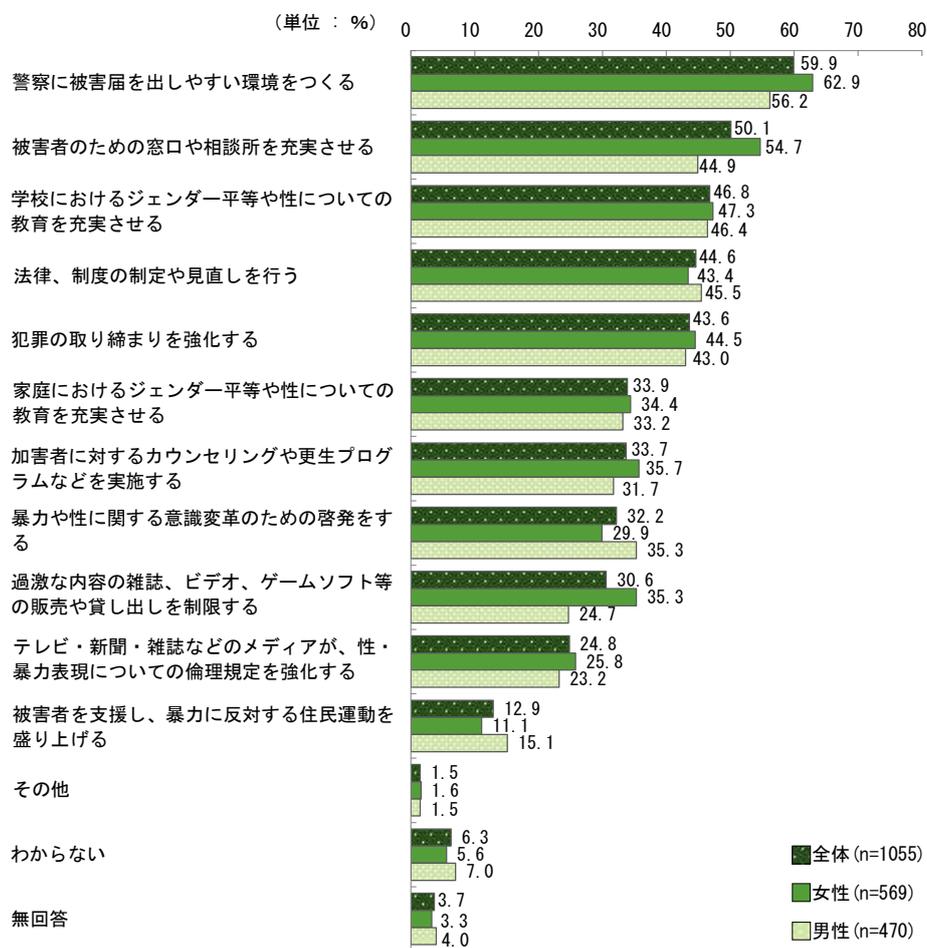
○ 性年代別で見ると、女性では全ての年齢階層で、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が最も高くなっている。また、男性の30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では、「女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が最も高い回答となっており、70歳以上では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が最も高くなっている。



7-9 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと 【クロス集計（性別）】

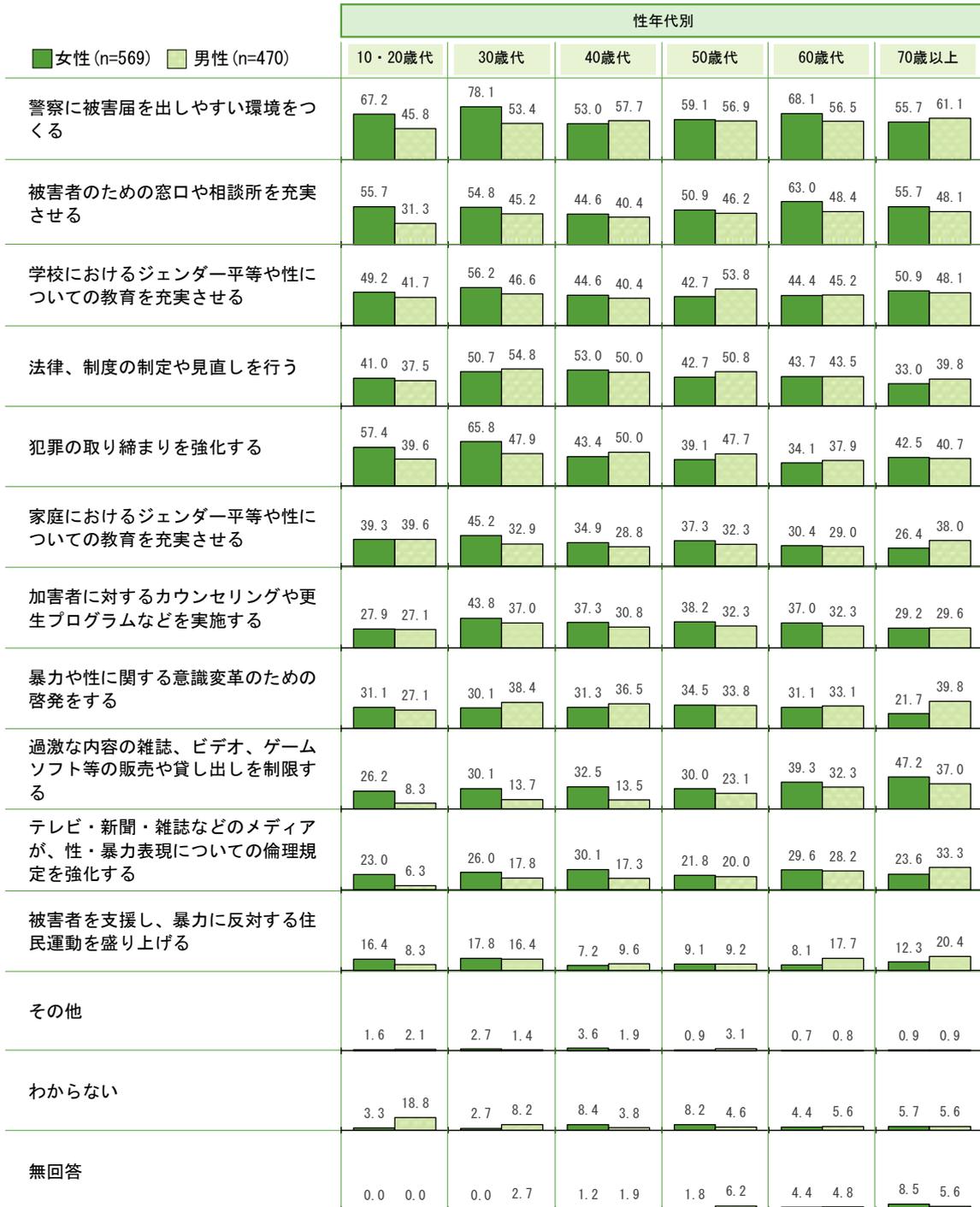
**問 31** 性犯罪、DV（配偶者等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が 59.9%で最も高く、次いで「被害者のための窓口や相談所を充実させる」(50.1%)、「学校におけるジェンダー平等や性についての教育を充実させる」(46.8%) となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が 62.9%で最も高く、男性に比べて 6.7 ポイント高い。次いで「被害者のための窓口や相談所を充実させる」(54.7%)、「学校におけるジェンダー平等や性についての教育を充実させる」(47.3%) となっている。男性では、「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が 56.2%で最も高く、次いで「学校におけるジェンダー平等や性についての教育を充実させる」(46.4%)、「法律、制度の制定や見直しを行う」(45.5%) となっている。



7-9 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、男性の30歳代を除く全ての性年代で「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が最も高くなっている。男性の30歳代では「法律、制度の制定や見直しを行う」が54.8%で最も高く、女性の40歳代においても「法律、制度の制定や見直しを行う」が「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」と同率で最も高い回答となっている。



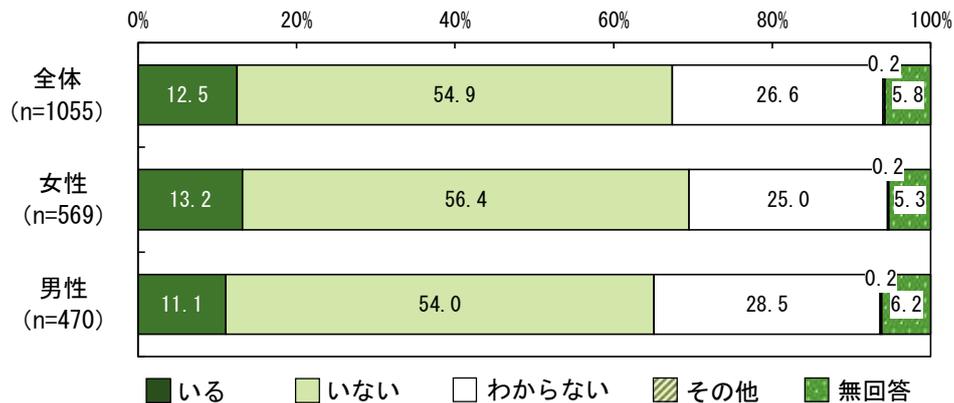
(単位：%)

## 8. 性的少数者について

### 8-1 (1) 性的少数者の知人の有無 【クロス集計 (性別)】

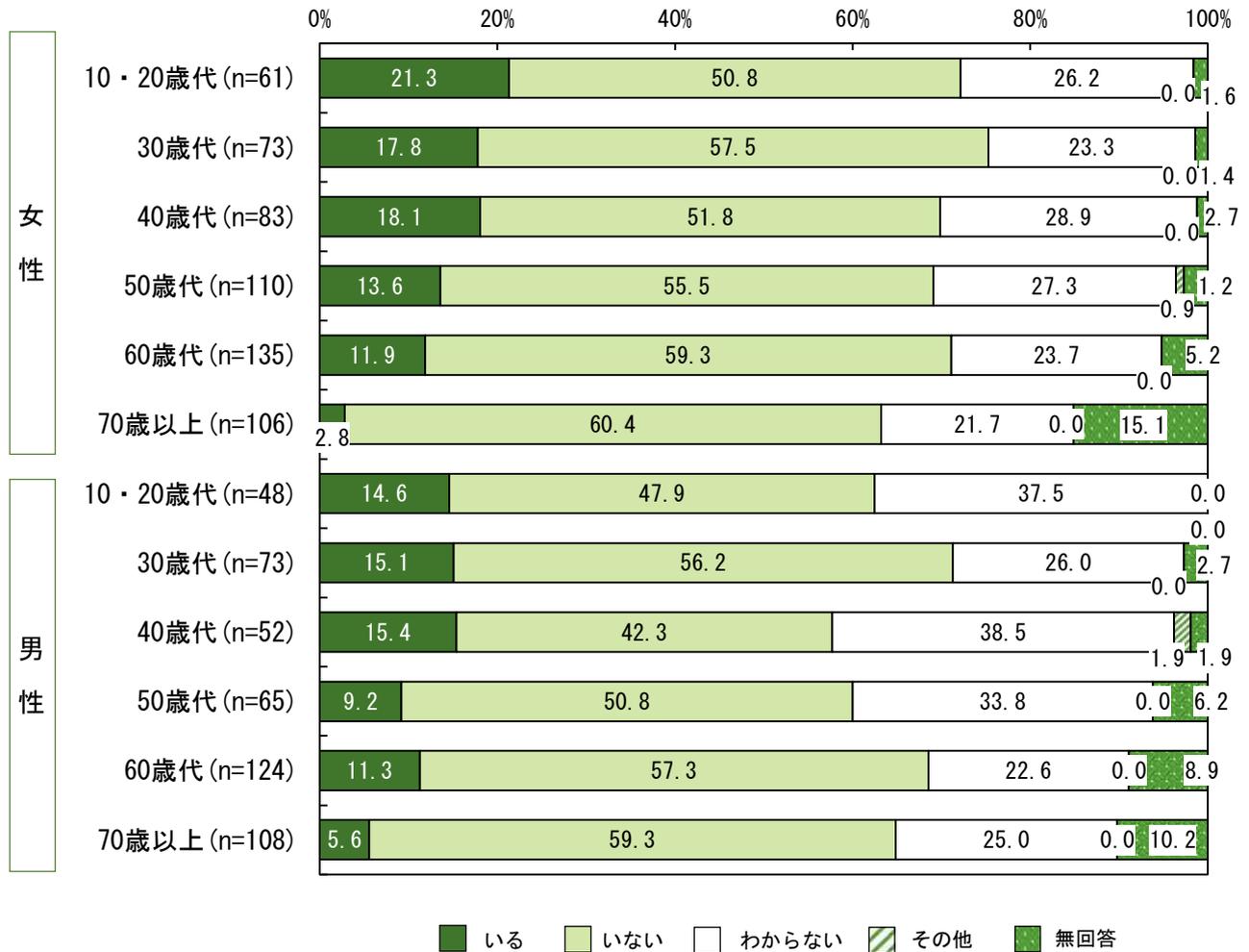
問 32-1 あなたの身近に性的少数者の方（そうであるとあなたが知っている方）はいますか。（1つ選択）

○ 「いる」は、全体では12.5%、女性で13.2%、男性で11.1%となっている。「いない」は、全体では54.9%、女性で56.4%、男性で54.0%となっており、「わからない」が全体で26.6%、女性で25.0%、男性で28.5%となっている。



8-1 (1) 性的少数者の知人の有無 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、女性の10・20歳代で「いる」が21.3%と2割を超えており、30歳代で17.8%、40歳代では18.1%で、他の性年代に比べてやや高くなっている。

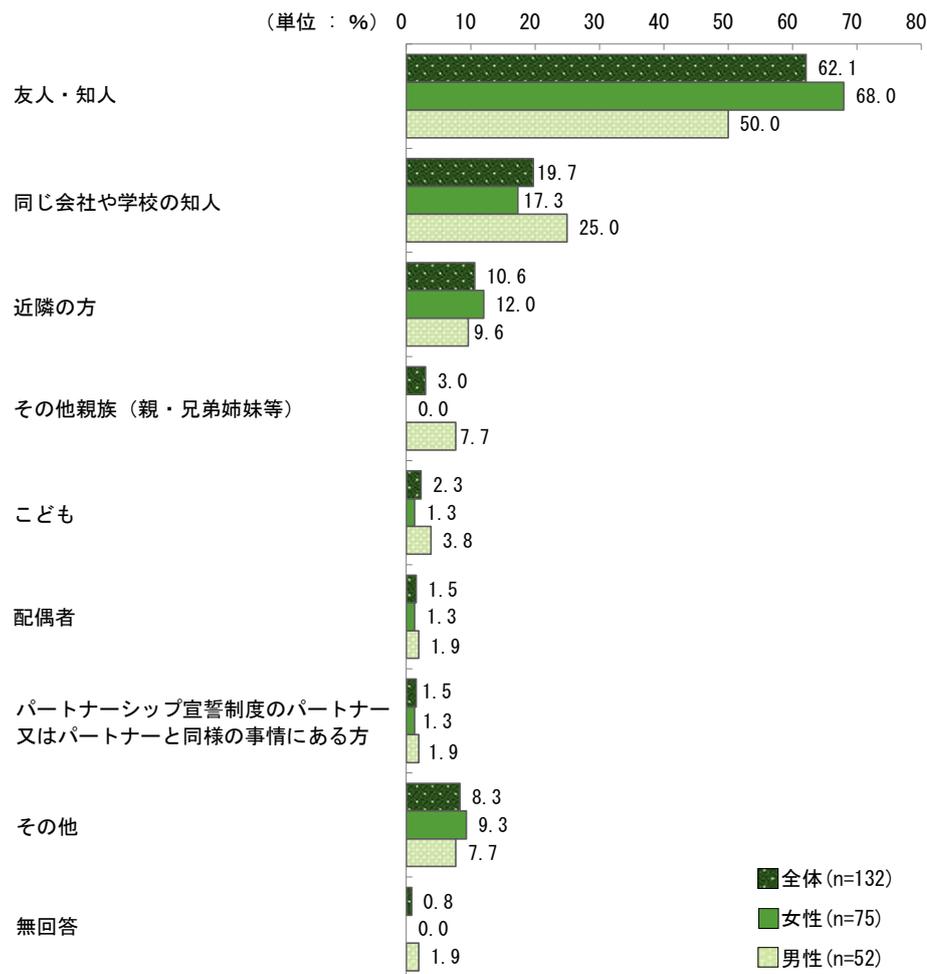


8-1 (2) 性的少数者との関係性

問 32-2 【問 32-1 で「いる」を選択された方にお聞きします。】

あなたと性的少数者の方の関係性は次のうちどれですか。(あてはまるもの全て選択)

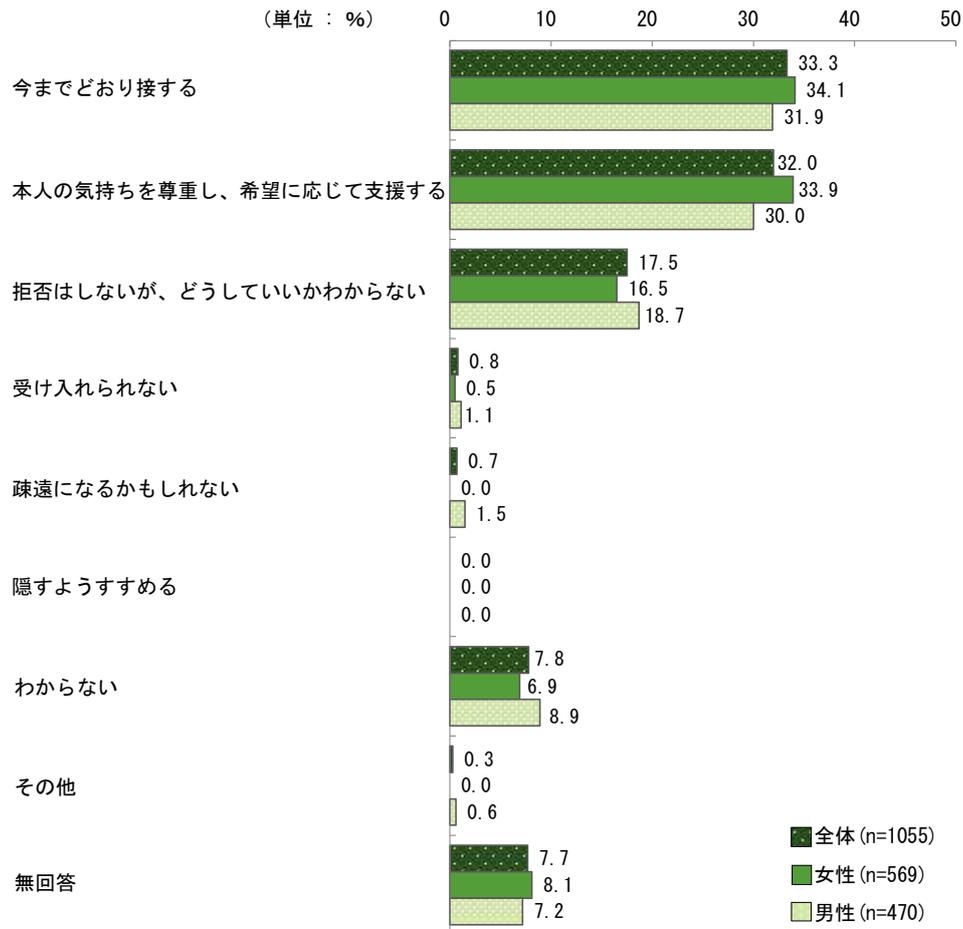
- 全体では、「友人・知人」が 62.1%で最も高く、次いで「同じ会社や学校の知人」(19.7%)、「近隣の方」(10.6%) となっている
- 性別ごとに見ると、女性においては「友人・知人」が 68.0%で最も高く、男性の 50.0%に比べて 18.0ポイント高い。次いで「同じ会社や学校の知人」(17.3%)、「近隣の方」(12.0%) となっている。男性についても、「友人・知人」(50.0%) が最も高く、次いで「同じ会社や学校の知人」(25.0%)、「近隣の方」(9.6%) となっている。



8-2 (1) 家族が性的少数者の場合の考え【クロス集計（性別）】

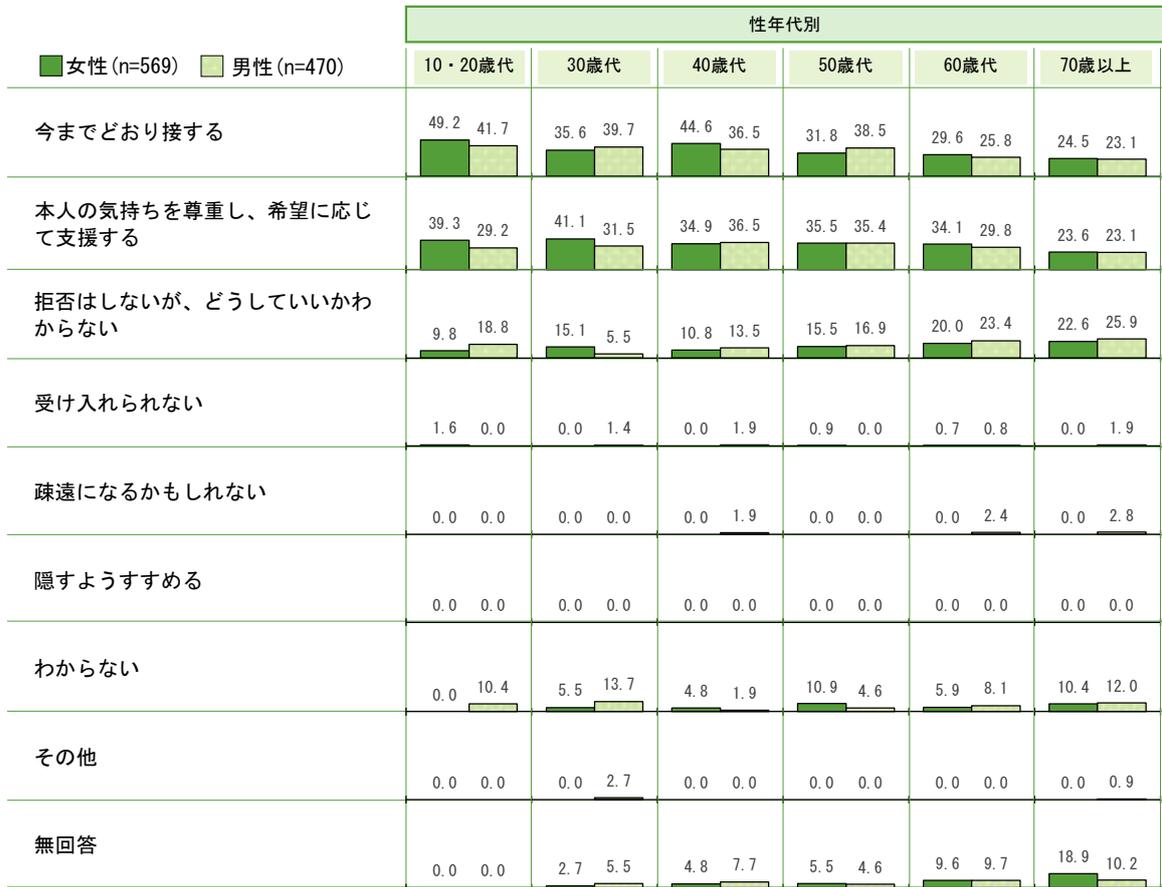
**問 33-1** あなたの家族から「性的少数者である」などと打ち明けられた場合、あなたはどのようにしますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(1つ選択)

- 全体では、「今までどおり接する」が33.3%で最も高く、次いで「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」(32.0%)、「拒否はしないが、どうしていいかわからない」(17.5%)となっている。
- 性別ごとに見ると、性別間で回答状況に大きな違いは見られないが、「今までどおり接する」(女性34.1%、男性31.9%)、「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」(女性33.9%、男性30.0%)の回答がともに、女性の方が男性よりも高くなっている。



8-2 (1) 家族が性的少数者の場合の考え【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、男性の70歳以上を除くいずれの性年代においても、「今までどおり接する」または「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」が最も高い回答となっている。ただし、いずれの性別でも60歳以上では、「拒否はしないが、どうしていいかわからない」が2割を超えており、他の性年代に比べて高い。

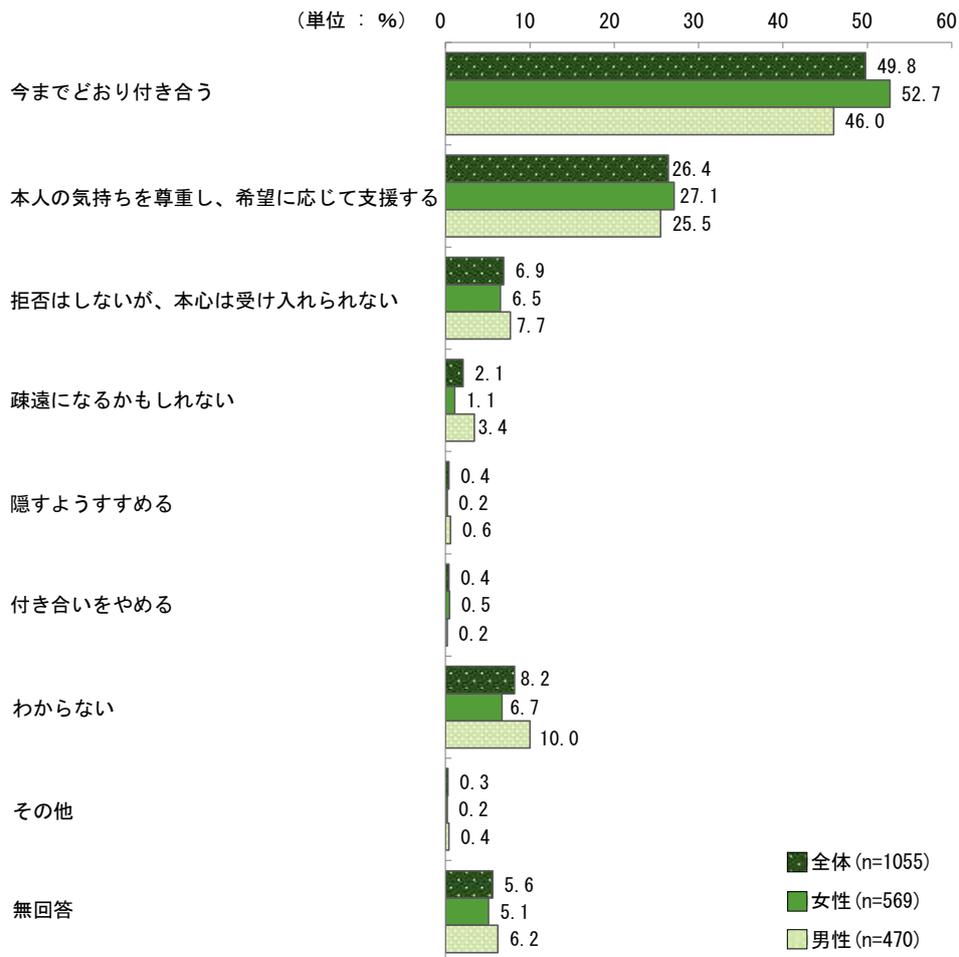


(単位：%)

8-2 (2) 身近な人が性的少数者の場合の考え【クロス集計（性別）】

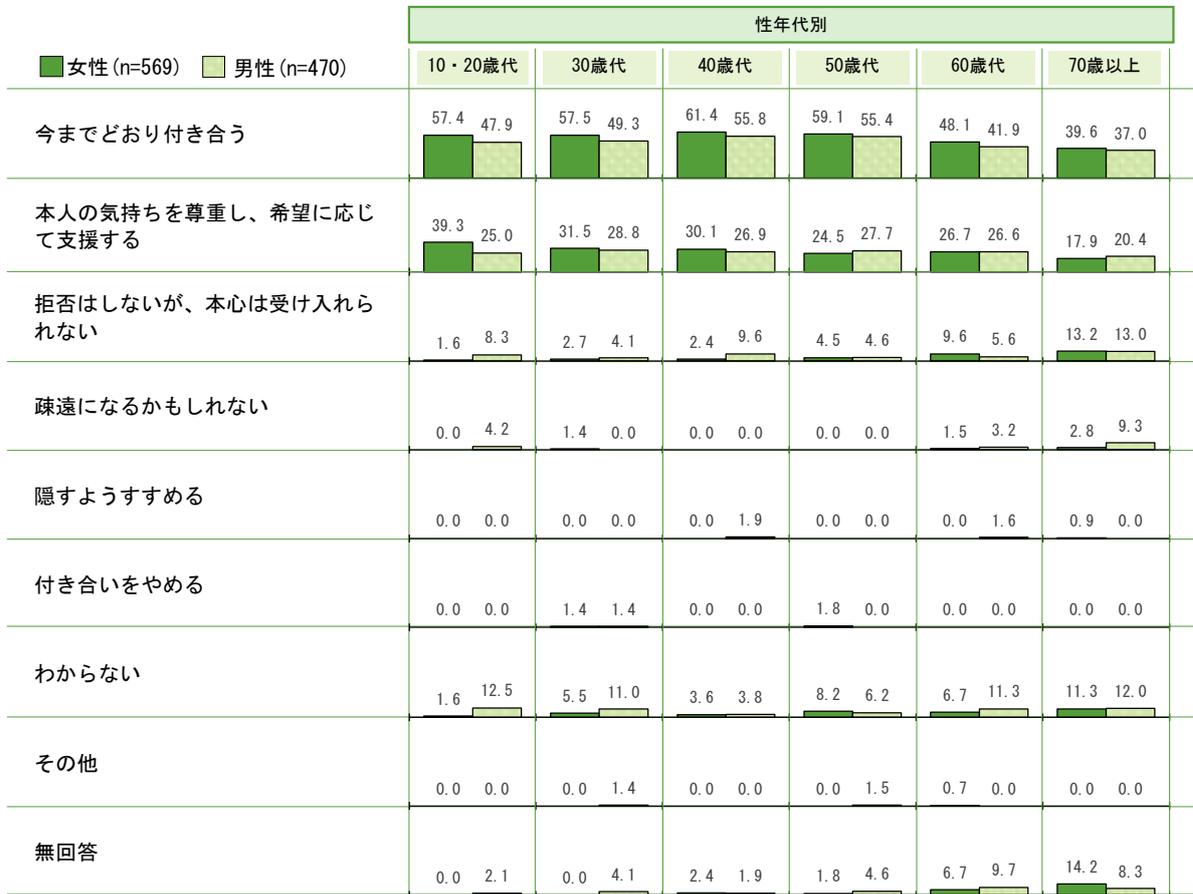
**問 33-2** あなたの身近な方（友人、同僚、親戚等）から「性的少数者である」などと打ち明けられた場合、あなたはどうしますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つ選択）

- 全体では、「今までどおり付き合う」が49.8%で最も高く、次いで「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」（26.4%）、「わからない」（8.2%）となっている。
- 性別間における回答状況に大きな違いは見られないが、「今までどおり付き合う」（女性 52.7%、男性 46.0%）、「本人の気持ちを尊重し、希望に応じて支援する」（女性 27.1%、男性 25.5%）との回答がともに、女性の方が、男性よりも高くなっている。



8-2 (2) 身近な人が性的少数者の場合の考え【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、全ての性年代において「今までどおり付き合う」が最も多くなっているが、女性の70歳以上では39.6%、男性の60歳代では41.9%、70歳以上では37.0%と、他の性年代に比べて回答割合が低い状況にある。

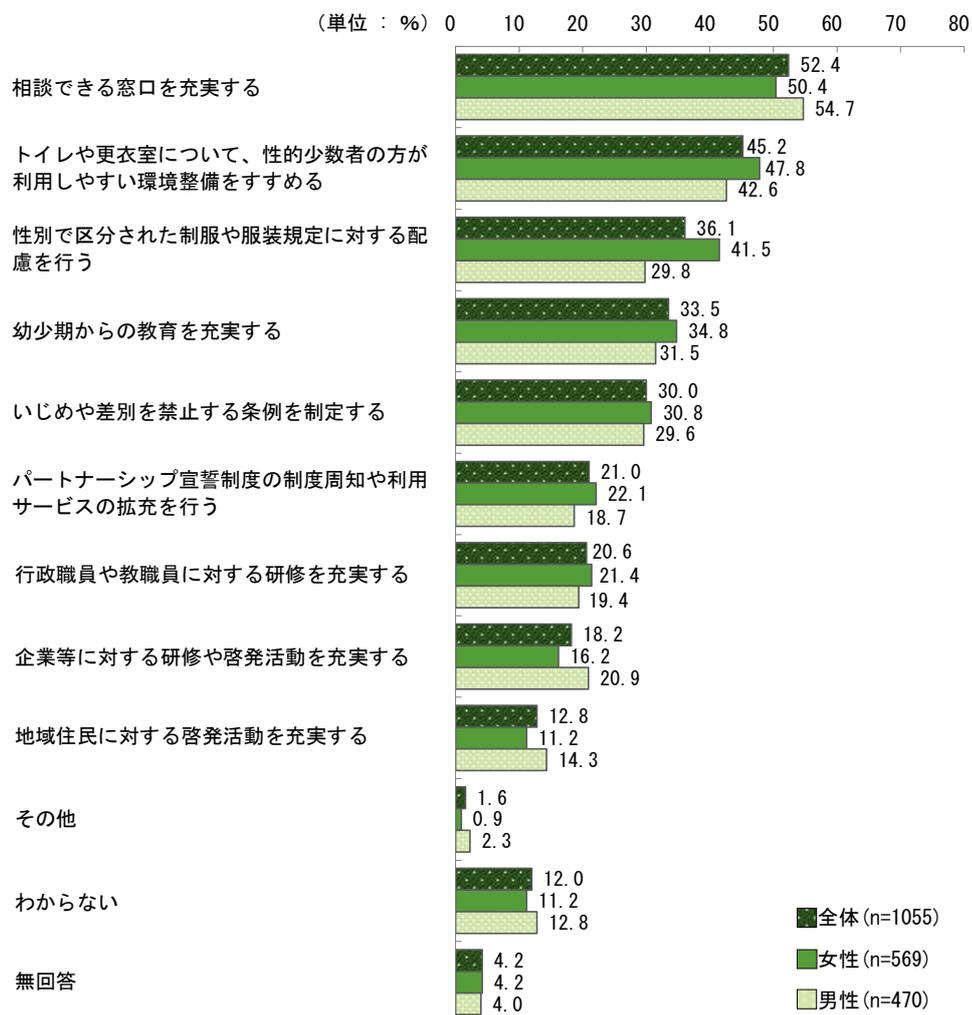


(単位：%)

8-3 性的少数者にとって必要な支援策【クロス集計（性別）】

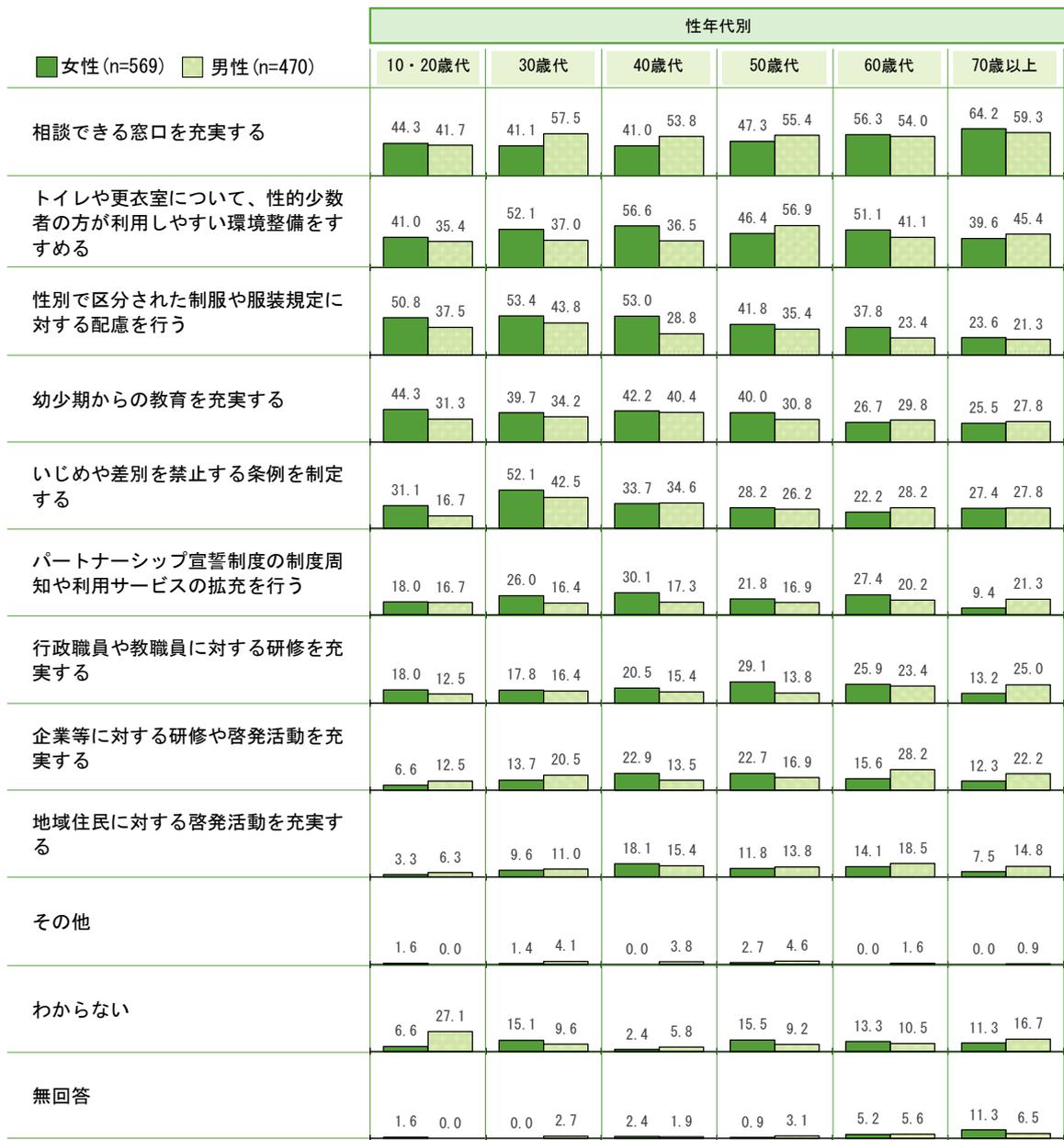
**問 34** 多様な性の在り方への理解を広めるとともに、性的少数者の生きづらさを解消するためには、どのような支援や対策が必要だと思いますか（あてはまるもの全て選択）

- 全体では、「相談できる窓口を充実する」が52.4%で最も高く、次いで「トイレや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる」（45.2%）、「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」（36.1%）となっている。
- 性別ごとに見ると、「相談できる窓口を充実する」（女性50.4%、男性54.7%）では男性が4.3ポイント高く、「トイレや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる」（女性47.8%、男性42.6%）では女性が5.2ポイント高くなっている。また、「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」（女性41.5%、男性29.8%）では女性の方が11.7ポイント高く、差がみられた。



8-3 性的少数者にとって必要な支援策【クロス集計（性年代別）】

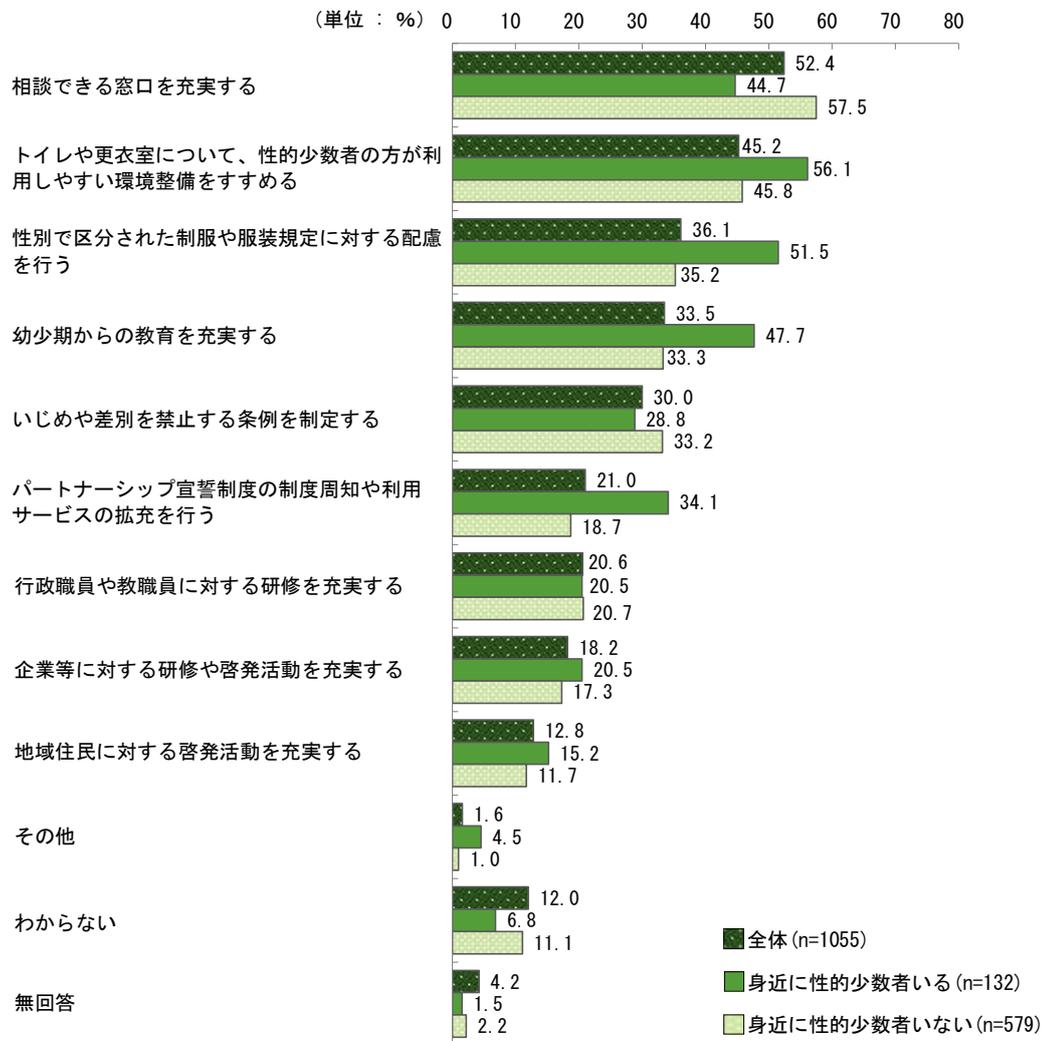
○ 性年代別に見ると、男性では、50歳代を除く全ての年齢階層で「相談できる窓口を充実する」が最も高くなっている。女性では、50歳代以上において「相談できる窓口を充実する」が最も高い回答となっているが、40歳代では「トイレや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる」が最も高く、10・20歳代および30歳代では「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」が最も高く、年代による回答の違いがみられる。



(単位：%)

8-3 性的少数者にとって必要な支援策【クロス集計（性的少数者の知人の有無別）】

○ 身近に性的少数者がいると答えた回答者の場合、「トイレや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる」(56.1%) が最も高く、次いで「性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う」(51.5%)、「幼少期からの教育を充実する」(47.7%) となっており、身近に性的少数者がいないと答えた回答者のなかで最も高い回答であった「相談できる窓口を充実する」(44.7%) は、4 番目に高い回答となっている。



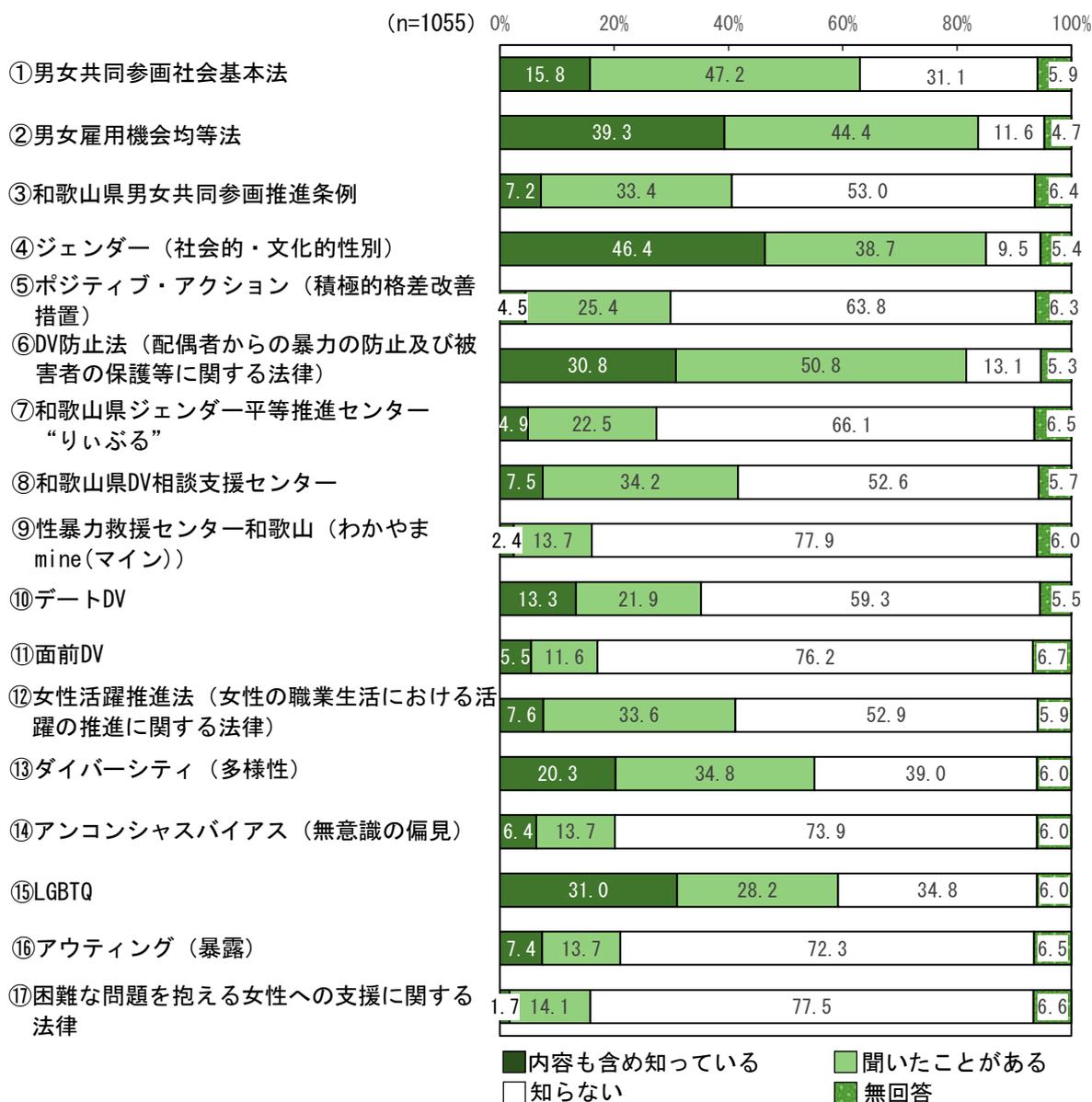
## 9. 男女共同参画施策等について

### 9-1 男女共同参画の言葉についての認知度

問 35 あなたは次の用語を知っていますか。（それぞれ1つ選択）

○ 『知っている』は「④ジェンダー（社会的・文化的性別）」（85.1%）、「②男女雇用機会均等法」（83.7%）、「⑥DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」（81.6%）において8割超となっている。一方で、「①男女共同参画社会基本法」（63.0%）、「⑮LGBTQ」（59.2%）、「⑬ダイバーシティ（多様性）」（55.1%）は6割前後にとどまり、「⑪面前DV」（17.1%）、「⑨性暴力救援センター和歌山（わかやま mine(マイン)）」（16.1%）、「⑰困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」（15.8%）は2割を下回っている。

(\*) 『知っている』は、「内容も含めて知っている」、「聞いたことがある」を合わせたもの。



9-1 男女共同参画の言葉についての認知度 【クロス集計（性別）】

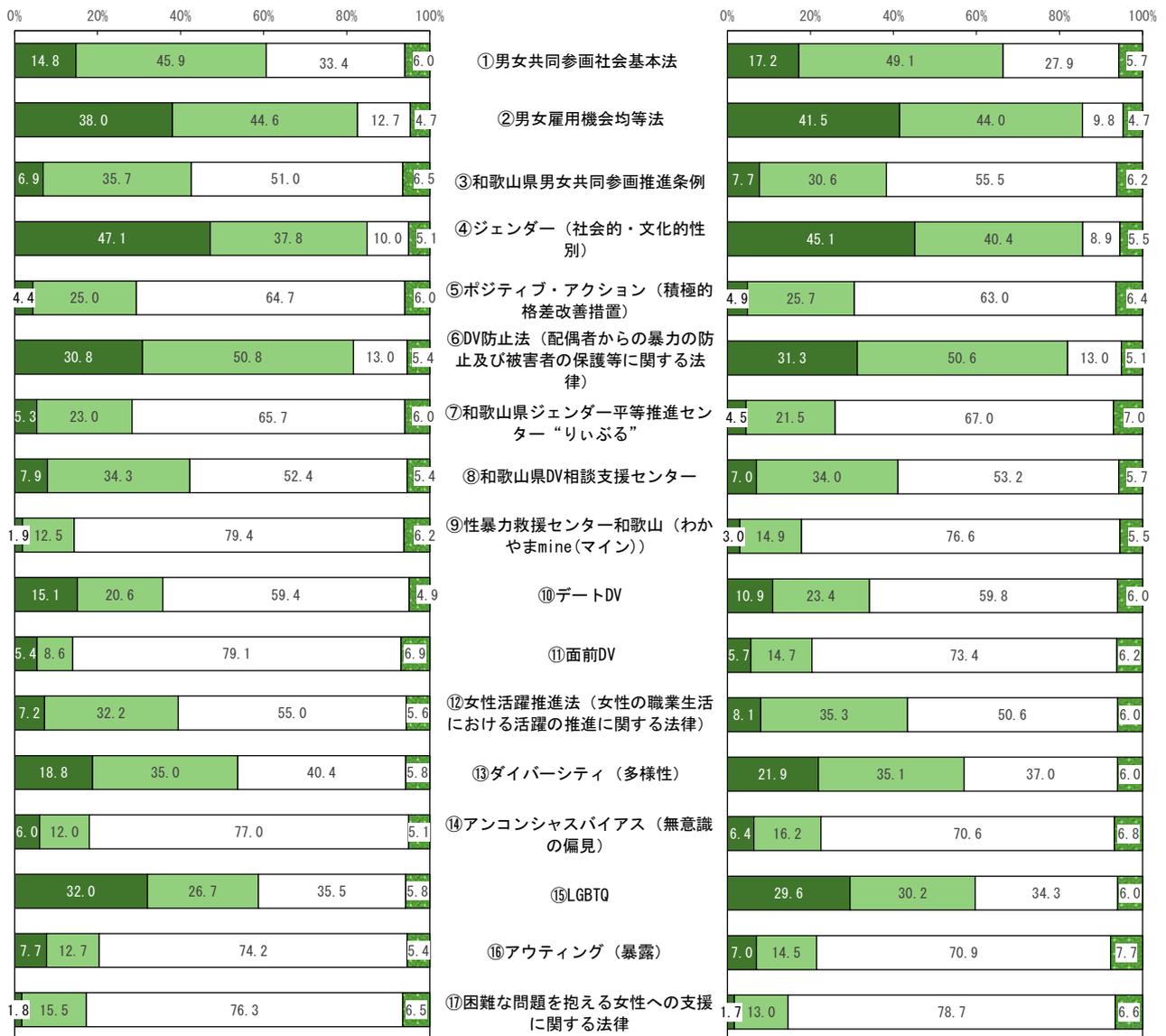
○ 性別ごとに見ると、回答状況に大きな差はみられないが、「③和歌山県男女共同参画推進条例」、「⑦ジェンダー平等推進センター“りいぶる”」、「⑧和歌山県DV相談支援センター」、「⑩デートDV」、「⑰困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」では女性の方が男性よりも『知っている』が高くなっている。

(\*) 『知っている』は、「内容も含めて知っている」、「聞いたことがある」を合わせたもの。

女性 (n=569)

男性 (n=470)

■ 内容も含め知っている ■ 聞いたことがある □ 知らない ■ 無回答



9-1 男女共同参画の言葉についての認知度 【クロス集計（性年代別）】

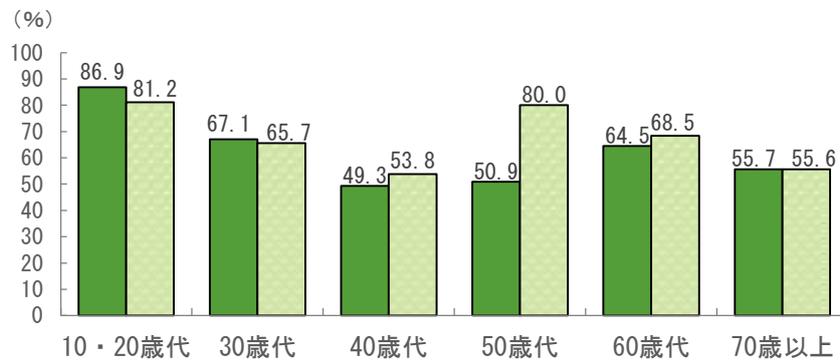
- 性年代別に見ると、「⑩デートDV」、「⑬ダイバーシティ（多様性）」、「⑭アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」、「⑮LGBTQ」、「⑯アウトティング（暴露）」では、男女ともに若い年齢階層ほど認知度が高く、年代が上がるにつれ低い傾向にある。
- 「⑨性暴力救援センター和歌山（わかやま mine（マイン）」、「⑪面前DV」では、性年代に関わらず『知っている』が低い傾向にある。

(\* 『知っている』は、「内容も含めて知っている」、「聞いたことがある」を合わせて集計している。

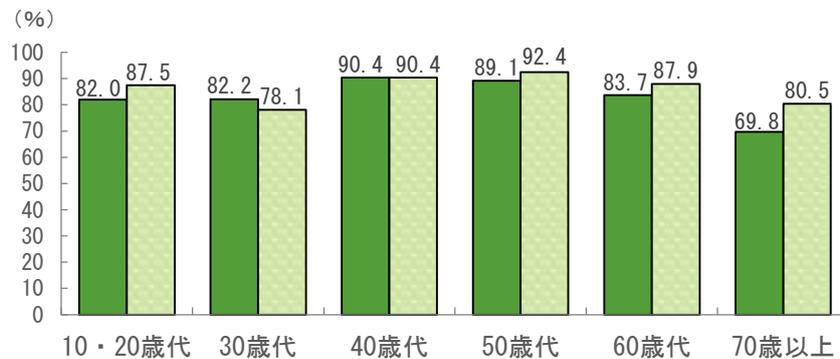
【『知っている』（「内容も含めて知っている」、「聞いたことがある」）と答えた人の割合】

■ 女性 (n=569)      ■ 男性 (n=470)

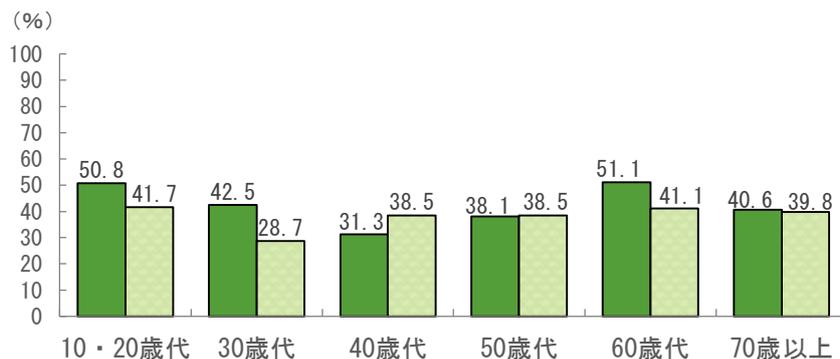
① 男女共同参画社会基本法



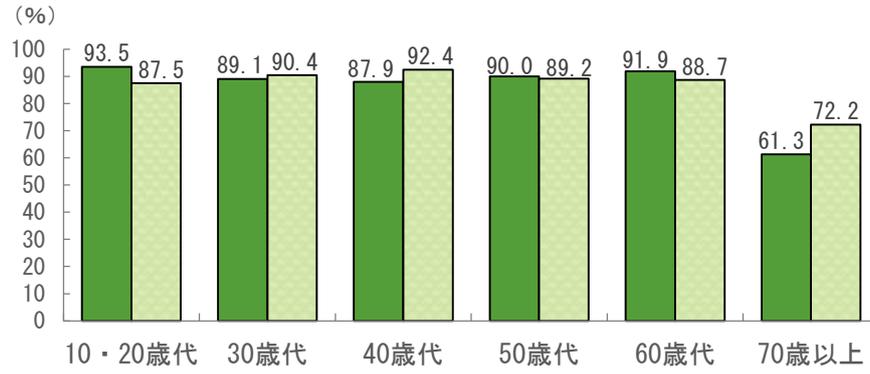
② 男女雇用機会均等法



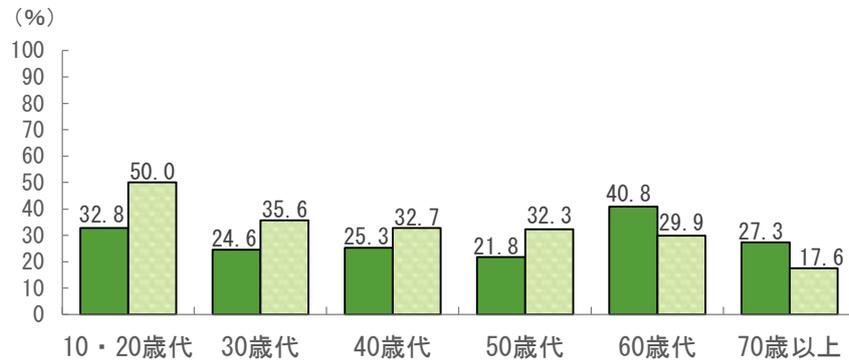
③ 和歌山県男女共同参画推進条例



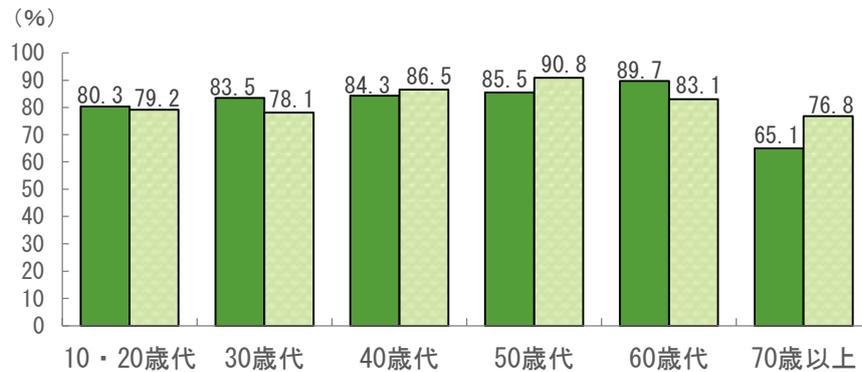
④ ジェンダー（社会的・文化的性別）



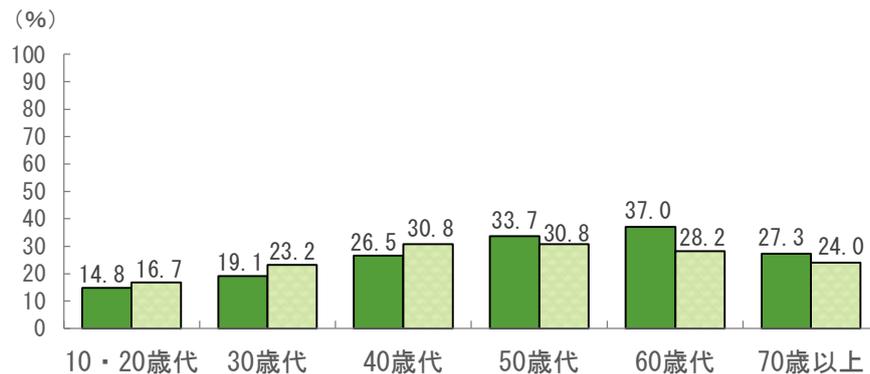
⑤ ポジティブ・アクション（積極的格差改善措置）



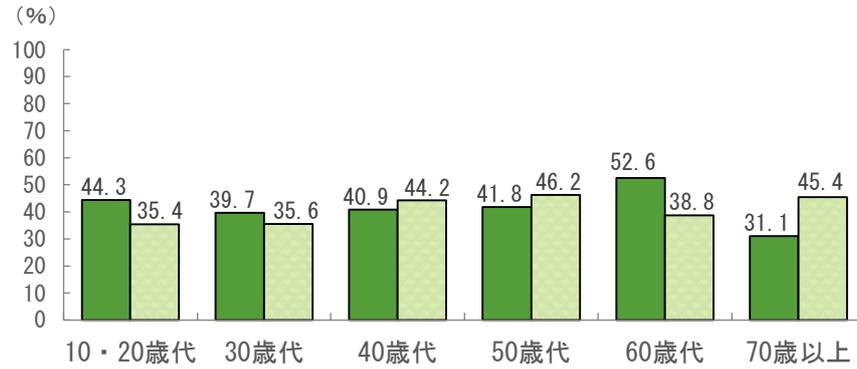
⑥ DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）



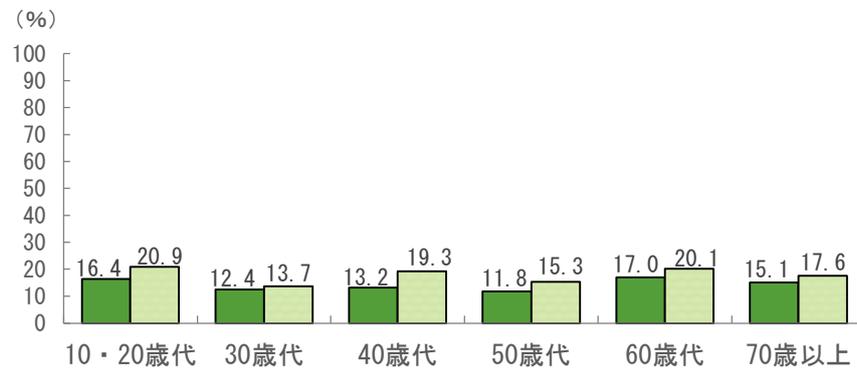
⑦ 和歌山県ジェンダー平等推進センター “りいぶる”



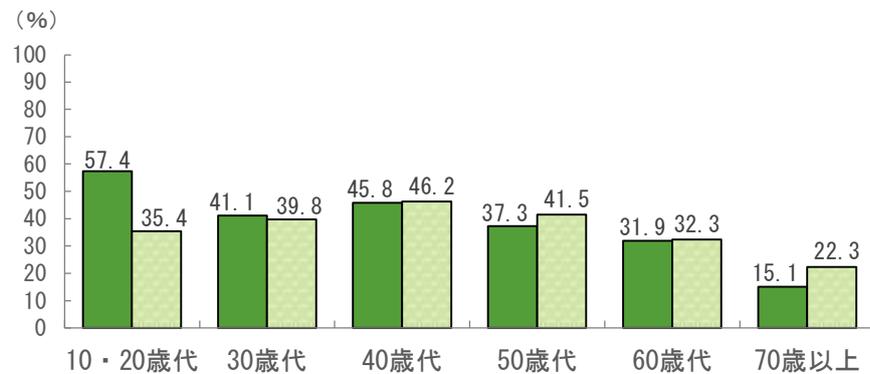
⑧ 和歌山県 DV 相談支援センター



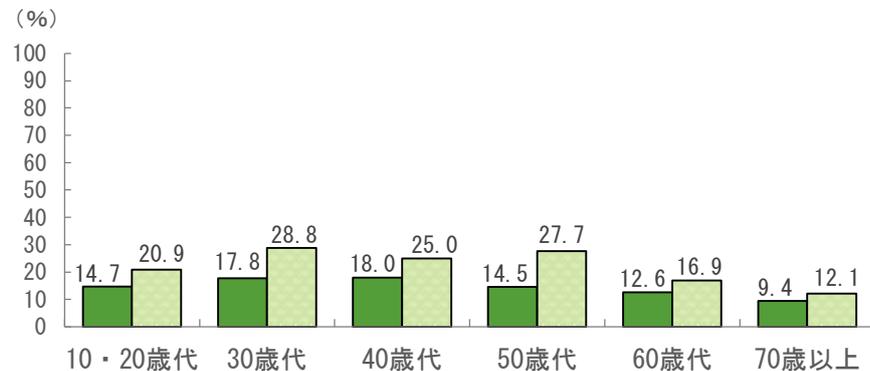
⑨ 性暴力救援センター和歌山（わかやま mine(マイン)）



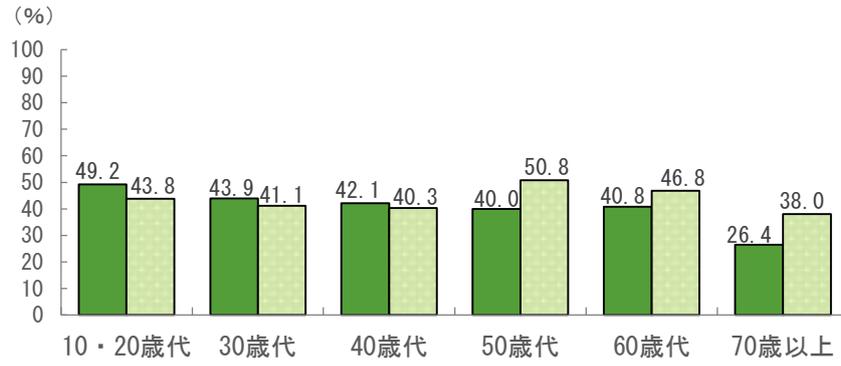
⑩ デート DV



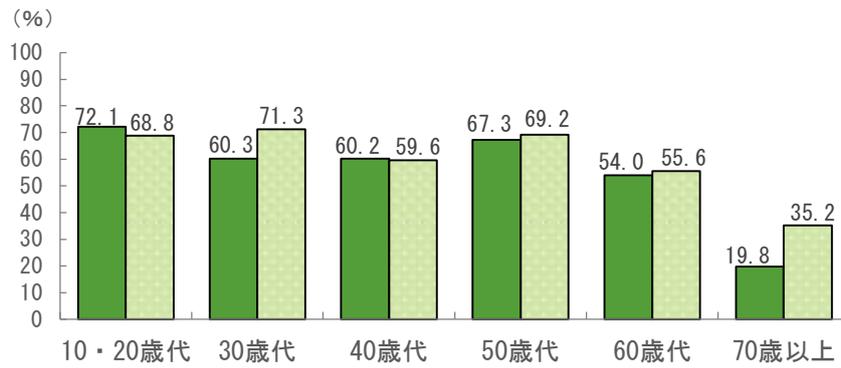
⑪ 面前 DV



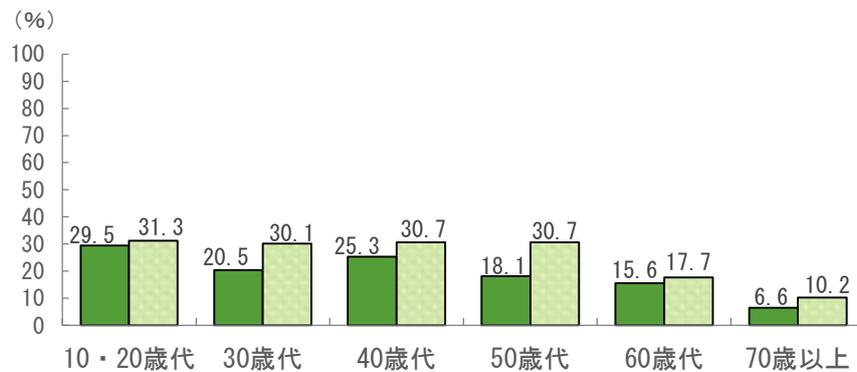
⑫ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）



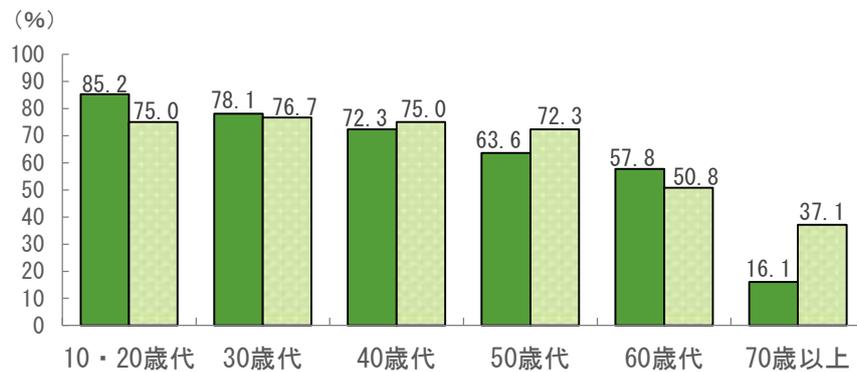
⑬ ダイバーシティ（多様性）



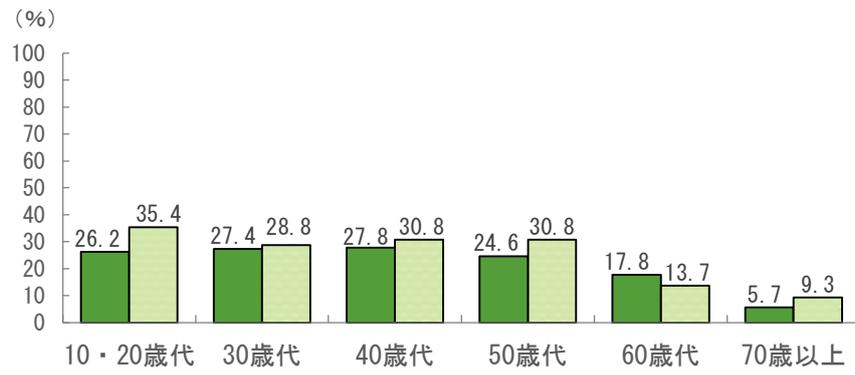
⑭ アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）



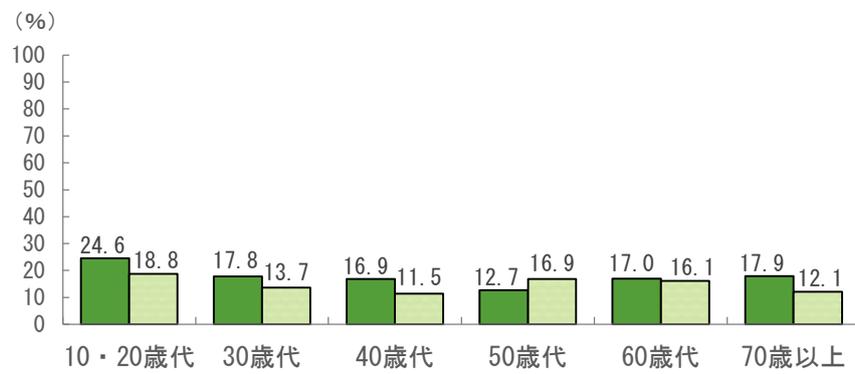
⑮ LGBTQ



⑩ アウティング（暴露）



⑪ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律



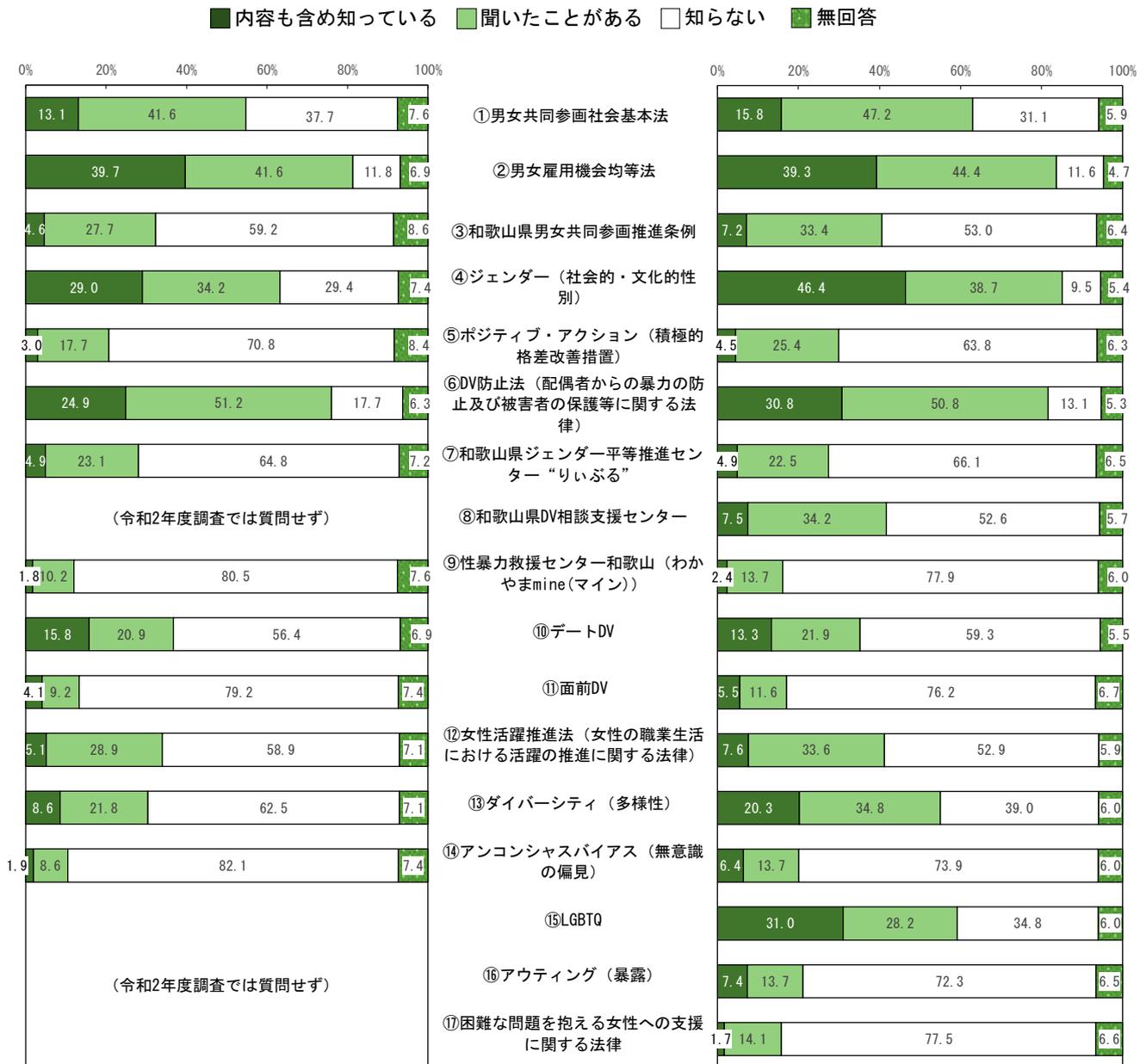
9-1 男女共同参画の言葉についての認知度 【前回調査との比較】

○ 前回調査と比較すると、『知っている』の回答割合は「⑬ダイバーシティ（多様性）」で24.7ポイント増加、「④ジェンダー（社会的・文化的性別）」で21.9ポイントの大幅な増加がみられる。次いで「⑭アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」では9.6ポイント増加、「⑤ポジティブ・アクション（積極的格差改善措置）」では9.2ポイント増加しており、「⑦ジェンダー平等推進センター“りいぶる”」と「⑩デートDV」を除くいずれの項目でも認知度が上昇していることがうかがえる（ただし今回調査で新たに設けた項目は対象外）。

(\*) 『知っている』は、「内容も含めて知っている」、「聞いたことがある」を合わせたもの。

令和2年度調査 (n=1,399)

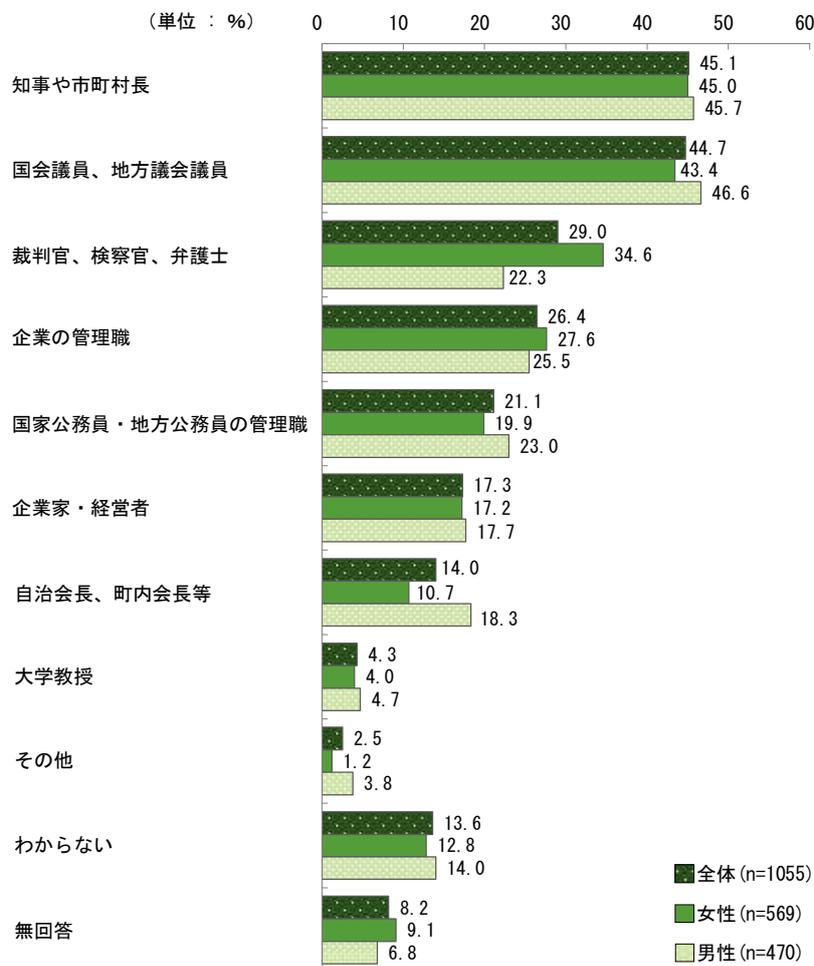
令和7年度調査 (n=1,055)



9-2 女性が増える方がよい役職 【クロス集計（性別）】

**問 36** あなたが次にあげるような役職、公職において今後女性が増えるほうがよいと思うものはどれですか。（3 つまで選択）

- 全体では、「知事や市町村長」が 45.1%で最も高く、次いで「国会議員、地方議会議員」（44.7%）「裁判官、検察官、弁護士」（29.0%）となっている。
- 性別ごとに見ると、女性では「知事や市町村長」が 45.0%で最も高く、次いで「国会議員、地方議会議員」（43.4%）「裁判官、検察官、弁護士」（34.6%）となっている。男性では、「国会議員、地方議会議員」が 46.6%で最も高く、次いで「知事や市町村長」（45.7%）、「企業の管理職」（25.5%）となっている。最も回答差があるものとして、「裁判官、検察官、弁護士」では女性が男性よりも高く、12.3 ポイントの差がある。



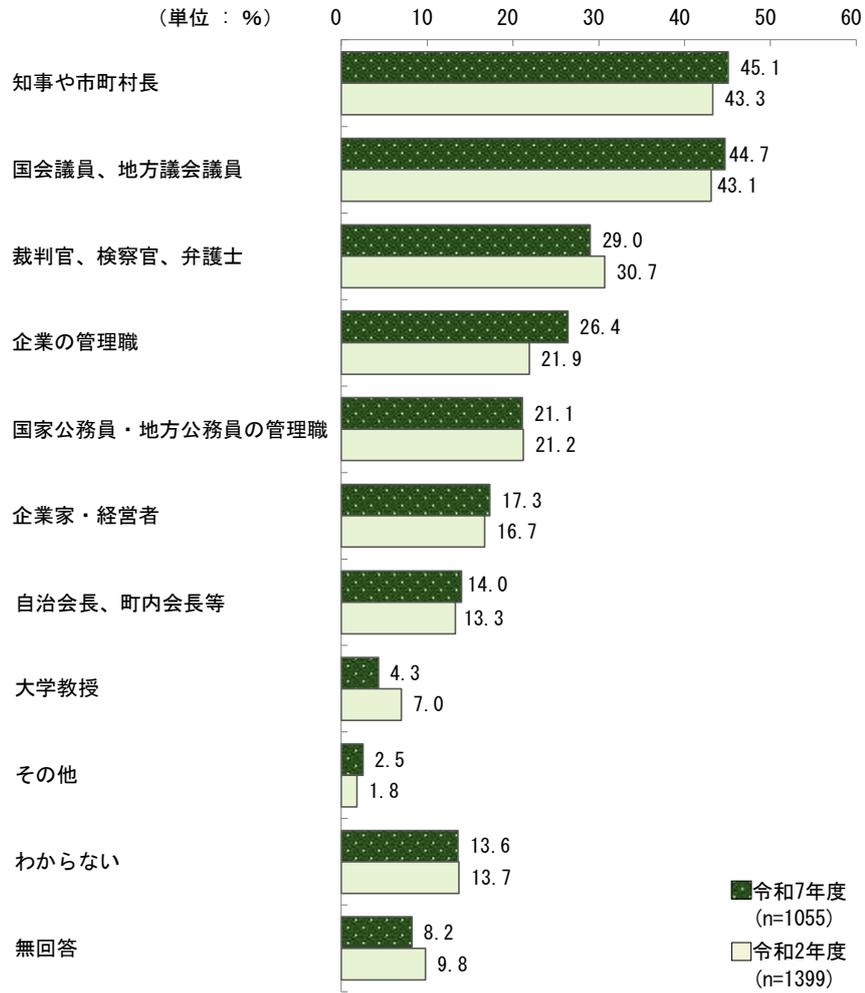
9-2 女性が増える方がよい役職 【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、いずれの性年代においても「知事や市町村長」または「国会議員、地方議会議員」が最も高い回答となっている。また、「企業の管理職」については、女性では比較的若い年齢階層で、男性では比較的高い年齢階層において回答が高くなっている。



9-2 女性が増える方がよい役職 【前回調査との比較】

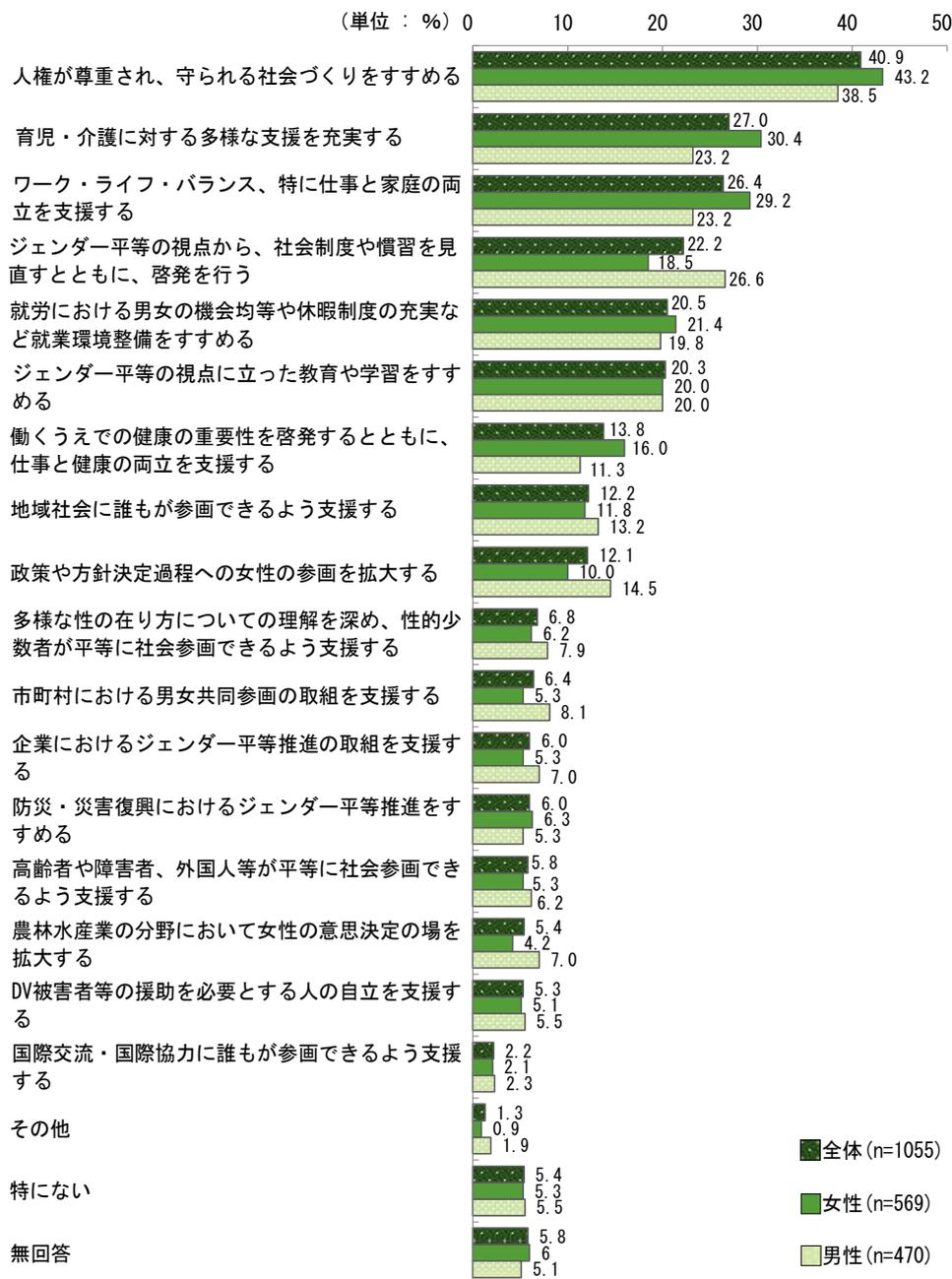
○ 前回調査と比較すると、「企業の管理職」などで4.5ポイントの増加がみられる。



9-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと【クロス集計（性別）】

**問 37** 今後、和歌山県が男女共同参画を推進するために、県は特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。（3つまで選択）

- 全体では、「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」が40.9%で最も高く、次いで「育児・介護に対する多様な支援を充実する」（27.0%）、「ワーク・ライフ・バランス、特に仕事と家庭の両立を支援する」（26.4%）となっている。
- 性別ごとに見ると、男女ともに「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」が最も高いが、次いで高いのは女性が「育児・介護に対する多様な支援を充実する（女性：30.4%、男性：23.2%）」であるのに対して、男性は「ジェンダー平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う（女性：18.5%、男性：26.6%）」となっており、性別による認識の違いが見られた。



9-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと【クロス集計（性年代別）】

○ 性年代別に見ると、ほぼ全ての性年代において、「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」が最も高くなっているが、男女ともに10・20歳代では「ワーク・ライフ・バランス、特に仕事と家庭の両立を支援する」が最も高い回答となっている。また、女性の30歳代においては、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」(41.1%)との回答が他の性年代に比べて高くなっている。

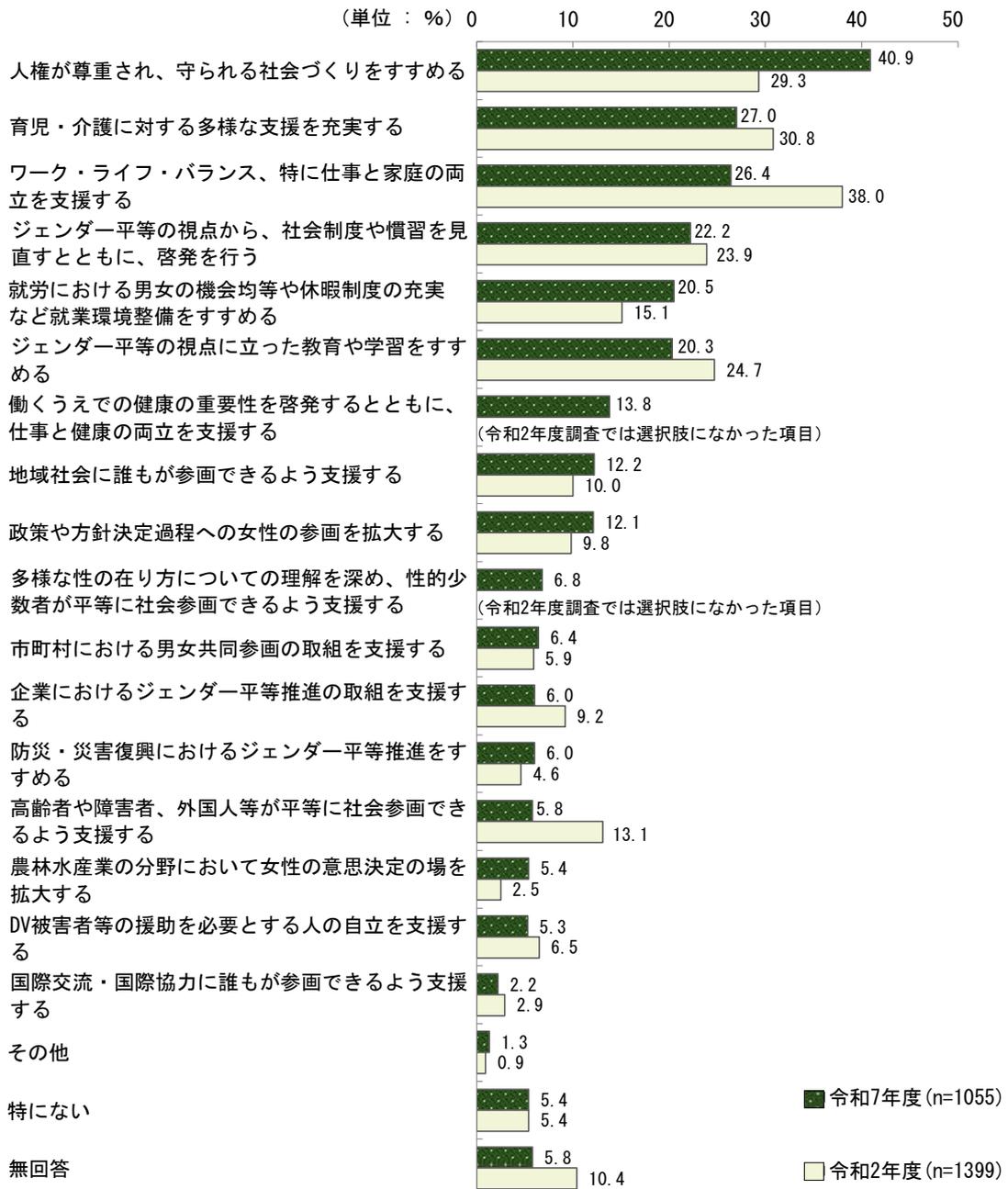
	性年代別					
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
■ 女性 (n=569) □ 男性 (n=470)						
人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる	34.4 27.1	46.6 38.4	44.6 34.6	36.4 40.0	47.4 37.9	47.2 45.4
育児・介護に対する多様な支援を充実する	24.6 25.0	41.1 23.3	30.1 25.0	30.0 24.6	27.4 21.8	31.1 22.2
ワーク・ライフ・バランス、特に仕事と家庭の両立を支援する	54.1 39.6	42.5 26.0	38.6 30.8	21.8 27.7	25.9 20.2	10.4 11.1
ジェンダー平等の視点から、社会制度や慣習を見直し、啓発を行う	18.0 27.1	19.2 28.8	16.9 13.5	18.2 27.7	21.5 27.4	16.0 29.6
就労における男女の機会均等や休暇制度の充実など就業環境を整備	19.7 20.8	20.5 17.8	20.5 13.5	20.9 15.4	22.2 17.7	23.6 28.7
ジェンダー平等の視点に立った教育や学習をすすめる	19.7 22.9	21.9 17.8	20.5 17.3	19.1 29.2	26.7 16.9	11.3 19.4
働くうえでの健康の重要性を啓発し、仕事と健康の両立を支援する	19.7 8.3	13.7 12.3	18.1 17.3	13.6 7.7	18.5 9.7	13.2 13.0
地域社会に誰もが参画できるよう支援する	9.8 16.7	4.1 12.3	9.6 5.8	12.7 12.3	9.6 13.7	21.7 15.7
政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	4.9 6.3	5.5 15.1	4.8 15.4	8.2 15.4	18.5 15.3	11.3 15.7
多様な性についての理解を深め、性的少数者が社会参画できるよう支援	9.8 2.1	5.5 6.8	2.4 11.5	7.3 9.2	6.7 9.7	5.7 6.5
市町村における男女共同参画の取組を支援する	3.3 4.2	1.4 2.7	6.0 5.8	5.5 3.1	5.2 12.1	8.5 13.0
企業におけるジェンダー平等推進の取組を支援する	4.9 8.3	2.7 13.7	6.0 0.0	5.5 7.7	6.7 8.1	4.7 3.7
防災・災害復興におけるジェンダー平等推進をすすめる	8.2 4.2	6.8 6.8	8.4 9.6	6.4 4.6	3.0 5.6	7.5 2.8
高齢者や障害者、外国人等が平等に社会参画できるよう支援する	1.6 6.3	2.7 1.4	2.4 5.8	1.8 4.6	4.4 5.6	16.0 11.1
農林水産業の分野において女性の意思決定の場を拡大する	3.3 4.2	0.0 4.1	6.0 15.4	2.7 3.1	7.4 7.3	3.8 8.3
DV被害者等の援助を必要とする人の自立を支援する	6.6 4.2	6.8 8.2	1.2 7.7	6.4 7.7	5.2 4.8	4.7 2.8
国際交流・国際協力に誰もが参画できるよう支援する	3.3 6.3	2.7 1.4	1.2 1.9	1.8 0.0	1.5 4.0	2.8 0.9

(単位：%)

(\*) 「その他」、「特にない」、「無回答」の表示割合。

9-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと 【前回調査との比較】

- 前回調査と比較すると、「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」(11.6ポイント増)、「就労における男女の機会均等や休暇制度の充実など就業環境整備をすすめる」(5.4ポイント増)では回答が増加している。
- 一方、「ワーク・ライフ・バランス、特に仕事と家庭との両立を支援する」(11.6ポイント減)、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」(3.8ポイント減)、「ジェンダー平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う」(1.7ポイント減)など、上位2~4項目では回答割合が減少している。



## 10. 自由意見について（※主なものを抜粋して掲載）

### (A) ジェンダー平等意識について

- ・性について知ることは大切だが、あまりにも早期からそのような教育を行うとアイデンティティの確立時期の子どもが迷うこともあると考える。そのため、宗教教育のように、存在や内容は教えつつも押し付けない指導が必要だと考える。（女性・20～29歳）
- ・身体的、生物的に同じではないので完全に平等は難しい。平等を目指した結果、優遇になってはいけない。（男性・30～39歳）
- ・男女にこだわらず、身体の違いがあるのでお互いを思いやる。優しい気持ちを持つことが大切だと思う。（女性・50～59歳）
- ・教育や啓発を継続して実施できる環境やルール、法律等を整備していく必要があると思います。（男性・40～49歳）
- ・和歌山県で男女共同参画に対する啓発が足りないと思います。（男性・70歳以上）
- ・性別ではなく一人の人として平等に教育するよう学校教員を指導したり、個人が将来何になりたいのかを明確にする教育が重要。職場においては能力で採用するよう企業を指導することも必要。女性に特別な権利を与えるのではなく、男性にも同等の権利を与える。（男性・50～59歳）
- ・大人に対してよりも、保育園や幼稚園児など小さな頃から親と教育者が協力して、男女という枠にとらわれず個人としての関係を大切にすることを伝えるべき。（女性・40～49歳）
- ・ジェンダーに関して子供たちは学校で授業を受けたりして私たち世代より理解が深まっているように感じるので、年配者向けに分かりやすく啓発などをしてもらい、ギャップを埋めれたらいいなと思います。（女性・50～59歳）

### (B) 子育て・就労について

- ・すべての職場で産休・育休が取りやすい社会になることを希望します。（女性・20～29歳）
- ・中学校教諭であるが、職員の人数に余裕がなく、女性の産休や育休時短が多いため、男性の負担や未婚女性の負担が大きくなっている。また、その空気の中で男性が育休産休など取れる余裕はない。この状況の中どのようにして平等としていけるのか。（男性・20～29歳）
- ・管理職が男性であると女性の悩みが相談しづらい。（女性・30～39歳）
- ・会社内でパワハラモラハラが当たり前の昔ながらの社風のところもまだあるので、そういう所からなおして行かないと男女共同参画は進まないと考えます。また会社内にて管理職の女性を義務付けるなどしていけばよいのではないのでしょうか。（女性・40～49歳）
- ・性差により明らかな賃金格差があり、是正すべき。（男性・50～59歳）
- ・男女共同参画を意識しすぎる為に、女性の比率が少ないから女性を主要ポストに任命しようという流れが強まっている。男女の比率ではなく能力で人事や採用を進めてほしい。また、レディーファーストや女性専用列車等の女性優先の物事は何も批判されないが、男性ファーストはすぐに批判される。女性だけに目を向けるのではなく、男性側からも男女共同参画に取り組んで欲しい。（男性・20～29歳）

- ・働く世代の多くは企業に所属しており、職場環境や制度が地域全体の男女共同参画の実現に大きくかかわります。県や市が企業と連携し、研修・認定制度・情報共有の場を設け、企業が主体的に取り組める環境を整えてほしいです。これにより、職場と地域の双方でジェンダー平等が進むと考えます。もっと踏み込むと自主性だけに頼らず、一定規模以上の企業には、推進計画や実績報告を義務化し、達成度に応じた優遇措置を導入することで確実な取組と成果が期待できると思います。(女性・40~49歳)
- ・女性が働きやすい社会にここ10年の間に変わってきているが、育休、時短をとることで、周りの人たちの負担も少しずつだが増えてきている。子育て中の人の優遇だけでなく支えている周りの人にも手当てがあることが平等な気がしている。(女性・50~59歳)
- ・司法、立法、行政の幹部への女性の登用を推進してほしい。(男性・70歳以上)
- ・妊娠・出産を担える女性だけが引退するのが現実。その間のキャリアの補填等がなければ安心して子供を産み育て責任ある職責も手に入らない。社会、会社の仕組みを変えてゆくためにも能力ある女性の登用からはじめてほしい。(女性・60~69歳)
- ・性別や年齢で判断する偏った見方があるように感じるので、物事を判断する際は能力で考えるべき。また政策を行政として行った時、その成果を検証し、修正して次に生かすような取組をしてほしい。(女性・40~49歳)

#### (C) 性的少数者について

- ・「男女」ってところが良くない。「性別にとらわれることなく、個性と能力を發揮できる社会を目指す」という内容はよい。ジェンダー平等を実現できたとしても、それは男性=女性という意味であってLGBTQの人たちは除外されるのではないかとこの懸念がある。(性別不詳・20~29歳)
- ・学生時代に娘が男性の制服で通学するようになった際、理解のある先生の指導のもと3年間楽しい学生生活を送ることができた。免許証も男性として交付され、今は心身ともに健康で頑張っている。まずは家族から味方になってあげることが大事。(男性・60~69歳)

#### (D) その他

- ・アンケート多すぎる。(性別不詳・20~29歳)
- ・男性に生理への理解を深めてもらいたい。生理痛を体感できるキットがあるので、職場、学校等で体験する機会を設けてほしい。生理痛は腹痛だけではなく、頭痛や倦怠感、情緒不安定、PMS(生理前の心身の不調)や排卵痛もあり、女性の心身が安定するのは月の1/3といわれます。せめて、男性が生理痛の痛みだけでも知る事で、生理への理解を深め働きやすい職場、家事、育児の女性の分担が減る事を切に望みます。(女性・40~49歳)
- ・福祉の用語はカタカナ(横文字)が多すぎる。社会的に普通に使われているのか知らないが、できるだけ日本語での説明(日本語の文章を使って)するべきだと思う。高齢者に「ジェンダー」、「マイノリティ」、「フレックスタイム」等と行っても分からない。きちんと日本語で説明すべきと思う。(女性・50~59歳)
- ・すすめるすぎると少子化も推進されると思うので少子化対策を先にすすめるべきです。(女性・40~49歳)



## IV 調査票

---

## だんじょようどうさんかく かん けんみんいしき ちょううさき 男女共同参画に関する県民意識調査

この調査では、以下の内容についてお聞きします。

1. あなた自身とあなたの御家族について (P.1)
2. ジェンダー平等意識について (P.3)
3. 家庭生活について (P.6)
4. 子育てや子どもの教育について (P.7)
5. 就労について (P.9)
6. 社会活動、地域活動等について (P.14)
7. DV (配偶者等からの暴力) について (P.16)
8. 性的少数者について (P.21)
9. 男女共同参画施策等について (P.23)

### あなた自身とあなたの御家族について

F 1 あなたの性別をお答えください。

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 1 女性 | 3 女性・男性の枠にあてはまらない ( ) |
| 2 男性 | 4 回答しない               |

※この調査では、性別による意識や行動の違いを把握したいため、性別をおたずねしています。  
※戸籍上の性別と生活上の性別が異なる場合は、生活上の性別をお答えください。

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つだけ○印)

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 1 19歳以下  | 4 40～49歳 | 7 70歳以上 |
| 2 20～29歳 | 5 50～59歳 |         |
| 3 30～39歳 | 6 60～69歳 |         |

F 3 あなたが現在生活している御家族の家族構成をお答えください。(1つだけ○印)

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1 一人暮らし (単身世帯)    | 4 祖父母と親と子どもなど (3世代世帯) |
| 2 配偶者・パートナーのみ     | 5 その他 (真鍮に)           |
| 3 親と子どもなど (2世代世帯) |                       |

F 4 あなたは結婚していますか。※結婚には事実婚・パートナーシップ宣誓制度利用者を含みます。(1つだけ○印)

- |                        |
|------------------------|
| 1 結婚している               |
| 2 過去に結婚していたが、離別または死別した |
| 3 結婚していない              |

→ F 4-1 配偶者・パートナーの有無をお答えください。(1つだけ○印)

※職業とは収入を伴う仕事のこと。パート・アルバイトを含みます。

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1 どちらも職業がある | 3 配偶者・パートナーのみ 職業がある |
| 2 自分のみ職業がある | 4 どちらも職業がない         |

F 5 あなたには子どもがいますか。(1つだけ○印)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

→ F 5-1 一番下のお子さんは、現在次のどちらにあてはまりますか。(1つだけ○印)

- |        |        |
|--------|--------|
| 1 6歳未満 | 2 6歳以上 |
|--------|--------|

F 6 あなたの職業をお答えください。(1つだけ○印)

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| 1 自営業主    | 1 農林漁業               |
|           | 2 商工サービス業            |
|           | 3 その他の自営業 (自田業等)     |
| 2 家族従事者   | 4 農林漁業               |
|           | 5 商工サービス業            |
|           | 6 その他の家族従事者          |
| 3 会社などの役員 | 7 会社などの役員            |
|           | 8 常勤の勤め (社員等)        |
| 4 被雇用者    | 9 非常勤の勤め (パート、アルバイト) |
|           | 10 専業主婦・主夫           |
| 5 無職      | 11 学生                |
|           | 12 その他               |

F 7 あなたの最終学歴をお答えください。中途退学の場合は最後に卒業した学校、在学中の場合は、現在在学している学校をお答えください。(1つだけ○印)

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1 中学校         | 5 大学      |
| 2 高等学校        | 6 大学院     |
| 3 専門学校、各種学校   | 7 その他 ( ) |
| 4 短期大学、高等専門学校 |           |

F 8 あなたのお住まいの地域をお答えください。(1つだけ○印)

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 和歌山市     | 5 有田市・有田郡  |
| 2 海南市・紀美野町 | 6 御坊市・日高郡  |
| 3 岩出市・紀の川市 | 7 田辺市・西牟婁郡 |
| 4 橋本市・伊都郡  | 8 新宮市・東牟婁郡 |

## ジェンダー平等意識について

※ジェンダー平等とは、性別、性自認、性的指向及び性表現にかかわらず一人一人の人格が尊重され、誰もがその個性や能力を十分発揮できる状態を意味します。

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると感じますか。  
 (①～⑧の項目それぞれについて、1つだけ○印)

例) 選挙権	男性の立場が優遇されている	男性の立場が優遇されている	平等である	女性の立場が優遇されている	女性の立場が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度のうえ	1	2	3	4	5	6
⑦ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5	6

問2 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように感じますか。(1つだけ○印)

- 1 賛成である
- 2 どちらかといえば賛成である
- 3 どちらかといえば反対である
- 4 反対である

問3 以下の内容について、あなたの意見に近いものはどれですか。  
 (①～⑨の項目それぞれについて、1つだけ○印)

例) 自然は大切にしよう	1	2	3	4	5
① 共働き世帯において、こどもの病気や学校行事のために主として女性が子の看護休暇や有給休暇を取るのは当然だ	1	2	3	4	5
② 女性はあまり昇進を望まない	1	2	3	4	5
③ 男性の方が車の運転が上手い	1	2	3	4	5
④ 女性は細やかな気遣いができて気が利く	1	2	3	4	5
⑤ 小さな子どもがいる共働き世帯において、主として女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ	1	2	3	4	5
⑥ 来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある	1	2	3	4	5
⑦ 女性を一人で出張させるのはかわいそうだ	1	2	3	4	5
⑧ 男性は家事が下手だ	1	2	3	4	5
⑨ 結婚(事実婚を含む。)するのであれば、収入は男性のほうが多くなければならぬ	1	2	3	4	5

かていせいけつ  
家庭生活について

問4 あなたの普段(平日と休日)の生活時間について、1日に寛やす時間はどのくらいですか。  
(①～⑥の項目それぞれについて、1つだけ○印)

上段(平日)	1時間未満	1時間～2時間	2時間～5時間	5時間～8時間	8時間～12時間	12時間以上			
							該当しない	全くない	
(回答例)		1	2	③	4	5	6	7	8
平日	1	2	3	4	⑤	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
①家事		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
②育児・子育て		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
③介護		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
④収入を得る仕事		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
⑤地域活動		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
⑥余暇や娯楽・趣味		2	3	4	5	6	7	8	8
平日	1	2	3	4	5	6	7	8	8
休日	1	2	3	4	5	6	7	8	8

問5 問4で回答された生活時間について、あなたの考える理想の時間より短く思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 家事	3 介護	5 地域活動	7 特になし
2 育児・子育て	4 収入を得る仕事	6 余暇や娯楽・趣味	

問6 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思いますか。(3つまでに○印)

- 1 パートナーや家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- 2 社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること
- 3 労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持つようになること
- 4 まわりの人が配偶者・パートナー間の役割分担意識等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 男性が家事などについて関心を高めるような啓発や情報提供をすること
- 6 仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 7 公民館や、県ジェンダー平等推進センター“りいびる”等で講座等を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること
- 8 その他(具体的に)
- 9 わからない

問7 現在、あなたの家庭に介護が必要なお方がおられる場合、その方の介護は主にどなたがしていますか。※介護が必要なお方からみた続柄をお答えください。(1つだけに○印)

- 1 父
- 2 母
- 3 兄弟
- 4 姉妹
- 5 夫
- 6 妻
- 7 パートナーシップ宣誓制度のパートナー又はパートナーと同様の事情にある方
- 8 息子
- 9 娘
- 10 息子の妻
- 11 娘の夫
- 12 ヘルパー等の介護従事者
- 13 施設で介護をしている
- 14 介護が必要な人はいない
- 15 その他(具体的に)

子育てや子どもの教育について

問 8-1 あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(1つだけ○印)

1	1人	2人	3人	4人	4人以上	5人	6人	わからない
---	----	----	----	----	------	----	----	-------

問 8-2 実際のこの子どもの数は何人ですか。(1つだけ○印)

1	1人	2人	3人	4人	4人以上	5人	6人	わからない
---	----	----	----	----	------	----	----	-------

問 9 最近、生まれてくる子どもの数が減っています。それはなぜだと思いますか。(3つまでに○印)

- 子育てよりも自分やパートナーとの生活を大切にしたいカップルが増えたから
- 少ない人数の子どもを余裕を持って育てたいカップルが増えたから
- 子育てへの不安など、精神的な負担が大きいため
- 子育てのための体力的負担が大きいため
- 子育て・教育のための経済的負担が大きいため
- 育児・子育てに関して、家族や周囲の理解や協力が不十分だから
- 身近なところに子育てのことを気軽に相談できる相手がいらないから
- 結婚をしないパートナー間の子ども(婚外子)に対する差別や偏見があるから
- 住宅事情がよくないから
- 経済的に自立できない若い若者が増えたから
- 出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから
- 保育施設や子育てに対する社会的施策が不十分だから
- 結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから
- その他(具体的に)

問 10 子育てについて、あなたの意見に近いものはどれですか。(①～⑨の項目それぞれについて、1つだけ○印)

自然は大切にしよう	①	2	3	4	5
① ことごとく小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
② ことごとく世話の大部分は、父親にもできる	1	2	3	4	5
③ 親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4	5
④ ことごとくは、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい	1	2	3	4	5
⑤ 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい	1	2	3	4	5
⑥ 男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑦ 女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑧ 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑨ 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5

問 11 ジェンダー平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。(3つまでに○印)

- 学校生活の中で性別による役割分担を解消する  
(例：男性はリーダーなど主要な役割、女性は補助的な役割を与えるなど)
- 性別にかかわらず能力や個性を尊重した進路指導を行う  
(例：“男性だから4年制大学へ、女性だから短大へ”といった進路指導をやめるなど)
- 人権尊重についての教育を推進する
- 「性」が人間の尊厳に関わることへの教育を充実する  
(例：小中学校の低学年から年齢に応じた性教育を行うなど)
- 多様な性の在り方への理解を深めるための教育を推進する
- 性別にかかわらず社会参画する視点からの職業体験や地域活動参加の機会を設ける
- 性別にとらわれず、個人の立場や意見を尊重するような生徒指導を行う
- 教職員自身のジェンダー平等教育への意識改革を行うよう、研修機会を充実する
- 学校全体で、ジェンダー平等教育に取り組み体制をつくる
- 校長や教頭へ女性を積極的に登用する
- PTA研修などでジェンダー平等教育への保護者の理解と協力を得る
- その他(具体的に)
- わからない

## 就 労 について

問12 次にあげる就 職 と 結 婚、出 産 を 中 心 に し た 「女 性」の 生 き 方 に つ い て、あ な た は だ の 考 え に 近 い だ らう じか。

※ なお、未 婚 の 方 は 結 婚 し た と 仮 定 し た 上 で、お 答 え く だ さ い。

※ 結 婚 に は 事 実 婚 ・ パ ー ト ナ ー シ ッ プ 宣 誓 制 度 利 用 者 を 含 み ま す。

問12-1 理 想 の (理 想 と し て い た) 「女 性」の 生 き 方 (1つ だ け に ○印)

未 婚 の 方 へ：あ な た の 理 想 と す る (又 は 一 般 的 に こ う あ る べ き だ と 思 う) 生 き 方 を 選 ん で く だ さ い。

既 婚 の 方 へ：実 際 の 状 況 は 別 に し て、本 来 こ う あ り た い (こ う あ っ て ほ し い) と 思 っ て い た 生 き 方 を 選 ん で く だ さ い。

【女 性 の 生 き 方】 ※ こ こ で の 職 業 と は、収 入 を 得 る 仕 事 の こ と で す。

- 1 結 婚 や 出 産 に か わ り な く、職 業 を 持 つ
- 2 結 婚 ま で は 職 業 を 持 つ が、結 婚 後 は 持 た な い
- 3 出 産 ま で は 職 業 を 持 つ が、出 産 後 は 持 た な い
- 4 結 婚 ま た は 出 産 を 機 に 一 時 仕 事 を 辞 め る が、そ の 前 後 は 職 業 を 持 つ
- 5 結 婚 ま た は 出 産 後、初 め て 職 業 を 持 つ
- 6 一 生 職 業 を 持 た な い
- 7 わ か ら な い
- 8 そ の 他 (具 体 的 に )

問12-2 実 際 に な り そ う な (現 実 に そ う な っ て い る) 「女 性」の 生 き 方 (1つ だ け に ○印)

未 婚 の 方 へ：実 際 に な り そ う だ (又 は 一 般 的 に な っ て い そ う だ) と 思 う 生 き 方 を 選 ん で く だ さ い。

既 婚 の 方 へ：現 実 に そ う な っ て い る 生 き 方 (将 来 も 含 め て) を 選 ん で く だ さ い。

【女 性 の 生 き 方】 ※ こ こ で の 職 業 と は、収 入 を 得 る 仕 事 の こ と で す。

- 1 結 婚 や 出 産 に か わ り な く、職 業 を 持 つ
- 2 結 婚 ま で は 職 業 を 持 つ が、結 婚 後 は 持 た な い
- 3 出 産 ま で は 職 業 を 持 つ が、出 産 後 は 持 た な い
- 4 結 婚 ま た は 出 産 を 機 に 一 時 仕 事 を 辞 め る が、そ の 前 後 は 職 業 を 持 つ
- 5 結 婚 ま た は 出 産 後、初 め て 職 業 を 持 つ
- 6 一 生 職 業 を 持 た な い
- 7 わ か ら な い
- 8 そ の 他 (具 体 的 に )

問13 あ な た の 職 場 で、次 の 項 目 に お い て 女 性 と 男 性 は 平 等 に な っ て い る と 思 い ま す か。

(①～⑩の 項 目 を 各 々 選 び、1つ だ け に ○印)

※ 過 去 に 就 労 し、現 在 は 就 労 し て い な い 方 は、過 去 の 職 場 に つ い て お 答 え く だ さ い。

項 目	男 性 の ほう が 非 常 に 優 遇 さ れ て い る	2	3	4	5	6	7
(例) 選 挙 権	1	2	③	4	5	6	7
① 賞 金	1	2	3	4	5	6	
② 採 用	1	2	3	4	5	6	
③ 昇 進 ・ 昇 給	1	2	3	4	5	6	
④ 能 力 評 価	1	2	3	4	5	6	
⑤ 仕 事 の 内 容 ・ 配 置 場 所	1	2	3	4	5	6	
⑥ 仕 事 に 対 す る 責 任 の 求 め ら れ 方	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 企 画 会 議 な ど の 意 志 決 定 の 場 へ の 参 加 機 会	1	2	3	4	5	6	
⑧ 幹 部 へ の 登 用 の 機 会	1	2	3	4	5	6	
⑨ 研 修 機 会 や 内 容	1	2	3	4	5	6	
⑩ 有 給 休 暇 や 育 児 休 業 ・ 介 護 休 業 等 の 取 得 の し や さ	1	2	3	4	5	6	
⑪ 継 続 就 労 の し や さ	1	2	3	4	5	6	

問14 女性が結婚後、出産後も継続的に就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(3つまでに○印)

- 1 育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進
- 2 労働時間の短縮、フレックスタイム制、在宅勤務(リモートワーク)などの柔軟な勤務制度の導入
- 3 長時間労働の解消
- 4 職場における女性活躍方針の明確化と男女の機会均等
- 5 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の充実
- 6 子育てや介護のための施設(企業内保育所を含む。)や支援の充実
- 7 女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力
- 8 育児・介護休暇取得の推進などによる家事や子育て、介護等への男性の参加
- 9 その他(具体的に )
- 10 特にない

問15 仕事において、どんなことがあれば、管理職として働きたい・働けそうだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○印)

※現在は就労していない方は、「管理職として働くために必要になりそう」と思うものをお選びください。

- 1 管理職でもきちんと休暇がとれること
- 2 フレックスタイムなど始業・終業時間が柔軟であること
- 3 在宅勤務・テレワーク等が管理職でも柔軟に活用できること
- 4 管理職でも残業や長時間勤務が極力ないような体制・配慮
- 5 管理職の残業や長時間勤務にも給与反映があること
- 6 管理職は家庭やプライベートより仕事を優先すべきといった空気がないこと
- 7 出産・子育て・介護と管理職として働くことへの両立支援や配慮があること
- 8 産休・育児・介護休暇の取得によってキャリアが中断されないような体制・配慮
- 9 家事・育児・介護を配偶者と分担できること
- 10 管理職に対してのメンタルケアなどのサポートがあること
- 11 辞令や異動、転勤について相談可能な体制・配慮
- 12 家事・育児・介護に関して外部のサービスなどが利用しやすくなること
- 13 その他(具体的に )
- 14 特にない

問16 結婚や出産のために退職した女性が、再就職するために必要だと思うものは何ですか。  
(3つまでに○印)

- 1 家族の理解や家事・育児などへの参加
- 2 こともや介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実
- 3 女性の再就職などに関する相談窓口の充実
- 4 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
- 5 休暇制度を利用しやすい職場環境の整備
- 6 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実
- 7 再就職のみを対象とした合同企業説明会などのマッチングの機会
- 8 その他(具体的に )
- 9 特にない

【現在、職業(収入を得る仕事)を持っていない方にお聞きします。】

※現在、職業を持っている方は問18へお進みください。

問17 あなたは今後、適当な仕事があれば働きたいと思いませんか。(1つだけ○印)

- 1 今すぐに働きたい
- 2 将来的には働きたい
- 3 働きたいと思わない

問17-1 働くとするれば、どのような形で働きたいですか。(1つだけ○印)

- 1 正社員(正職員)
- 2 派遣社員
- 3 パートタイム、アルバイト、嘱託
- 4 自分で事業経営
- 5 家業の手伝い
- 6 家での内職
- 7 その他(具体的に )
- 8 わからない

問18 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思っていますか。  
(それぞれ1つだけ○印)

取得した方がよい	取得した方がよい	どちらかといえば取得しない方がよい	取得しない方がよい	わからない
①育児休業	1	2	3	5
②介護休業	1	2	3	5
③時短勤務	1	2	3	5

○育児・介護休業法(※)に基づき、一定の要件のもと、男性も女性も育児休業、介護休業を取得することができます。時短勤務制度を利用することができます。  
※「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」

問19 過去～現在を含めて、働くうえで身体や心の不調、健康問題に関して、どんな困りごとがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

※過去に就労し、現在は就労していない方は、過去の職場についてお答えください。

1 不調や体調不良について相談できる組織体制がない・体制はあるが利用しづらい	2 自分が休もうとしても代わりに任せられない人がいない	3 役職者ほど、労働時間や健康状態に気を配れなくなる	4 従業員の体調管理(メンタルを含む)・気配りがされていない	5 有給休暇が取りにくい雰囲気がある	6 長時間働く人が評価される風潮がある	7 働きながら治療のために通院しづらい・時間がとれない	8 月経(生理)の不調など女性ならではの悩みが言い出しにくい	9 ストレスなどメンタルにかかわる悩みが言い出しにくい	10 不妊治療のために利用できる休暇制度がない・制度はあるが取得しづらい	11 ハラスメントについて相談できる組織体制がない・体制はあるが利用しづらい	12 その他(具体的に)	13 持にない	14 就労したことがない
--	-----------------------------	----------------------------	--------------------------------	--------------------	---------------------	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------	--------------------------------------	--	--------------	---------	--------------

社会活動、地域活動等について

問20 あなたが現在参加している社会活動、地域活動をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

1 町内会・自治会・PTA活動	2 こども会などの青少年育成活動や子育て支援活動	3 社会福祉に関する活動	4 消費者団体・消費生活グループの活動	5 趣味・スポーツ・文化・教養等の活動	6 国際交流・国際親善に関する活動	7 自然保護・環境保全に関する活動	8 まちづくりなどの市民活動	9 政党・労働組合などの活動	10 その他(具体的に)	11 いずれにも参加していない
-----------------	--------------------------	--------------	---------------------	---------------------	-------------------	-------------------	----------------	----------------	--------------	-----------------

問21 あなたが社会活動、地域活動を行う上で、どのようなことが問題になると思っていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい)	2 育児・介護を頼める所(人)がない	3 健康や体力に自信がない	4 身近な所に活動する場所がない	5 経済的に余裕がない	6 配偶者・パートナーや家族の理解が得られない	7 職場の上司や同僚の理解が得られない	8 リーダーや代表者になると責任が重すぎる	9 どこにどのような活動があるのかを知らない	10 その他(具体的に)	11 特に問題はない	12 活動自体したくない
---------------------------	--------------------	---------------	------------------	-------------	-------------------------	---------------------	-----------------------	------------------------	--------------	------------	--------------



※問24、25、27、28の配偶者・パートナーには婚姻の届出を提出していない実妻婚・パートナーシップ  
 宣誓制度利用者を含みます。

問24 あなたはこれまでに、配偶者・パートナーや恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。

(①～⑤の項目それぞれについて1つだけ○印)

①花束をもらった	1	②	3
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた	1	2	3
②人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた	1	2	3
③友人や家族に会わせない、外出させない、手紙・メール・SNSを勝手に見るなどの社会的暴力を受けた	1	2	3
④生活費を渡さない、借金を強い、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた	1	2	3
⑤見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた	1	2	3

1つでも○があれば  
問25へ

すべて3に○で  
あれば問28へ

【問24の①～⑤のうち、1、2にひとつでも○印をつけた方にお聞きします。】  
 ※問24の①～⑤すべて3の方は問28へお進みください。

問25 あなたはこれまでに、問24であげたような配偶者・パートナーや恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 警察
- 2 法務局、人権擁護委員、民生児童委員
- 3 配偶者暴力相談支援センター(県DV相談支援センター)
- 4 男女共同参画のための総合的な施設(県ジェンダー平等推進センター“りいびる”など)
- 5 県庁、県振興局
- 6 市役所、町村役場
- 7 民間の機関(民間ジェンダー、NPO、弁護士など)
- 8 医師その他医療関係者
- 9 教員その他学校関係者
- 10 家族、親戚
- 11 友人・知人
- 12 その他(具体的に )
- 13 どこ(だれ)にも相談しなかった

【問25で「13 どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】

問26 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 加害者に「だれにも言うな」とおどされたから
- 6 相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 7 自分さえがまんすれば、なんとかやっけていけると思ったから
- 8 世間体が悪いから
- 9 他人を巻き込みたくなかったから
- 10 他人に知られると、これまでどおりのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
- 11 そのことについて思い出しにくかったから
- 12 自分にも悪いところがあると思ったから
- 13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 14 相談するほどのことではないと思ったから
- 15 その他(具体的に )

問27 あなたは、配偶者・パートナーや恋人から暴力を受けたとき、どのような助けがほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 一時的に加害者から逃げる場所の提供
- 2 警察官などによる介入
- 3 親身になって相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため必要なお金の貸与
- 6 自分と子どもの心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちの対話
- 8 加害者に対する責任追及(損害賠償など)
- 9 加害者への教育(暴力防止など)
- 10 その他(具体的に )

【すべての方にお聞きします。】

問28 配偶者・パートナーや恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関のうち、知っている所はどこですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 警察
- 2 法務局、人権擁護委員、民生児童委員
- 3 配偶者暴力相談支援センター(県DV相談支援センター)
- 4 男女共同参画のための総合的な施設(県ジェンダー平等推進センター“りいぶる”など)
- 5 県庁、県振興局
- 6 市役所、町村役場
- 7 病院などの医療機関
- 8 民間の機関(民間シェルター、NPO、弁護士など)
- 9 相談窓口として知っているところはない

問29 次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと恐ろしいことはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する
- 2 相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる
- 3 宴席で、お酌やデジュエット、ダンス等を強要する
- 4 容姿や服装に関することを繰り返して言う
- 5 相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする
- 6 職場や学校、集会などの場でわいせつな話をする
- 7 スード写真やボスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る
- 8 電車やバスのなかで、ヌードが掲載された新聞、雑誌、携帯電話の画面を見る
- 9 「結婚はまだか」や「子どもはまだか」などと、たびたび聞く
- 10 その他(具体的に )
- 11 持らない

問30 メディア(新聞・雑誌・テレビ・インターネット等)における性・暴力表現について、あなたはどのような考えですか。(3つまでに○印)

- 1 女性(または男性)の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ
- 2 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
- 3 女性に対する暴力、犯罪を助長するおそれがある
- 4 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
- 5 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている
- 6 その他(具体的に )
- 7 特に問題はない
- 8 わからない

問31 性犯罪、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 家庭におけるジェンダー平等や性についての教育を充実させる
- 2 学校におけるジェンダー平等や性についての教育を充実させる
- 3 暴力や性に関する意識変革のための啓発をする
- 4 被害者のための窓口や相談所を充実させる
- 5 被害者を支援し、暴力に反対する住民運動を盛り上げる
- 6 加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを実施する
- 7 警察に被害届を出しやすい環境をつくる
- 8 法律、制度の制定や見直しを行う
- 9 犯罪の取り締まりを強化する
- 10 過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する
- 11 テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する
- 12 その他(具体的に )
- 13 わからない

性的少数者について

問32-1 あなたの身近に性的少数者の方※（そうであるか）が知っている方はいますか。

（1つだけ○印）

※性的少数者…性的指向や性自認、性表現、身体的性など性に関するマイノリティのこと。性的少数者の一例として、Lesbian（レズビアン）；女性同性愛者）、Gay（ゲイ）；男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル）；両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー）；出生時に登録された戸籍の性別に違和感を持ち、異なる性別で生きたいと思う人）などがあり、頭文字をとって「LGBT」という言葉が使われています。このほかにも、Questioning（クエスチョニング）；性的指向や性自認が明確でない人、定義づけたくない人など）やQueer（クイア）；性的少数者を包括する言葉）の頭文字である「Q」を加えて、「LGBTQ」ということもあります。

1  いる 3 わからない  
 2  いない 4 その他（ ）

【問32-1で「1 いる」に○をつけた方にお聞きします。】

問32-2 あなたと性的少数者の方の関係性は次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○印）

1  こと  
 2  配偶者  
 3  その他親族（親・兄弟姉妹等）  
 4  パートナーシップ宣誓制度のパートナー又はパートナーと同様の事情にある方  
 5  友人・知人  
 6  近隣の方  
 7  同じ会社や学校の知人  
 8  その他（ ）

問33-1 あなたの家族から「性的少数者である」などと打ち明けられた場合、あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つだけ○印）

1  本人の気持ち尊重し、希望に応じて支援する  
 2  今までどおり接する  
 3  拒否はしないが、どうしていいかわからない  
 4  疎遠になるかもしれない  
 5  隠すようすすめる  
 6  受け入れられない  
 7  わからない  
 8  その他（ ）

問33-2 あなたの身近な方（友人、同僚、親戚等）から「性的少数者である」などと打ち明けられた場合、あなたはどのようにしますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。（1つだけ○印）

1  本人の気持ち尊重し、希望に応じて支援する  
 2  今までどおり付き合う  
 3  拒否はしないが、本心は受け入れられない  
 4  疎遠になるかもしれない  
 5  隠すようすすめる  
 6  付き合いをやめる  
 7  わからない  
 8  その他（ ）

問34 多様な性の在り方への理解を広めるとともに、性的少数者の生きづらさを解消するためには、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

1  相談できる窓口を充実する  
 2  性別で区分された制服や服装規定に対する配慮を行う  
 3  トイや更衣室について、性的少数者の方が利用しやすい環境整備をすすめる  
 4  いじめや差別を禁止する条例を制定する  
 5  幼少期からの教育を充実する  
 6  行政職員や教職員に対する研修を充実する  
 7  企業等に対する研修や啓発活動を充実する  
 8  パートナーシップ宣誓制度（※）の制度周知や利用サービスの拡充を行う  
 9  地域住民に対する啓発活動を充実する  
 10  その他（具体的に ）  
 11  わからない

※「和歌山県パートナーシップ宣誓制度」とは、お互いを人生のパートナーと約束する性的少数者のカップルが協力して共同生活を行う「パートナーシップ関係」にあると宣誓したことを、県が証明し、法律の範囲内で婚姻関係にある夫婦と同等のサービスの受けられるようにする制度です。（令和6年2月1日から制度を開始しました。）







# 令和7年度 男女共同参画に関する県民意識調査 報告書

令和8年1月

発行 和歌山県共生社会推進部こども家庭局多様な生き方支援課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地

電話 073-441-2510（直通） FAX 073-441-2501

URL : <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031400/index.html>